THE CENTRAL REVIEW

中央公論

五月號

LIBRARY
OF THE
UNIVERSITY
OF
CALIF

第三十六年 第五號 第三百九十五號

大正十年四月三十日印刷納本
大正十年五月一日發行（毎月一回一日發行）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

GIFT OF Sidney M. Ehrman

此廣告に依り御申込の方は中央公論に依る旨御附記を乞ふ



今や社會はあらゆる方面に
健腦の人を要求す
故にあらゆる腦神經病者は

腦病良藥 **健腦丸** を要求す

島村博士證明
腦病良藥 健腦丸
KENNOGWAN

主効
腦充血 神經痛 頭痛 眩暈
腦膜炎 腦貧血 耳鳴 健忘
逆上症 卒中 中風 便秘

特長
逆上を引下げ、便通をよくし怖るべき中風卒中を未發に防ぎ腦充血を快治し記憶力を増進す

改正價格
五回分 參拾錢
四日分 六拾錢
一週分 壹圓
二週分 壹圓九拾錢
三週分 貳圓六拾錢
五週分 四圓
十週分 七圓

全國各藥店に取次す

本舗 大阪市順慶町 東京市疊屋町 丹平商會藥房

信用なき店舗及び卑猥なる賣品の廣告掲載は謝絶す

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

獨逸 ショーペンハウエル著
增富平藏譯

處世哲學

四六判總布製 四百七十頁
定價貳圓八拾錢
郵税十二錢

四版出來

ショーペンハウエルの處世論は類書中の最尊也。偉大なる哲學者『人間を知れる者』としての著者が晩年に於ける深遠の觀察と老熟の思想とを擧げて人間處世の妙諦を說き人生に於ける明闇、幸不幸、安危得失等の根源を論じて一大秦鏡を懸くるが如く、譯文亦明快を極む。

◎批評 『……人生の眞價と生活の歸趨とに關する深刻の省察に充ち啓發せらるゝ所多し。譯文亦平易明快此種の譯書に通有なる難解の辭句を羅列せざるは喜ぶべし。』—東京朝日

獨逸イエナ大學醫教授 ヘツケル博士著
文學士 栗原古城譯

宇宙の謎

十一版出來

▲四六版總布製 定價參圓 送料十二錢

◎萬朝報評『少しく心ある人にしてヘツケルの「宇宙の謎」の名を知らざる人は無かるべし：譯筆快暢にして凝滯なし。』

◎東京朝日新聞評『同教授一代の研究を壓搾したる精髓たるのみならず、實に歐洲の科學界、哲學界を震撼せしめたる名著なり。』

ロッヂ博士著 高橋五郎譯

六版

死後の生存

定價參圓 送料十二錢

▼附錄として有名なるワルレス博士の「靈怪實在論」を添ふ。

印度マドラス大學教授 ナラス著
曹洞宗大學教授 立花俊道譯

五版

佛教の要諦

參圓貳拾錢 送料十二錢

▼佛教の何たるを知らんと欲する新人の必讀書

東京本郷西片町 玄黃社
電話小石川一三九番
振替東京七九九五番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA
985471

德田秋聲氏著（全六冊）（第一卷 徽 足迹）

秋聲傑作集

一冊定價貳圓參拾錢
郵送料一冊拾錢づつ

第二卷 『あらくれ』『奔流』

第二卷は『あらくれ』及『奔流』の二卷を收む。あらくれは、生理的缺陷から起る夫妻の關係を中心として、心肉共に旺盛な一婦人の、求めて得ざる性慾生活の慘憺を[illegible]瀝せるもので、此の作者でなければ描き得ざる性慾生活の極致である。奔流は、絶世の美貌に潑溂の才氣を兼ね備へながら、數奇の運命に弄ばれて、心ならずも或る老紳士の妾となつた女主人公の波瀾曲折を極めた情生活を描いたもので、二篇共、天晴れ名匠の腕の冴えを示せる傑作中の眞傑作である。

谷崎精二氏著（長篇小說）初山滋氏裝畫

戀愛模索者

新刊出來

▼四六版假製▲
▼二百三十頁▲
▼定價壹圓▲
▼郵送料六錢▲

戀愛生活の縮圖

[illegible]實で淸楚で、しかもまた艶冶の趣を失はぬのは、谷崎精二氏の作風である。本篇は氏の最近の長篇で、幾組かの若い男女を組み合せて、その戀のあらゆる心理とあらゆる狀態とを描破せるところ、現代戀愛生活の縮圖とも見るべきものである。淡い情趣軽いユーモア、而して精到な鮮明な性格描寫。此作者の藝術のあらゆるよきものを悉して此の一篇が成つたといふも過言ではない。近來の好長篇として薦める。

東京牛込矢來三番地
振替東京一七四二番

新潮社

電話番町八〇九番
八九九番
九三九番
九六番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

トルストイ作 中島清氏譯（新刊出來）

復活

全一冊

總洋布箱入最上製
四六版八百三十頁
定價金參圓
郵送料拾貳錢

夙に出づ可くして、未だ出でざりし『復活』の完譯は、こゝに漸く出でたり。杜翁三大代表作の一にして世界最高名の作。最も深く世を動かせるもの也。

◎トルストイ作 原白光氏譯■アンナ・カレーニナ（全三冊）中巻 新刊出來▼價一冊貳圓參拾錢づゝ▼郵送料一冊拾貳錢づゝ

第二巻 新刊出來

ジャン・クリストフ

ロマン・ロオラン著
豐島與志雄氏譯

全四冊

總洋布一冊約七百頁
定價一冊貳圓五拾錢
郵送料一冊拾貳錢宛

第三巻 新刊出來

近代劇選集

楠山正雄氏譯

第三巻にはイブセン、ストリンドベルヒ以下主として自然主義初期の代表作にして近代劇運動の發程を記念する經典的名作を收む。

全三冊
一冊貳圓五拾錢
送料一冊拾貳錢

東京牛込矢來三番地
振替東京一七四二番

新潮社

新潮社出版目録
往復端書にて御申込あれ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

編輯 徳田秋聲 中村吉藏 有島武郎
田山花袋 野口米次郎 木村鷹太郎

全十二册 四六判天金最上布製九ポイント組 紙數每册六百五十餘頁

泡鳴全集

第二回豫約募集に就て

岩野泡鳴は明治大正の文壇及思想界が生んだ一代の偉人である。彼は詩人として、思想家として、また創作家として奮闘的生活をつづけた。彼の獨自な個性と、主張と處世的態度とは彼の存在を濃厚に彩り、其聲は巨鐘の如く常に一世の視聽を一身に集めた。殊に晩年に於て彼は文壇の權威として眩いほど華やかに活躍した。彼は日本に於ける實行文藝の先驅者、世界に於ける最も進んだ意味の靈肉一元論者、刹那哲學の創建者、一元描寫の開祖である。彼は現在よりもより多く將來に生くべき人である。彼の思想、彼の藝術は歳月と共に益眞價を現はし、時代と共に愈光輝を放つべきものである。

泡鳴全集は創作家泡鳴、哲人泡鳴、詩人泡鳴の全豹を提げて世に見えんとする。いふまでもなく僅底深く秘められたる興趣深き幾多の雄篇を洩れなく網羅する。質に於て量に於て我國空前の全集にして、未聞の偉觀である。

曩に本全集豫約出版を公表するや豫想以上の好評を博し、一切後の申込者に對しては部數に限りありて其希望に副ふ能はず、依て今回第二回の刊行を企つ。斯くて名人の名作を永世に傳ふべく、多大の期待を以て更に本全集を江湖に推奬する所以である。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

全集總目錄

第一卷
藝者小竹　老婆　日の出前　戰話　耽溺　榮吉　結婚　篠原先生　床屋の船　郊外生活　川本氏　韃靼海峽
背中合せ　乞食の影　金　アポト先生　放浪　非常時

第二卷
賭切番　纏橋　お鳥の苦み　お鈴の家　氷峰の斷片　舅の家庭　馬鹿さ女　僞名者　發展　お鳥の亭主　藝
者になつた女

第三卷
鵜子　巡査日記　ぼんち　野田新兵　正美先生　店頭　新聞記者　小僧　政吉の破り物　靈魂の行衞　歷の
肉　明巣ねらひ　獨り者　人か熊か　醜婦　毒藥女　お仙　トンネル狂

第四卷
女中の戀　藝者あがり　津田三藏　「信より玉江へ」　金に添へて　懶け者の日記より　四十女　秘書官　女
四人さ男三人　膝に飛びつく女　藁人形　その一日　二頭の馬　畑の細君　繼母さ大村夫婦　お圓の家出
離婚まで

第五卷
冷たい月　鼻　霜子のかたみ　指の傷　獨探さ二人の女　華族の家僕　一日の勞働　大將の疑惑　非凡人の
面影　強い相手　蛇の記憶　憑き物　空氣銃

第六卷
青春の頃　猫八　淺間の靈　要太郎の夢　午後二時半　父の出奔後　法學士の大藏　公爵の氣まぐれ　お安
の亭主　家附き女房　征服被征服　お竹婆さん

第七卷
部落の娘　蜜蜂の家　わが子のやうに　二食主義者　お常　山の總兵衞　催眠術師　母の立場　お增の信心
燃える純粋　離船　饑公　狐の皮　犧牲　渠の日記より

第八卷
實子の放逐　子無しの堤　あぶら蟲　鹽原日記　おせい　或高等學生の覗　金貸しの子　眞理論者　おせい
の失敗　山の奥　美人　おせいの巡禮　おせいの巡禮後

第九卷
「朽ちゆく女」　その他數十編の世間未發表の詩
戀のしやりかうべ　闇の盃盤　夕潮　悲戀悲歌等

第十卷
日本主義　一元描寫論

第十一卷
自傳さ追憶――僕の十代の眼に映じた人物、僕が書生時代の事共、反抗的の答案、僕を詩人にした女、完敗
より文壇に、僕の見た僕――紀行さ印象記、小品及隨筆等

第十二卷
日記――明治四十四年より大正九年の臨終に至る迄の約十ヶ年に渉る日記を蒐集したもので、未だ何等の形
に於ても世間未發表の深く篋底に秘められたる新材料

●豫約申込五月三十一日限
●内容見本御申越次第送呈

略規

申込金	金參圓八拾錢（最終會費に宛つ）
拂込	每月拂金參圓八拾錢一時拂四拾參圓五拾錢
送本	大正十年七月より每月一冊宛十二ヶ月完了

發行所
東京市麴町區内幸町一ノ六
電話新橋一一二七番
振替東京五二二九八番
國民圖書株式會社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

市川又彦氏
河竹繁彦氏
横山有策氏
坪内士行氏
中村吉藏氏
仲木貞一氏
楠山正雄氏
藤井眞澄氏
河野義博氏
秋田雨雀氏
島村民藏氏
共譯（イロハ順）

ゴオルスワージー社會劇全集

下巻（最新刊發刊）

（定價二圓八拾錢 送料拾九錢）

◎内容目次

一、鳩。二、長男。三、逃走者。四、暴徒。五、愛のきれはし。六、王手詰 七、漠然たる藝術觀

メスの如き鋭利と抉るが如き深刻とを極めたるゴオルスワージーの社會劇は現世界劇壇に對し最新最高の水準を示せるのみならず新劇の機運勃興せる我國の社會劇に對しても最も有力なる模範を提供して餘りあるものなり。苟くも當來の社會を内觀し、新思想新文藝の潮流を味識せんとする人は速かに此の全集を熟讀せられよ。

上巻（既刊）

（定價參圓四拾錢 送料拾九錢）

◎内容目次

一、ゴオルスワージー評論、二、銀の函。三、ジヨイ。四、鬪爭、五、法律 六、小さな夢。

（新刊）

中島孤島氏著

文化史上に於ける女性と戀愛

（四六判、クロース美本、函入 定價二圓參拾錢、送料拾七錢）

□内容目次。一、最初の女性。二、歐洲の神話及傳説に現れた戀愛。三、希臘神話に於ける異類の一女性。四、肉の戀、靈の愛。五、戀の女王。等。以下略

東京市麴町區飯田町壹の貳 株式會社 天佑社 （電話長九段一一七三番 振替東京一〇一二八番）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

印度佛教思想史著者 橘惠勝氏著

新刊 支那佛教思想史

寫眞版五葉入 正價四圓八拾錢 送料金廿四錢

本書は支那佛教の發達を史的に跡つけたるものである。支那佛教は支那人の理解したる佛教にして支那の民族性に基礎づけられたるものである。支那佛教を移植して發達したる我邦の佛教を研究せんとするには先づ支那佛教の一般傾向と特色とを觀察して我邦の佛教と比較する準備をせなければならぬ。本書は支那思想の全體を批判的に取扱ひたる科學的研究の結果であるから廣義に支那思想史として見ることが出來る（著者識）

菊判最上製 美本全壹冊 七百餘頁

松岡良友著 加藤咄臺氏 島地大等氏 序

熱と力と涙とに輝く 本願寺全史

四六判最上製 金參圓貳拾錢 送料十八錢

好評激甚 一世の豪雄織田信長をして拔き難く南無の六字城を嘆ぜしめし本願寺の盛衰興亡の眞相を鎌倉時代より現代に至るまでの波瀾重疊一起一伏を明鏡に照して詳說評論したるもので文章は平易簡明にして趣味亦津々として盡きず人生問題を思ふ人士の一讀を希ふ。

文學博士 宇野哲人著 金貳圓五拾錢 送料十二錢

（忽再版） 支那哲學の研究

本書は上は三代より下は近世に至り或は一代の思想を汎論し或は特殊の問題を細敘し支那哲學に關する博士獨特の研究は殆んど此書に網羅せらる支那哲學史講話と孔子の哲學と共に併讀せられんことを希ふ

小林一郎著 金貳圓八拾錢 送料十二錢

（忽三版） 日蓮主義概論

日蓮主義は現代の人の宗教的要求に應ずべき最も進步せる教義なり。內容は先づ法華經の梗概を擧げ次に日蓮上人の教義の精髓を語り現代思想との交涉近世科學との關係に論及せるもの類書中の最高權威。

東京市神田表神保町 大同館發行 振替貯金東京八七貳

四月以後の催物

春向スカーフと手提の會
名流考案洋傘陳列會
川島画伯更紗展覽會
舶來小兒服裝陳列會
平井武雄氏模寫画展覽會
花と香水の會
小供用家具と新生家具發表
鏡台と束髮用ピン陳列會
名流婦人揮毫扇子の會
甘茶画會作品展覽會

東京新橋
資生堂化粧品部
支店 大阪市東區南久寶寺町

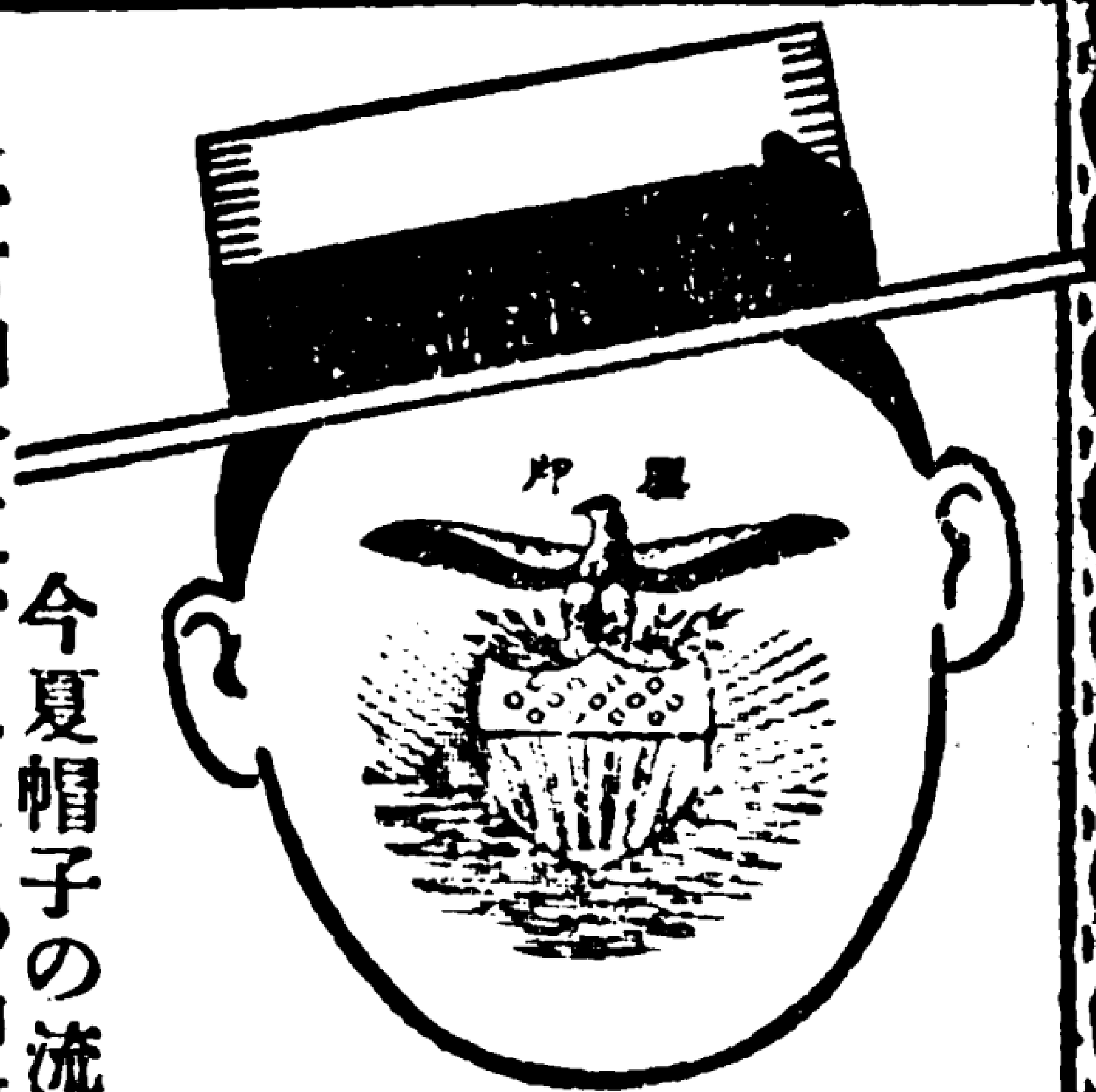
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

純品質主義

鷹印帽子

帽子と文化生活（其四）

（今年の流行と御買求の秘訣）



今夏帽子の流行は矢張り麥稈帽子が全盛で頭の高さ三吋四分一、椽廣さ二吋八分五、乃至二吋四分三、リボンの巾普通一吋八分五乃至一吋四分三、若手向は一吋四分一乃至一吋二分一で之より山が無闇に高過きても不格好なり椽が餘り狹くても面白からず、此の格好が昔から我日本人の體格に最良釣合の型なのであります。今日では一夏必ず二枚や三枚を御召しになる夏帽子ですから隨分安物で御辛棒なさる方も有る様ですが之は却つて御損です高くても優良品は品物に山が出ず洗濯に耐へ四時も飽が來ず且歐米、ホテルや料理店では御召になつて居る帽子を見て其人柄を推察するくので帽子だけでは一等品を被つても居ねば思はぬ恥を見るのは、一寸外國へ御越しの御方はよく御承知の事ですお頭の物ですもの立派な服裝や履物やに比して御粗末な帽子では折角の御人品を傷ける事となります此等の點に留意し純品質主義の立場より絶へず技術と材料との向上に全力を盡すのみならず藝術的良心を以て卓越したる意匠と嶄新なる考案を創作する事に沒頭し常に現代人の望む文化生活に適しき優良品を提供する事に成功して居ますは我國に於て獨り鷹印帽子あるのみです。其ですから鷹印なれば何處へ行つても決して御心配は要りません現に極東の小天地に止まらず遠く紐育の檜舞臺で盛なる好評を博し一躍世界的製品となりましたる今日ですから是非帽子は鷹印を御撰定願ひます。

本年の新發明は

一、野趣深き「バンガロー」帽子
一、輕快なる「デモクラシー」帽子
一、典雅なる「パンパナマ」帽子
一、心地よき「ローケッツ段巻」帽子
一、紐育流行「ハイクラス」帽子

何れも特に**新案防止飛帽**（ボオシヒボ）を添付す

大阪 株式會社 高橋製帽所



中央公論第卅六年五月號目次

▼公論

官僚のあたまと民衆のあたま……卷頭言……一

本能性の爆發とその整理……文學博士 姉崎正治……二

支那阿片問題の眞相……井出季和太……二九

英國炭坑罷業に就ての諸觀察……法學博士 堀江歸一……五九

大火と建築改良及都市計畫……法學博士 渡邊鐵藏……六九

政治道德・社會道德の根本的革新の機

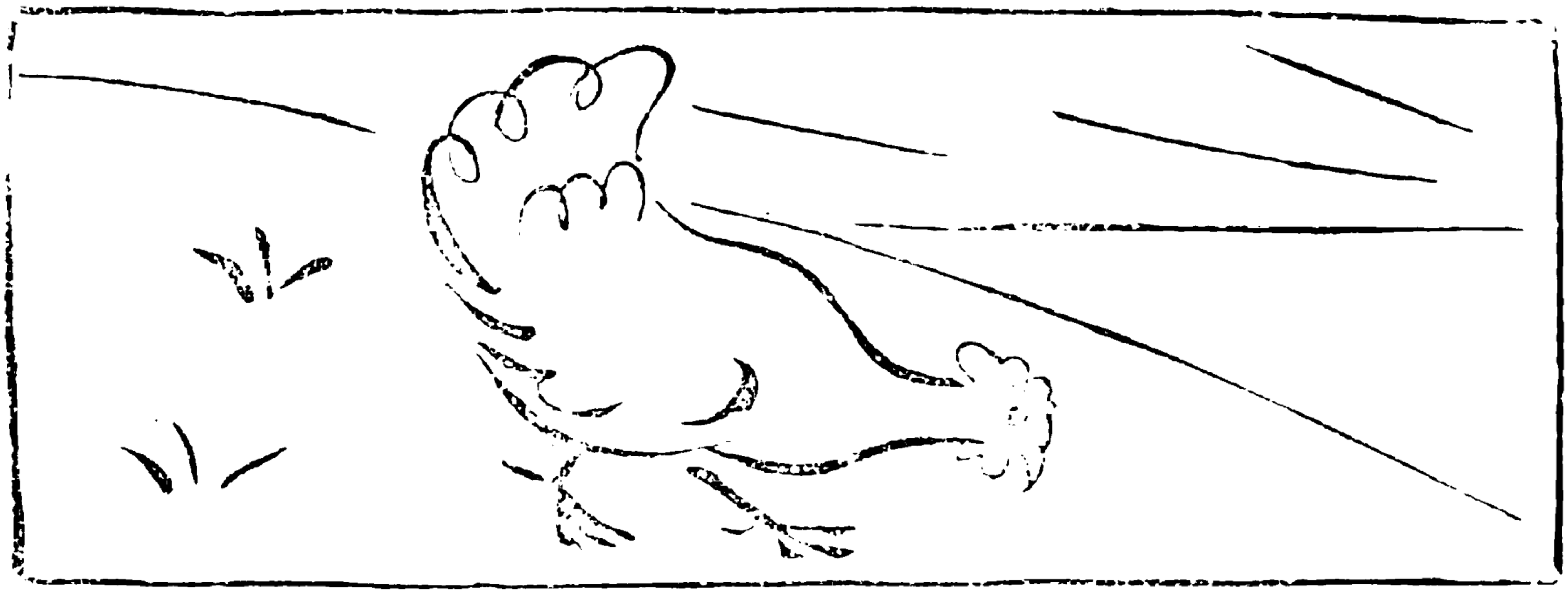
◎自己及び經濟的生活に對する認識評價の確立……早大教授 杉森孝次郎……七七

◎階級的社會と議會政治の局限……長谷川如是閑……八一

◎政商問題……法學博士 堀江歸一……八七

◎「鏡に映れる醜婦の顏」……永井柳太郎……九三

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



[illegible]なる企業[illegible]念の變更……[illegible]……一

▼說苑

日本を見る……木村莊八……一

近世デカダンスの享樂趣味……高須梅溪……三七

五月雨情調……佐々木指月……五三

▼時論

ヤップ鳴問題
小題小言二則……法學博士 吉野作造……六五
（猶太人の世界顚覆の陰謀の說について○「[illegible]者のひとり言」）

（創作）

子を養ふ……豐島與志雄……一

一と踊……宇野浩二……三八

復讐……德田秋聲……七七



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



LANDSCAPE MISS TINA BLAU-LANG.

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

早稻田大學政治經濟學部長 安部磯雄著

最新刊

社會問題概論

四六判布製函入八百三十餘頁
正價金四圓 郵稅十六錢

社會事情の激變、新思想の移入に伴ひ、今や各種の社會問題續出して其迭迎に遑なからんとす。專門家に非ざるよりは、誰か能く其實際に通ずるを得ん。而かも其由來と現狀とを詳にして其對策を講ずるは刻下の急務なり。是れ本著者が多年の研究を傾け、一切の社會問題を網羅して之を組織的に編述し、其根源、經過、現況、長短是非を詳論して、世論の正導を企圖せる所以なり。統計斬新、論斷明晰、以て社會問題解決の關鍵となすべし。政治家も資本家も勞働者も等しく本書を讀まざるべからず。略目は次の如し。社會問題の意義及び研究範圍・貧乏及び犯罪の原因・救濟事業・教育事業・國家及び資本家より見たる社會問題・勞働者より見たる社會問題・都市社會問題と農村社會問題・人口問題と人種問題・社會主義

發行所 東京牛込早稻田 振替東京一一二三 早稻田大學出版部

(賣捌) 神田東京堂 日本橋至誠堂 京橋北隆館 京橋東海堂 大阪盛文館 名古屋星野 (其他)

泰西名画家傳

◆藝術界空前の大叢書◆ 全三十六册▼ 專門大家廿餘氏執筆

(第一) ヴン・ゴオグ

黑田重太郎著

中判三百頁函入代表作 繪畫三十餘點入

價參圓 送料十二錢

ヴン・ゴオグ(所謂ゴッホ)の生涯は情熱と詩情との權化であつた。祖國和蘭に藝術發程をなし、アウベエルの客寓に自殺を遂ぐるまでの短き生涯は、十九世紀末の藝術史上に一大彗星の倏忽に來去せるか如き驚異を印した。而も此異常なる大藝術家の生涯は傳へられる所甚だ鮮い。黑田氏は當時の事情に精通せるテオドル・デュレ氏の「ゴオク傳」を底本とし加ふるにゴオグの妹クエスヌの著述を參照し博引涉獵三ケ年を費して成れるもの、眞に世界無比の評傳にして又近代藝術發展の活きたる記錄である。

(第二) セガンティニ

佐久間政一著

中判三百頁函入代表作 繪畫三十五點入

價參圓 送料十二錢

山嶽山地を描いて崇高壯麗を極め、人をして宇宙神秘の呼きを聞かしむるものをセガンティニの藝術となす。世界無比の山嶽畫家たる彼の生涯や亦深刻なる一篇の哀史であつた。著者佐久間學士はセガンティニ研究に於て多く比を見ざる人今や其蘊蓄を傾倒して此の著を上梓されたこれはセ氏の作品と同じく藝術と人間と神祕を闡明するものと云つてもよい

東京市本郷區湯島六丁目廿 日本美術學院 振替東京五八八六番 電話小石川三五一九番

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ベルベット石鹼

▽米は生命の糧
ベルベット石鹼は
皮膚の滋養料。△



神戸

製造元　日本リーバー・ブラザース株式會社



萬年筆は
サンエス！
爽やかなペンの運び
インキは
サンエス！
鮮美極まる
永久不變色

東京馬喰町
細沼株式會社
支店出張所　大阪＝福岡＝名古屋＝金澤＝札幌

LIBRARY OF THE UNIVERSITY OF CALIFORNIA

官僚のあたまと民衆のあたま

或る未決囚人曰く、「私は何も悪い事をした覺はない。」獄吏曰く、「惡い事をしない者が此處に來る譯はないじやないか。」監獄は惡い事をした者のみを入るる處と法律は定めて居る。けれども多くの良民が或る理由の爲に遣る瀨なき拘束を玆處に受けてゐるは、最近の事實の明に示す所ではないか。

高等警察を司る或る高官は曾つて云つた。「集會取締の方針は我々の愼重に審議決定する所、下級警察官の如きは單なる執行機關に外ならぬ。謂はば我々の手足となつて働く者に過ぎぬから、彼等の行動に時として違法、越權の處置ありと云ふも、そは道理上あり得ない事だ。」下級官吏は上司の命を奉じて眞に手足の如く働くべきものとは法律の要求する所に相違あるまい。併し下級官吏も人間である。木や鐵で作つた機械ではない。去ればこそ官界に監督の必要があるのではないか。此眼前の事實を無視し、下級官吏の橫暴に關する民衆の愁訴に接すると、上司は毎に必ず云ふ。さう云ふ事實は無い筈だと。

世の中には有る可らざる筈の事が幾らもある。法律の要求通りに動かねばこそ、警察も必要であれば監獄も必要なのではないか。而して今日の官僚は、官吏は上から下まで法律の形式的構成の示す通りに動いて居るものと決めてかゝる。其癖民衆をば、法律の要求に背くを好む者なるかに見做して、盛に無用の干渉と壓迫とを加へる。變な頭の持主ではないか。

今日の官僚は皆心から右の樣な考方をするものかと云へば必しも左うではない。官界の通弊に堪へずして職を民間に移した人にして、官吏時代に識つて幾多の過誤を繰り返さねばならなかつた苦痛を後に至つて打明けた者も予輩の知人の中に幾らもある。彼等にも流石に人間の常識はある。只官吏と云ふ身分に居ると、如何云ふものか、人間らしい當然の考方が出來ぬものと見へる。是れ畢竟今日の官界が餘りに法律の形式的要求に捉へられ過ぎてゐる爲であるまいか。

法律の要求通りに世の中が動くものなら、夫れこそ天下は泰平だ。動かねばこそ世の中は複雜なのだ。民衆は這の事實に着眼した上で、社會の利便を圖り文運の進步を策せんとして居る。而して官僚はこの大切な人間の味ひを解して居ない。又解さうとせず、否時として强て解せざるを誇りとするの風が見へる。物價の高いのと月給の安いのとを喞く時ばかりでなく、もつと廣く色々の問題についても人間味を濃厚に出して貰ひたいものだ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

中央公論



第卅六年第五號
五月號
第三百九十五號

本能性の爆發とその整理

—人生改造の中心問題—

文學博士　姉崎正治

戰後の世界を纏めるについて、今後戰爭を避ける樣の工夫を廻らさうとする者に對して、戰爭好きの連中は、「人間の天性が改まらない以上は、戰爭は止まぬ」と抗議を持ち出す。そこで、その謂はゆる「天性」とは何かと押して見ると、「人間は食はなければ活きられない、食ふ爲には食物を爭はなければならぬ」とか、又は「爭鬪は人間の本能性である。その本能の存する限り爭鬪は止まぬ」とか、又は「國家は人間利己心のかたまりだから、利己天性がなくならない間は

戰爭する」などといふことになる。

此の如き論點について考へ、討議すべき事は多々あるが、それは暫く後に讓つて、同じ様な論點を應用して、その結果を觀察して見やう。人間には、長い間の訓練や風習で、夫婦關係といふものが出來、そこで道德上には、夫婦以外の性慾關係を否認し、法律は姦通を罰する。此の如き習慣や法律に就いても考ふべき問題は出て來るが、若し簡單な「天性」又は「本能」論で此の問題を處置するならば、生殖慾は人間の本能だから、之を制御するのは無益或は不可能だといふことにならう。「男女相ひきつけるのは人間の天性だ、ひきつけられれば、何時でもどこでも、又何人でも、くつついてよろし」といふことになつたらば、人間の生活はどうならう。東洋人の俗說では、鳥類の中で鴛鴦だけを一夫一婦の生活をするものとしてあるが、その實隨分多くの鳥類は一夫一婦であつて、彼等は風習の爲でなく、法律の力でなしに、即ち本能的に、夫婦相伴ひ、その一方が死ねば、他も死ぬものすらある。人間は、性慾を恣にするのを「畜生の様だ」といふが「畜生」たる野獸も、多くは一夫一妻で、此れ又生死を共にするものがある。實をいへば、犬や猫は、人間といふ「畜生」に飼つて貰つた結果、その天性が變じて、どこでも(但し時は定めて)、何人(否犬、猫)とでも性交を結ぶ。兎に角、天性だ本能だといつて、人間の生殖慾そのものには萬古變化はなかつた(抽象的に)としても、その發露の方法には、變化と變種とがあつたので、決して一様に概括は出來ない。一夫一妻、一夫多妻、一妻多夫、雜婚など、その一が行はれる社會では、それが常態で、他は變態である。今の日本の如く變態の可なり多い社會でも、常態は常態、變態は變態である。それが今後どう變化するか、又はすべきか、すべからざるかといふ事は、單に「本能」、即ち生物學の問題だけでなく、社會、道德、法律、敎育に亙つた複雜且つ重大な問題である。それ故に、必しも道學先生の立場から云はずとも、此の問題を、單に「天性」、「本能」といふことで即決することは出來ない。況や、その謂はゆる「天性」も、果して眞に不變

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なるや否やをも考へないで論議するのは 即斷の甚しいものである。「爭鬪天性」といふものも、此と同じではなからか。

その他、此に似た現象は、いくつも擧げ得るが、それは讀者の考へに委し、進むで、本能とか天性とかいふことについて、先に述べた樣な好戰論者のみならず、その他一般世間で多く考へて居る點を檢査して見やう。

人間の天性といふことについて、性善とか惡とかいふ哲學論は別として、一般常識で「天性」といふ場合には、種々雜多な慾望の發動につれて、その場合毎に、その時に起る某の慾望が隨分不可抗的に强いことを經驗するところから、その時にはそれを「天性」だとするのが最も普通である。「人間萬事、金の世の中」だと、何かの場合につくづくと感じては、利慾が天性だとし、「色氣と食ひ氣」の衝動が强ければ、それを天性だと斷定し、或は癇にさわることがあつて 他に突擊せうとするものは、「爭鬪性」なるものを天性だと感ずる。心理學者でも、隨分多數の本能を擧げる人があり、ジエームスの如きは、十七八を數へ、その中には「竊盜本能」をも擧げて居る。此の如き意味で、慾望、或は本能的衝動は、確かに數々あるが、而して常識で「天性」と稱するものと、心理學者が本能と見做すものとの間には、可なり多くの一致もあるに相違ないが、常識でいふのと心理學でいふのとの間には、一つ見逃すべからざる重要な差異がある。即ち常識でいふ場合は、多くは一時の發動或は經驗に基いた概括が多く、即斷的歸納で貫き、一々の「天性」或は本能の發動に課して、事情の別、前後の變動、發露方法の差などに注意しない抽象論が多い。即ちその前提は、具體的に特別の經驗に基き直覺から出るが、それから一足飛に結論に達した結果は、抽象的に一本槍な見解になるのが一般である。之に反して、心理的に「天性」といふのは、同じく「本能的」なものを指すにしても、それには種々の變種や變化のあるのを認め、周圍の事情、發動の方法や方向についても、千差萬別の種別のあるのを見て、そこに興味をおく。それ故に、同じく

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「天性」といつても、それが如何なる事情の下には、又如何なる個性では、どういふ樣に發動し又變動するかといふ點が、研究興味の重點になる。

例へば、最初に擧げた戰爭天性論者の如きは、自分一個として、又は自分の國として、他からの威嚇を感ずるといふ特別の事情境遇を出發點とし、而してその場合、自分がそれに對して反抗の心を起し、進むでは突撃したいといふ心持を經驗して、そこに謂はゆる「天性」の發動を感ずる。そこまでは、心理的に經驗の事實であるに違ひないが、それから先の論點には、複雜な社會的氣風や時代の潮流や又風習制度等の力が加はることを無視して、直に「それ故に戰爭は必要だ」、「平和は夢だ」と主張するのである。然るに、突撃性は何れの人間にも多少ともあるには違ひないが、それの多い少いは人種や個人性格の差違のみならず、同じ民族、同じ個人でも、時代と境遇とによつて非常に違ふのである。それ等の差別や變化を討究するのはここでの目的でないから、略するが、突撃衝動の極めて原始的の現れは、今日東京市中には到る所に見られる事實であつて、あの混雜した電車の乘降や車中で、他人につきのけられると、こちらもつつかつゝて、人々が互に突撃性を、斷片的ながら、赤裸々に發露して居る。此の如き人間の突撃性發表は、たしかに本能的で天性に違ひないが、而かもそれを多くの人が赤裸々に發表するのは、無能な行政の結果、電車では人間が文明とか禮儀とかいふ天性の琢磨を維持することが出來ず、殆ど動物的狀態に還元せられるから生ずる現象に外ならぬ。此の如きは人間の進化でなくて、動物への還元であり、電車を競ふ人々のぎと〳〵した眼つきや身體の態度（特に頭部を先に立てて、脚が後になつて居る）は、人間の祖先が狐又はいたちと同じ狀態の生活をして居た時の殘留遺傳が、惡行政といふ境遇事情の下に再現して居るのである。

突撃性は、たしかに人間天性の一面であり、それを全く缺いた者は、小供の時には弱蟲で、大くなつても變にすねた

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人物になるを常とするが、それにしても今述べた如き鬪事に於ける發露は、その變態、即ち退化的現象である。天性は天性としても、その發露の方法と、向つて發する目的の如何によつて、人間の生活を增進して進化を助けると否との別が生ずるので、戰爭といふことも、突撃性の團體的發露として、人間天性の一面には違ひないが、それが如何なる狀態の下に、如何なる目的を以て行はれ、又如何なる結果を齎らすかといふ點になれば、決して一足飛びの概括論で決定することは出來ない。即ち、人間が既に團體生活をして居る以上、自衞の心と、それに伴ふ突撃性の外に、又同情、共同の傾向――此も亦天性――を養成し充實する必要がある。然るに、偏に外に向つての突撃性、即ち好戰性を養成すれば、その反射が團體內部に反應して、社會內部の共同團結を害する樣にもなるから、その兩面の平均を保ち、比例を調節するといふことが、社會統御の上には、意想外に重大の問題となるのである。一概に愛國心といへば、結構の樣であるが、それに對外的突撃性を密着し、對外敵愾の心で――敵愾といふのも一概には是認出來ない――愛國心を激發的に養成する樣な國は、その反射が必ず國內に反應を呈して、爭亂、陰謀、爭鬪などの突撃性を發露するやうになる。何となれば突撃衝動はどの樣に用ひるにしても、その本能的根柢に於ては一つであるから、對外の突撃は、又內部で同じ本能の勃發を來す。古來、或は侵畧の爲に、又は國內の不統一を纏める爲に、人心を外に轉ぜんとして、對外突撃を試みた所謂る英雄は多くあるが、その結果は、必ずそれにつゞいて、國內で突撃性の爆發を來し、一旦の纏まりは却て內部の患を殘し、その英雄の墳墓土未だ乾かざる中に彼が雄圖の瓦解を來し、社會に害毒を殘して居る。ネブカドネザー、アレキサンダー、秦始皇、隋煬帝、豐太閤、カイゼル等皆歷々その證左を示すではないか。

* * * * *

そこで現代の雜鬪がどこにあるかといふ點を觀察する爲、便宜上先づその結果を概論すれば、「本能性の爆發」といふ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ことが、時代動搖の中心になつて居る。此の現象を遠い原因から見れば、近世文明全體にその特色、あり、近い方から云はゞ世界大戰が、あらゆる方面に惹起した震盪と破綻が、本能性を爆發させたのである。そこで觀察を、先づ此近い方から始めよう。

「戰爭は戰爭だ」、「必要の前には法律なし」といふのが、ドイツ人の常套語であつたが、大戰を開始するに當つても、戰鬪を遂行する上にも、ドイツ人は實にその信ずる所、云ふ所を徹底的に實行して、遠慮なく爭鬪性、突撃性を發揮した。直接戰場での突撃性發露は、彼等の謂はゆる攻撃精神として表はれたが、それが特に密集運動に於て著しく、個々の運動に於て甚しく自發的工夫を缺いたことは、軍事の上に於ても實に注意すべき現象であつた。即ち密集運動で突進して來る時には、ドイツ兵の勢は潮の寄せる如きものがあつたが、潮が岸に押して來ると同じく、或る點になると自ら勢力を消耗し去つて、そこで攻勢が終り、攻勢を終れば踏み留ることが出來ずに、今度は却て士氣廢頽を示す。二回のマルヌ戰でも、アミアン攻撃でも、皆それで自ら消える形になり、敵の逆襲には到底堪えない狀態になる。心理學者トロツタは、之を稱して「狼群的突撃」と稱し、その突撃本能が、狼の本能性に酷似して居ることを指摘して居るが、要するに、群をなす時には強く、個人としては勇も智もなくなる樣になつたのは、突撃本能に偏して人間を訓練した必然の結果であつた。而して此は獨り戰場だけでなく、戰線背後の事業にも國内の事業にも、皆此の特色を表はし、その結果、群をなす時は、自分の強みを自覺しても、對手の心理を計量する事が出來ない。「ドイツ人の心には、他人の心を映して見る鏡がない」といふ評は、實に明言であつて、彼等の密偵政策にも、外交にも、又學者の論議にも、此の短處缺點が能く表れて居る。此等の事は、今一々之を述べないが、我々日本人も、亦此に似た性質のありやなしやを考へて、大に反省する必要があると思ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

尙ほ一事特に注目すべき點は、戰場その他に表はれる突撃性の背後に、奇妙な混合の衝動的感情のあることである。卽ち、ドイツ人が數百年來、その國民生活に養ひ來つた畏怖猜疑と倨傲自負との結合が、殆ど本能的になつて居るといふ一事。ダンチヒ生れの僕の一友人が曾て戰前に云つて居たのに、「自分はロシア蕃人に對する畏怖心を、母乳と共に飮むで來た。」卽ち特にプロシヤ人には、ロシア人といへば、halb-asiatische Barbaren として畏るべき狼と思ひ、又アジヤ人といへば、常に匈奴、アテラを聯想して畏れの心が、殆ど本能的に固着して居る。それに加へて、曾てナポレオンに苦められた經驗、近くはイギリスに對する嫉妬憎惡、此等が一つになると共に、此等外國に對する自家防衞の衝動から出て來た、突撃性が一緒に働いて居る。そこへもつて來て、プロシヤの統一以來、國勢の隆運に關する自信が加はり、此の倨傲があらゆる方面に於て、進撃的、侵畧的態度を呈する様になつて、そこに奇妙な混合が出來た。その結果は自國の國際的位置に關して、謂はゆる包圍 Einkreisung を受けて居るといふ感じとなり、その一語は國民の敏感を刺激して、之に對する突撃性を養つた。一體畏怖猜疑は弱者の心持であり、倨傲自負は强者に多い心理であつて、一見、二者は兩立しない様であるが、人間(否多くの動物にも亦)の天性には此の二方面が本能的に結びつくことが中々多いので、戰前ドイツ人の心理は、此の奇妙の結合に於て、實に著しい實例を示して來たのである。その一端を云へば、開戰當時、敵の飛行機に對する畏怖と共に、自動車に對する恐慌(フランスの自動車がドイツを横斷して、ロシアへ金を運ぶといふ流說から生じた)の如きは、殆ど病的であつたのは、平素の畏怖猜疑が、事變に際して爆發したしるしである。而して、他の一面には、イギリスに對する憎惡(それから日本、イタリア、アメリカと順次に)が、此れ亦病的ともいふべき程に激越になり、リッサウエルの「憎みの歌」の如きものが、大風の如くに全國に行き亘り、人心衝動性の爆發を示して居る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

要するに畏怖と自信とは、何れも、理性の制御を受けて働けば、衝動的でなくて、防衛手段の正當根據となるが、理性の絆を脱して、衝動的に働くと、いら〳〵した激越の心理狀態を生み、而して一見反對なやうな二者が、相互に激發し合つて奇妙な混合を呈する樣になる。ドイツ人の心理は、此の一事の最好適例であつた。平素から國內の氣風や敎育で養成した、衝動的の感動が、突擊性を激成し、それが戰場で爆發的に發作して、一時の突進の後には、自ら消耗し去つた。此がドイツ國民の心理生活に於て、一見強味であつたが、それは終に弱味として瓦解し去つた。而して、その後に殘るものは、反省でなく、鬱憤と失望と、怨嗟と disillusionment とである。本能的衝動に基いて動作する者の運命は此に明に現れて居る。

但し、此に似た心理狀態は、ドイツの對手として、今は戰勝國たる聯合側にも存し、特にフランス人の心理には、自信と共に疑懼が社會的不安の中に働き、外に對しても、內部に於ても衝突の禍根を有して居る。特にその軍人社會では國防用兵の上からのみ割り出したライン國境の觀念が強くて、それが外交政策に影響をも及ぼす。四年餘の戰爭で養つた爭鬪性のみならず、四十年來の復讐心が、やはり本能的に動いて、そこに却て社會不安の根を宿しつゝあるのが、フランス現狀の一面である。此も突擊性發揮の心理的結果であつて、戰爭は、その勝敗結果の如何に係らず、人間天性の衝動性を刺激するといふ事實を示して居る。

そこで、特に、戰場の戰鬪が激成した本能性の爆發を觀察して見るに、「戰爭は戰爭だ」に違ひなく、而してその戰鬪には、如何に近代的武器を用ひ、近代的組織を整へるにしても、之に從事するものの心狀態は、本能的に突擊性、爭鬪性へ還元するに外ならぬ。而してその中心興味は、破壞にあり、殺戮にあり、その激烈な發作は、獨り敵に對するのみならず、何事に對しても、同樣の心持で動作するにも至る。而して四年五年の戰爭を通して來た人心は、獨り戰場にあつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た者のみならず、家に留まつた者にも、同樣の氣風が幾分か感染するのは、自然の勢であつて、戰時と戰後とに亘つて、殺伐の氣風が一般社會に行はれ、全體として人心に獸性還元の性質を與へた。即ち戰場に馳驅した者は勿論、その他の人間でも、戰鬪氣分を帶び、特にあらゆる方面に於ける緊張狀態と疑惧の情とは、物資上給養の不足又は不規則と相合して、神經系統に異常の振蕩を與へたのであるから、萬事に激し易くなり、又それだけ理性の綱と文明の秩序とを破る風の心狀態を發生したのである。戰場で直接に爆彈震蕩 shell shock を受けた者が、或は激し易くなり、或は記憶を喪失し、或は昏迷狀態に陷る如く、直接に此の如き打擊を受けない者でも、一般の空氣に存する、云はゞ無形の爆彈震蕩からして、同樣の狀態に陷つて、つまりそれだけ動物的になる。而してその激動狀態の結果として、思慮が亡くなり、忍耐が減じ、その反對に戰鬪衝突破壞を好む樣になる。(此等の點に關して、醫學的心理學的研究も、大分出て居るが、一々は述べない)。

此の如き心狀態を一層險惡にする事情は、一般に生活の不定、即ち物資の不足、食料の不規則等に加へて、又性慾の變態にある。生活不安の事は、一々述べるまでもないことながら、その狀態は、戰時中は勿論、戰後にあつても、日本では想像する以上の困難混沌のものであることを記憶するを要する。而して性慾の變態については、先づ四五年の間、血氣盛りの青年壯年の數百萬が常に戰場にあつて、性慾の上で常態を保たず、之に相當して、留守中の、此も青年壯年の婦人が、同じく常態を保たなかつたといふ一事を深く想像して見るだけで足りやう。その結果の最も著しく現れたのは、戰線附近の謂はゆる war babies の多いこと、軍隊から一般社會に及むだ花柳病の横行、留守宅の不しだら等であつて、交戰國は何れもその毒を被らざるものはない。——戰鬪や占領で荒らされた婦人の身體的、精神的亂調は云ふまでもないことであるが、一々之を記すには忍びないから、之を略する。生活の不安、社會氣風の殺伐、而してその裏面

には性慾の變態が加はれば、精神狀態が、あらゆる秩序を脫して、本能的衝動の跳梁に委せられる樣になるのは、自然のことであつて、戰時の震蕩狀態は、餘波中々鎭まらず、今日に及むで居るので、此も戰爭に伴ふ本能性爆發の一面である。

*　*　*　*　*

直接交戰國の問題として、戰時に於ける本能性爆發の事を少しく觀察して見たが、その問題は獨り、直接に戰時の經驗をした國々のみならず、實に全世界の問題となりつつある　大戰が惹起した本能爆發が、人類全般に及びつつあることは、一方その害毒を見れば嘆ずべきことであるが、又他方には人類全體の生活が結合性を增したしるしとして注意すべき事實である。嘆ずべきや否やといふことは、別問題として、此の如く戰爭の餘波影響が、心理的にも社會的にも人類全體に及ぶといふのは、要するに文明の基本が、世界に通じて共通の點を有し、社會狀態にも、產業狀態にも同じ難關が世界全般に亘る樣になつて居たので、人心の動搖にも同じ樣な波が及び易い爲である。その上、大戰そのものが、實に十九世紀世界文明の一結果であつて、云はば人類全體が同じ病勢を進めつつあつたのが、一局部に機會を得て爆發したのである。

此の點に關しては、他の機會にも屢々述べた如く、日本には、特に保守家の間には、大きな盲目的誤解が行はれて居る。日本は戰爭の慘禍を直接に受けなかつたのに、慘禍を受けた國と同樣に人心の動搖や社會の不安のあるのを見て、彼等保守家は、その由來と聯絡とを理解し得ない。そこで彼等は、不安動搖の責任を謂はゆる「外來思想」に歸し、學者や勞働運動家が、「外來思想」にかぶれ、外國の運動を模倣して、動搖を起すのだといふ。政府當局者の言明や、政黨の宣言や、又は敎育家の慷慨に、常に此の如き言が見えるのは、社會の生活、文明の運動に關して、如何に彼等が盲目である

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を示すのみである。此に關して一々論辨するのは煩いぐらいであるが、人生の活運動は、「外來思想」を直輸入するとか、又は之を防遏するとかいふ如き機械的見地で判じ去るべきものではない。假令ひ如何なる思想、如何なる運動が、どこに起つても、同じ樣な社會狀態と問題と人心情勢の存在しないところには、勢力を得るものではない。之に反して、同じ樣な不安狀態、同じ樣な動搖の原因が存すれば、互に交通しなくとも、模倣や宣傳はなくとも、同樣の思想も生ずれば混亂も生ずる。一方に火藥が爆發すれば、それが他にも爆發を誘起し、又は同じ爆發原因が同時に起れば、獨立にも爆發する。十九世紀文明の結末として大戰が人間天性の本能性に爆發し、而してそれが世界全體に波及し、人類全體に感染しつつあるのは、決して不思議でも偶然でもない。自ら爆彈を懷にしつつ、他の爆彈の爆發を對岸の事と見るのは、實に危いかなである。

それを少しく具體的に說明して見よう。十九世紀の文明は、機械工場の勃興と、之に伴ふ商工業の組織といふ點で、世界を席捲した。その勢力は、人間の氣風を變更し、社會の組織に大變革を起し、アフリカの蠻人生活も、印度の種姓制度も、支那の官僚政治も、日本の封建制度も、何れも何れも、此の新勢力の前には、大ロラーの前の砂利の如く壓せられ、搖かれ、押しつぶされ、數萬年乃至數百年の固定した組織も習慣も、片つぱしから切りくづされた、又はされつつある。此等の諸國、即ち新に此の新勢力に接觸し、若くは新組織を取り入れた社會に於て、新工業が此の如く、舊勢力を壓迫し、又は舊組織を破壞する爲に、それ等の國々で、有形無形共に新舊の衝突があらゆる方面に起るのは、必然の勢たることは、今更述べるまでもなからう。而して舊組織舊氣風の打破が起れば、それだけ舊時代の秩序で訓練乃至拘束して來た、人間天性の非理性的分子、即ち本能性が種々の形で勃發し、その解放運動が多少とも激越の形を執るのは、自然の勢である。日本で明治維新後の舊弊打破が破壞性を帶びたのも、現代に於て政治運動や勞働運動が、感傷的に激越に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なるもの、此の過渡の現象、即ち新興勢力の衝動的爆發として見るべきもの。支那革命後の動亂狀態や、印度政治運動の濁動なども、同樣の原因を以て、少くとも一部分の說明を得べき事實である。日本には、支那の如き革命があつたのでもなく、又印度の如く外民族の統治と戰ふのではないが、それ等直接の爭點よりも、もつと微妙に又力强く社會生活の底に流れて居る變革の潮流がある。即ち、新產業組織とそれに伴ふあらゆる有形無形の變動が、舊束縛から解放せられることを要求し、そこで固定した秩序の絆が弛むで來て、之に對する本能性の爆發が生じ、その爲に動搖を來しつつあるといふ點においては、世界中で舊文明の遺傳を抱きつつ新組織に接した國々は、皆同樣の難關にぶつつかりつつあるのである。

例へば、政治では、元老或は類似の勢力が、封建的 paternalismで、謂はゆる「善意の壓制」benevolent tyrannyを行はうとする。之に對して俄に覺醒した、又は覺醒した樣な民衆は憤慨する。その憤慨は、發して感傷的激越になり、威嚇的態度を執る。そうすると、權威者は、一層壓抑を加へる（此頃の神田邊の警察のやり方の如きはその一端を示す。）そこで衝突は一層激しく、本能的爆發の性質を帶びる。家族內で親子の關係にも、結婚問題にも、或は又學校騷動にも、皆此の徵候が現はれて居るが、それ等を一々記述することを略して、勞働問題についても同樣の點を示し得る。資本主側のみならず、社會一般にも、まだ昔の主從關係を以て勞資の間を律せうといふ考があつて、此が謂はゆる溫情主義といふ名でも現れるが、そこへもつて來て近代的資本組織の氣風が、新入の勢を以て謂はゆる絞り取り主義が加はり、二者の奇妙な混淆が產業界に有力となる。此の如く封建氣風と營利主義とは、又資本階級の政治結托となり、此も新輸入の勢力を以て、一世を風靡する。然るに、勞働階級は、一方は知識の發達と、他方は自家生活狀態の反省とで、覺醒して來た。それに加へて、政治上、社會上の民本氣風も亦、近代文明の必然的產物として、一般人心を支配し、それが

働社會に反映しては、封建氣風と混淆した資本組織に對する對立、反抗、乃至憎惡となる。日本の社會問題はまだ、勞働者自身の覺醒に達せず、今日の勞働運動は、外國の模倣か、若くは書物から拜借した學者の煽動だと見る人は、實に此の新舊の混沌と衝突とで動きつつある社會の實狀に盲目なる者で、その盲目の由來原因は何れにあるにしても（此についても研究すべき點はあるが畧する）、その盲目から生ずる結果は明白である。即ち二者の對抗が、本能的に激越になるといふ一事がそれで、日本には近代的難問の外に、封建氣風の殘留といふ、厄介物が一つ多い（政治にも經濟にも）のであるから、その點に於て、爆發性は西洋よりも多いといふべき方面もある。

主從關係といふ昔の義理關係をそのままには行ひ得ず、而かも主人としての頭腦若くは感情も懷きつつ、産業的絞り取りを漁せるのであるから、資本主義の發動は、支配慾と利慾との衝動的發作となる。反對の側に立つ勞働者も、まだ全く封建氣風を脫せず、「立ち寄らば大木の蔭」といふ樣な情は腹にはありながら「大木」に對して憤懣するから、その反抗運動が發作的憤懣になる。勿論、個々の場合を云はゞ、覺醒、進步に於て、一代に先んじた人々もあるが、社會全體として見れば、今述べた如き新舊衝突は、何れの方面に於ても本能的衝動の性質を帶びて、今までの義理や秩序を打破するのみならず、秩序、理性そのものを無視するといふ方面に爆發性を有して居る。有產者の側では、成金氣風の橫行、無產者の側ではくそやけの發作、何れも此の現象の一面を示して居る。此の點、ロシヤと共通の點が多く、ロシヤの狀態は、決して對岸の火災ではないのである。

一火藥庫內に貯藏してある火藥に、化學的變化が生じて自發の虞なき能はざるところへ、隣の火藥庫でも同樣の原因から爆發が起つたとすれば、危險は一層を加へる。非常の壓力で壓搾された液體空氣がある。その同じ室內で他の瓶の液體空氣が還元したら、結果は想像するに難くない。日本はそれほどにないといふ人もあらうが、世界全體が此に似

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た狀態に居て、その趨勢が、十九世紀の末年に段々進むで來たのである。而して日本は戰時中の假景氣で、今までよりも深く歩を同一狀態に踏み込むだのである。戰時中に、世人が多く彼の大戰を稱して、歐洲戰爭と呼むだのに反對して、我々は、世界戰爭であるとし、その原因に於ても結果に於ても、世界的意義と聯絡とのあるを指摘したが、今や、その結果たる本能性の爆發に於て、世界全體が同じ難關に遭遇しつゝあるのである。それを日本のみが、高見の見物をなし得る理由があらうか。何となれば、直接戰場の慘禍を受けずとも、又その間接の慘害に於て、日本は、殆ど無關係であつても、既に新組織の商工業によつて、社會上の變革を經、十九世紀文明の勢力によつて世界共同の難關に踏み入つた一國として、獨りその結果のみを免れうとしても、それは不可能である。「外來思想」を呪咀し、學者を怨嗟しても或は迫害しても、療治にはならぬ。況や、元の封建時代の「淳風美俗」を回復して、此の新狀態に對抗せうとするに於てをや。

そこで尙ほ一度、例として勞働運動に立ち戾つて見やう。但し勞働問題は、又十九世紀文明の一面たる國際競爭と關聯して居ることを忘れてはならぬ。即ち産業組織の結果、經濟活動とその根底思想とが、中世封建時代の消費中心から生産中心に轉じ――日本でも同じ變化が生じて來た――その爲に、原料の供給と市場の擴張との爲に、産業立國の主義が國際競爭となつたのは、周知の事實である。而して國際的産業競爭は、何れの國でも資本組織と國際政策との聯盟を生じ、それと共に何れの國も、多少とも軍國的組織を以て之を應援するに至つた。財力、權力、武力の三角同盟が、國家の名に於て結合を遂げた結果、國家の保護は、生産者に篤く、消費者に薄く、生産といふ中にも、資本に篤く、勞働に薄く、その上に、軍備の爲の租税と兵役との負擔は、特權階級よりも無特權階級に重く負ひきさつて來た。（特に間接税の多い日本やフランスに於て）。消費者としての一般公衆は暫く別問題として、勞働階級の不滿と不安とが增進して來

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たのは、十九世紀文明必然の產物である。而して同じ情勢原因は、國際競爭の極を大戰に爆發し、而してその負擔と苦痛とは、やはり一般人民に重く、特權階級には比較的に輕かつた。(日本でも、戰爭毎に、地方的には關西に富を集め、東北に負擔と苦痛とを與へたことを參照して見るべきである)。此の偏重が社會の平均を轉覆するに至るは、必然の勢で直接參戰の度の薄い日本にも、軍備擴張と資本組織開展との結果、同じ情勢がどし〳〵進みつゝある。

* * * * *

此の一般形勢から轉じて、直接戰闘生活の影響を見ると、本能性の爆發は、一層痛烈に起つて居る。先にも述べた如く、戰闘の目的は、直接に破壞と殺戮とにあり、その目的の前には人命も財產も、又良心も秩序も破壞される。此の如き破壞的衝動の生活に參與する者は、直接間接共に、人間の本能性を野獸の昔に還元するは、自然の勢で、特に四年間の塹壕生活は、一面人間を天然に親炙せしめたが(又それが宗教や詩にもなつて居るが)、他方には人間を原始生活に還元し、あらゆる衝動性を赤裸々に發露せしめた。此の如くにして、秩序とか理性とかいふものを脫却し、文明的社會生活を洗ひ落し、dehumanize された幾百萬、幾千萬の人間が、動員解除(復員)と共に、平時の生活に復すべきこととなつた。彼等は、四年間の原始的衝動生活を過去の夢、一場の惡夢として、直に平時に復舊し、謂はゆる文明の秩序に復し得るかといふと、それが中々困難である。人類が幾萬年かゝつて整へて來た秩序と、養ひ來つた理性とは、多くの論者の云ふ如くしかく膚淺なものではないが、而かも亦幾十萬年の遺傳たる野性が、戰爭に爆發し、四年の間思ふ存分に dehumanization 人間性の剝落を行つた勢力、戰闘生活の惰力も亦、復員と共に消え去るものではない。戰後今日まで、何れの國でも、勞働運動のみならず、政治運動も、激越の爆發性を呈するのは、要するに、四年の間人間を辭職して居た者が、元の人間に戻ることとの困難なるが爲に生ずる現象である。此等の激動は、要するに、人間として、文明が整理して來た秩

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

序に對して、野獸的還元で生じた本能性が逆襲を試みるから生ずるのである。

人間歴史の上でも、文明と野蠻との衝突は屢ば起つた。支那に於ける漢代文明の瓦解に對する胡族の勢力、西洋ではゲルマン人のロマ掠奪、匈奴の侵入など、何れも大規模ではあつたが、此等は異民族間に起つた衝突であつて、その結果は、蠻族の文明同化か又は退却に終つて居る。然るに、現代に於ける蠻性の逆襲は、同民族の中にも普く、又同一系統の文明を通して爆發して居るといふ點に於て、今までの歴史とは、大に趣を異にしたものがある。即ち今までの歴史が異民族の衝突であつたに對して現代の難關は、殆ど何れの國にも共通な社會問題として、本能性の逆襲勃發があらゆる方面に發露して居るのである。支那の革命の如きは、漢人の滿人に對する反抗から起つたが、又現在にあつては、諸の閥の爭として動いて居るが、終には社會問題、文化問題に轉ずべき形勢を認むるに足る。又ロシヤ革命の如きも、一面天眞生活の農民が、貴族に對し起つたものであるが、その成行(なりゆき)の自然の結果として、社會共產といふ一定の主義、否殆ど宗教信仰が、今までの閥族文明や資本組織を轉覆する運動として、社會問題を提げて、全世界に挑戰する樣になつて來たのである。社會問題の難關が存する國には、――而して何れの國もそれを辭し得ない――ロシヤのボルシェビズムは決して對岸の火災ではない。

戰鬪事業、塹壕生活の影響餘波については、心理上、社會上觀察すべきことは多々あるが、先に少しく述べただけにして、兎に角、戰爭が齎らした本能性の爆發が、復員後にもつづいて、それが世界全體に感染して居るのが、今世界の實狀である。その爆發した本能性の中には、性慾の解放又は變態、生存慾の疑懼、爭鬪性、突擊性の激發、猜疑、憎惡、慢心、自負、躁信、不安、憤懣、昏迷、失望、あらゆる分子が、或は衝突しつつ、或は混淆しつつ働いて居る。而して此等の動亂跳梁は、單に個人心生活の現象でなく、社會的聯絡をもつて、政治にも經濟にも、又は教育にも宗教にも現

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

はれる。社會問題は即ち思想問題であり、國際問題が又人心問題として、世界文化の危機を醸成しつゝあるのは、此の爲である。それといふのは畢竟、人間の生活は、個人と家族と社會と人類全體と、切つて切れない相互影響があり、又人心の活動は、理性と本能と、本能の中でも愛と憎と、自利と利他と、性慾と食慾と、それ等の間には、別々に働き得ない相互聯絡があるから、一部分の爆發或は動搖は、どうしても多少とも全體に及ばざるを得ないからである。お目出たい政治家が、稅關と警察とで「外來思想」を防遏せうと試みるの愚はいふまでもないが、人間精神を區別障壁で切り分けることの出來ないことは、今日の狀態を考へる者の看過すべからざることである。社會制度の問題は即ち人間精神の問題たることを知らなければ、現在の實狀を確めることも出來ず、從つて將來の方策を立てることも不可能である。

* * * * *

尙ほ此の世界的動搖の問題を、單に思想問題として見ても、哲學に於て理性主義に對して意志本位の思想が、段々に勢力を占めて來たことは、全體の大勢と、互に因となり果となつて居る事實である。宗教信仰から見ても、敎理よりも「經驗」、敎會の組織よりも實際の運動が重要となつて來たことも、同じ徵候のあらはれであるが、特に注意すべきは戰時並に戰後、何れの國にも本能的宗敎と稱すべきものが續々と起つて來た。即ち戰時中の幽靈信仰や、又は種々の特別な修養方法の流行はいふまでもなく、ロシヤではラスプテンの如き人物の出現、日本では大本敎の如き類の續出、皆宗敎心の粗野な本能的發露として、やはり世界全體の動搖が諸方面に表れたものである。(此等は、少しく、「社會の動搖と精神的覺醒」第二講に述べておいたから、此處には畧して、その方の參照を望む)。その他性慾と文學との關係、藝術の未來派運動等數々あるが、今は畧する。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

此の如き現在の實情を認めて、そこでそれをどうするかといふ問題になるが、保守論者と過激論者とは、此の問題の解釋に對して、兩極の誤に陷つて居る。卽ち保守論者は主として權力者、特權階級にあり、彼等の論點や政策は種々になるにしても、要するに、爆發狀態を壓迫して元の型にはめこみ、大戰前には兎も角も建つて居たその通りの舊秩序を回復せうといふにある。日本の保守論者の如きは、此の本能爆發を、封建的道德の中に押しつめうとすら考へて居る。然るに、その反對の過激論者は、爆發狀態をもつと進めて、どん底まで爆發せしめ、本能本位の人生を作り上げうとする。ボルシェビキが、その共產主義を貫くに、あらゆる暴力を用ひることを主義とするのは、要するに、爆發をどん底まで押しつめうとするのであつて、一見、正反對の軍國主義者が、國際關係を衝擊本能の上に立てうとするのと、氣脈相通ずるものである。保守家は、人生が本能のみでは立たないといふことを重んずる點に於ては正しいが、現代の本能爆發を整理するに、舊時代の秩序制度を用ひやうとする點に於ては、不可能の夢に沈むだものである。それで似て而かも反對の例で、過激徹底論者が、人生に於ける本能の力を重要とする點に於ては、問題の中心を捕へ得たものではあるが、本能を指導し調節する力を考へないのは、人間生活の重大なる消息を逸したものである。蒸汽原動力を無視して機關裝置を整へようとする者と、原動力を重んじても裝置を忘れる者と、共に目的ある機關運轉を托するに足りないことは明白である。

そこで、初發點として見た人間の天性といふ問題に立ち戾つて、現代の問題を觀察するに、人間の天性は抽象的に固定したものでなく、又本能若くは理性の一面のみで動くものでないといふ消息が全體の根本になる。今まで、世界の現狀とその由來を觀察し、本能性の爆發といふ點を說明するに當つて、本能といふものを至極原始的で簡單なものの如く

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に一括しておいたが、本能そのものは決してしかく簡單なものでなく、同一本能の中にも種々の方面に發達すべき原動力を包藏して居るのである。即ち使ひ様によつては、同一の本能も、種々の働きを呈し、人生を作り上げる力にもなれば、之を破る力にもなり、恰も、同じ火熱でも、家を燒き、人を殺しもすれば、又機關を働かし、生命を發育させもすると同じである。此の事は、先に「本能の醇化」として本誌で述べたから(「世界文明の新紀元」一一三頁以下等參照)、一々述べないが、簡單な例を擧げて見やう。

始に一寸述べた如く、男子で小供の時に、いくぢなし、弱虫として他の小供に輕蔑せられる者は、つまりどこかに張りのない、抵抗力のないので、一言で云はゞ突撃性の缺乏である。此の如き小供は、それならばといつて、心がしとやかにやさしいばかりかといへば、そうでなくて、ひがみ、すね根性があり、大くなつても、女々しくて猜疑心に富み、而して陰險にしぶねく人に怨を酬ゆるといふ様な人間になるが常である。男兒的突撃性は、人間の本能としてその生存に必要なものたることは、此だけでも見られると思ふ。然し又、突撃性も發達のし様によつては、粗暴、殘忍、酷薄、威嚇、侵凌にもなること、是れ亦多くの實例の示す所である。即ち突撃性は、人生で自家保存乃至主張の傾向が他の侵畧壓迫に對して發する必要の衝動であるから、それを缺く者の不全は勿論だが、それを一方にのみ偏するのも亦不全のしるしである。然るに、生命は元來、自らを發展し圓滿にするのが本性であるから、その爲には他に對して自らを主張すると共に、他を容れ、他と調節する必要がある。

之を動物の生活に見ても、世人は、謂はゆる struggle for existence を單に「生存競爭」と誤解し、他を侵畧し、他を征服することとの様に考へて居るが、その實、「生存の爲の奮鬪努力」には、外界の境遇に對して順應することをも、同類又は他種の生物と調節を保ち、此の順應や調節の爲には、場合によつては、自己の生存狀態に變革を加へることをも含

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

蓄して居るので、此が生命の發達である。但し順應調節といふのは、單に讓歩するのでなくて、自らをも變更すると共に、他の變更を要求し強制することもあるのであるが、それは只暴力的突撃の作用ではないのである。順應と突撃との相關並に差異は、こゝで盡すべき問題ではないが、兎に角、今まで人類の發達中、最も著しい變遷の一つは、同族であつたゴリラやチンパンジーなどの如く、腕力的突撃性のみに偏しないで、兩腕を自由に技藝に用ひ、樹上生活を棄てて直立の姿勢で頭腦を發達したのにあり、それは本能性から出發した調節の最も巧なるものであつた。

そこで本能の醇化發達といふのは、要するに、その發作適用に當つて、境遇事情に應ずる領域を弘く且つ自由にし、その發作を一時の突發的衝動に委せない樣に、ゆとりをつけた順應調節を意識して行ふにある。そこで、意識の發生といふことは、生物學、心理學に亙つた難問ではあるが、結着する所、本能適用を弘くし、ゆとりを取るに歸着し、その爲には、場合によつては、本能的衝動發作の猶豫又は阻止といふことを含蓄して居る。此の如き整調順應が前後左右の事情に應じ、弘く遠い思慮で行はれる樣になつたのを、約して理性の發達といふのであるが、その作用は、人生の發達に於て實に重大な結果を生じた。例へば、先に例とした突撃衝動の如きも、理性の制裁で、一時的發作を抑制して、その力を段々に貯へしめ、之を發すべき場合には大に發せしめる樣にすれば、時々に些細な刺激や動機で發作するよりも雄大な發動をなし得る。卽ち突撃性の缺乏は虛弱のしるしであるが、その發作が衝動的にのみ動くのは、謂はゆる癇癪もちであつて、大事をなすべき人間でないといふのは、その本能性が理性的調節を缺くためである。而して同じ突撃性でも、獨り、個人的に理性で調節するのみならず、調節の範圍を弘くすれば共同團體的の組織をも發達するので、民族魂とか國民精神などいふものの一面にもなる。

その他、食慾や性慾、若くは群居性、獲得衝動、遊戯性などについても、同樣に本能的原動力と理性的醇化との聯絡

が人生には大切であるが、何れにしても、一本能、一種の衝動のみ偏頗に孤立的に働くのは、偏僻の人生を作る元である。例へば、群居性の偏頗な發達は、個人の自發性を害するが、自發性、遊戯性が過重になれば、社會生活に支障を來す。自衛の衝動が同情共鳴と孤立して昌になれば、「他人の心を映しとる鏡」を缺いて、その結果は、却て自己の生存と發達とを害する。此等の事は、個人の生活に於ても團體の生活に於ても同樣であつて、ドイツの孤立は、自ら招いた禍、ドイツ人の心理狀態が自ら作り出した不幸に外ならぬことは、前に少しく述べておいた通りである。

此等の點を見來れば、人間の天性といふ問題が、しかく簡單のものでないといふことは明白とならうが、本能的原動力と共に理性の調節も天性であり、本能性の中には突擊性もあるが、又同情も同樣に重要である。只此の如く種々の要素が複雜して居るのみならず、その發作適用と發達進歩とには、一層錯雜した聯絡と作用とがあつて、要するに、本能性の自由濶達な發揚は、理性の綿密な節制と、遠大な指導とによつて、人生の圓滿な發達が遂げられるのである。此く概括するのも抽象ではあるが、此の二方面の調節が、流動的に彈力性を具へて行はれ、時々の事情に應ずると共に、大きな弘い目的を目指して進むのが、天性の發達圓熟を遂げる所以である。それを前に用ひた譬喩で云はゞ、同量の燃料でもボイラー構造と、火夫の功拙とで、その發する火力を異にし、同じ力の機械でも、用ふる所によつて、その効用を異にするといふ明白の事實は、又その通り人生の事實である。而して、人間天性の場合には、本能性の火力が理性の機關を動かすが、その機關たる理性は、又本能的原動力を支配するばかりでなく、本能そのものの性質にも變更を加へる。此が本能の醇化であつて、例へば性慾を生殖作用だけとして見れば、人間と他の動物と大差はないが、性慾の醇化は夫婦親子の間に立つて、人間の倫理關係を生じ、性慾は又社會生活の基礎にもなり、而して此の如き社會生活は、又理性の內容を豐富にし、その作用の規模を遠大にする。今まで人間の發達は、此の兩面の反應增進の力であるが、その反對を見

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れば、蟻は社會的本能に秀で、狼は群居性に富むが、自發創作の力がないから、發達せず、虎や獅子は、獲得衝動と進擊性で勇猛であつても、共同動作と理性の調節がないから、力では弱い人間にも負ける。人間の天性なるものを、一方のみから簡單偏頗に用ひやうとする人は、人間を此等動物の水平に下さうとするものである。

人間天性の發動が複雜であるのみならず、その發動の方面や複合の配合には、又それぞれ外部の事情に應じ、內心の要求に基き、變遷と發達とがある。卽ち或る社會狀態又は時代には、その事情の必要に應じた發達の方向があり、それが謂はゆる大勢趨勢として、天性の發動を支配する力となる。勿論、特別な個人的天才があつて、或は政治家として、或は思想家として、或は宗教家として、一般の事情狀態以外に特別の指導感化を施し、謂はゆる趨勢に變更を與へる場合もあるが、それは特別の事であつて、一般の原則にはならない。その上、此の如き特別の指導感化も、大勢を支配してそれに變化を與へるにしても、大體の趨勢と全然無關係に行はれるものでなく、動なり反動なり、どれだけかは相關的に勢力となるのである。特別なる天才と時勢歷史との關係といふことは、人文發達の上に於ける大問題ではあるが、その討議は暫く論點外にして、此處にはやはり、天才と時勢とは全く相離れるものでないとして進むで行かう。此の見地からすれば、人間天性の發達には、各時代に應じた趨勢があつて、本能の發作も、理性の支配も、此の趨勢に應じて動くものであるから、思想でも運動でも、此の如き大勢を無視するものは、つまりその時代に於ける人間の天性を無視するものである。されば「天性」だといつて、自分だけで作り上げた抽象の型をもつて來て、――それが反動逆行的であつても、急進過激であつても、――それで人間の精神や生活を律せうとするのは、此れ亦天性の發動方向を無視した盲動に外ならぬ。此の點から見れば、封建的道德の舊型に現代をねぢ戾さうとする保守的反動が、時代に盲目であると共に、人間の天性を物質的生存慾とのみ見て、その方から社會革命を行はうとするボルシェビズムも、同じく盲動である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

そこで、現代に於ける本能性の爆發に、どう始末をつけるかといふ問題は、二重の意味で改造といふ問題になる。即ち、一方は今まで人間の發達で仕上げて來た人間の理性、社會の秩序、特に制度として定型に出來上つたものは、此の爆發の爲に全く破壞されたといふことは出來ずとも、大分の毀損を受けて居る。それを只元の型に戻さうといふことは、工業時代を封建時代に戻さうとすると同樣に、或はそれ以上に、出來ない相談である。それ故、爆發の始末としては、どうしても人心と社會との改造、新人生組織の發生を必要とする。即ち舊制度に對する改造である。然るに他方、本能の爆發を益す進めて、一切を破壞し、どん底まで行かうといふのは、願はしいことでない。願はしくないといふのは、只それを好まないといふのでなく、爆發破壞は、そのままでは人間を獸性に還元する結果を呈し、人間天性の今までの發達を無にするのみならず、獸性横梁の中から人間生活の秩序を（それが如何なる新しいものであつても）再建するには、非常の困難と長い年月を要することになる。否、或は再建も終に期し得られず、文明の滅亡になること、古代の帝國文明と同じになるかも知れない。此に於て、非常な勢で爆發した本能性を、そのまま衝動的發作に委せず、その原動力を利用し、新な理性の秩序で之を制御するといふのが問題の中軸になる。この點から見て、本能の醇化を如何なる方向に仕向けるか、又我々自らが人生に對して如何なる態度を持し、又は覺悟を抱くかといふ改造問題が眼前に迫つて居るのである。即ち、改造といふことは、在來の社會を改造すると共に、人間天性の發露方向を如何に改造すべきかといふ問題になる。

二重の改造問題、此が先に新舊の衝突と呼んだ事と或る點では氣脈を通じては居るが、而かもそれよりも根本的の意味があり、範圍としては、世界全體から個人の生活に亙る問題である。即ち遠くは幾萬年來人間の養ひ來つた理性の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

力、數百年に亘る近代文明の組織、此等を勃發した本能の新鮮な勢力によつて新活力に導かうといふにある。而して此の新勢力は、あらゆる方面に於て自由解放の要求として動きつつあるのであるから、之を壓抑するのは、却て鬱屈を來たし衝動的反抗心を挑發し激成するのみで、その結果は、一層力強い破壞を來す。ロシヤの革命は、その消息を示して餘りあり、警察的國家には、必ずボルシェビキ的爆發を生ずるといふことを覺悟すべきである。そこで自由解放は、勿論個人的主張と覺醒とに基くには違ひないが、現代の爆發狀態の中にも有望のしるしがあり、それは人間天性の社會性が大に發動して居るといふ一點にある。即ち個人の自由解放が、（支那の六朝や日本の足利時代、又はロマ帝國崩壞後の如くに）瓦解的氣風の獨善或は孤立の要求とならずして、機會均等といふ社會要求として起りつつあるのは、今までの文明瓦解には見られなかつた新特質であつて、それは實に近代文明の貴い遺產である。言ひかふれば、ルネサンスに始まつた「我」の覺醒が、十九世紀の工業文明で、團體的組織を得、且つ政治上、社會上の勢力分配が進むで來た爲に、何人にも生活の上に多少とも希望を抱き得る樣になつて來た。此の機會を捕へて、人間が人間らしい生活を營み、希求と理想とを自由に開發したい、その機會と自由とに社會的保障を得たいといふが、機會均等の要求であり、その社會的方法を如何にすべきやといふのが、即ち社會問題の中心楔子である。難問の因つて生ずる所以は、主として本能性の爆發にありながら、その問題の向ふ所が、社會的意義を強く示す所に、現代の特色もあれば又、危險の中にも希望の光明ある所以ではなからうか。

社會問題といふのは、他の機會に屢々說明した如く、歸着する所、人生問題であつて、人生の理想を社會的結合の中に實現し、個人の發達を基にして社會的生活を圓滿にすると共に、社會的結合の力で個人を鍛錬せうといふのが問題の目指す目的である。そこで此の如く輪廓的に見た社會的理想を如何に充實するかといふのが結局の問題であるが、その內容の大體は、曾て本誌に、「人本主義の實行」として述べた如く、人間天性の複雜多樣な點を利用して、その醇化圓熟を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

圓り、人間の相互依存を、精神的覺悟の上にも、社會的實行の上にも充實するにある。その覺悟を如何にして涵養するかといふのは、即ち思想又は信仰の問題であり、實行の組織方法は即ち社會問題であつて、二者の聯絡を密着切實にするのが今や新な意味での宗教問題となりつつある。但し、進むで此の問題に入るには、現在此の理想を威嚇する、即ち人間天性の圓熟を妨げる勢力について觀察し、之を排除する方法を發見する要がある。而して今は、此の威嚇の中で最も弘く又大きな勢力たる國際的反目について考へて見やう。

國際的反目乃至爭鬪は、要するに國家又は民族的主我の衝突であつて、つまり團體的主我利己といふ本能性の跳梁が根本原因となり、それがあらゆる國民の内部にも不安と混亂とを與へる。先にも述べた如く、國外に向つて突撃性を養へば、内部にも同樣本能の勃發が反射的に起り、戰爭をすれば、勝敗共に好戰的態度やその他の本能的衝動を、人生のあらゆる方面に爆發する樣になる。軍國主義と過激主義との必然の聯絡については先にも述べたが、それを尚ほ手近に具體的に云はば、軍備の增進と經濟財政の困難と相結び、それが文化事業、社會事業の障害になり、それ等が相合して人心の不安を來すことは、眼前の事實として、特に一々叙するまでもなからう。一例を云はゞ、大本教に歸依した軍人の心理には、此點がよく現はれ、此の如き妖教が一部分でも勢力になつたことは、一は日本の國際的孤立から生じた人心昏迷、社會不安のしるしである、それ故、大本教がなくなつても、今の社會狀態がつづけば、それに似たものが簇生するのみである。尚一例を云はゞ、教育の設備が思ふ樣に出來ない爲に學校の缺乏となり、それが入學試驗の困難となつて、多數青年男女の心をくさらせ、人心に恐ろしい動搖を與へつつある原因はどこにあるか。今年度の政府の豫算を見れば、一々說明するまでもなく、その消息を知るに足らう。軍事費だけが教育費の十幾倍になるといふ恐らしい現象を我々は何と見てよからう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

此等の點については、尚ほ他日細論したいと思ふが、それは暫く別にして、國際的不安が又直に各國内部に於ける社會的不安と密着に結合して居るといふとは、今日の改造問題を考へるについて、特に重要の點である。即ち今日社會と人生全體とに關して、中心の難關となつて居る本能性の爆發は、個人關係の破綻だけでなくて、國際關係並に階級關係の險惡から生じて、人生のあらゆる方面に波及して來た難問たることは、屢ば說明した通りだと思ふ。而して、階級間の衝突、特に勞働と資本との衝突は、國際競爭の爲に、國家といふ勢力と組織とが資本階級を保護すること、即ち權力と財力と武力との結合が、その最大原因をなして居ること、此れ亦曾て說明した通りである。此點から見れば、階級爭鬪といふことも、大部分は國際爭鬪の反映であり、而して國際的不安の因つて來る所を概括すれば、個人間の關係には、本能と共に理性の力が發達したに拘はらず、國際關係に於ては、その反對に、主我的本能の力が強いためである。さすれば現在に於ける本能性の爆發を整理するには多くの方面はあるにしても、その最も重大な點は國際關係の本能的爆發から生ずる不安を除くにある。即ち、人間が人生に對する態度を定めて、本能の原動力と共に理性の制御力を發揮するにも、一國內の諸種の問題に加へて、國際問題に對して、獸的でなく人間的態度を重んずるといふ氣風を養ふのが至要の事になるべきであらう。此に於て、個人の立場から見た人生問題も、人間の團體生活內部の問題たる社會問題も、共に密接に國際問題に聯絡し、而してそれ等を通じて、人間が自分の生活のあらゆる方面に對して、謂はゆる「人間天性」の如何なる方面を、如何樣に發揮し、それを如何なる理想目的に向つて用ひるかといふことが結着の問題になる。

「國家は至上の道德だ」と國家主義なるものゝ主張者はいふ。上だか下だか、討論はしないが、國家が人生に如何なる意義があるにしても、その源泉根底は、個人各目の覺悟、「人間天性」に關する自覺、而してそれを國家社會の生活にも、世界國際の生活にも擴張し充實するにある。「國家は力なり故に强からざるべからず」と軍國主義者は、自明の眞理だと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

して主張する。然し、「力」は獨り國家の有するばかりでなく、個人の本能にも力があれば、理性にも力はあり、世界人類の生活を全體として見ても、そこに力はある。力は强きを尊ぶが、强いばかりが能でなく、それを如何樣に、何の目的に用ひるかといふことが重要である。發動機は力であるが、その大力と共に機械の仕懸が大切であり、且つ又その裝置を如何なる機關に用ひ、その機關を如何なる用に供するかといふことが、人間として考慮すべき最大の問題である。

人間の根本原動力は本能性にある。今やその大力が爆發して居る。その旺盛な力をそのまゝに破壞に用ひるか、又は仕懸を具へ、目的を明にして建設に用ひるか。此が、十九世紀文明の破綻として、大戰の結果、世界不安、社會動搖、人心昏迷の現狀が我々に與へる教訓、否我々に迫りつつある最後通牒の內容ではなからうか。此の最後通牒に對する回答は、個人天性の問題と、國內の社會問題と國際問題とを總て聯絡した內容を具へるにあらずば、決して滿足すべきものとはならない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

支那阿片問題の眞相

法學士　井出季和太

目次

第一、總　說
第二、阿片生産の復活
第三、阿片及其の藥材の密輸入
（一）序說　（二）取締難の事由　（三）密輸方法　（四）密輸數量と其の經路
第四、禁煙運動
（一）禁烟會の事業　（二）國際阿片條約の實施　（三）輸出國に於ける禁令の效果（四）郵政と禁輸
（五）英人商業會議所の決議　（六）關稅改訂委員會の決議　（七）公開運動
第五、結　論

第一　總說

一

支那の阿片は阿芙蓉（アフロン）の名に背かず唐宋には其の嬋娟たる花を賞し詩の題材としたが、明の中葉より清初に至る迄は主として藥材に供せられ、乾隆年間印度阿片の輸入を見るに及んで吸飲の風漸次四國に普く、頻年播及の速かなること恰も燎原の火の如く、殊に近年迄一世紀間著しく其の需要を增加し、國民の心神を荼毒し財力を耗損すること甚大なるものがあつた。又支那は阿片の爲に英國と開戰し、一八四二年の江寧條約に依つて償金二千一百萬元を出した。外に香港を喪失し、五港を開き、阿片を解禁して以來、洋藥の輸入と同時に土藥の栽培を激增し、世界唯一の大阿片國となつた。

阿片の吸食栽培及輸入の數量は、元より私販密輸等多量によるものがあるが、今表面統計上の數量を見るに、洋藥即ち輸入阿

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

片は、例へば一八六三年以降一九一〇年迄八ケ年平均約六萬二三千坦なるに對して、土藥即ち内地産阿片はロバートハートの光緒二十三年の調査に依れば三十三萬四千坦とし、洋藥の約五倍に達した。而して政府の是等阿片より徴收した課税收入は、關税及厘金を合計せば一八八九年以降一九一二年(民國元年)迄一ケ年多きは八百萬兩を越え、少きも四百萬兩以上で、平均六百萬兩前後に上り、尚又土藥に對する地方税の實際徴收額及地方官吏の中飽等は、正式の報告額の數倍に達した樣であるが加之に、政府の財源として極めて重要なるものの一に屬して居つたが、其の弊を認めて清初一七二九年(雍正七年)以來歴朝禁烟の上諭法令を發布したけれども悉く具文に歸し今日に及んだのである。但し洋藥の密輸入及土藥の栽培は往時に比すれば元より著しく減退したけれども、下に述ぶる通り尚相當額に達すべきである。

二

支那に於ける禁烟政策の實行、禁烟運動の經過、及其の政策の崩壊、並に内地阿片の栽培等に就而は、臺灣臺法月報誌上に於て予は屢々記述したるに依つて玆には其の詳述を省くが、曩に一九〇六年八月の禁烟の上諭以來一九一〇年の禁烟會の創設あり、國民的輿論を刺戟し、其の運動も益々國際的協助の力を加へ來つた。而して一九一一年英清阿片條約に依り、毎年英國は印度阿片の輸入を漸減し、遂に一九一七年四月以降は協定上全然洋藥は其の跡を絶ち、自ら政府は阿片收入を同時より喪失することとなつた。之に對して土藥の栽培も當然禁止すべかりしが、洋藥の密輸入の中止と共に容易に實行せられないで今日尚問題を引起して居る次第である。然れども二世紀以上其の病既に膏肓に入つた老大國の支那が禁烟を實施するに至つたのは彼の歐洲戰爭の當初に露國が「ウオツカ」の專賣を廢止したと同樣二十世紀に於ける大事業の一である。

三

近年禁烟運動の熾盛となるに至つても、支那政府當局者中には先年上海の阿片商組合たる阿片聯合(Opium Combine)との間に醜關係の風聞があつた。蓋し輸入禁止後の上海の殘貨一千五百七十六箱が其の價を作したのである。其の殘貨阿片の處分に就ては當時政府の買收に就て世論囂々を極めたが、漸く一昨年の初頭に之を焚燬した、同時に北京に萬國禁烟會(International Anti-Opium Association)の成立を見、偶々ヴェルサイユの國際聯盟會議より平和條約の案文が北京に到達したるとき

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に、其の條約中には阿片の貿易に就て記する所がなかつた爲に北京よりはダブリユー・エフ・コリンスに依り英國政府に宛て、上海よりは支那委員に對し發電し、其の結果支那講和委員はロイド・ジョウジ氏及英國委員を介し阿片問題を提出し、委員の決議に依り平和條約第二百九十五條の規定を以て一九一二年の海牙の國際阿片會議の最終議定書を確認するに至つた。

四

右北京の萬國禁烟會の外に從來よりの地方に於ける禁烟會並に最近創設した天津上海其の他の防毒會又は禁烟會等の運動があると同時に、民國政府は一昨々年末以來禁令を制定し、一昨年十一月大總統令を以て禁令を發布し、並に各省官吏に對して之が取締を命じ、又昨年一月國務院は廣東政府に對し、南北和平成らざるとも阿片の禁止が緩和し來るは各國人の責むる所であるから一致して各方面に嚴達せらるべき旨を發した。

今や內外共に禁烟運動が益々熾盛であるが、阿片「モルヒネ」等の密輸入が停止しないばかりでなく、內地に罌粟の栽培甚だ多く、地方に依つては却つて之を勸誘して居る。西境雲貴甘川諸省は元より福建省に在つては約四分の三の地域に罌粟が栽培してあると報告したものがある。之が爲に現に臺灣より數年間福州廈門等に密輸入した阿片は最近に至つて中止する樣になつた。

五

支那の阿片を絕對に禁止すると云ふことは「モルヒネ」が世界に存在する以上到底不可能事である。又相對的にも之を杜絕することの困難なる事情は、凡そ(一)國土廣大にして邊疆取締の不可能なること(二)中央政府の權力が各地を統一することが出來ぬこと(三)地方政府財政の支絀に依ること(四)各國の殖民地租界等同一人種の住する土地に接壤すること(五)多年痼疾となれる阿片癮者の數多大なりしこと(禁烟後阿片吸食者の數は幾何なるや明ならずと雖も前淸時代に於て吸食者數を吸食の分頭率に依り計算したるものを折衷せは二千萬人內外なるべく、而して皆丁年以上のものに屬す)等である。

六

支那阿片問題に關して殊に吾人の遺憾とする所は、近年北支又は滿洲に於て「モルヒネ」の密輸入を見るに及び、日本に對する非難が甚しくなつたことである。既に數年前に上海の稅關統計局長のテイーロアも「日本の不名譽なる或る殖民地の不正行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

爲の爲め支那百年の改革努力を逆向せしめたる」とか「日本殖民地の都邑は惡分子の集會處たり」と云ひ、哈爾賓、長春其の他に於て日本人が密輸入を企て、又は之が媒介を爲し、大體に於て「モルヒネ」密商の利益は、一箇年約一千萬圓を下らぬと稱して居つた。最近に至つて英米人は種々の宣傳方法を以て日本商人の惡事を指摘し、殊に上海の「ノース・チャイナ・デーリー・ニュス」其の他の新聞は熾に日本の官憲及日本商人の「モルヒネ」「コカイン」等に對する措置を非難し「ブラックスリト」を發表した。又「ペキン・テンシンタイムス」紙も「モルフイヤブラックリスト」を掲げ、殊に日本人の密輸又は媒介の事實を特筆して居る。元より日本人側に英米人又は支那人の唱道する程の事實の有無は疑問であるか、單に排日的攻撃のみと雲煙の過眼視することが出來ぬ。現に昨年一月の「ロンドンタイムス」紙には、有害なる藥劑は支那に於て夥しく栽培され、又密賣を營める不埒なる英米人に依り支那に密輸入され居る事實に言及し、且つ日本は疑もなく密輸入の中心を形成し、右の藥劑は同地より支那に入込むものと記した。蓋し日本は支那人の眼から見れば極めて危險な殖民地として北に於ては朝鮮滿洲青島等南に於ては臺灣を有して居る次第である。阿片の密輸に就ては英米人も少からず干與して居るが、一方阿片條約關税組織又は敎化運動等の關係より英米人が夙に支那の善後改革に關しては努力し來つた事蹟を省みて日本も日支親善の一手段として支那の禁煙に對して大いに力を竭すべき境遇に在ると思ふ。日本人中には從來往々阿片の支那に對する輸出を利益ある事業の如くに商人以外の者迄も心得て居つたが、是れ極めて舊式の思想で却つて國家の進歩に害あるものである。

七

前記「ペキン・テンシンタイムス」紙は昨年四月五日阿片問題に關して特別號を發行し、大總統徐世昌の禁煙會に宛てたる敎書、黎元洪、最近歸國した阿片問題に多年關係を有した英國の老公使ジョルダン、北京羅馬「カトリック」敎大監督ジャルラン、ノーリス僧正、海關總税務司アグレン郵政監督ピカード・デストラン、萬國禁烟會長ブランコ、禁烟會書記長ソウイービー、吳漣德博士等の特別論文を掲載し、尙支那にて押收した英米日よりの麻醉劑の寫眞、並に阿片癮者の寫眞をも掲載した。而して該特別號は殊に英米の議員及英米支那、印度、滿洲、加奈陀及び其の他諸國の重なる新聞に對して禁烟の宣傳に努めた。予は茲に更に是等資料を主とし、其の他の報告を取捨折衷して支那現在に於ける阿片問題を讀者に紹介せんと思ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第二　阿片生産の復活

一

館の駐支公使ジョルダン氏が「英國は阿片に關して充分責務を盡し、予は十二箇年支那政府と協戮一致して印度阿片の輸入を杜絶したるが、支那本土の阿片は印度阿片に代り、支那は義務を果さず」と英人商業會議所聯合會に於て演說したるが如くに、近來地方官は罌粟の栽培を奬勵し、又は强制し、之を好個の一財源としつゝある樣の傾向である。

今各地に於ける阿片栽培及消費狀態を少しく記述せんとす。盖し一九一八年及一九一九年に於て罌粟栽培が最も廣汎に亘りたりしは西部諸省の雲貴甘川及陝西等である。一旅行者の談に依れば、雲南府より成都府迄十三日間の行程中罌粟を見ぬ地はないと云ふ、又一宣敎師の四川紀行中には、罌粟は各沿道に栽植せられ、某縣に在つては軍司令官及知縣は罌粟の栽培を强制する布告を發した。山東省の山地にも相當の範圍に栽培して居るのを見た。其の他諸省に在つても實地見聞しない山地には定めし多かるべきである。直隸省には熱河方面の東北地方に於て栽培したるが、萬國禁烟會員又は同地知縣の盡力に依つて之を剿絕した。

滿洲に在つては、例へば安東、鳳凰城、黃河、寬甸及懷仁の諸縣には罌粟を見ないが、北方鴨綠江の上流地方には少からず土匪に依つて栽培せられ、又松花江の下流地帶にもあるが、其の主要取引先は撫順縣である。湖北、湖南、河南、山東、直隷、江蘇、安徽及廣東等には阿片の生産を見ないと云ふ報告がある。又廣東の北部及西部地方も三十哩の半徑の區域内には其の栽培を見ないと云ふ報告があつた。但し是等地方は元より西部諸省又は其の他外國より供給しつつあるのである。

二

又萬國禁烟會書記長のソイービー氏の論文から其の著しき實例を紹介せん。

近來阿片の自由栽培が熾盛を極めたものは對岸福建省にして同省南東部に於ては罌粟の栽培を一般的に强制した。其の事實は國を荼毒する阿片の取引を復活する所の軍將校兵士及紳董に依つて爲された最も不名譽の標本的方法である。報告に徵すれば福建省の約四分の三に亘る地方に於て、北部及南部の軍司令官の命令の下に罌粟の栽培をした。但し福州の北部及北東地方よりは同種報告なるが故に或は之が播種を見ない樣である。北西部には最北地方の邵武縣の外は栽培してないが、西部建寧縣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

南西部上抗縣中部永安には其の栽培がある。殊に南東部地方には殆んど各地に栽培せられて居る。即ち福淸、仙遊、永春、安溪、泉州、厦門、石碼、漳浦、詔安及東山島等の諸府縣一帶に亘る南北兩地方に在つては、皆收入の目的よりして地方官憲が命を下して栽培せしめ、普通地方の讀書人又は紳董を介して强制して居る。多くの地方にては各戶播種の割合は每畝約四千株位とし、之に對して一畝に付三十元の稅を課して居る。罌粟の種子は或る地方にては一「オンス」八元にて同じく强制購入を命じて播種せしめ、阿片の收穫を見る時には兵士は再來して其の一「オンス」に付八十元を徵收するものがあつた。乃ち多くの地方にては人民は最も栽培を嫌忌し、多數福建を去り海峽植民地に去つた。又各地ノ耶蘇教徒は栽培を拒み、只强制の下に播種して居る。從つて宣教師及支那人傳道者は其の不法行爲に對して激烈に反抗し往々最も大膽なる爭鬪を起したことがある。

今强制栽培の著例を示さんに、彼の東山島の如きは住民約二萬戶あり。之に對して賦課した收入は二十萬元に上つた。其の他或る地方にては三十萬元又は五十萬元を越へたものがある。又嘗て罌粟の栽培禁止の布告をしたが、そは却つて租稅を强徵する一伏線であつたこともある。一村落にては官吏が二萬元を要求し、更に二富豪に對し苛重なる罰金を科し、之を拒絕したので祖廟内に拘禁した。村人は爲に激怒し同廟に放火し、兵士は逃れたれども兩人を逮捕し、柵刑に處し油を以て燒殺した。某村にては罌粟の栽培を拒みたるが爲に村民を毆打し、家屋を掠奪し、一新婦を凌辱し、村民蜂起して兵士を放逐したれども其の報復として同村は燒棄せられたと云ふが如く、阿片の取引が實惡であると同時に、暴擧殘虐の行爲は一層憂ふべきものがある。

昨年初福州「ノース・チャイナ・デーリー・ニュウス」紙通信員の報道に依れば、地方官憲は阿片栽培を强制し、某地方の如きは今年度に五萬弗の收入を得べしとあつた。

三

次に其の他の諸報告より左記數省の各地に於ける生産及消費狀態を摘記せば下の如きものがある。

河南省。同省の鄧州には阿片の栽培なく、兵士及藥師商の密輸入に係る。知縣は吸食者でなく吸食は前年より減じたりと云ふ。周家口にては一商店が巡警の爲めに閉鎖され、紳董が反抗して之を再開した「モルヒネ」の賣店は十三軒以上ある。遂平には栽培なく密輸入多く兵士に依り公然と販賣せられて居る。羅山にては各市場に於て行商も公然と販賣して居る。其の消費は

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

莫大であるが、知縣は干渉しない。衙門の多くの者が吸食者である。山地には多少は栽培して居るが、多くは邊疆湖北より之を密輸入して居る。光山では多くは富者又は官吏階級の吸食に係り、北京より送致し、又は一「オンス」十元を以て購入し居るも、多少南部山地に生産するものもある。光州にては栽培しないが私賣が行はれ、南部産の一「オンス」三、四元の粗品の外は六、七元である。懷慶にても亦栽培はないが製劑は容易に手に入ることが出來る。殊に同省の軍人が最も大なる密輸入者である。河南府附近には栽培したものを見ないが、同省の西部永寧及盧氏縣には一般に播種して居る。阿片の吸食及販賣は極めて陰密に行はれ、最近吸食者は十五元の罰金を科せられたるものがあつたが、一方には現長官及び兄弟の部下に於て多くの阿片を收穫したと報告したものがあつた。彬州府にては長官の禁烟方法が厳粛であるが爲に、栽培を見ないばかりでなく密輸入の數量は極めて少量である。莫池にては長官及兄弟が阿片を公然と取引し、殊に其の兄弟は河南の西部靈寶及永寧に於て莫大に收穫し、本年各山地を通じて播種し、西安府に通ずる沿途殊に觀音堂及靈寶地方には熾に受授せられて居るが如くに、吸食の風習は舊時より著しきものがある。信陽には阿片の私販は盛に行はるゝが栽培に關する報告はない。唐縣にては最近數個の阿片窟を開始し、藥村が公然官吏に依つて賣出された。嵩縣にては多量の販賣と密輸入が行はれ、山地に在つては農民に栽植を強制し、長官は舊習を開始し、最近の饗應に於て外國人の面前にて吸食した。柳河には阿片を見ないが「モルヒネ」の製劑が私販せられ、少からず使用せられ、軍人及官吏は禁烟に於ては冷淡にして丸藥一粒を銅錢一文に販賣しつゝあつた。武安は河南に於ける阿片取引の一大市場にして北部より「モルヒネ」が侵入し來り、官吏は之に對して冷淡なる態度を持し、大犯則者の名が北京に報告せられ物議を惹起した。淅川廳も亦河南に於て阿片の使用及販賣に關し最も非難すべき土地で、長官は公然たる吸食者であり、巡警は阿片の行商に特許を下付して之を保護して居る。多くは湖北の邊疆より來り公然販賣し、其の市價は三年前に比して三分の一以下で、即ち一「オンス」九百厘である。郾城には阿片の栽培を見ないが、賣買は盛んで數年前に比して亦其の價格が極めて低廉なるを見るのは多額の密輸入のある證左である。道口には栽培を見ないばかりでなく、阿片及其の藥劑の使用は極めて少しと云ふ。

山西省。同省の現狀に付ては禁烟會の山西支部の書記の報告がある。同省の阿片に關して北方及甘肅に於て罌粟栽培の復活を開始するに及んで問題は益々困難なるものがあつた。實際

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

目撃する所に依れば陝西の北境臨府の近隣には莫大なる栽培がある。山西の官吏を特に派遣して黄河沿岸を監視せしめたれど、官吏には信用を置くべきものなく、皆賄賂を收受し、阿片は山西の北部より多量に輸入せられたる結果、其の價格は二年前の二分の一以下に低落し、益々形勢惡化した。但し諸報道を綜合するに、山西自身には栽培のないことが確められた。「モルヒネ」の害毒は後に述ぶる所の滿洲及北支地方に於けると同様に一層甚しく、大原府の南部を通じて所謂「金丹」貿易は熾盛を極め、大部は正太鐵道に依つて運搬せらる。是等藥劑の多數は石橋鎭に於て製造し、日々山西に入る。そは鐵道の使用人殊に機關夫の手を通じて密輸入せられつゝある。自ら臨晋縣の如きは一名「金丹縣」と呼ばれて居る。他の通路は同省の南部に對し河南より潞安府の南東山路である。地方長官は巡査又は富者に依つて不正手段が行はれるが故に、禁烟の處置をとることが出來ぬ情態である。

陝西省。西安府よりの報告に徴するに全省には阿片の賣店々く、人民に癮者が少くない。督軍は其の栽培及使用を奬勵して居る。上流の家庭にも臥床して煙管を口にするものが少くない。殊に文武の官吏に多いのである。同省の罌粟園は人目を避くるが爲に沿道には存しないが、山地には多數に上つて居る。

漸城よりの報告に依れば、久しく當地方には公然の阿片の販賣を見たが、「モルヒネ」は禁令發布の結果普通日本品の外は市場に現はれなくなつたとある。ジョルダン氏は某縣知事の話に依れば、領內阿片を除斥したる結果收入大部を喪失せりと云ふた。

直隷省。張家口よりの報告に依れば、同地人民の大部は禁烟運動に付ては冷淡であつて何處に於ても阿片を手に入るゝとが出來る。當地には罌粟の栽培はないが北部及西部から自由に移入して居る。其の他同省北部には日本の商人は旅館に宿泊し、仁丹の名義の下に阿片や藥材を販賣しつゝあると云ふ。

山東省。南館陶よりの報告に依れば、聊城、冠、館陶、陽穀、壽張及華等の諸縣に於ては阿片を生産しないが、其密輸入は盛にして阿片の賣店は一帶に少くない、殊に商人の言に從へば阿片の丸藥は日本產で各都邑市場に多く、其の種別は黃灰白及黑の四色あり。各村落にても亦容易に之を求むることが出來ると云ふ。當地方の文武官吏は上下の區別なしに阿片を使用し、其の吸食の罪惡に付ては耳を掩ふて居る次第である。

濟南よりの報告に從へば、露、人及日本人、商店は實際昨年と同じであるが、恐らくは日本人の代理者である支那人　片商の數は從前に比して增加したるものである。即ち「モルヒネ」の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

數は減じたるが阿片販賣量は增して居る。日本人は「ヘロイン」及「モルヒネ」の錠劑を多量に販賣して居る。要するに濟南に於ける阿片の使用は昨年よりも增加したと云はれて居る。昨年三月末同府よりの報告に依れば、山東省には過去二三年間は阿片の生產を見ないが、最近に至り增加し來り、今や安邱縣には約二十畝の罌粟園あり、菠薐と共に播種し、外見に觸れさる樣圍障を以て繞らして居る。又地方單縣にも栽培したものがある。是等二縣は濟南府の東西に在り、一は山地なるが一は平地である。其の他の地方に於ては如何なる程度に罌粟を栽培しつゝあるか算定は困難である。殊に陰蔽した耕地に播種するが故に容易に之を發見することが出來ぬ。只數年前に比して價格が著しく低廉なるを見ば如何に多量なるかを判斷することも出來る。現に地方の人民も價格下落の原因は地方生產の數量が增加した爲であると稱して居る。是等事業は巡警の精細なる吟味を要するが、幸にも最近同省の警察力を增加したるが爲に比較的容易に取締を爲すことが出來る。阿片が如何に陰密に栽培せらるゝとも地方駐在の巡警には其の生產地を容易に發見することゝなるべきである。

四川省。前記の如くに同省は多くの阿片栽培を復活したる地方で、一昨年十一月の北京報に依れば、成都よりの報道として唐繼堯は田鐘麟を東部四川省の罌粟栽培調査部長に任命し、同地に於ける熊克武の吏員范奠祥は專ら罌粟栽培抑壓に從事し、同省人は唐繼堯の行動を以て同地方に對する不正な干涉と思惟し、且つ又田鐘麟を疑ふ餘地なき阿片吸食者と信じて居た。當時熊克武が各方面に發した通電中には廣東政府の命に依つて其の抑壓に努めたことを云ひ、又混亂狀態中に在つては已むを得ぬが秩序恢復の曉には禁烟令に依つて犯則者を死刑に處し其の效果を擧ぐるに至つた。

其後に至つても阿片の栽培は容易に停止し得るものでない。現に昨年秋英國公使は本國の訓電に基き支那の阿片禁止條約に違反した事實を指摘して支那外交部に抗議して「調査委員の報告に依れば陝西、雲南、四川、廣東等の各省にては現に阿片を栽培し當局は之を禁止しないばかりでない、寧ろ之に對して課税しつゝある。之が爲に阿片の栽培は公然行はれて居る。政府に於ては禁烟條約に從つて詰問を爲すと共に一定の處置を講ずべき筈である。然らざれば條約は空文に等しく何等の效果もない。支那政府は條約に依つて一切の賠償を爲すべきである」と云ふた。

第三　阿片及其の藥材の密輸入

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一　序說

阿片の密輸入問題に就ては各方面より論究したるものがあるが、主として斯道に於て專門的の經驗を有する現在の總稅務司(Inspector-General)サー、フランシス、アグレンの意見を玆に紹介することにする。

犯則者の立場よりせば密輸に最も便宜で利益多き禁制品は阿片「モルヒネ」及同種藥劑である。卽ち其の數量に比して價格が著しく高く、自ら變裝方法が雜多であるから犯則が容易である。蓋し四億の人口を有する廣大なる支那に在つては、其の人民の大部は貧困で、性質は無抵抗であるから麻醉藥に感觸し易く同時に風土は罌粟の栽培に最も適合し、多年生產額を增加し國情は政治上並に經濟上無秩序で國權の統一なかりしが爲に、害毒の浸染が廣く且つ久しきに亘つた。故に從來密輸入者は容易に不正行爲を繼續し來つたのである。

アグレイン氏は密輸入の取締に關して、支那稅關の組織自體に弱點がある。若しも稅關の活動が絕對に自由であり、其の人時及貨幣の資源に一層偉大なるものがあり、其の犯則防止の代表的機關の地位が絕對に明白で、處分に關し法律上の擁護を有して現在の如くに諸外國人の寄合管理でなく、又其の性格文明及慣習を區々として相互間に神經質に忖度する樣なことがなく支那政府の單一機關として取締を實施することが出來るならば極めて簡易である。尙又稅關としては取締上支那に存在して居る拔穴（ループホール）を利用する敵に對して爭鬪する際には世人の知らぬ困難苦勞もあると嘆じて居る。

二　取締難の事由

アグレイン氏は密輸盛行して犯則防止の困難なる事由として左の諸點を擧げて居る。

(一)不劃定の境場多く陸地としては西藏、新疆、蒙古、西比利亞、朝鮮、東京、緬甸、印度等に接壤するものあるの外に約三千哩の海岸線を存し、海關が限定したる區域內の貿易を管理するものを除きては絕體に公開されてあることである。

(二)外國の租界及治外法權の地帶あること。

(三)鐵道及其の地帶あること。

(四)生產及販賣に關して監督の及ばざる無免許の藥劑店の存すること。

(五)外國郵便局の存在せること。

(六)小包郵便の濫用あること。

(七)大連、威海衛、膠州及廣州灣の如き租借地の存在せること

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と。

(八)香港、澳門の外國港灣の存在せること。」

(九)阿片の内地に於ける生產あること。

(一〇)禁烟取締に對して地方官憲の態度冷淡なること。及び吸食禁止に對し反抗あること。

(一一)軍費充當の目的を以て收入を得んが爲に軍官憲に依る阿片の强制栽培を見ること。

三　密輸方法

密輸の方法は前記の如く阿片及其の藥材は高價物にして癮者には殆ど欠ぐべからざる嗜好藥であるが爲に雜多で益々巧妙精緻を極めて居る。左に最近發見した顯著なる例を擧ぐ。

南西比利亞及北滿洲は阿片の重要なる集散地で、鐵道が最も利益ある支那市場に對して迅速に容易に之を仕向て居る。普通の方法は荷物に入れ又は旅客自身が携帶するか、二重底の鞄を用ゆることは所有者の知らぬ荷物に隱匿する例と同じく陳腐に歸した。近來は阿片及其の藥材を石炭車[illegible]寢臺貨[illegible]の鐵管貨車の二重屋根「リノリウム」の裡に在る床に穿ちたる孔の中、「ブレーキ」水[illegible]中の防[illegible]罐等の中に藏匿し、阿片の絶對禁止前に長江上流の一汽船内には阿片の袋を支柱内に裝塡したるものがあった。又倫敦より上海に入港した一汽船は石炭の「バンカー」内に隔室を設け約三千封度の阿片を藏匿した例があった。其の阿片庫に入るには「セメント」で塗った隱し路がある。尙又機關室船底又は「バンカー」の底から軟化撥(オーダー、ソフトナー)二千七百函の船荷中に阿片約四噸を發見した。若しも發見を免れたならば原價約十五萬元であるが其の利益は百萬元以上であると云はれた。無害に見えた日本の敷物中には阿片を塡めた紙筒を組み合はしたものがあった。一人の沈着した支那の紳士は鳥籠の底に阿片の藥材を入れて居たが鳥は喜々と囀って居った。西江の發動機船は石油「タンク」を二重底にして阿片を隱匿し、東京境界の兵士は彈藥嚢に阿片を塡めて居た。又シー、デー、テネー、博士が開封に於ける猶太人殖民地に就て述べた最近の論文に依れば、猶太人が商人として熟達したのは密輸入者の役目を演じたのである。多くの地方の巷間に在る行商人は帽子の中に煤烟や靴墨と混じて阿片を携帶し又は燐寸箱、綿細布の卷物、縮緬物等の中に入れ或は財布形に包裝したものもある。其の他二重底又は二重壁にした支那「ランプ」支那靴の底、中身を去った黄橙、朱欒、鳥卵、石鹼等の中に落花生豆の核の樣に裝塡して居る。又蠟燭の中に混入したものがあった。五噸の[illegible]帽子が稅關[illegible]監督の及ばぬ軍用品の名義にて、[illegible]に依り武昌に達し

發見せられたが、藥用のみに供するものと辯解して居た。最も珍妙の例は廣東の汽船に乘込んだ支那の老婦人は一匹の親猫と五匹の兒猫とを入れた籠の中に阿片を詰めて居た。親猫は兒猫が阿片の爲に窒息して死んだではないかと云ふ風に氣遣ひつゝあつたが、其の兒猫は剝製であつた。

次に「モルヒネ」は乳糖「サッカリン」又は曹達等諸種の化學的調劑として小包郵便に依つて多量に海外より到達する。「實踐道德の教化」と云ふ樣な表題の圖書が到著したが其の中身には藥品が塡めてあつた。多くの例は戒烟劑又は各種の藥品として阿片「モルヒネ」の有毒藥を郵便に托す。既に稅關で差押へた藥品の數は五十五種に達した。其の中には「龍啞戒烟丸」「小兒用戒烟劑」「力富丸」「文明丸」「イール氏健腦丸」其の他咳嗽、喘息、疝痛、腹痛等の藥劑の名目を以て來るのである。

更に郵政總監のピカード、デステラン氏の說明を揭ぐれば由來小包は稅關又は匯金局の監督の下に在り。郵便局に於て發送收受する前に其の檢査を經べきが、其の他の郵便物は局員の經驗上臭氣に依つて發見する。之に對しては稅關又は地方官憲も認めた賞與の分前がある。犯則の手段としては例へば、辭書の內部を切り拔いて阿片を充塡し又は新聞紙の間に差し入れたるものがある。小包の表面には「光線の感じ易き寫眞材料」と云ふ樣の文字を記して居る。近來の藥品名には例へば一粒金丹、白色金丹、三星丸、戒烟參耳片、延壽丹、辣克紅色補丸、百補丸、强身丸等と云ひ相當量の阿片又は「モルヒネ」を包含して居る。

四　密輸數量と其の經路

一

支那に密輸入した阿片「モルヒネ」及其の藥材の數量は其の吸食量及內地產阿片の數量を知ることが困難であるから推定することは容易でない。右に諸報告中にある輸入推定量及斷片的に發見した密輸數量並に密輸の行はる中心經路等の大體を紹介することに止む。

支那に阿片「モルヒネ」等の輸入せらるゝ根原は英國である。英國が米國及日本に送る外に澳門に送り、支那は禁輸國であるが故に英米其の他の外國人が直接支那に密輸入する外に、日本及滿洲朝鮮關東州青島等を經由して支那に入るものと、南方澳門より香港を經由し又は直接に支那に入る順序であると云はれて居る。

二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

アグレイン氏の說明に依れば既に阿片の輸入制限時代の一九一五年三月より十一月迄九個月間を通じ、上海に於て海洋汽船に依る阿片の密輸入發見數量は一萬八千封度に達し、同年上半期香港に於て英國より入港したる汽船中に阿片一萬封度、一九一六年天津に於て山海關方面から來りたる阿片二萬四千二百六十五封度、「モルヒネ」二千百三十七「オンス」、「コカイン」二十九「オンス」、一九一九年七、八兩月宜昌に於て二千七百封度以上を押收した。一九一七年四月一日以降絕對禁輸時代に入つて海關が極力密輸の防止及發見に努めたる結果、左表の如く發見差押したるものがある。

	阿片	モルヒネ	コカイン其他
一九一七年（四月以降）	二〇、四六八封度	二一九封度	三二封度
一九一八年	二六、六七六	一四七	一五
一九一九年	四八、三七五	二四三	一六四

合計せば阿片四二・六四噸、「モルヒネ」五・一七「ハンドレッドウエイト」「コカイン」其他一・八八「ハンドレッドウエイト」にて、其の總價額は約一千萬弗に達する。是等犯則物件は病院に仕向けた一少部の外は悉く廢棄處分に附した。昨年春北京の禁烟令に於て同じくアグレイン氏は一昨年中海關が沒收した密輸入を圖つた阿片の數量は二十一噸「モルヒネ」二「ハンドレッドウエイト」（約二十六貫目）及「コカイン」「ヒロイン」其他の藥材一「ハンドレッドウエイト」半に達したるが、其の他未發見の密輸入數量に對しては九牛の一毛にも當らずと述べて居る（某氏〇〇の見聞談に依れば一九一八年一月上海に於て阿片二千萬兩の大密輸入が英人に依つて行はれたとある）

支那の吳源德博士は獨り靑島を通じて山東省に每年阿片二千五百箱の密輸入あるべく、日本官憲は之に對して一箱四千兩の課税を爲して居た（計表に顯はれぬが）日本の密輸入者が「モルヒネ」から得る利益は莫大のものがある。例へば一九一三年に其の數量六噸四分の一で三百四十萬に達し、一九一八年に二十二噸半とせば其の價額三千二十四萬弗に達すと述べて居る。

三

次に支那に輸入し又は密輸入した近年の數量を又吳源德博士は左の如く推定して居る。

年次	オンス	噸量
一九一一年	二〇八、五四〇	五1/2
一九一二年	二七六、五七二	七1/2
一九一三年	四〇六、一五四	一一1/4

一九一四年		五〇四、〇二〇	一四
一九一五年	約	六〇〇、〇〇〇	一六
一九一六年	約	六〇〇、〇〇〇	一六
一九一七年	約	八〇〇、〇〇〇	二二・七
一九一八年	約	八〇〇、〇〇〇	二二・七
一九一九年	約	一、〇〇〇、〇〇〇	二八

日本の統計に依れば日本に對して一九一八年英國より「モルヒネ」の輸入は六〇〇、二二八「オンス」に達し、米國よりの分は一一三、〇〇〇「オンス」に達し、一方米國が一九一九年一月以降十箇月間に主として「モルヒネ」製造原料として阿片を五六四、〇〇〇封度輸入したと稱して居る。

禁烟會長で北京海關學堂の教師ブランコ氏は「モルヒネ」の數量に就て「モルヒネ」貿易の悲劇と云ふ論文中に左の如く述べて居る。

一九〇九年上海の萬國阿片會議に於て、日本委員は日本が一八九八年より一九〇七年迄十箇年間に輸入した「モルヒネ」は總て一九七、六五九「オンス」にて、一箇年平均は僅かに一九、七六六「オンス」に過ぎずと言ふが、今一九一五年以降三箇年間の輸入數量日本の統計に徴すれば一九一五年は三五八、五四三「オンス」一九一六年は五五八、八一二「オンス」一九一七年には六〇〇、二二八「オンス」に達して居る。即ち支那に阿片の輸入を禁止せむとする一九一二年の國際會議後に於て日本は其の輸入額を一箇年平均約二萬「オンス」否より約六十萬「オンス」に激増した。

日本人は「モルヒネ」「ヘロイン」「ノヴイン」「コカイン」其の他同種藥材を關東州租借地より公然開放して支那に密輸入して居るが其の數量は日本統計表が信據することが出來ぬ故に計量すること困難である。

英國より日本に輸入した「モルヒネ」は一九一八年は一九一七年に對して減退し、四三五、一五二「オンス」に下つた爲に自ら支那に密輸した數量も減少したと云ふもそれは誤りである。日本政府の統計は實際の數量を表示しない。第一に大連に輸入した分を含まず便宜神戸を仲繼とし支那に仕向くるものが少くないが、日本の税關は之を計上しない。「ジャパン、クロニクル」紙には一九一九一月より五月迄米國より神戸に輸入した額は一一三、〇〇〇「オンス」と記したるに對し、政府の公表は僅かに二三、三七八「オンス」としたが何れも實際の量よりは甚だ少いと思ふ。支那税關の統計に依れば一九一七年醫藥用の目的を以て關東州租借地に公然輸入した「モルヒネ」の數量は六六〇〇〇「オンス」（一億三千萬回注射量に達したが、同上期間に於ける支那の法定使用量は僅かに四十「オンス」に過ぎぬ。人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ロ二千萬を有する滿洲は人口四億を有する支那の一千五百倍の「モルヒネ」を消費するのである。そは大連に在つて特許を與へてエヂンバラーより前記二噸半を輸入したのであるが、密輸入の分は一層大いなるものあるべく、即ち恐らくは一箇年に十噸位は大連の門戸を通じ、又は安東の鐵橋を渡つて滿洲に入るのである。

更に「ジャパンクロニクル」紙に從へば、日本に輸入した「モルヒネ」の數量は税關の統計に依れば一九一七年は六〇〇、二二九「オンス」、一九一八年には一六五、〇八「オンス」、一九一九年には四〇九、一〇九「オンス」とあるが、其の藥品の實際輸入量は一層多かるべく、現に一九一七年には五百三十萬圓、一九一八年には一千二十萬圓一九一九年には一千二百萬圓に增加し、一九一九年中の輸入高は百八十萬「オンス」に上りたるが如く、唯「モルヒネ」は一九一七年は英國より輸入し、一九一九年は米國より輸入したる差異がある。

北京特派員のダヴィド、フラサーの倫敦「タイムス」に通信したのに依れば、一九一九年一月以降十月迄に米國に輸入した粗製阿片は二百五十噸に達し、之に依つて製造した「モルヒネ」其の他藥品の數量は七分の一即ち三十五噸で米國の使用量を大いに超過すべく。大部は何れかの形式に於て支那に輸入せらる。そは日本を經由し陸揚を爲さずに靑島大連及朝鮮に仕向け、靑島及大連よりは直接內地に密輸入せられ、朝鮮よりは定期の發動機船に依り支那北部沿岸を通じ、內地に密輸入せらる。

四

印度阿片は前記の如く一九一七年四月以降支那に對しては其の輸入を絕對禁止したれど、實際は多量に輸入せられて居る。そは印度より馬來地方蘭領印度及澳門に對して實際の必要額以上に仕向けられ、又朝鮮日本及支那に在る日本の諸港に再輸出し、支那內地に密輸入されつゝある。現に獨りカルカツタより輸出した阿片は、一九一八年には一萬四千七百五十一箱、一九一九年上半期には六千五百七十一箱に達し、一九一八年印度より香港に公然輸入した數量は千二百五十九箱で、現在の藏置量を合せば二千五十八箱半に達し、同年に輸出したる分は千二百六十六箱半に上り、其の中四百箱は澳門に輸出したと云はれて居る。

澳門は阿片密輸の主要なる中心地で、現在人口は僅かに七萬八千を有し葡萄牙人七千人餘を占めて居るが、阿片請負から政廳の徵收する歲入は六百六十七萬六千弗に達した。今後は約三百萬弗と豫定して居る。即ち一箇月二十五萬弗で、分頭額は三

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

弗以上に達する（昨年五月澳門發電に依れば來る八月以降三箇年期限の阿片專賣の入札は最初は一箇年二百五十萬元なりしが香港「リーシン」公司は三百九十萬元を入札せりと云ふ）斯く澳門の阿片請負は同地が一に支那及其の他の東洋諸國と利益多き密輸取引を爲し得るが爲に繁盛を極めて居る。

第四　禁烟運動(Anti-Opium Crusade)

支那禁烟運動の目的とする所は罌粟の栽培並に阿片其の藥材の輸入取引等を禁止し、以て其の吸食使用の惡風を杜絶するに存するが故に、運動の方法としては對內的（National）及對外的（International Diplomatic）の兩面より各般の對策に俟たなくてはならぬ。即ち前に述べたる不法不正の諸事情を芟除する根本的の手段として、元より政爭動亂の靖定、國家警察權の確立、禁烟令の強制、地方財政の整理、不良官吏及軍人の除斥等內政上の改革の外に、一日も早く國際阿片條約の實施を期し廣く輿論を喚起し、一般國民の敎化を促進することに在るのである。最近是等方法に關しては禁烟會の活動見るべきものがある。乃ちたに諸般の禁烟運動に就而禁烟會其の他の調査報告を基として列敍することにする。

一　禁烟會の事業

（甲）萬國禁烟會(International Anti-Opium Association)支那禁烟事業の崩壞に際し從前より存在した地方禁烟會の活動を以てしては效果少きが故に、一昨年春北京に中心機關として萬國禁烟會を創設し其の事業を繼續し來り、昨年同期に記念大會を開催し、朝野名士の參列を見た。同會々長はノリス僧正副會長はシー、アリル、ベネット氏で、書記長には北京海關學堂の敎習イー、ソウイビー氏就任し、實行委員はダブリユー、シイルドンリツチ、ダブリユー、エス、ストロング、マヨール、エー、イー、ウイーン、エム　シー、エー、ラムセイ、デー　ダブリユー、エドワーヅ、イル、アール、オー、ベイヴアン、ダブリユー、エフ、コリンス及イー、エー、プランコ諸氏である。

昨年二月二十九日一年度の同會事業報告を見るに、其の事業としては國內的及國際的兩方面に亘り前者は罌粟の栽培及阿片吸食の慣習廢止に關する事項を處理し、後者は支那及外國間の阿片及其の毒藥の取引防止に關する事務を取扱ふこととする。蓋し兩者相互連絡を有して居るが本會の主たる職務は國際的關係の禁止に存して居ることは勿論である。是等事業中には下に述ぶる所のヴエルサイユ會議に於ける條約中に於て萬國阿片條

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

約を確認し、郵政又は海關と連絡を保ち外國及外國使臣と交渉し、又は支那内國に於ける同事業の遂行及將來に於ける宣傳事業の擴張立法事項の調査等何れも禁烟に關して同會が中心となり努力し畫策しないものはない。以下同會の關係し又は協助を受けた事實の主要なるものを掲げん。

第一、同會は支那政府側より相當聲援と同情とを受けて居る。例へば其の成立以來大總統徐世昌の好意を受け、同會の保護者と仰ぎ前の國務總理錢能訓及靳雲鵬を副保護者とし、其の他内閣大臣の多くを顧問として居る。又直隷の曹省長及山西の閻督軍及河南の趙倜等の盡力に依りしこと多し。

第二、同會は支那における外國使臣殊に英米日佛及キューバ公使等の援助を受くることが多い。卽ち是等使臣の好意に依り藥材の取引に關する法規の複寫を得た。其の他外交團の力に負ふ所が多い。曩に北京を去つた米國公使エッチ、エー、ラインシ博士及英國公使エッチ、エー、サー、ジョン、エヌ、ジョルダン氏は禁烟問題に就て同會の擧に對し各本國に同會の目的を進達した。米國公使の出立後は代理公使のシー、デー、テンネー氏も同會の爲に各種の助力を與へ、日本公使の小幡氏は同會が阿片の取引に就て申出でた事項を東京に進達し有力なる結果を齎らした。蓋し同公使は日本政府の希望を書記長に提示したが、日本領事の命令が禁烟に對し效果少かりしが爲に、同會の代表委員は更に同公使を介して東京に交渉する所あつて遂に一層嚴密に且つ廣汎なる新命令が日本政府より發布せられた。

第三、同會は在外同志外國人の聲援に俟つもの少くない。殊に英米の運動者と通信に依つて畫策しつゝある。例へば米國に對しては英米政治家に勢力を有して居るヘミルトン、ライト女史及米國公使を介し同會の基金として金貨千弗を寄附したシャトボーン女史と交渉し、兩女史は同會の副保護者となつた。英國に對しては倫敦の阿片貿易防止會 (The Society for the Suppression of the Opium Trade) の理事エー、ジー、デユークス師エヂンバラーの海牙阿片條約期成同盟會 The Edinburgh Society for the Enforcement of the Hague Opium Convention) の幹事ジー エス、マイア師及其の他倫敦のサー、ダブリユー、エフ、コリンス等の指導者と通信し打合せを爲し、殊にサー、ウイリアム、コリンス氏の同情ある援助に依り、萬國禁烟會はサー、ジイー、エフ、アグ、ガーデナー氏を介して重要事項に關する質問に對し下院の回答を求むることが出來たのである。

第四、支那海關の取締に依つて禁烟運動を幇助すること大なるは言明を俟たない。本會は絶へず海關總稅務司と交渉し其

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

内外各種形態の有毒藥を包含する藥品目錄を提供せられ、之を印刷に附し廣く公表して居る。

第五、本會は既に禁烟運動の沿革及本會の成立組織其の他の點に就て宣敎師の獻身的努力に依ると同樣に該運動に加擔する内外人を結合する上に於て基督敎靑年會の活動及新舊兩敎會より有力なる援助を受けて居る。殊に前述の如くに北京の大僧正ジャルランの如きは一昨年本會の委員に加はり本會の爲に深厚なる功獻を爲して居る。

前述の如くに各方面よりの援助及同情に依り禁烟運動を進涉せしめつゝあれど、之に對しては相當資金の準備なくては經營することが出來ぬ。然るに同會は極度の節約を爲したるが如くに資金缺乏の爲に苦んで居る。そは眞に支那人民の休戚を念頭に置く人士の寄贈に俟たなくてはならぬ。最近の例を見るに、支那新聞に依れば昨年十月下旬萬國禁烟會は漢口に於て委員會を開催し、上海阿片の情況及英佛租界の阿片禁止に對する現況を陳述し、英佛租界内にて積極的に禁烟方法を講ずること等を決議した。

(乙)地方禁烟會(Provincial District Anti-Opium Association or Branch Associations)

地方禁烟會は前記萬國禁煙會成立前に諸地に組織せられて禁烟運動に從事したが、萬國禁烟會の創立に及んで天津及上海に防毒會(Anti-Narcotic Society)が組織せられ、其の代表者の好意に依り共働することとなり、萬國禁烟會及北京の禁烟會は各地方禁烟會の本部に當ることとなつたが、其の關係は協同であつて監督系統でない。各支會は各自資金を準備し自主的に活動し、前者が國際的外交的事務を處理するに對して各省の事項を處理し效果を一層發揮することを得た。中央幹部は更に各省に本部を創立することに努力し、禁烟會を全國に擴充せんと企圖し、遂に直隷山西、河南、山東、江蘇及湖北に之を設け、其の他支部としては哈爾賓、奉天、鹽城、南京及蘇州等に之を開設し、而して長沙に在る湖南の禁烟會本部は進んで萬國禁烟會と協同することになつた。

是等支部中には其の事業成績の優良なるものがある。例へば天津防毒會は賢明なる委員のワイ、エス、チャング及イー、シー、ロビンソン兩氏助力の結果有力なる組織となり、其の活動に依り天津の藥劑店に於て取引した「モルヒネ」其の他毒藥の巨大數量を差押することに努力した。而して其の組織事業は全省に亘つた。又山東省の濟南の禁烟會も同樣に勢力あり、禁烟運動に於て見るべきものが少くない。黑表に「モルヒネ」商人の名義を提示した同委員のエル、トドネム氏の如きは「モルヒ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ネ」の賣買に就て有力なる報告をした。河南のホワイト僧正及エー、エス、マク、ボナート師は省長賛助の下に開封府の禁烟支部開設に協助し、又同府紳董の信用努力に依つて組織を完成し、現に同省を脅迫する弊毒の防止に全力を盡した。其の他支部の成績には見るべきものあつたが、就中本部の滿足したものは漢口武昌に組織した會である。又罌粟の栽培を強制した厭制的軍人の計畫に反抗した福建の例は特筆すべきである。斯くして地方禁烟會は一箇年にして哈爾賓より福州漢口開封府及大原府迄擴張した。

次に直隷防毒會（Anti-Narcotic Society）の昨年一月三十一日迄一箇年の事業に關し同會書記長のワイ、エス、チアング氏の報告中より重要なる事項を左に追記することとせん。

同會は一昨年中毎四半期に報告したが如くに禁烟運動に努むる所があつた。

現在の形式に於ける本會の創設は左記三個の事情に基く。

（第一）は一九一八年の後期に於て「ペキン、テンシンタイムス」紙の編輯者ウードヘッド氏は近年阿片其の他有害藥取引の復活が支那人民に有害危險なるを見て北支那に於ける事情を調査し「モルヒヤ、ブラックスリト」に依つて日日同紙に公表せらるるが如くに商人の氏名を發表し公衆を覺醒した。（第二）は有名なる禁烟論者スウイング氏は天津に至り天津の公衆に對し當時政府が上海の阿片聯合（オピアムコムバイン）より阿片の在荷を買收することは恐るべき悪結果を齎らすことを吹聽し熱誠なる地方民衆は之が爲に煽動せられ、陳情委員を組織し阿片買收策の廢棄を主張し。政府は遂に天津其の他人民の意を容れ一昨年初阿片を燒燬したし。（第三）は「ブラックリスト」に關する一層多くの報告を求むる爲に使用すべき小額資金が同志に依つて寄附せられたることである。

次に小規模なるが人民の有力な團體より成る會合はスウイング氏に依つて召集された。同會合は禁烟運動の永久的組織の問題を考慮せんが爲に發生し、其の方法は舊團體に比して遠大の目的を有する新組織を構成するにあつた。そは一九一九年二月一日に開始し事務所は基督青年會の建設物を以て之に充當した。一九一九年三月十六日には天津の基督教組合に依つて日曜禁烟會として開會し、各寺院を通じて特別講演を開き禁烟運動を鼓吹した。五月に於て同會が三箇月間開催した後に尚適當なる事業の必要を認め、民政廳に於ける官吏の會合と稱し、同省吏員及主なる市民より最も滿足すべき贊助を受けた。

同會目的の一としては全國を通じ運動を開始する國民禁烟會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

盟（National Anti-Narcotic League）を組織することにあつた。就中藥材取引の急激なる勃發が國民に對し極めて危險なる所以を全國を通じて覺醒せしむるに存し、乃ち各省の議會、商會、敎育會等に通牒し、直に實際の運動に着手せんことを强硬に吹聽し、同時に北京、上海及天津に存在した三個の同種團體を結合すべきことを計畫した。其の結果是等三團體の代表者は北京に會合し前記の如く北京の禁烟會は支那に於ける萬國禁烟會の本部であり、上海及天津の禁烟會は其の支部であることに決し、本會は萬國禁烟會の直隷支部となり假令未だ直に國際的ならずとも既に少とも國民的運動の實現に進みたるものと看做すことが出來る樣になつた。

萬國禁烟會の各省支部の中には同種のものが山東、山西、河南、及吉林に在り。本部の代表者は山東省支部の會合に出席し又山海關支部の招待に應じ、書記長は禁烟會開催の爲に參列した。チアング氏はソイービー氏と共に同市の主要なる人士から成る聽衆に向つて地方禁烟會に對して救援すべきことを勸誘した。「ペキン、テンシン、タイムス」の書記長は、歸途昌黎及灤安の支部をも訪問した。前者は成績顯著ならざれど後者は百十九支部の中で明かに模範的のものである樣である。

一昨年初夏に當り萬國禁烟會の本部として上海及北京は何れが適切なるやの問題を惹起し、之が爲に上海支部はソイービー氏を招待し同新聞社の書記長は上海の會議に列席したエー、イル、ワーンシウス師の發議に係る一九一九年七月三日の會合にては支那に於ける傳道事業の中心地で國民的運動の遂行に最も適切である處として上海を本部に選定したが、不幸財政上其の他の都合に依り上海支部は國民的部局を創設するに不適任とし、且つ現に其の事業は閉鎖に瀕しつゝあつた。但し上海支部の局員が上海に於ける舊時の禁烟運動を恢復しつゝありしが如くに由來上海は阿片及其他の藥材取引に於て最も重要の地にして恐らくは臨淸又は北京或は兩市を合體したるものより一層注意を喚起すべきものである。

要するに同年を通じて阿片及其の藥材に關する犯則の三百七十件が省官憲の注意に上つた。獨り天津のみでも四十件が市の巡警と共働して擧げられた。同年中に防毒會は僅かに三人の小團體から五百人の大協會に迄發達したが、一方に於て或る事由に依り其の努力が成功の名譽を得ることが出來なかつた。就中二、三の例に見るに其の不幸其の功績も禁烟の名を藉るものとして猜忌と輕蔑とに遭遇したのである。

蓋し同會が感謝すべきことは同志たる直隷全部の宣敎師、內外新聞紙、省官吏同會の會員等の同情と盡力とである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

滿洲及北支那に於ける禁烟會の實例を見るに、一昨年四月末奉天電報に依れば同月二十一日より阿片會議を開催し、南北滿洲各地警務當局悉く來集し醜業婦問題と共に禁烟の徹底的方法を討議したことがある。次に同年六月初濟南電報に依れば英米人中より排日の一手段として發起されたる阿片禁止運動は、爾後全然政治的意味を離れて國際運動たらしむべく組織を變更し、日本を初め英米各國領事の贊助を得て同月六日省議會に於て萬國共同防毒大會を開催し、我が國の領事も列席の上一場の演說を試みたことがある。

二　國際阿片條約の實施

國際阿片條約は米國の發意に依り海牙に於て一九一二年一月二十三日始めて調印せられて、參加國は支那を含み英米佛獨日本等の十二個國とす。第二會議は一九一三年開催せられ、其の條約は四十六個國中三十二個國の調印する所となり、第三會議は一九一四年開催せられ、其の條約は四十四個國の調印に係りたるものとす。而して同會議の重要なる決議に依り特別議定書が他の諸國の批准を俟たずして條約の規定を實施せむとする所の列强に依つて調印せられた。是等諸國は支那、米國、和蘭、諾威及ホンジュラスであつた。然るに世界戰爭の爲に本問題の進捗を停止したりしが、平和會議に於て總說に述べたるが如くに萬國禁烟會の盡力に依り英國委員を介して條約中に阿片問題に關する事項を認るととなり、即一九一九年五月三十日調印の平和條約第十篇第二款第二百九十五條に於て左の如く規定せられた。

締盟國にして一九一二年一月二十三日海牙に於て署名せられたる阿片條約に未だ署名せざるもの又は署名したるも未だ之を批准せざるものは該條約を實施すべきこと及此の目的の爲遲滯なく且如何なる場合に於ても本條約施行後十二個月の期間內に必要なる法令を制定すべきことに同意す

又締約國は本條約の批准は阿片條約を批准せざる國に付ては該條約の批准に及一九一四年第三同阿片會議の決議に從ひ該條約實施の爲海牙にて設けられたる特別議定書の署名に一切の點に於て均しきものと看做すことに同意す

此の目的の爲佛國政府は本條約の批准書寄託に關する調書の認證謄本を和蘭國政府に送致し且和蘭國政府に對し該謄本を阿片條約の批准書寄託及一九一四年の追加議定書の署名して承認し且寄託するとを依賴すべし

本條約の締約後――同年十二月迄の情況を見るに、條約に署名し批准し且つ特別議定書に署名したるものは前記五個國とし、署名及批准したるものは十四個國とし、署名のみしたるもの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は二十四個國に上り、而して全然署名及批准せざるは獨り墺匈國、セルビア及土耳其の三個國のみである。

平和條約の批准は米國元老院の反對に依り遲延せらるゝも、阿片條約の實施に差障を來すべきものでない。又阿片條約は世界四十六個國の總てに依つて批准せられなくとも、支那禁烟問題は主として英米日等の特別關係國の同意を得ることが必要である。殊に國際阿片條約は其の内容に於て藥品の範圍を擴張し、締盟國は阿片煙膏の輸出入を禁止し、直に禁止し得ざる國は成るべく速かに之を禁止することを定め、生阿片の輸入禁止國に對して其の輸出を禁止し、輸入制限國に對しては其の輸出を取締ることとし、「モルヒネ」「コカイン」及其の各鹽類の製造、輸入、販賣、分配及輸出に從事する一切の者並に此等の者が其の製造又は取引を行ふべき建物を監督すること、又は監督せしむることに努力すべきこととし、藥用阿片其の他各種鹽類に其の規定を準用し、阿片鹽膏中には烟灰其の他一切の吸烟殘滓を包み藥品中には所謂戒烟劑をも入れたのである。

昨年十二月十七日ゼネバ發電に依れば支那委員唐在禮は第二部委員會に於て阿片問題に付き支那の努力と成績とを述べた後に、外國商人等が阿片「モルヒネ」を上海、青島、大連方面より密輸入を爲さぬならば支那の禁烟成績は顯著なるべきである。支那は聯合會に峻嚴なる議案を通過して各國の海牙條約を勵行せしめんことを希望して居る。支那は特別委員會を開き海牙條約實施法を研究するに贊成すと述べた。尙同氏は米國が代表を派し特別委員會に參加せんことを主張した。

三　輸出國に於ける禁令の效果

多くの國の立法は主として自國又は自國民の法益を標準とするが故に阿片「モルヒネ」其の他藥品の取締に就ては何れも規定したるものがあるが、輸出に就て嚴重なる規定を設くるもの少く自ら支那の禁烟政策に效果を及ぼすに充分なるものがない。現に我國の立法に見るも其傾向がある。今阿片及「モルヒネ」等の仕出地である英米等の立法を觀察せんに由來「モルヒネ」の製造に關しては歐洲の重要なる諸國及米合衆國にては政府は之を監督の下に置かなかつた。「又モルヒネ」生産に關する現行法は其生産數量及使用量に就て嚴密なる算定を爲さぬ。卽ち多くの諸國に於ける現行法は各自國内の藥品の使用を一般に禁止すれど其輸出に對する制限の規定を設けて居らぬ。唯輿論の壓迫の爲に獨り英國は日本及東洋に對する輸出に制限を設けたれど、實際上は決して其の數量を減退せず、寧ろ益々増加して居る。英國は日本に對しては日本内務省又は關東州租借地の日本官

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

書より交付する特許に依り、其の使用が日本及關東州其の他附近に限り、獨り醫藥用の目的に供せらるゝことを條件として輸出することを約して居る。然るに郵便に依り豫め檢査を經ずして「モルヒネ」は無制限に送致せらる。現に書留郵便として不斷に日本及支那に多量に輸入せらるゝが爲に稅關に於て之を發見することは事實不可能である。

前記特許制の下に輸出せらるゝものも輸入國の法定數量を考慮することなきが爲に所期の目的を達することが出來ぬ。若しも日本の法定數量が確められ其の限度內に輸出するとせば其の數量は恐らく現に日本で製造する數量又は外國より購入する數量よりは遙かに少量にして足るべしと思ふ。(註、日本の阿片需要額一箇年約四萬六千貫で之より抽出精製する「モルヒネ」「コカイン」「ヘロイン」等の額多大なるが爲に「モルヒネ」の輸入年額は六十萬「オンス」にして阿片に換算せば約四萬五千五百貫餘にして其の大部は外國阿片なり)

最近の日本法及一九一九年五月發布の英國の阿片禁令は共に不完全で「モルヒネ」及同種藥材の不法取引を禁止する上に效果が無い。獨り支那に在る日本及英國臣民に適用するのみで日本及英國よりの輸出を禁止することは出來ぬ。而して犯則に對する處罰は妥當を缺き自ら防止の效力はないのであると萬國禁煙會は發表して居る。次に米國の立法に就ては主として便宜エリザベス、ワシバーン、ライト氏が「ペキン、テンシン、タイムス」紙に寄せたる一九一九年十月十九日の論文の一節を揭ぐることにする。

禁烟運動に就て生涯米國政府を代表したハミルトン、ライト氏が米國にては支那人よりも寧ろ阿片の多量の分頭率を消費すると云ふ現象を發表したる結果として(第一)は醫藥用以外には米國には阿片及其の製劑の輸入を禁止する法令を制定し(第二)には米國內に於て吸食用阿片の製造を禁止する規定を設けた。そは米國自體に於て阿片を生產せば勢阿片禁令の目的を阻害するの試であることを發見した爲である(第三)は所謂「ハリソン」法でハミルトン、ライト氏の起草に係りハリソン氏の擁護に依つて制定したものである。同法は藥品の恐るべき傳播を防止するを目的とし、阿片「コカイン」其の他其の製劑を輸入、製造、販賣する者は內國稅徵收事務所に登錄し輕微の租稅を納付することとし、醫師、齒科醫、獸醫は藥劑師と同じく各自記錄を保存し、又賣買當事者の記錄は之を官に提示するものとす。而して本法に依つて正當に作製した醫師の發行する處方書には月日を附しサインし患者並に醫師の氏名を記入し二箇年間之を保存する義務がある。藥材の處理に就ては總て官の定めた一定の用紙

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を使用し、徴收者より正當に使用する登錄者が之が下附を受くるものとする。凡て犯則者に對しては重き罰金又は體刑を科す(第四)は支那に在る米國の領事管轄區域内に於ける藥材の使用及痲藥販賣を取締る法規で一九一二年の海牙阿片條約の要求に從つて制定したものである。

同法は米國の關係する範圍に於ては米支兩國の藥材取締上適切の様に見ゆるが該問題は孤立したる又は内國的事項に就てのみでは決定することが出來ぬ。蓋し米國は本國に於て强行したると同一の制限を支那に在る其の管轄區域の各藥劑に適用した。即ち今日支那に在つては「ハリソン」法は各米國の藥劑者に依つて嚴格に强行されて居るが、同様の規定が英國佛國及其の他支那に於ける藥劑の使用を爲す他國の分適用せなくては其の實蹟を擧ぐることは困難である。殊に米國の取締法は阿片又は其の材藥の自稱使用者が海牙條約の要求する取締規定を有せざる國の他の藥劑者より求むることが出來るものとせば何等實效を見ないのである。

要するに米國は現在有毒藥の撒布を防止する重要の規定を存しても尚「モルヒネ」の巨大數量を英國より輸入し、更に支那に之を再輸出する事實に鑑みば協同の必要を感ずるのである。

其の後米國の立法に於て一歩を進めたるものがある。即ちロード、カーゾンがエジンバラーの禁烟會に宛てた書信中萬國禁烟會の領受した報告に依れば、米國政府は英國より米國に輸出する有毒藥に對して正當、藥用に供し再輸出せぬと云ふ口供なく、且つ官に於て之が證明を爲さぬものは輸入を認めぬことに英米間に協定した。

又最近に於ては例へば昨年三月十七日米國より同じく萬國禁烟會の領受した報告に依れば、米國は二月十八日阿片「コカイン」鹽化物其の他署藥材を外國に輸出する規定を廢止した。米國より有毒藥を輸出することは禁烟會の注意を傾倒した處で、米國駐在公使ラインシ博士米國大禁烟論者の寡婦ハミルトン、ライト夫人及東洋に對する藥材、輸出禁止を熾に主張した所のジュリアン、アーノルド氏に依り米國政府に對し提言する所があつた。米國政府は有毒藥取引禁止の爲に外國の協同に俟ち新時代を劃すべきものと回答した。更に最近の例は昨年末米國華州選出上院議員ジョーンス及下院議員ミラーが議會に提出したものとし英國又は他國の阿片及此種藥品の製産者が米國を是等運送の系統に用ゆることを禁止せむとするに在るのである。該案に對しては合衆國に在る支那倶樂部紐育商業會議所、「ロックソイラー、フアウンデーション」等が其の通過を援助して居ると云ふ。

四　郵政と禁輸

「モルヒネ」其の他の藥材は郵便に依り多量に輸入せられ、之が摘發防止は容易の業でない。殊に支那には多數の外國郵便局が存在する爲に禁烟事業を阻害すること少くないのである。(註、支那には英、佛、獨、日、露、米諸國の郵便局がある。就中日本の郵便局は最も多いのである。戰前一九一四年には各國の郵便局數百三十餘に達した。戰時には獨逸の郵便局を撤回したれど一九一七年日支協定に依り日本の郵便局を增加し、租借地の分を加へば四十四局あつて總數尙百二十餘個處に達して居るが如く、支那政府は巴里平和會議に對し七個條の希望事項を提出したる中に、外國郵便局及電報機關を一九二〇年十二月三十一日限り一律に撤去することを含んで居る。又昨年の國際郵便會議にも該問題を提出した)

既に一九〇七年の禁烟に關する上諭公布前久しく郵便規則は郵便に依る「モルヒネ」及其の製劑の遞送を嚴禁し、郵便局に訓令して是等藥材を包含するものと認めたるときは、稅關、厘局又は地方官憲をして其の包裝を開披して檢査せしむることとした。爾して爾來是等禁制品の種類を增加し、現在は人民に害ありと認めらる各種の藥材に及んで居る。郵便物の不可侵は元より郵便局に於ては誠實に尊重せらるゝも、小包其の他無害に見ゆる所の郵便物中にある禁制品の密輸入を防止することに努め居る。前に述べた樣に小包は稅關又は厘局の監督の下に在り、郵便が發送收受する前に其の檢査を受くるが他郵便物は局員が時々臭味に依つて阿片の存在を發見するのである。

海牙の國際阿片條約第十九條には左の如く規定を設けて居る。

支那國內に郵便局を有する締約國は生阿片、阿片煙膏、「モルヒネ」「コカイン」及其の各鹽類並に本條約第十四條に揭ぐる物質を小包郵便として不法に支那國內に輸入し又は該郵便局を經て支那の一地方より他の地方に不法に之を傳送することを禁止するが爲に有效なる措置を執るべし

「モルモネ」其の他藥材は戰前には主として普通郵便に依り獨墺及英國より日本に輸入し支那に輸出したが現今は英米を通じ日本又は支那に輸入することとなり其の數量は益々增加するに至つた。乃ち萬國禁烟會も此の點に關して注意を傾倒し昨年マドリッドに開催された國際郵便會議(International Postal Congress)に於て阿片及其の藥材の藥用以外の遞送を禁止する件を提出した。

又英國の郵便官局は英國の支那郵便局に訓令して海關稅務司

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と協同して郵便に依る阿片「モルヒネ」「コカイン」等の支那に入ることを防止することとした。

五　英人商業會議所の決議

一昨年十一月五日以降八日に亘り上海共同租界英國裁判所に於て開催せられたる在支那及香港英國商業會議所（The Association of British Chembers of Commerce in China and Hongkong）會議の節の駐支公使ジョルダン氏其の他名士を招待し幾多重要事項を決議したる際に禁烟問題に關しては左の如き決定を爲した。

本會議は阿片及類似品の賣買に關し英國政府が直に措置を採るの必要を確認す。極東に於ける英國の信用及貿易を增進する爲他國の批准を待つとなく、英國政府は原料及精製阿片、藥用阿片「モルヒネ」「コカイン」等に關する阿片條約規定の措置を直に實行すべく、阿片の生産を取締り適法の醫藥用に要する分量だけに其の生産を制限し、此等藥品の賣買を有效に取締り適法の目的のみに其の使用を制限する法規を制定せる國のみに對して共輸出を制限すべきことを英國政府に勸告す。

ジョルダン氏が同會議の閉會式に臨み演説した一節には本會議に阿片及「モルヒネ」に關する動議の提出されたるを深く喜ぶ。「モルヒネ」を英國より輸出することは一九一七年より禁止されたるが之を公の問題とすべし。阿片に就而は英國政府は之が禁止を勵行してあることを斷言す。印度政府も數百萬磅の利益を犧牲とし之を廢絶するに努め、全然其の輸送を停止したり」と云ふて居る。又昨年十一月初旬在支英國商業會議所聯合會第二次大會を開催し、其の決議事項中阿片「モルヒネ」の輸入及栽培を嚴重に取締ることがあつた。

六　關税改訂委員會の決議

一九一八年上海に於て開催せられた支那關税改訂委員會に於ては輸入税現實五分の改正を遂げた。外に決議事項として阿片輸入禁止に關する件を輸入税目附屬規程中に追加せんことを勸告した。其の條項は左の如きものである。

阿片及罌粟の輸入は絶對に之を禁止す

左に掲ぐる物品は資格を有する醫師藥種商又は藥劑師の證明ある場合の外之が輸入を禁止す

「モルヒネ」「コカイン」及共注射器「モルヒネ」阿片又は「コカイン」を含有する戒烟丸「ノヴアイン」「ストヴアイン」「ヘロイン」「テバイン」ガンチヤ」「ハッシッシ」「バング」印度大麻、阿片丁幾、「ラウダヌム」「コデイン」「ヂオニ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ン」其他各種の阿片及「コカイン」誘導體

大正八年六月支那政府は前記事項を其の輸入税目附屬規程第四條として追加し實施し度旨を我國に照會し來りたるに付、我國は七月四日附公文を以て之に承諾を與へたのである（通商公報第六四一號參照）

七　公開運動（Publicity Campaigu）

禁烟運動の最も有力なる武器の一は公開手段に依つて健全にして旺盛なる輿論を喚起するのに在る。其の重要なる方法は下の如く黑表の公布其の他である。

（イ）黑表（ブラツクリスト）の公布、昨年四月五日發行の「ペキン、テンシン、タイムス」紙に依れば一昨年同紙は販賣人の「ブラツク、リスト」を發表した。北支那に在る日本の商人のみで其の數約三百名に達したれど尙實際數の一小部に過ぎぬとし而して昨年は主として其の取引の公表が商人を知らぬ者に依つて「モルヒネ」の購入を防止せんとして小規模の「リスト」を印刷した。唯日本人の根據地である濟南府に於ける黑表には著しきものがある。即獨り三月中のみで四十名に達し、中二十六名は既に一昨年と同一のもの又は異なつた住所氏名に依り發表せられたものである。之に依つて見れば日本官憲は反對の口實を設けて居るが其の義務を眞面目に履行して居らないと評しても敢て不當でない、而し黑表の公布以來は一層嚴密の規程を設けたが充分强行せられない。處罰も僅かに二三弗の罰金又は四週間の拘留に止り、多額の利益を見る重大なる犯則に對しては痛傷を與へない。立法の效果が極めて少いのであるが如くに日本官憲は他の一層困難ならざる問題を處理するには斷乎たる手段を採るも、支那の害患に就ては冷淡である、延いては本藥材に關係して惡名を負ふた臣民に依つて其の國威を損傷すること大なるものがある。昨年天津に在つては濫し販賣を操る場合には禁烟會より關係官憲に通報する手段に出でたが爲に黑表を見ない、然れども日本人の多數は他地方に於て之が取引に從事して居る。吾人は本取引に關する日本人の內地に於ける多くの黑表を有して居るが未だ確たる證據を手に入れぬ。

特別號に公表した「ブラツク、リスト」は每週之を繼續發布することに定め、吾人は全國の讀者よりの追記を歡迎して居る。而して氏名追加の前には「モルヒネ」販賣の實際の事實を其の購入の日附及賣手の住所氏名を記し藥品の見本を買入れ送付した同志の者に對しては其の失費をば喜んで辨償せん。吾人は不正取引の商人が處罰せられ、又は其の營業を取消す迄は其の名義を黑表に繼續して掲載することにする。要するに一昨年に於け

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る此種公表の結果は奬勵すべきものありしが如く吾人は該手段を決定的に遂行し輿論を喚起して其の取引を繼續する者に對して反抗せん。但し之を實行するには讀者の同情ある協同に俟たなくてはならぬと云ふて居る。

終りに參考の爲め同日發行の特別號に掲載した「モルヒヤ、ブラックリスト」の例を見るに、法定の處方書を要せずに不正に販賣した商人又は商社數は昨年三月のみにて左の如きものがあつた。

濟南	日本人	四十名	露國人	四名	支那人	十二名
周村						六名
溝帮子						三名
黑山縣						四名
新民縣						七名
光州						二名
豐臺						三名
煙臺(芝罘)						五名
閭陽驛						一名
北鎭縣						二名
吉林	一					六名
北京						二名
昌黎						二名
遼陽						二名
計百一名						

(ロ)其他宣傳方法、其の他の公開的運動は廣汎に亘るも就中萬國禁烟會を中心として内外國家に禁烟の趣旨を頒布するに在り。即ち新聞雜誌に依り言論に依り學校教會其の他團體社會に阿片の害毒の恐るべき所以を報告し説明するのに在る。殊に「ペキン、テンシン、タイムス」紙が禁烟會の擧を賛し黑表其の他を掲載したる前記特別號を發行し内外朝野に配布し宣傳に努めたるは偉大なる禁烟運動の一たることを特記す。

第五　結論

一

以上述べた所の如くに由來英米兩國は近年に於ける藥材の生產又は輸出國であると同時に亦禁烟運動の指導者であるとは特筆すべき現象である。反之我邦は支那に對しては一衣帶水の間にあるのみならず支那に接壤して居る殖民地又は租借地を有して我が國人は藥材を熾に私販し又は其の仲介者となつて暴利を貪つて居た事實は蔽ふことは出來ね。元より前に予が引證した

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

犯罪方法並に其の數量は英米其の他國人の中傷的煽動的口調を以てしたものがあるから一々事實に適合するや否やは保證し難いが、亦それ以上の事例がないでもない。

二

最近米國の例に於ける禁烟運動並に日本の立場に就て、昨年十二月米國の「シアトル、タイムス」紙に掲載せるものをシアトル駐在の帝國領事より報告したものがある。左に其の內容を結論として紹介することにする。

「シアトル、タイムス」紙は連日阿片其の他の有毒藥品の支那及合衆國民を荼毒し居る事實を指摘し、斯る國際的犯罪を根絶すべきことを唱道し、シアトルに於ける支那倶樂部其の他支那關係の有力者共に之に相和し熾に宣傳に努め、又東洋より歸來した「タイムス」華盛頓特派員ゼー、ゼー、アンダーウッドは本問題に關聯し最も注目に價すべき論文を數回に亘り同紙上に連載した。

同記者は國際的輸送の經路に就ては世界の粗製阿片の九割を占むる罌粟は大部印度に生産せられ、英國政府は其の栽培者に無利子の資本を融通し販賣に就ては完全の管理を爲す競賣に依つて商人の手に渡り、倫敦紐育、費府、巴里日本等に運送せられ、「モルヒネ」其の他の藥品に精製せられ最後の消費者たる支那民衆の手に落つる。殊に英國より出た藥材は紐育に來り費府を通過し大平洋沿岸に出て日本船舶に依つて日本に輸送せられ、多くは大連又は青島を通じ支那內地に輸入せられ、且つ稅關の帳簿に於て塗料又は化學的原料等の名稱を附し又一方には日本は多數の自國郵便局を支那に有し之に依つて小包郵便の形式にて多數輸入をなすと云ふて居る。

尙更に日本側の不正に於ては日本は阿片其の他藥材の取引に關して既に多くの利益を見たるに滿足せず、阿片の外に「コカイン」の製造をも計畫し臺灣に於て其の原料たる「コカ」樹の大規模の栽培に著手し、而して日本の化學工業の發達は最近殊に著しきが故に數年を出でずして獨占的地位を占むるに至るべく、斯くして支那四億の民衆は日本よりする有毒藥品の輸入に依つて遂に絶滅の域に達すべし。敢て日本を非難せむとするものに非ず、個人的には日本政府が斯る事件に關與せることを聞かず、日本は單に英米二國に行はれたる斯る事業を模倣し、之に取つて代はりたるに過ぎずと云ひ、又日本人の行爲に就ては支那內地には日本の國籍を有する臺灣人多數入り込み、北は滿洲より南は西藏の町村に至る迄到る處是等の密行商に從事し居り、而も支那官憲は是等治外法權の下にをる臺灣人に對して何

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

等手を下すことを得ずと述べて居る。

終りに禁烟方法に關しては支那四億の民衆を復活せしめ、通商的發展に導かむが爲に、吾人は是等の藥品の國際的取引より手を洗はざるべからず。支那は米國が英國と協商して右製品の輸入を阻止し、次て兩國の力に依り日本を壓服せしむることを希望して居ると前提し前に引證した所謂ジョーンス及ミラー案の通過を主張し、且つ昨年十二月十六日合衆國大藏省が各稅關に對し阿片其の他有毒藥品の日本領土に向つて輸出せらるゝを禁止すべき旨訓令を發したりと記述したが、それは我が領事が當地稅關に照會したる報答にあるが如く何等其の事實がなかつたのである。

三

如上事情は前に縷々述べた狀況と同樣に多少事實に相違して居る點があるが、要するに支那阿片問題の將來に就て支那並に英米等に對して重大の關係を有するのは我が國である。現に近來頻々として新聞に掲載せられてあるが如くに阿片「モルヒネ」等の密輸出入又は其の他不正行爲が我が國人に依つて行はれつゝあるを悲むのである。殊に對支外交上大いに遺憾とする所であるに依り、我が當局としては是等犯則に就ては秋毫の末をも檢べ徹底的處分に出て其の禍害を芟除すると同時に、積極的にも支那に對し禁烟運動に加擔する方法に出でんことを庶幾するのである。

英國炭坑罷業に就ての諸觀察

法學博士 堀江歸一

歐洲戰後の勞働政策

歐洲戰爭が結局聯合諸國の勝利に歸したときに、此戰捷の榮譽を諸國に齎したのは、誰れの力であつたか、又此榮譽を齎すに就て、誰れの力が一番與つて大なるものであつたかと云ふことは、諸國に於て、直ちに國民の念頭に上る問題であつた。日本

のような國で、假に此種の問題が起つたならば、之に對する國民の判斷は極めて單調である。即ち陸軍に於ては何々將軍、海軍に於ては某々提督が軍事上の殊勳者であつて、之に加ふるに內治外交の當局に何々大臣があつて、斯る偉功が擧げられたものとする。此以外にドノ位まで文化的の方面に、社會的の事業に某々氏等なり又は多數國民なりの努力が終局の效果を擧げるに、資したかと云ふようなことは、全然顧みられないのである。然るに歐洲戰爭の最中なり、又は其後なりに、諸國に現はれた言論に徵すると、諸國は戰捷の原因を論ずるに就て、決して斯の如く軍事とか、又は政治とかの萬能に偏しない、社會に存する色々の勢力が統一されて、此結果を齎したと云ふことを認めて居る。而して是等諸種の勢力の中で、勞働者階級の努力が餘程重きを成したことも、諸國に於て識者の首肯する所と爲つた。戰爭が次第に酣に爲つてから、交戰諸國は戰爭を進めて行くに就て、何を必要としたかと云へば、其一ツは兵員であり、次ぎの一ツは軍需品であり、最後の一ツは軍資金であつた。而して是等の三者中、兵員の徵募と軍需品の製作とが勞働者の力に依ることの多いのは、論を俟たない。英國にしても、他の諸國にしても、勞働者が義勇奉公の精神を發揮したり、又一切の勞働爭議を廻避したりしたればこそ、兵員の徵募と軍需品の供給とに成功した次第であつたが、戰局が進んで來て、軍事費の財源として、多額の公債を發行しなければならぬように爲ると、諸國は期せずして、勞働者階級に公債の應募者を求めざるを得ざるに至つた。諸國が公債を發行する場合に、何れも其額面を小額にしたのは、即ち此般の便宜に副うものであつて、所謂公債の民衆化と云ふことは、勞働者階級に應募者の多く爲つた意味に外ならないのである。

斯の如く歐洲戰爭に於て、聯合諸國に決定的戰捷を占めるに至らしめた三要素の總てが勞働者の力に依つて充され、而して之を充したことを勞働者自身が階級として認識して居るとすれば、戰後に於て勞働者が戰捷の殊勳者に與へられ可き褒賞を社會に求めるのは、當然であるとしなければならぬ。然るに歐洲諸國の政治家の聰明なる、勞働者の要求し來る褒賞に應ずることに就て、心中大なる恐怖を感じた。其處で彼等が公然之を要求し來らない間に、諸國の政府が會議を開いて、勞働者に讓步し得る最大限度を協定し、其處までは彼等の要求を許すが、其限度を超へては、何としても之を許さない、寧ろ諸國協同の力で之を抑制することゝして、勞働者の要求に對する機先を制したら宜しからうと云ふことを考へた。是れが第一回勞働會議の萌聖頓に開かれた所以であつて、勞働者の方から見れば、既に過去

の問題であり、又既定の事實である八時間勞働制とか、婦人夜業の禁止とか、其他二三の案件を揭げて、之を以つて政府の讓步し得る最高限度に充てようとした。左ればこそ此會議の劈頭から勞働代表者が會議其ものを馬鹿にしてかゝり、會議で何を決議しようが、勞働者としては、別に爲す所があると云ふ態度を示したのも、偶然でないのである。

勞働者は何を要求するか

歐洲諸國の政治には隨分民主的氣分が漲つて居る、政治家の多くは常に內外の諸問題に意を注き、殊に民衆の思想なり、感情なりが如何なる方嚮に動いて居るかを知ることに腐心して已まない。然も彼等は豪閥の人と爲つて、何時の間にか「ブルジヨア」の氣分に爲つたのか、其れとも戰時國務多端で、勞働者の所思を觀察する遑を持たなかつた爲めか、勞働者の對して隨分見當の違つた考を懷いたものである。若しも歐洲戰爭前のように勞働者の事業主に對し、又社會に對して、要求する所が簡單であつたならば、時間の短縮と賃銀の增率とは、彼等の滿足を收めるに足りたであらう。然も戰後の今日勞働者は戰時に於て、軍國の急に赴いて、殆ど國家の運命を双肩に荷つたことの關係から、著しく其地位を高め、而して彼等自身斯る地位に居ることを自覺するに至つた以上は、彼等の要求は決して上記の如きものに止まらない。社會の一員として、何處までも資本家と對等の地位に立ち、資本家が產業を經營する如く、勞働者にも其經營に參加させようとするのが、勞働者の間に生じ來つた新思想であり、又新希望であつたのである。

然しながら勞働者を資本家と對等の地位に置き、前者をして後者と共に、產業管理權を持たせようとすることは、自ら資本家の金城鐵壁と賴む資本主義的經濟組織を打破し、又私有財產制度を破壞するものである。英國の政府は選擧權の狹隘なる範圍に限られて居つた時代こそ、地方豪族をして政權を壟斷するような不都合を釀成して顧みなかつたが、今日に於ては政府は明に民衆を基礎とし、民衆の利害を尊重するに至つた。隨つて文明國の政府は苟も施政の方針を決するに就て、社會の少數者に偏私するようなことのないのは勿論であるが、勞働者に產業管理の權利を與へて、既成經濟組織の根柢を搖撼して、宜しいかと云ふ問題に爲れば、自ら躊躇せざるを得ない。是れが勞働問題の夙に解決され可くして容易に解決の緒に就かない重なる理由である。

炭坑夫組合の要求

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

今日炭坑夫が何を社會に對して、要求して居るかと云ふことを知らうとするならば、吾人は須く頭を廻らして、勞働黨が曩に戰後に於ける社會の秩序を律する方針として、擧げた所を顧みなければならぬ。此方針は千九百十八年六月勞働黨が大會を開いて、議決したものであつて、第一國民的最小限度の政策を一般に勵行すること、第二産業を民主的に管理すること、第三財政に革命を加へること、第四剩餘の富は總て公共の利益に供することの四個條から成り立つて居る。而して是等の四個條中、第二の個條に就て、勞働黨は左の如き説明を下して居るのである。

勞働黨は其政策を産業に適用して、大に民主的管理の原則を擴張することを主張する。即ち産業の管理から、資本家私有の要素を除却し、生産方便の共有を基礎として、産業を科學的に改造し、總て産業に干與した人に産物を公正に分配し、既往の經驗に於て實際的であり、又必要であると認められた方法を以つて、産業を管理することを主張するのである。

勞働黨の國有政策は啻に鐵道、鑛山、船舶、運河の如き大企業や、發電所の如きものに適用されるのは勿論、家庭用の石炭供給に牛乳を供給する小賣商業にも適用されなければならぬ。更に勞働黨は營利を目的として行はれた工業保險會社の如きも、國民健康保險の行政を掌る官廳に移され可きものと考へる。

以上の宣言は即ち英國の勞働者社會に對して、産業を國有に移し、而して國有に移された産業を管理する場合には、勞働者自ら之に干與す可きものである、是等の二要件が具備して、一國の勞働者は其社會的境遇に於て、資本家と對等と爲るものであると云ふ思想を鼓吹した。既に戰爭に臨んで各自の社會的責任を果したことに就て、自覺して居る勞働者に此種の思想を注入した柄には、彼等に大なる刺戟を與へることは論を俟たない、爾來英國に於ては國有制度の實行と産業管理權の獲得と云ふことが勞働運動に於ける終局の目標と爲つたことは、爭ふ可からざる事實である。如何にも勞働爭議は時に賃銀問題に關聯して、起ることもあり、又其解決策として、賃銀問題の提唱されることもある。現に今度の炭坑罷業で、地方別賃銀制を廢止して、全國劃一制の坑夫側に依つて提唱されたことの如き、賃銀問題が爭議の中心事件であるような外形を示すと思はれないでもないが、賃銀の全國劃一制と云ふが如きは即ち勞働黨の社會改造計畫として、發表した四條項の一つである國民的最小限度を一般に勵行することの趣意に基いたものであつて、而して斯る劃一制の如きは、全國の炭坑が國家の手に依つて、統一す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れた場合に始めて行はれ可き譯であつて、斯る提案に接したが如きは、卽ち國有論の片鱗と認む可きものである。卽ち罷業の酣なる時(四月十四日)聯立派統一黨議員が議會の委員室に炭坑夫組合聯合會長であるとホッヂス氏を招いて、意見を陳述させた處、氏は炭坑問題永遠の解決には、全國綜合利益制と賃銀均一制とが必要であることを主張したと海外電報に依つて、報ぜられて居る。而して此兩制度が徹底的に炭坑に適用される場合には、炭坑は必ず國有と爲らなければならぬ道理であつて、ホッヂス氏の主張が何を目標として居るかは、其言論の裏面に明なのである。

炭坑に於ける爭議の要點

斯の如く坑夫の經濟社會に對する要求は進んで來たのである。而して彼等に取つて、當面の問題としては、戰爭以來物價騰貴して、生活費の昂進したことの著しいに拘はらず、之に伴つて賃銀に增率を見ないものであるから、賃銀の增率を要求し之を爭議の發端とするのである。昨年十月の炭坑罷業も此關係から起り、今度の罷業も亦同樣の關係に基いて、現はれた次第であるが、賃銀問題よりもモット根柢の深い所に、勞働者の要求の潜んで居ることは、吾人の認めなければならぬ所であつて、隨つて假令ひ勞働者の滿足するだけの賃銀が支拂はれたとした所で、彼等の滿足は一時的のものであつて、根本問題は何時までも其跡を留めるのである。

炭坑問題の決定的解決に對する勞働者の態度なり、意嚮なりは、右の如くであるとして、一方に炭坑に頻々爭議の起るのは、何を口實とするものであらうか。近年英國に於て朝野人士の焦慮して、已まないのは、經濟的復興を急速に遂行しようと云ふ一事であつて、而して此目的を達するには石炭の如き、重要輸出品であり、又產業の補助品である物資の產出高を增加することが當面の急務と考へられて居る。然るに石炭の產額は千九百十三年二億八千七百四十萬噸に達したのを最高として、爾來次第に減少し、近年は二億二千萬噸を上下するに過きない。而して炭坑に使役される勞働者の數は必ずしも減少して居らないが、坑夫一人當りの採炭高に至つては、餘程著しく減少し來つたのである。其一斑を揭げれば左の如くである。

年	出炭量(百萬噸)	坑夫の數	坑夫一人當り出炭量
一九〇九	二六三、八	九九二、三三三	二六六
一九一〇	二六四、四	一、〇二七、三三九	二五七
一九一一	二七一、九	一、〇四五、二七二	二六〇
一九一二	二六〇、四	一、〇六八、七五一	二四三

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一九一三	二八七、四	一、一一〇、八八四	二五九
一九一四	二六五、七	一、〇五四、一〇五	二五二
一九一五	二五三、二	九三九、六〇四	二七〇
一九一六	二五六、四	九八四、七九六	二六〇
一九一七	二四八、五	一、〇〇六、二九九	二四七
一九一八	二二六、五	九六一、〇〇〇	二三六
一九一九	二二九、二	一、〇二五、六〇四	二二三

斯の如く近年出炭量の減少するのは、勞働時間の急劇に減少したことも一原因であらう、又戰時壯丁が續々兵員に徴募された爲めに、自然坑夫の數に減少を來し、不熟練な坑夫や、操業上に缺點ある坑夫を以て、補缺に充てなければならなくなつたことも、他の原因であらう。兎に角政府や炭坑主の方では、賃銀問題と此出炭減少問題換言すれば出炭復舊問題とを結び付け、現に昨年十月の炭坑罷業に際しても、政府は出炭量の或る高に達することを條件として、賃銀の增率を承認す可きものであると云ふ解決案を提出した程の次第である。然も坑夫は今日賃銀を以て、出炭量の多寡に左右され可きものとは考へて居らず、又出炭量は從來の儘であつても、尙ほ坑夫の賃銀に增率を施し得るものと信じて居る。何故彼等は斯る信念を懷いて居るかと云へば、其れを知るには、敢て多言を要しない、左の一表を見れば明瞭と爲るであらう。

年	石炭一噸の出す價格 志	片	利潤並に鑛區料（一噸當り）志	片	賃銀（一噸當り）志	片	其他の費用（一噸當り）志	片
一九一三	一〇	一五二	一	一三八	六	四〇一	一	一〇一三
一九一四	九	一一七九	一	七四二	六	二九二	二	一四五
一九一五	一二	五六〇	二	一九七	七	九五八	二	六〇五
一九一六	一五	七二四	三	五〇〇	九	九一二	二	五一二
一九一七	一六	八六九	二	八五五	一〇	五五三	三	六六一
一九一八	二二	四〇〇	三	一五〇	一三	二八〇	四	三二〇

石炭業は千九百十七年二月から英國政府の管理に移り、炭價に就ても亦政府の嚴重な干涉が加はつたので、自由の地位に置かれた産業の産物ほど價格に著しい騰貴を見ないとしても、尙ほ戰前に比較して、千九百十八年には二倍以上の騰貴を示して居る。而して同時に利潤鑛區料も、賃銀も、其他の費用も共に騰貴して居ると云ふものゝ、賃銀騰貴の率は最も微弱であつて、利潤鑛區料の增加に及ばないこと、甚だ遠しとせざるを得ない。英國の坑夫組合は其礎の鞏固なる點に於て、活動力の旺盛なる點に於て、幾多の勞働組合を通じて、其比なしと稱せられるものである。然も坑主たる資本家、經營者たる事業主と相對して、生産物の分配を爭ふ場合には、如何なる結果と爲るか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と云へば、利潤又は礦區料として、生産物中の多くの部分を資本家や經營者に奪取され、殘つた部分を賃銀として各自の間に分配しなければならぬ境遇に陷るものと解釋されざるを得ない。是れが炭坑夫を驅つて、機會ある每に、同盟罷業に依つて、賃銀として自己の手に入る可き富の分量を大ならしめんとする所以であり、又炭坑國有に依つて、利潤や礦區料を全廢するに至らしめんとする所以である。

産業三角同盟の脅威

産業三角同盟の組織は英國の社會に於て、誠に一ツの脅威であつた。千九百十四年六月坑夫組合を代表するロバート、スマイリー並にトーマス、アシュトンの兩氏、鐵道現業員組合を代表するクラムプ並にトーマスの兩氏、運搬夫組合を代表するゴスリング並にウヰリアムスの兩氏等が會合して、大體の骨子を定め、翌十五年十二月に至つて正式に調印されたのが産業三角同盟の約定であつて、要するに是等組合の一ツが同盟罷業を行つたならば、他の二組合では之に援助を與へて、罷業を成功させると云ふことを眼目とするのである。三角同盟の成立した當時は欧洲戰爭中であつて、英國では兎に角曲りなりにも産業上の休戰狀態が維持されて居り、次いで軍需品法の規定で、軍事に關係ある諸種の事業には強制仲裁制度が實行されて居つて、殆ど爭議の跡を絕ち、隨つて三角同盟が如何なる效力を揮ふものであるかと云ふことは、遂に實驗されるに至らなかつた。

然るに一昨年全國の鐵道に爭議が起つた、昨年は炭坑に罷業があり、今年も亦之を再燃するに至らしめた。殊に今回の炭坑罷業は坑夫側に必死の決心あるやに見受けられた。さうすれば三角同盟の如きは、協定の個條に從つて、當然蹶起す可き道理であつて、昨年の同盟罷業當時に於ては、遂に曖昧に終つたとしても、今度の罷業に於ては、事の然るを得ないものと考へられた。現に同盟規約の成立した眞精神は「一人に對する危害は總ての人に對する危害である」と云ふ格言に存するのであつて、炭坑夫組合が昨今の如き苦境に陷つた場合には、之を脫せしめる爲めに、他の二組合が同情的同盟罷業をするのは、同盟者に對する情誼を盡す所以であると共に、自己の利益を防衛する手段であるとも思はれる。隨つて三角同盟は必ず幾日の約定を實行する、斯くて全英國は石炭の供給を絕たれ、鐵道の交通は止まり運搬夫は手を束ね、結局一切の文明的設備に擧つて休止同樣の姿に陷らざるを得ない。三角同盟の起否如何は英國社會の死活を定める次第であつた。今度の罷業に際して、或は三角同盟が起つかも知れないと云ふことは、大なる脅威であつたが、如何な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る理由あつてか、遂に曖昧の内に運搬夫組合と鐵道現業員組合とは同情的罷業を行はないことを議決し、炭坑夫組合は事實に於て、他の二ツの組合の爲めに、賣られた形と爲つた。

既に同盟の中樞に斯る龜裂を來した以上は、今後同盟は解散せずに、存續したとした所で、單に形骸を殘すだけの話であつて、同盟たるの故を以つて、特に事業主に對抗する勢力とも爲らなければ、又社會に脅威を及ぼす力も持たない、恰も眠れる獅子と同樣のものと爲つた次第である。然し私は此儘で炭坑夫組合なり、又他の勞働組合なりが斯る失態を暴露して、默するものではなく、他に必ず勢力挽回の方策を講じるものと認めなければならぬ。從來に於ても、勞働組合が段々膨脹して來る資本家の勢力に對抗するには、如何なる方法を取つて、然る可きかと云ふことに就て焦慮して居つた。其方法として、組合當事者が案出した方法は組合の規模を擴張するか、又は他の組合と聯合するか、二者に外ならなかつた。三角同盟の如きは、要するに組合聯合の一方便であつたのに、今や此聯合は實際危機一發と云ふような場合に爲つて、充分の勢力を發揮することが出來ず、事實に於て解體同樣の姿に爲るものとしたならば、勞働組合は其規模を擴張して、組合自ら大きなものとなり、以つて其勢力を擴張しなければならないであらう。而して勞働組合は如何にして組合の大を爲す可きものであるかと云へば、組合員加入に關する年來の傳統を打破し、苟も勞働者である以上は、其總ての者を組合員に網羅する方針に出でなければならぬ。さうすれば組合は所謂産業別組合即ち「インダストリヤル、ユニオニズム」の形態を取ることゝ爲り、階級の色彩を濃厚ならしめなければ、已まないことゝなるであらう。是れは英國將來の勞働問題を觀察するに就て、吾人の着眼を逸す可からさる點である。

英國の爲めに憂ふ

今度の同盟罷業に關聯して、私が英國將來の爲めに、憂慮を禁じ得ざる點が一ツ起つて來た。其れは外でもない、罷業者が直接行動に依つて、事業主を脅かさうとした一事である。從來英國に於ては、幾ら同盟罷業が起つたとした所で、罷業者が財物を破毀すると云ふような直接行動に出ることは、斷じてなかつたのである。然るに今度の罷業に於ては、坑夫は自ら罷業すると共に、排水工事に從つて居る者を強要して、仕事を廢棄させ、斯くて或る炭坑をして浸水の爲めに、再び用に適する能はざらしめたと云ふことである。詳細の事情は之を明にするを得ないが、兎に角斯る事の起つたのは、英國勞働運動の墮落と

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

せざるを得ない。而して上記の如く、勞働組合が今後「インダストリアル、ユニオニズム」の方嚮に向つて行つたならば、益々斯く墮落をして其甚だしきに至らしめはしないであらうか、吾人の注意す可き所である。

次に今回の同盟罷業に際して、何人かゞ能く事の表面に立つて、時局の收拾に當り得るであらうと考へられた。然も此種の人は遂に之を見るに至らなかつた。ロイド、ヂョージ氏の如き、一時は勞働者社會に嘖々たる名聲を博し、氏の個人的努力に依つて、同盟罷業の解決されたものもあつた。然るに今日に於ては氏の名聲は存外沈衰して、勞働者自身も氏を敵視し、敵視しないまでも、決して好感を以て迎へて居らない。斯く一ヂョージ氏が幾ら解決妥協の案を示しても、勞働者は事の根柢に間違の存するように考へて、容易に承服しないのである。勞働者の崇拜を收め得るような人物があつたならば炭坑罷業も無事に解決の緒に就くを得たかも知れない。數年前のロイド、ヂョージ氏であれば、或は斯る職分を盡すことが出來たであらうが、臺閣に居ることの久しきに隨つて、氏の氣分所爲に何となく「ブルヂヨア」の臭味の出て來たことは、勞働者の認むる所であつて、斯くて彼等の間に於ける輿望を失ふことに爲り、而して此事が餘程罷業の解決を遲延せしめる原因と爲つたのである。

然し勞働者階級には、何か大問題の起る度毎に、立派な人物の輩出することは、吾人の看過す可からざる所である。フランク、ホッヂス氏の如き、曩に坑夫組合聯合會の「セクレタリー」であつた時代から、器量の並々ならぬことを世間に示して居つたようであるが、聯合會會頭としても、其前任者であるスマイリー氏に遜色なきだけの實力を今度の罷業事件で現はしたようである。而して氏が歩一歩勞働運動指導者としての地位を高めて、行くに就ては私は必ずしも氏の天稟の才能のみに依るものとは考へない。英國オックスフォードにはラスキン、コーレッヂと稱する大學教育の機關がある。千八百九十九年に創立されたものであつて、男女勞働者にして將來勞働運動に從事する者に適切の教育を授ける場所と爲つて居る。ホッヂス氏の如き、先年勞働組合から學資金を交付されて、ラスキン、コーレッヂに螢雪の苦を重ねた人であつて、氏が勞働運動の指導者として、一頭地を拔いて居ることの如き、此教育の效果に依るものとしなければならぬ。私はホッヂス氏の働き振りを知るに付けても、勞働者に教育の必要なることを痛感するものである。

英國將來の爲めに、考慮す可き問題は多々ある。就中當面の問題に差迫つて來た炭坑鐵道其他諸事業の國有制度を實行し、勞資兩者の關係に一生面を開くことの如き、最も複雜であり、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

又利害の錯綜したものとせざるを得ない。誰れが此問題を解決して、國民的輿望を荷うであらうか。千九百九年ロイド、ヂョージ氏が所謂革命的豫算案を編成した當時に於ては、清新の氣に滿ちて如何なる難問も氏の手に依つて、解決されるやうに思はれたが、十餘年を經過した今日に於ては、氏も亦一個の舊人物視されるに至つた。時代が人を生み出すと云ふ格言にして正しいものであるとすれば、私は英國の政界も兩三年ならずして盡く人を更めるに至ること丶想像せざるを得ないのである。

大火と建築改良及び都市計畫

法學博士　渡邊鐵藏

近來の大火の多い事は、都會に住んで居る者には實に薄氣味が惡くて、枕を高うする事が出來んと云つてもい丶位である。最近の新宿、淺草の大火、又それ以上函館の大火、少し小さいが矢張可なり損害の大きかつた水戶、及札幌の大火など、僅か數十日の間に人の膽を寒からしめる程の大火が諸方に連發して居る。之等の大火の損害は金錢上に見積れば驚くべき巨額に達するは云ふまでもない事であるが、殊に罹災者が多年の努力の結果漸く蓄へた貨財を失ひ、又一時其職業を失ひ、或者は路頭に迷ふに至るなど、物質上計りでなく、精神上の苦痛と云ふものは非常なものである。從て大火の慘害の恐るべき事は、大火のあつた間際には、只單に罹災民のみならず何人の頭にも深刻に彫りつけられるのである。然るに喉元過ぐれば熱さを忘るの譬への如く、暫く立つとケロリとして何も忘れたやうに別に其次の火事を恐れるやうな樣子もなく、別に從來と變らないやうな善後策をとつて、思ひ思ひ家の建築に取り掛かるやうである。またの慘害の恐しさ、また折角建てた家を灰にして了ふ事の詰らないと云ふ事を大して氣にも留めて居ないやうにしか見られぬ。

私は一昨年、丁度橫濱に行つて居た時にあの大火に出逢つて、つく〲と大火の慘害の大きな事と、又之に對する善後策が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

不徹底である事は將來大損失を殘すものであると感じたので、そこで本誌上に「横濱市の大火を見るの記」と云ふ一文を寄せたのである。今又今春各地方の大火を見聞きしたに就いて、其時の感じが共個に起つて來た。また此自分の小さい論說に書いた事は總て適切な事であると感じたので、再度同じやうな事であるかも知れぬが、世人と共に火事に對する對抗策を考へて見たいと思ふ。

一體日本に大火の多いと云ふ事は勿論日本の家屋が木造であると云ふ事と、日本に强風が多いと云ふ事に起因するものと考へるが、併し數百年前から恐るべき大火はあるのであるから、日本の風を弱くする事は出來まいが、成る可く燃え難い家を作るとか、或は火事があつてもそれを擴げないやうにする位の事は考へさうなものであるが、その點が一向留意されて居ないと云ふ事は、如何にも日本人の無神經を語るものである。明治以來種々西洋の文物を輸入して居るが、自分の住む家の火事に逢はぬやうにすると云ふ大切な問題に就いては、殆ど徹底的に考へても居ないし、又實行されても居ない。成程日本の消防機關は封建時代よりは多少はよくなつたかも知れない。又最近には自動車ポンプなどが輸入されて、頻りに利用されるやうになつた。併し元來其自動車ポンプなども、世界唯一の火事國である日本が其發明が出來て、日本が自動車ポンプの大輸出國となつて居るのなら受取れるが、何うも外國の工夫を借入れて居るのでは情ない。消防機關でさへ外國の力に依つて辛うじて改善されて居る。火事の火元が隣の井戸の水を汲んで消すやうたものでいつも遅れ勝ちになつて居るやうな有様だ。で、既に起つた火事を消すのでさへこんな人頼りの腑甲斐ない有様であるが、火事の豫防と云ふ先見の明を要する問題となると日本人は露骨に其缺點を暴露して居る。成程昔から「火の用心、火の用心」とチヤリン、チヤリンと金棒をついて町内を歩いたり、提灯をぶらさげて拍子木を叩いて夜廻りをして居るが、或意味で之れも火事の豫防法に相違ない。近來警視廳あたりで火事の豫防宣傳と云ふ事に熱心になつて居られるやうであるが、併し斯う云ふ意味の豫防法は新内の文句か何かで聞くと詩的であるが、大正の現實から見ると餘りに世離れた事である。又此頃のポスター宣傳にあるやうに竈の下の用心、七輪の用心などいろ〳〵警句を用ひて火の用心の宣傳がされるやうであるが、此等は矢張新内式火事豫防法であつて、馬鹿を急に悧巧にする事の出來ないやうに、不注意な人間を注意深い人間にしたり、又火付をする人間を善人にする事も出來ないのであるから、寔に心もとない豫防である。勿論之等の宣傳が惡いと云ふのでなく、一時或は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

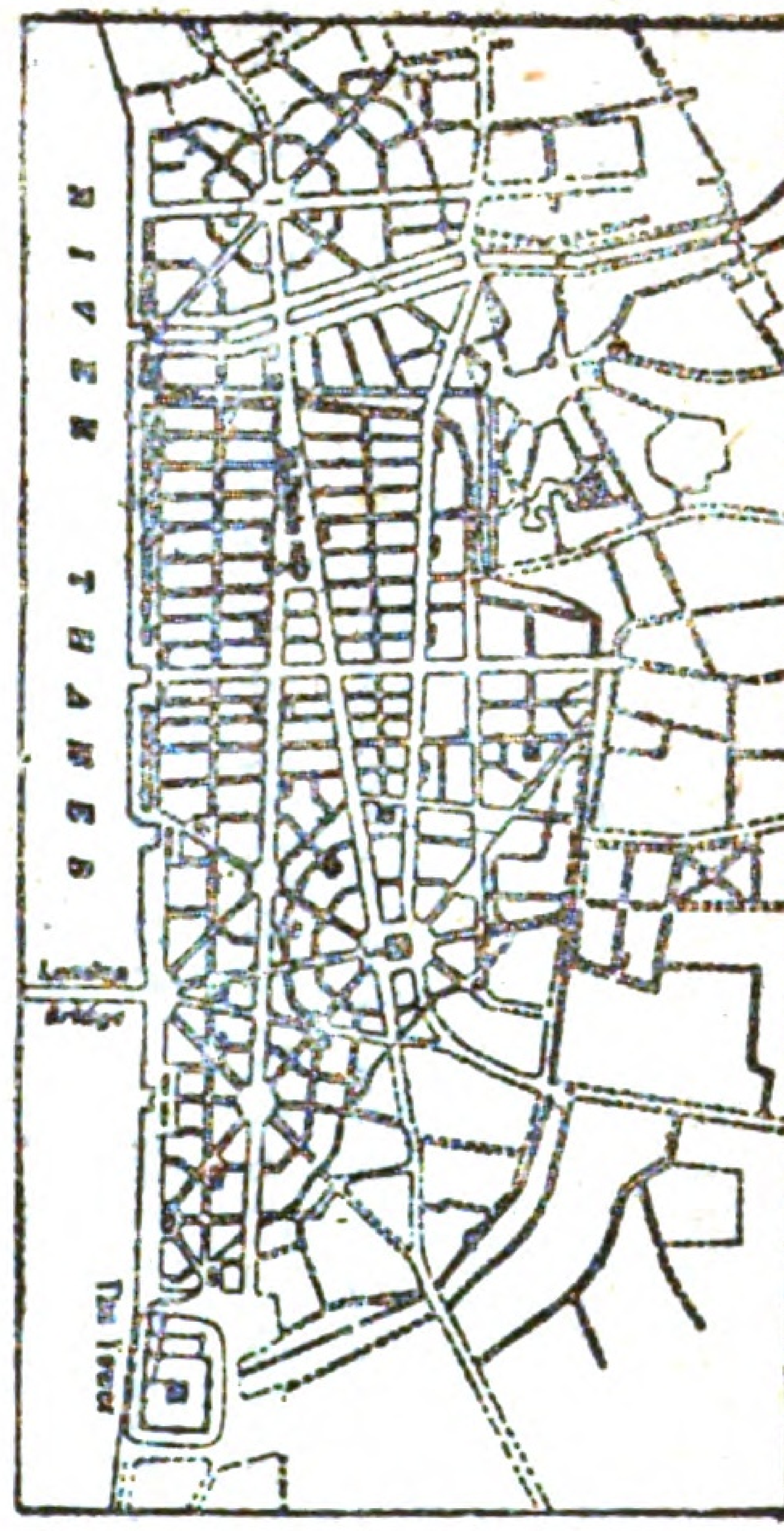
數日の間は多少の效果があると思ふが、此やうな火の用心式火事豫防法に止まらず、徹底的、根本的の火事豫防法を講ずる事を考へねばなるまい。

さて火事の豫防法としては何んな方法があるかと云ふと、先づ路幅を廣くするとか、防火壁を設けるとか、建築改良をして耐火建造物を普及さすと云ふ事であらう。此中路幅擴張、防火壁の築造と云ふ事は火事の範圍を限定し、或は消防の活動を容易ならしむると云ふに過ぎないのであるから、根本的の防火策ではない。たゞ火事を大火に至らしめないと云ふに過ぎない。從つて徹底的防火策としては耐火建造物の普及と云ふ事になるのである。勿論たゞ理屈を云へば火の用心さへすれば別に建築はどうであらうともそれが根本的の防火策と云へやう。併しそれは前に云つたやうに人間を器械のやうに間違のないものと考へると同じであり、又漏電とか、爆發とか、落雷とか云ふ不可抗力に考へ及ばない議論になる。要するに眞の防火策と云ふのは、第一には耐火建築の普及と云ふ事にあるに相違ないから、一般市民も當局者も、火事が厭ならば之に徹底的の工夫を廻らさねばなるまい。

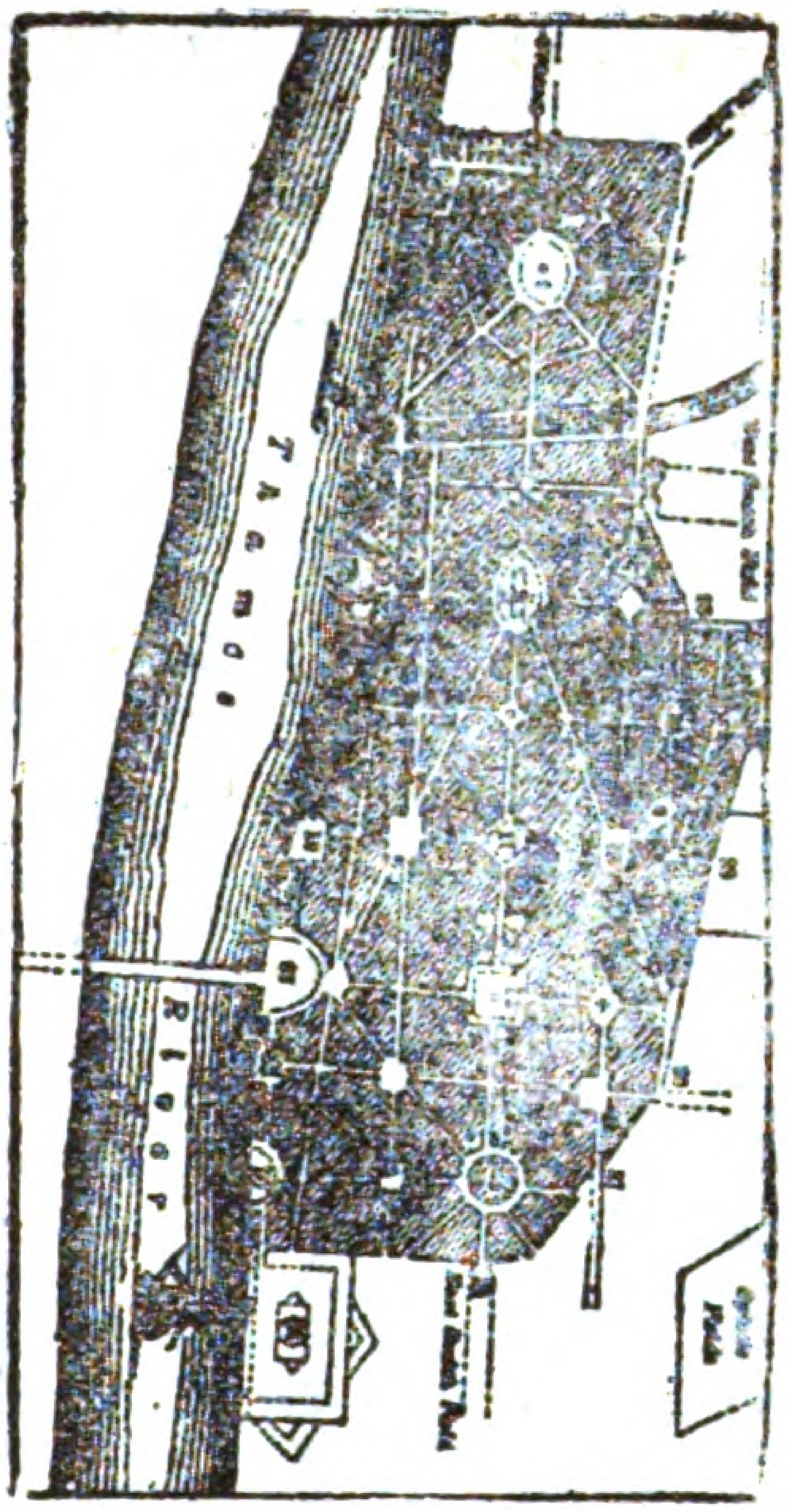
そこで火事防止の問題を論ずると、何うしても都市計畫と建築取締りを徹底的に行はねばならないと云ふ事になつて來る。只、大火後の後始末としては區劃整理を行つて適當な路幅の道路を造ると共に、街筋を組織的にすると云ふ事になつて或程度迄將來の火事の災害を減少する事は出來やう。例へばロンドン市は千六百六十年有名な大火のために市の中央部を五十三萬坪餘り、即ち東京市の四谷區よりも廣い面積を灰燼に附したのであるが、其當時レン及びエヴエリンの二氏が燒け跡の建設に關する設計をして之を提出した事がある。此兩案は偶然頗る相類した案であつて、何れも適切な良案であるとの評を受けて居つたが、當時のロンドン市民は之を採用する勇氣と先見の明がなく、此案は不幸にも其儘に葬り去られた。其罰としてロンドンの此部分は現在亂雜な建築のために非常の雜沓と不便を感じて居る。勿論此時の燒け跡建設案は都市計畫の立案であつて、將來の火災に對する防止策と云ふ意味のみではないのであるが、新宿、淺草等の大火の善後策として此種の都市計畫若くは區劃整理の事業を行へば、將來の防火の點についても非常な利益があるに相違ない。

元來區劃整理の問題は燒け跡の善後策としても適當であるが一般に田畑、其他の土地を建築敷地にする場合に取られる方法である。進では最近には建築物のある土地でも之を收用して區劃整理を行ふ事がある。昨年公布せられた我國の都市計畫法で

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



「レン」氏案



「エヴリン」氏案

倫敦一六六六年大火後改造計畫

も其十六條、並に十七條に依つて此種の區劃整理を行ひ得る事になつて居る。元來此區劃整理の方法は各國で種々の方法に依つて行はれて居るのであるが、參考のため最も有名な「アヂケス」法の要領を云ふと、此法は千九百二年にプロシヤで制定され、次でバーデン、サクソニー等にも同一の立法があるのであるが、公權の干渉に依つて一定の區域内に於ける土地の所有者を集めて其所有地を合併し、更にそれを元の所有者に適當な形の土地を分配するのである。此土地整理の際、市は其土地全面積の三割五分までは無償で道路敷地として收用する事が出來るのである。立派な道路が出來れば之丈けの道路敷地を無償 提供しても殘餘の土地の地價が騰貴するために、地主の損にならない計りでなく、大に利益になのである。而して殘餘の土地は元の所有者に對して從來所有して居つた土地に成るべく近い場所に於て、元の所有面積と同じ割合で分割するのである。若し新たに受領した土地の價格が舊所有地より安い時は、其者は損害賠償を請求する事が出來て、其費用は全關係者が負擔するのである。小區劃の土地で建築不能の者が出來た時は市で買ひ上げて之を隣地者に賣る事が出來るのである。要するに之方法は公の權力によつて土地を整理して、之を適當な區劃に分つて現所有者に返すのである。猶關係土地所有者の半數以上並びに關係土地面積の半分以上を有する者より申し出があつた場合には、市は右の土地區劃整理を行ふ義務がある。土地整理が所有者側から申し出られた時は、關係土地面積の四割までは市が道路敷地として無償で收用する事が出來る。之等の整理案は其實

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

行前に中央政府の承認を得る事を要する事になつて居る。要するに此「アヂケス」法によれば、郊外地を宅地に變更するのには彼ゝ適當であつて　住宅敷地の增加、道路の敷設を促進する計りでなく、郊外土地の所有者にとつても大に利益である。從つて住宅問題の解決、都市計畫事業の實行等には至極都合が好いのであつて、東京市の郊外地に就いても此種の法律が十數年前から實行されて居つたならば現在のやうな住宅難も起らないし、又郊外道路も今のやうな亂雜な狀態に陷らなかつたに相違ない。此種の土地區劃整理は、之を大火後のやうな所に適用すれば頗る妙である。曾て神田の大火があつたが、其際に　あの邊に土地區劃整理を行へば其街筋も改良され、土地の形狀も建築に適するやうになつて、今少し立派な建築物も出來、もつと上等な商業區域と變ぜしむる事が出來たに相違ない。今回の新宿及び淺草の大火後の善後策としても都市計畫事業として土地區劃整理を行ひ　適當な道路を造り、土地の分合を行へば、燒け跡の土地を經濟的に即ち近世都市的に利用し得るのみならず、交通及防火の點からも大きな效果があるであらう。但し土地區劃整理を行ひ、適當な道路を造つても防火の問題は勿論之のみで解決されたのではないから、直ちに市街地建築物法を適用して耐火建築の強制的普及を企てねばならぬ。

元來都市計畫と建築取締りとは恰も双生兒のやうに相伴つて居る問題である。防火の意味から此問題を見ても、矢張り兩者が相關聯して居るのである。即ち適當な防火地區を設け、路線を定めると共に、其沿線の建築物に對して、火災・其他の災害に備へるため　並　に經濟上の目的から種々の取締りを行はねばならぬ。都市計畫の重要な事業として、市の內外の區域に於て、工業地域、商業地域、住居地域等を定め、所謂地域制度を設ける事であるが、其目的は工場の發散する煤煙、塵埃、瓦斯、汚水等は常に隣人を害す　ものであり、殊に爆發、火災等の危險が伴ふもので　あるから　である。從つて此種の工場は、なるべく一定の地域に限りて建設を許し、商業地域、殊に住居地域の安寧を維持しやうと云ふのが此制度の行はれる一つの理由である。此地域制度は都市の土地を成るべく經濟的に且つ市民の衞生保安上の必要に適合するやうに、出來る丈合理的に利用しやうとするのが其眼目であるが、右のやうに火災其他の危險に其へる事も大切な一理由である。此地域制度は獨逸の都市で最も早く行はれたのであつて、市を幾つかの區域に分ち、其用途を指定すると共に、其地域內の建築に對して適當な制限を加へるのである。例へばミュンヘン、チュッセルドルフの兩市の如きは建築の種類を九階級に分つて、各地域に應じてそれ〳〵適當な建築

を行はしめる事にして居る。此地域制度は、或は地域の代りに街路の種類を分類して同一の目的に具へる事もある。例へば、カールス、ルーエ氏の如きは街路の種類を十六に分類して、之に對してそれ〱適宜に建築取締りを行つて居る。英國でも一種の地域制度を行つて、其都市計畫法に於ては各地域に應じて一エーカー毎に建設し得べき建物の數を制限し、且つ之等の建物の性質及び高さを指定する方法を取つて居る。米國に於ても都市を數箇の建築地域に分つて、其或物を防火建築區域とする方法が行はれて居る。ボストン、バルチモア、インヂアナポリス、ロスアンゼルス等では、地域を分つて建築制限を行ひ、ワシントン市も街路に應じて建築物の高さを規律して居る。最近には各州に於て此種の地域制度及び建築制限の立法及び實行が頻りに行はれて居る、我國に於ては昨年都市計畫法と同時に制定された市街地建築物法に依つて此法律を適用する區域内に、住居地域、商業地域、又は工業地域を指定し得る事になつて居る。此法律に依つて地域の指定が出來た時は、其地域内に於ける建築は此法律及び之に附屬する市街地建築物法施行令、及び市街地建築物法施行規則に依て行ふべき事になるのである。殊に法律に依つて政府が火災豫防上必要と認めた時、防火地區を指定して其地區内に於ける防火設備又は建築物の防火構造に關して必要な規定を設ける事になつて居る。之に基いて市街地建築物施行規則に依つて防火地區に關する規定をし防火地區を甲種防火地區、乙種防火地區の二種となし、それ〱適當なる耐火構造を行ふべき事を頗る詳細に規定してある。斯くの如く我國でも地域制度を採用し、殊に防火地區まで設け得る事になつて居り、且つ之等の地域又は地區に對してそれ〱適當な建築取締りの規定が頗る詳細に出來上つて居るのであるが、未だ法律規則が成立した計りで其實行が現はれて居ないのであるから、市民は未だ之等の新立法の利益を受けて居ないのである。此故に我々は之等の法規の精神が一日も早く實際に具體化する事を希望する次第である。法を作つた計りで實行が之に伴はなければ何の利益もない。又當局者としても之等の法規の實行は目前に關係者が多少の苦痛を感ずるからと云つて其勵行を逡巡するやうな事があつてはならぬ。此際官民共に此種の法規の實施に努力する事は種々の點に於て永久に市民の利益となるは勿論、耐火建築の實現についても一日も忽にすべからざる事である。

東京市其他の都市の大火の善後策を講ずるに際しても、未だ地域制度の指定並びに防火地區の指定がないのであるから、忽ちにして市街地建築物法の適用に困難を感ずる次第である。故に我々は一方土地區劃整理、道路の擴張等を行ふと共に、速か

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に此地域若くは地區指定を實現して、徹底的に都市計畫並びに建築改良の理想的實現を示して貰ひたい。

さて地域の指定、區劃の整理、道路の改築等が行はれ得るとすれば、直ちに建築改良の問題を考へねばならぬ。我國に於ては大學に建築學の講坐が出來てから既に數十年、建築學の研究建築材料の研究等は日進月歩の勢であつて、公共的の建築物及び大企業の建築物等には相當な新式の建築が出來上つて居るが、一般には此建築改良は普及して居ない有樣である。卽ち建築改良は研究ばかり進んで、實際が遲れて居ると云ふ次第である。そは何故か、大いに考へるべき點である。一體或改良事業が理想的によいとせられても、その實行の遲れるのは其實行に關する組織と、經濟上の力に足りない所があるからである。そこで建築改良と其實現普及を必要とするならば是非共建築の組織及び財政の問題を考へねばならぬ。私は從來我國に於て建築改良の遲々として進まなかつた事は、建築に關する研究は進んで居たが、建築改良の必要なる事の宣傳が足りなかつた事と、建築事業執行の組織と其財政に關する工夫を怠つて居つた事に歸着すると思ふ。併し乍ら既に市街地建築物法も成立したのであるし、建築改良の必要は一部に於ては適切に感得せられた事であり、且つ近年連續する大火によりて一般國民も結局建築改良の方法をとるの外根本的救濟策がない事を感じたであらうから、更に建築改良の宣傳をすると同時に、建築改良が實際的に實現し得べきものであり、且つ經濟的にも利益であると云ふ事を證明すると云ふ方法を取り、其具體的方法を考案して、且つ其方法が實行される事に努力せねばならぬ。要するに今や建築改良の實現は建築の企業組織及び金融の問題に歸着すると信ずる。從つて官民共に此二大問題の解決に努力せねばならぬ事と思ふ。

建築の企業組織及び金融の方法の事に就いては私は本誌大正八年一月號「都市改造論」及び同年の秋季大附錄號に「生活難の增進と住宅問題の解決」と云ふ論説を書いた際に其一部分に於て之等の問題に觸れて、又種々の提案をして見たのであるが、要するに建築會社、建築組合を發達せしめ、且つ政府其他の公共的團體の有して居る資金を利用する事にある事を論じた。而して本年の第四十四議會に於て幸にして住宅組合法が成立したが、之は單に或範圍の人に對して家屋の所有權を得せしめる組織になつて居るから、大規模に建築を行ひ且つ同時に建築改良の目的を達するためには一般的に或る條件の下に或資格の建築會社を保護するか、若くは特に特權を有する、特種の建築會社を設立するの外はないと思ふ。現政府も社會事業調査會を設けて右の住宅組合法案を諮問した際には、建築會社法案の要綱に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

關しても質問されたのであるが、時期切迫のために建築會社法案の方は審議進行せず、法律の制定を見るに至らなかつたのであるが、貴族院に於ける質問に對して原首相の答へた所に依れば、次の第四十五議會には立案附議すると云ふ事であるから、我々も鶴首して其成案の到來を待つて居る、建築會社の組織及び目的に就いては前掲の自分の論文に私案が掲げてあるが、此建築會社は單に住宅　供給増加を計るのみならず、低廉なる住宅を供給する事、並びに住宅及び建築の改良を行ふと云ふ二點を是非とも注意せねばならぬ。こゝに住宅改良若くは建築改良と云ふ意味は、從來よりは近世的の使用に便宜な建築物を作る事、衛生的に優良な建築物を造る事、災害就中火災に抵抗し得べき建築物を造ると云ふ事の三點に留意せねばならぬと思ふ。

若し政府の提案せんとする建築會社が單に住宅會社として住宅の供給、並びに多少の家賃の低下のみを計るならば其限界が狹いと云はねばならぬ。私は此際之を單に住宅會社とせずして、建築會社として此機會に此會社に適當な組織と廣い目的を與へて建築改良の大事業の實現を助成せしめる事にしたいと思ふ。之れに依つて住宅の供給増加、家賃の低下を實現し得るのみならず、又單に住宅のみならず、商店其他特定の建築物の改良を達成し得る事にせねばならぬ。此大目的を達するためには此會社が潤澤なる資金を蒐集し得べき方法、低利なる資金を利用し得べき方法を工夫せねばならぬ。其具體案としては之に債券の發行を許す事、及び政府其他の公共團體の資金の貸し付け又は預け入れを行ふ事が最も必要である。其他の特權については既に論じた事であるから之を繰返さぬ。此會社の目的及び事業としては既に述べた如く、單に建築敷地を買ひ入れ、住宅建築を行ふのみならず、廣く都市計畫事業の或る物を請け負ひ、又住宅組合に資金を貸し付け、又特に自己の建築する建築物に就いては、建築改良、特に耐火建築を勵行するのみならず、公の指定したる條件に從つて耐火建築其他の建築改良を行はんとするものに一定の條件に依りて資金の融通をなす事も適當な事業であらう。

建築會社を作る以上は之をして建築改良の事業をも達成せしめるために、政府が之に低利資金の供給をなすべき事は前に述べた如くであるが、私人又は組合等が建築改良等を行はんとする際には、一定の條件の下に此會社若くは政府其他の公共團體が之に對して資金の融通をなす事は、建築改良の實現、殊に、耐火建築の普及のために最も適當な手段であると思ふ。建築改良を行ひ、耐火建築を行ふ事は建築者から云へば經濟上の負擔に堪えぬと云ふ考へがあるかも知れぬ。併し耐火建築の實行は一

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

時建築資金を要するかも知れぬが、將來の事を考へれば、經濟上に於ても利益である事は明かであるから、一時建築資金の融通方法さへ講ずればよいのである。夫は右に述べた如く建築會社の設立及び、政府の援助等の手段に依りて行ひ得ると思ふ。加之或程度の大規模建築を行へば、同一の人員を使用し、同一の仕事をなす建築物に就いて、從來の木造に用する費用と大差のない費用で純然たる耐火建築が出來るのである。例へば最近神奈川縣救濟協會で沖人夫のために約七百人を收容すべき合宿所を建て、之に無料宿泊所、受産室、診療所、職業紹介所、相談及び代書所、洗濯場、裁縫所、銀行、賣店、食堂、「外來者」をも容れる娛樂室、應接室等を附屬せしめる事になつて居るが、此建物は四十六萬圓の經費を以て、大英斷を以て鐵筋「コンクリート」三階建てにすることになつて、本年五月中旬には將に落成せんとして居る。然るに此建物を木造を以て建築した場合には、僅か經費二割を減じ得るに過ぎない。而も木造の場合は火災の危險のあるは勿論、風雨に依りて破損する事甚だしく、高率の保險料を拂ひ多額の修繕費を要する事は勿論、之に要する敷地面積は木造の場合には建坪に於て現在の三倍餘、敷地面積は四倍餘を必要とするのである。殊に「コンクリート」は木造に比して數倍の使用年限を有するのであるから、建物の減價償却の點に於ても多大の相違がある。之等を考へ合せれば、經濟上に於ても木造よりは鐵筋「コンクリート」建物の方が利益である事は論ずる迄もない事である。又同協會に於て川崎町に建設した公共浴場の如きは、最初木造建築の豫算の金額其儘で、實際は之を鐵筋「ブロック」で建設して居るのである。即ち此位の小建物でも木造と耐火建築が同一價格で出來上るのみならず、其美觀の點に於ても後者の方が遙かに優れて居るのである。

最近の東京市其他の大火後の建築に就いても、之等の諸點をよく翫味して、此際根本的に耐火建築物を普及せしむる手段を執る事を考へる事が肝要である。右の如き建築會社が成立して居れば此事業を助長する事は容易であるが、目下の場合に於ても地主、家主が聯合して、或は更に一般の資金を仰いで、土地會社、建物會社を作り、或は土地建物會社を造り、土地區劃の整理並びに建築改良の大事業を行ふ事は必しも困難ではないと思ふ。只物事を億劫がつたり、理由なくして新らしい試みに逡巡する因循姑息な態度では何事も改良と云ふ事は出來ない。勿論政府は此種の土地建物會社に對しては、建築改良を行ふと云ふ條件の下に資金其他の援助を與へねばならぬ。此種の改良が實現すれば、都市の土地が經濟的に利用されるのみならず、不動産の所有者にとつても永遠の利益ではないか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

蕎麥屋や天麩羅屋が耐火構造の建築物の内で營業が出來ぬと云ふ理由もあるまい。況んや住宅、就中獨身者の住居の如きは第一に建築改良を實施するのに都合の好いものである。此際是非共耐火建築の普及に努力せねばなるまい。

要するに都市計畫法、市街地建築物法を勵行し、建築會社の設立を急ぎ、政府並びに自治體が財政的並びに行政的の援助を與へる事は根本的の防火策の實現に最も肝要な事である。六千萬人の人が誰れもが皆住む家である。そして一生涯、何處かの家に住んで居る筈である。其大切な建築物を無暗に灰にして終ふ樣な事では實に勿體ない譯である。また甚だ智慧のない話である。



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

政治道德・社會道德の根本的革新の機

自己及び經濟的生活に對する認識評價の確立

杉森孝次郎

政治道德及び社會道德の刷新改良は、根本的にも、應急的にも、個人の自覺、自尊を喚び醒ますほかに、その方法を有しない。その喚び醒ましかたが直接なほど、その方法は根本的であり、間接なほど、應急的なのだ。黨人は黨の名に於いて、政府者は國家の名に於いて、恥ぢと誇りと責任の標準をさげるのが現狀だ。一身一家の問題であつたら、恥ぢと誇りと責任感がもつと高度に發動して、すまじき卑陋な事や、すべき献身犠牲を、一黨一國の問題となると、逆に行くのだ。全成員大の責任を感ぜずに、自己を一と算へて分子にし、全成員をその數に隨つて分母にした結果だけの責任を感ずるのだ。いはばさうした態度にでるのだ。黨 組合や團體をば、責任を負ふ機會を最小限にし、私利を營む機會を最大限にする手段と解してをるのだ。議員がその 適例だ。國 議員でも、市會議員でも、國のため、市のためを思ふの餘りに、國會議員となり、市會議員となつた人が、どれほどあらう。それこそ、寥々として晨星も啻ならずだらう。

献身犠牲には語弊がある。動機を社會奉仕にする事が要件だ。社會奉化と自己實現との間には、正直に、科學的に考察して、一貫した論理がある。われらは、餘りに自己の低級内容のみに機會を與へる。黨員や閣員が、その黨員としての、また閣員としての存在理由の過半に相當するやうな、大事な政見や問題についても、黨の意思、内閣の意思が贊同是認しないからといふ理由や口實で、苦もなく自己の意思を棄てゝしまふなどは、餘りに自己に不忠實だ。われらは、自己に不忠實である事を必要手段として忠實であるべき目的をば、絶對的に有しない筈だ。組合も、團體も、黨も、國家も、社會全體も、正し、意味に於いての自己實現の一機會であるといふ公人無[illegible]

に、われらは實に閉眼してゐるのだ。

そも／＼團體には意思はない。團體の意思は團體員の意思の略稱だ。團體員は、その頭數だけの各別存在だ。感化力ある一人の意思は、團體の意思となる可能を有し、一人の意思が合理正當のものなら、それは團體の意思となる必要を有する。組合、團體、黨、國家、社會等を、すべて先天演繹的に考へて、わが意思によつて改造し、創作すべきものと考へない事が、組合道德、團體道德、黨道德、國家道德、社會道德の振興しない主原因だ。人もし自己の良心と聰明を副位に置き、犧牲にする事を辭せずは、いかなる邪惡卑陋事をか爲しえざらん。自己が爲す一切の公事は、自己がなすといふ單純な事實によつて、私事に屬するといふ道理が證示される。公生活と私生活とは、私生活內の細別だ。自己良心、自己聰明が、公私生活に一貫して發動しないならば、その人の生活觀がまちがつてゐるのだ。黨や國家や社會を自己以上と輕信するが故に、苟くも名義を黨のため、國家のため、社會や組合のために借る餘地があれば、その虛に乘じて自己の低級內容を發動させるのだ。現代において、國家、社會、黨、組合のために、われらが欲すべきものは、千萬人の屈從的奉公者ではなく、一人の自己主張者だ。千萬人が自己主張者になれば、健康なデモクラシイ、健康な超人主義の社會が現前する。各人が自己主張者になる必要は、わが國の公人に於いて、すなはち政治家に於いて、官吏に於いて、學者に於いて、教育者に於いて、及びおの／＼の男女老幼に於いて、殊に切實だ。わが國民は、生活の歸納論理を知らない。それ故に發明せず、獨創せず、遺產として發見した大小前提を權威として、社會進步の原動力たる各人の自己主張を否定する。不道德は不自由だ。屈抑せる自己は、天下晴れて笑ひ、踊り、泣き、怒る高級趣味を解せずに、名利權勢の低い程度を、公顏して私索する。最近の政界、公人界の醜聞の如きは、一括してこれをその副產物、分泌物、排泄物の片塊と觀るべきだ。

自己は個性だ。人格だ。その自己に白晝公然の機會を與へずに、公職、公位、公器を、偶像的に神聖視する結果は、その奉公は口頭奉仕に墮し、その心術と行實は窃盜式、詐僞式になる事だ。中世の僧院に性道德の腐敗が酷烈であつた如く、忠君愛國や、大義名分や、士君子の態度や、清節廉恥を、封建時代の殘骸そのまゝに護符とし、看板とし、內實を近代式產業主義に委する結果は、金錢をいやしみつゝ、最も殘虐に金錢に隸役される悲喜劇だ。曾てナポレオンは、佛人は虛榮者だと評したが、わが國民の性情もたしかに虛榮的だ。ナポレオン自身が、人前では決して泣かなかつたが、密室孤獨の場合には思ひ切つて泣い

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たといふ。邦人も、表面だけ廉節を高うし、裏面では武士も町人に卑辭低頭する事をさほど苦にしないのだ。いはゆる珍品談を心から笑ひうる人の數は、大多數ではあるまい。そもそも町人をいやしむ心が卑劣なのだ。身分をいやしむ靈魂よりもさもしい。獨立自尊を、經濟的條件を附して力說高唱した福澤諭吉は、今にして、いよいよますます新日本の豫言者、先覺者たりし位置を確實にする。ともすれば拜金的、唯物的と邦人から評せられる英國の社會などに、その政界にも、その他の公人界にも、最近のわが邦に頻出したやうな種類の醜聞は著しく稀少である事は、われらの猛省を刺激すべき事實だ。邦人は、歐米人を評して、一概に個人主義、利己主義の傀儡の如くに貶し去る事がしばしばだ。しかし、公職、公位、公器に對する私心、私欲、無責任の發動は、わが邦の方が英國の如きに比して遙かに著しい。虛榮心を自尊心に改め、經濟的生活に對する正當認識、正當評價を取得體達する事は、目下のわが社會に於ける公人生活を道德化するための最根本策だ。

歐米人は勘定高いとは、西遊せる邦人のしばしば感ずる一事だ。けれども、いはゆる買收が、わが國に於いては今尚ほ總選擧の代表的方法であり、英國の如きにあつては、殆んど影を見せないほどに、絕無に近くなつてをるといふ現實は、われらになにを語るか。ロイド・ジョージ氏といへば、良心なく、德操なく、功名心と機會主義の化身のやうに言ひ囃される。手品師といふ通り名がある位だ。しかし、かれは、金錢上の醜聞を流した事はない。わが國の政變が、型の如くに、個人的、黨派的金錢犯罪に、それの發覺に基因する事は、武士道德、忠君愛國道德と照らし合はせて、悲慘な光景だ。邦人の短處は、感覺的な點にある。わが言動が人の眼に視え、人の耳に聽こえる限りに於いて、われら日本人は勇士とも、義人とも、君子とも、聖賢英雄ともなる。明かるみの菩薩、暗がりの夜叉だ。感情の基礎に、理性と、長い利害の打算とがないのだ。作句的、短歌的、格言的であつて、科學的、哲學的でない。それでゐて、發作的負けじ魂は強烈だ。根氣弱く、外來の刺激を待たずして作用する純正獨立心に乏しき瞬間的勝ち氣者が、產業主義の時代に處して、必然的に落ち入り易き一弊は、經濟生活上の無自治、無責任、不德、醜行だ。政治は、現代に於いては、經濟の手が自由にあやつる人形だとは、英國などでも、最近時の、刻一刻に明きらかさを增し來たれる發見だ。實業家かたぎの方が、政治家かたぎよりも、正味實質が多い。同じ途に志さす玄人と素人のやうだ。政治家は、實業家のポケットから首をだして公人的威嚴を張る。實業家は、政治家の全人を護身用の一具として

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

持携帯するかたちだ。

政治家と公人のために考ふるに、かれらは早く現狀を脫却しなくては、餘りに恥ざらしだ。その脫却しかたはほかにない。自己及び經濟的生活に對する認識評價を、確立するにある。自己に對して不拔の信念を持てよ。經濟的生活に對して定見を抱けよ。これが箴言だ。

經濟的生活は、恐らくは今から始まるのだ。今までの經濟的生活は、餘りに本能的、衝動的、無方針であつた。理性に鞭打ちされた經濟的生活が、社會の公私兩舞臺に、出演すべき必要は熟した。經濟的生活は水のやうだ。山邊に植林し、平池に溝渠を穿てば、田に灌漑し、各戸に給水すれども、治水を過まちまた怠れば、田野を浚ひ、都市を流す。過去百有餘年の資本主義の弊におびえて、産業と經濟的生活に衝動を杜塞する事は、氾濫を恐れて、河川なき國土に移住を企てると同じ淺慮だ。沙漠に行くほかないのだ。

筋肉勞働者にも、智識勞働者にも、その人の必要と、その業の成績とを目的として、社會の經濟的待遇を厚くし、なに人も、經濟的必要のために自己の人格的個性を犠牲にせず、自己の人格的個性の必要のために、經濟的生活を使役しうるやうな個人心理と、社會組織とを、われらは、經濟的生活の危機ともいふべき現瞬時に際會して、すべからく考究建策すべきだ。資本專制と勞働專制とは、その間に時代順相應の本質的進歩はあつても、要するに一形と他形に於ける經濟專制だ。そこに社會理想としての不備がある。綜合的社會理想は、經濟と政治、教育、學藝等との關係を、人間の本質に於ける機能的位置の當然態を標準として決定する。各人に經濟的自治が必要である如くに、社會の各機能に經濟的自治が必要だ。政黨に經濟的自治がない。こゝに於いてか政黨は出資者の爪牙從僕となる。他の團體的及び個人的の場合に於いても、似た原則が支配する。富をば公有にし、隨つて國としては國有、市としては市有にし、經營、管理、行政をば、その直接從業者の責任とする案は、ひそかに思ふに、われらに、新經濟組織に對する一道の光明を送る。しかし、この案は、決してわれらの結論ではない。われらの結論は、社會生活に於ける各人、各團體の自治、責任、創造の能率を高めるために、各人及び各團體の經濟生活上に於ける自治、責任、創造の能率を高めるにある。エマサンは、英人致富の原因を、獨立を愛する熱情に發見した。恒産なければ恒心なしとは、古くして新らしい金則だ。人格的個性の深要求、眞自覺に基いする獨立、自治、自由を保全擴張する努力と、その一部的必要事として、公私經濟生活の確立とは、政治道徳、社會道徳の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

進步の最前線に立つ要務だ。政治家や公人は國民の延長だ。自尊と、治產とは、國民の各員の私憲として明記される。

階級的社會と議會政治の局限

長谷川如是閑

議會政治をより良くする、といふ事は、何ういふ意味だらうか。

議會政治の本國といはれる英國では、所謂議會政治についてあらゆる經驗を積んでゐる。同國のパーリメントが今日の『ウエストミンスターの宮殿(パレース)』にまで發達したのは、それを稱して議會政治がヨリ良くなつた、といふ外はあるまい。議會が朝廷の權力擴張の機關となつたり、貴族の手先となつたり、政府に買收されたり、さうして、その度合は、何れも日本の議會などの經驗した事もないほど深刻なもので、その結果、今日の堂々たる英國會と發達したのは、人格で云へば凡ゆる惡事醜行を振舞ひ來つた人間が、全く引緊つて立派な人格を完成さしたものと見ることが出來る。それを議會政治がよくなつたのではないといふ事は出來ない。誰に云はせても、英國の議會政治は、民衆の政治最高のものであつて、レエニンでさへも、手段としてならば、英國では議會政治を捨てぬがいゝなどゝ云つて居る位である。

然るに同國の議會政治のそれ程よくなつた時が、即ち議會政治否認の時であつて、今日程所謂議會政治なるものが猛烈に批判されてゐる時はない。チユドア朝の時代殊にエリザベス議會が非難されるのは、それが王權と結び付いたからであり、ワルポール時代の議會が非難されたのは、今の日本の議會の樣に議員が大ビラで買收されるといふ樣な事のためであり、何れも議會が惡かつたことのためであつたが、それが全く良くなつて、模範的の議會となつた今日の議會政治に對する攻擊は、議會が惡い爲めではなく、その最高の形に於て非難されてゐるのである。前の議會に對する非難は、議會をヨリ良くしやうとする非難であつたが、今日の、良い議會に對する攻擊は、議會政治の本質的缺陷から出立してゐるのである。

議會政治は、王權の政治に次いで起つた民權の政治であるといふ意味で、所謂民衆の政治即ちデモクラシーと呼ばれてゐるのであるが、政治的勢力としての民衆は、それが「民衆」の名

で始めて呼ばれた希臘時代から、既に奴隷の産業に寄生してゐる民衆を指したものであつた。希臘の政治は、もしその時代に生存してゐた多數の奴隷に目を塞いだならば、それは實に、理想的の民衆の政治であつた。一つの政治が行詰まれば、直ちに他の政治が發生し發展し、その政治が行き詰まれば、又他の政治が發生するといふ風に、社會的强靭性は極めて强く、依つて希臘國家を、あの世界あつて以來一あつて二なしといはれるほどの高級の文明にまで導いた。然し、考へて見ると、その希臘には、さういふ風の國家の政治が市民の思ふまゝに再建され進轉されること﹅全く沒交渉な——その國家的有機性の產んだ高級文化と全く沒交渉な——多數の奴隷階級があつたのである。さうして此奴隷は、當時の希臘の大哲人等、殊にアリストートルのやうな大哲學者にまで、人間扱ひをされないで、人間と獸類との中間の生物と認められてゐたのである。

　であるからこれらの奴隷の身に取つては、今も唱はれてゐるあの立派な希臘文明史や、希臘政治上の美しい事實や思想や制度やは、全く雲の上の生活のやうに、美しいけれども、自分達のものではない、飛び離れた生活だつたのである。

　幸にも——市民達にとつて幸にも、當時の奴隷は、その傷ましい環境に對して謀反するほど、個人的意識が目醒めてゐなかつたので、自分達の勞役が全く市民の生活の爲めの、文字通りに奴隷の仕事で、その果實は、自分達の生活と交渉のない他の階級の人々の生活の糧に奪ひ取られてゐたことに對して、格段破壞的な行動も採らなかつたのみならず、市民の自由意志によつて次第に解放的の遇待を與へられることを、感謝してゐたのである。

　然し此の希臘時代の奴隷にして、若し現代人のやうな意識を持つてゐたならば、果して、當時の學者や政治家と同樣な口吻で、希臘の政治を賞讃したり批判したりしたであらうか。又當時の市民と同じ心持で、希臘の文明に謳歌したであらうか。當時の奴隷にして、現代人と同じく考へたならば、彼等は、恐らく自分達が、希臘市民でないといふことについて納得することは出來なかつたであらう。又恐らく、奴隷は半人半獸であるといふ當時の哲人の解釋に服從することも出來なかつたであらう。さうして結局、自分達の力を借りて作りながら、その作られたものから自分達を全く排除してゐる希臘文明そのもの﹅意義に疑を挾まない譯に行かなかつたであらう。

　從つて希臘の政治は、デモクラシーの時代でも、アリストクラシーの時代でも、プロトクラシーの時代でも、タイラントの時代でも、それらのいろ〳〵の政治の良否は、たゞ市民にだけ良

かつたり惡かつたりするので、奴隷にとつては、一列一體に、自分達を除外し、虐使し、絞取する政治に外ならなかつたのである。たゞ幸なことには、當時の奴隷は、そこまで自分を活かして行く必要を感じるほどに人間として成長しなかつたので、自力で、その仲間に割り込んで行くことをしなかつたに過ぎない。

近代に於ける議會政治の批判は、丁度、右にいつた希臘の奴隷が、人間的に成長したことから起つた現象なのである。

如何なる時代にも奴隷はある――此の事實は、私達の先代までは、たゞ事實として承認されてゐたので、（場合によつて、その事實を肯定する哲學を産みながら）あるが、その承認の理由は、畢竟は奴隷たるべき人間の生活が、その事實に堪へてゐたからである。希臘の市民が、奴隷的政治に堪えないで、常に謀反の民であつたのは、彼等の生活意識は、彼等をして少しでも奴隷的であることに我慢し切れない人間たらしめたのであるが、當時の奴隷の生活意識は、それに堪えてゐたのである。が彼等をしてその生活に堪えしめるものは、實は生活の意識の如何ではなく、生活の事實そのものである。人間は、一定の生活事實に堪えてゐる間は、その生活に對して決して謀反を起すものではない。その生活の事實が、彼等に堪え切れなくなると、そこに謀反が起る。であるから、革命は常に、生活を迫害――政治的か經濟的かに――されてゐる階級から起る。市民の革命は、市民が支配者の壓迫に堪え切れなくなつてから起る。佛蘭西革命でも、米國の革命でも、他の大小革命でも皆さうである。が市民の革命は、必らず貴族を生ずるか、金權を生ずるか、―何れかの結果を持ち來すもので、それは希臘の昔からさうであつたが、それを大規模に發生せしめたのは、中世の封建制――澤山の貴族の分立――と今日の資本制度――澤山の金權の發生――である。封建制度は、何處の國家に於ても、屹度武權統括者と市民との結合によつて崩される。日本の封建制度も、皇室と市民との結合との下に、大名の隱遁を持ち來して崩れた。（維新の革命が、それを崩したのではなく、革命後の市民的勢力の勃興によつて崩れたと見るのが妥當と思ふが、それは餘談故詳說しない。）かくて勃興する市民は、屹度型の如く、金權政治を發生せしめる。最も發達した今日の金權政治は、即ち資本制度の下に於ける國家そのものである。

で政治史のかくの如き推移を見れば直ぐ解ることであるが、そんな風に王權政治、貴族政治、平民政治と、いろ〳〵に移り變つても、それは丁度希臘の政治が、それと同じ移り變りをしてゐたのと同様、社會の上層階級の間に行はれてゐる泛話

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

であつて、如何なる時代に於ても、常に、その下層の方に下積みになつてゐるところの、それらの移推と沒交渉な階級があつた。

而して此下積み階級は、始めは、文明史や政治史から除外された生活に甘んでゐたのであるが、次第に、さういふ生活に堪え得られなくなつた事情が兩面から發生した。一面に於ては、彼等の在來の宿命的階級觀の破れたことで、他の一面に於ては新らたな宿命の發生したことである。

在來の宿命的階級觀が破れたといふのは、昔の奴隷の發生は、決して宿命的でなく、征服や貧困に原因したに拘らず、奴隷には奴隷たる先天的運命があるかの如き信仰や、その信仰に基く道德や哲學が發生して、そこに宿命的階級觀が成立したのであるが、その宿命的階級觀は、現に、新らしい奴隷の増加によつて、事實の上で破られる。それは、市民が奴隷化するといふ事實である。市民が奴隷化するといふのは、近代的産業生活の特徴であつて、小市民の多くは、近代的大産業の結果、小資本家の地位から、一勞働者に墜落する。又勞働生活者であれば、ギルド式の職人の生活――一本立ちの勞働生活――から使用人式の勞働者生活に墜ちて行く。それは墜落の度台に於て大抵現代式奴隷にまで行かなければ止まらない。その新しい奴隷は、奴隷の生活に何ういふ效果を及ぼすかといへば、その階級の規模を擴大せしめると同時に、その階級の意識を發達せしめる。此の意識は、結局に於て、宿命的奴隷と相容れない意識を發生せしめる。即ち、彼等は、奴隷の階級を宿命的に、受け容れやうとはしないのである。加之、同時に、近代的自由主義の組織は、往々――それは全くの「往々」であるが――奴隷階級から、大市民を出すこともある。これは、泥棒から大名が出るといふ封建時代の事實と同樣に、宿命的の階級觀を破壞して、人々に、謀反氣を起さしめる作用をするのである。自由主義の政治、産業組織の下に於ては、奴隷が市民化するといふ稀有の事實は――それは稀有の事實であるが――一般の宿命觀を破るに十分である。で、新しい奴隷階級は、市民に對する一種の反抗的意識――平等の意識――を産み出さなければ已まない。

今一つの方面、即ち、新しい宿命觀が發生するといふのは何ういふ事であるかといへば　それも亦近代の經濟組織が固定せしめた社會制度のそれであつて、資本制度の下に於ては、或る偶然の機會が與へた富の占守が、殆んど宿命的に、その占守者の運命を決すると同時に、全く富から離れた階級のそれをも決定せしめるといふ事實である。

今日の組織とそれに基く制度とによれば、勞働者は、永久に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

その勞働を資本家に賣るといふ生活から自由にされる道はない。そのうちの少數者は、希臘的時代の奴隷と同じく、資本家の自由意志により——多くの場合は、資本家自身の利益の爲めに——資本家階級に選拔されて、非奴隷的地位を得ることもあるが、それは全く資本家が、自己の利益に自由意志を働かせる場合に限るのであるから、到底自然の順序として望むべ　らざるものである。で今日の奴隷階級は、宿命的にその階級に釘附けにされる。これは、偶奴隷階級から成金が生ずるといふ稀有の事實に慰められ、又其事實を誇張する自由主義の教訓に欺かれて、信念としては、さういふ宿命を信じないものも澤山ある。さういふ澤山のものは、或る機會が自分を成金にし、資本家にするといふ妄想によつて、資本制度によつて利得してゐる人々の心理と同樣の諸心理を働かして、自分の奴隷的地位の宿命的でないことを信じやうとするが、さう信じてゐるだけなら好いが、それに基いて行動すると、大抵慘じめな失敗をして、却つて一層奴隷的實生活に陷ち込むのである。で畢竟、今日の經濟組織の下では、勞働者の生活は、彼れ等をそこから救ひ出す可能性が全く無いといふ事實を發見させられるのである。

これが、新しい奴隷階級の宿命なのであるが、この宿命は、事實のそれであつて、もし今の奴隷が、この事實を、そのまゝ承認して、それに盲從すること太古の奴隷の如くであつたら天下泰平であるが、今日の人間は既に前云つた通り、宿命的階級觀なるものから解放されて、平等的觀念が、異常に發達してゐる。近代の科學的智識は、一旦平等觀を極端まで發展させ、更らに又それを打ち破るやうなことをしてゐるが——云ひ換へれば、科學に基く人類の平等觀は、更らに精密な科學によつて、否定されてはゐるが——然かも此科學的事實は、更らに平等、不平等に宿命的のものがなく、すべてが相對事情によつて定り環境によつて定められることの發見なので、或る人は、殊に不利益な地位に忍ばなければならない先天命令なるものがあることは承認しない。そこに今日の奴隷の科學と、それに立脚する哲學とが潜んでゐる。先天的の最高目的が、私達を今日の地位に釘附けにするといふ國家的又は階級的の獨斷は、今日の哲學者を滿足させることが出來ないと同時に、今日の奴隷を納得させることも出來ない。

で今日の下積み階級は、自分の頭上の飛び離れた高い所で行はれてゐる優等な政治について、或る順序の態度を採つた。即ち始めは、それに自分を割り込ませる態度で、次ぎには、それを自分達まで引下げるといふ態度である。

第一の態度は、昔の市民が、專政の支配に對して取つた態度

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の模倣である。昔の市民は、政治的革命又は、經濟的實力によつて、次第にそれに成功して、今日の、市民の支配を實現せしめた。今日の下積み階級が此の態度を採つてゐるのは即ち選擧權の擴張となつて現はれる。それによつて、奴隷階級は、次第に、支配に割り込んで行かうといふのである。

が此の割り込みは、實驗の結果は、――まだ終局の試驗が濟んだ譯ではないが――は、何處まで行つても、支配階級の支配から解放される見込に乏しい。それは理論的に云つても、全體の機構や機械をそのまゝにして置いて、或る選ばれた少數人がそれに參加するといふのは、淡流に畫の具を流したやうなもので、そこに在來の支配組織の自淨作用が働いて、異質が在來のものに變質する化學的作用を起すのである。それは、英國の勞働黨などの進化を注目すれば、既に今日の所でも、窺ひ知ることが出來るのである。

或は云はれてゐる。その在來の組織を、或る階級が獨占することによつて目的が實現されるであらうと。然し在來の組織を尊重し出したのは、それが、或る階級の獨占に歸することの出來ない組織だから、といふのであつた。然るに組の織形式は、さうなつてゐるに拘らず、社會の他の制度――例へば所有權尊重の制度、賃銀制度、資本の企業獨占の制度等――は此の形式的理想を破壞して、事實上無意義のデモクラシーが成立した譯である。その實效を失つた形式によつて、更らに、他の階級――勞働者階級――の獨占を持ち來すことが出來る筈はない。何となれば、今の組織が、今の實質に變化したのは、今の社會制度が、それを致したのである。然るに、その今の社會制度を進化せしめやうといふ他の階級が、同じ機構や機械によつて、その新しい社會制度による組織を運轉せしめる事が出來る筈がない。

然しながら、此の理論的立場は、何人もそれを嚴正に守ることは六かしい、何故ならば、それを嚴正に守ることは、即ち、今の政治的機械構造に依らないといふことになるからである。で目下既に、さういふ立場にある多くの實際論が唱へられ、又實際運動となつて現はれてゐるに拘らず、他方に於て、市民の集團は、依然として、在來の機構の下に强固な堡壘を作つて、それに閉籠り、他の階級の人々も、その堡壘の內に、――如何にしてその堡壘から自由になるべきかを考へながら――同一集團內の生活をしてゐる。これが今日の社會的生活の階級的對立の現象である。

然るに堡壘の占據者は、全く此の社會的進轉と沒交涉に、依然として、下積み階級の頭上高く飛び離れた所で、その階級と

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は全く沒交涉な芝居を得意になつて演じてゐる。然かも、その芝居は、全くチユードア王朝のそれ、ワルポールのそれである。日比谷のそれが、「ウエストミンスターの宮殿」にまで向上するのは、英國人の經驗によつても、二百年はかゝる筈である。大正二百十年に、漸く日比谷がウエストミンスターに追ひついたころには、ウエストミンスターは何うなつてゐるであらう。

現代政治を考察して、社會政治の外に出ることの出來ないのは、專制政治を考察して、神權政治の外に出ないのと同じ氣の毒な態度である。

政商問題

法學博士　堀江歸一

政商の起る所以

政商と云ふ言葉は近頃一般に唱へられて居るが、如何なる業態の商賣をする者が政商であるかを考へると、自ら三四の種類があるであらう。試に之を列擧すれば、左の如く爲る。

第一、所謂御用商人として、世間に知られて居る者がある。即ち政府に對して、勞力なり、物品なりの供給を請負ふ者であつて、個人にもあれば、會社にもあり、財政の規模が大きくて、政府が勞力物資の購入に費す所が大きく爲れば、爲るに隨つて、此種の御用商人は其數を增すし、又其資力を豐富にする。我國の實際に就て考へても、日清、日露の兩戰爭に於て、又其等の戰後に行はれた軍備擴張に於て、御用商人が囊裡を肥したことの少なくなかつたのは、明白の事實であつた。

第二、政商の第二類として、私が玆に擧げるのは平生何の商賣を營んで居るかを問はず、常に政府の權臣大官に關係を結び、其門に出入して居る間に政府の機密を探り出して、之を商賣上に利用する者であり、此輩は更に一步を進めれば、權臣大官を誘惑し、一部の利益金を分配すると云ふような不正の條件で、秘密を漏洩して貰ふのである。戰爭なり、又外交上の關係の紛更した場合なりには、一寸した政府の秘密を探り出したことも、商賣上大なる效果を齎すことゝ爲る。商賣人が政府の大官權臣に阿附して、只管其及ばざるを恐れるが如きは、當然とす可きである。

第三、今日政府は國民經濟に對して、超然たる地位に居るものではない。寧ろ政府は多くの事業に創立の特許を與へたり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

機械の認可を下したり、又は保護金を交付したりすることに依つて、國民經濟と密接の關係を持つのである。政府が是等の保護干渉を民業に加へる場合に、誠實に之を爲すかどうかと云ふことも、一つの問題であるが、假に之を爲すに誠實であつたとした所で、民間營業者の方では、保護を受けることの厚いか、薄いか、特權を賦與されることの多いか少ないかと云ふことに依つて、營業上に大なる得喪の存することを免かれないものとすれば、營業者は必ず政府の有力者に結託したり、又は彼等の歡心を繋いだりして、自己の便宜を謀るのは、勿論であつて、彼等自ら政商の列に入るのである。

政商は何故に憎惡され輕蔑されるか

上述した政商の三種類は即ち一國に政商なるものゝ依つて起る所以を説明するの具となるであらう。而して政商の種類を區別して、其一個一個に就て考へたならば、政商の社會に發生し來つた理由は甚だ明白であつて、要するに政商も他の凡百の商賈人と同樣、社會に於て、之を必要とする事情に胚胎して、發生したものと認めなければならぬ。即ち政府が民間の物資を購入する時に、又民間で働いて居る人を雇入れる時に、一々小賣商人の店舗に官吏を派出して、買入れるとか、又は一個一個の人に就て、賃銀を協定した上で、其人を雇入れるとか云ふような方法を取つたならば、事頗る煩雜であるから、御用商人として、一手で政府に物資勞力を供給する者の生ずることを必要とする。唯斯く必要である御用商人が政商の一種として、兎角世間の非難を受けるのは、何故であるかと云へば、彼等が政府の御用をする間に、監督檢査の衝に當る官吏と結託し、或は彼等の眼を掠めて、不合格品を納入したり、又勞働者に拂渡す可き賃銀の上前を刎たりするが爲めに外ならぬ。現に先年三井物產株式會社が海軍省の上司に贈賄して、軍艦建造の件に就て、不正の利を謀つた爲めに、海軍部内にも、三井の重役中にも、法律に觸れる者の輩出したことは、吾人の記憶に上つて居る所であり、又兩三年前には高田商會や、大倉組の重役などで、製鐵所の當局者に贈賄した廉で、所罰された者もあつたやうである。

三井、大倉、高田と云へば、我國富豪社會に於て、巨擘を以つて目され可きものであり、殊に前二者の如きは、富豪たるの故を以つて、爵位を拜受する光榮を擔つたのである。然るに彼等の素町人根性は依然として改まらず、自分の資力なり、又は自分の使役する使用人の知識鍛錬なりを利用して、正々堂々他と競爭し、其間に自家の利益を謀ると共に、他人の利益を擧げると云ふ態度に出ることが出來ず、賄賂を用ひて、官吏の良

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

心を暗ませ、斯くて不正の利益を占めることに心掛ける。彼等は如何にも利益するであらうが、同時に國民は不當の損失を強いられざるを得ない。然らば御用商人の如き者が幾ら富んだとした所で、其富は不正不義の結晶物であるが如くに、解釋されて、社會の輕蔑を招くのも亦怪むに足らない。殊に彼等なり、又は彼等を圍繞して居る番頭なり、多くは成り上り者であつて人格槪して劣等であり、加ふるに不正の手段で、貪り得た暴利を散ずるに就て、節制す可き道を知らないで、社會の風敎道德を攪亂することの如き、一層彼等に對する世間の反感を大ならしめる所以である。

政治の機密と商機

第二種の政商は第一種の政商即ち御用商人と兼ね營まれることもあるが、又單獨で行はれる場合も少なしとしない。立憲政治の要義として、吾人の重きを置く所は、實に政治の公開であつて、公開された政治に對して、國民が充分に之を知り、又之を監督すればこそ、私曲不正の行はれる虞れなきを得るのである。然し政治の内部に這入れば、幾多の秘密もあらう、又將來發表す可き事柄であつても、當分嚴秘に付せなければならぬこともあらう。然るに此秘密が嚴重に確守されて、他に漏洩するようなことは、絕對にないかと云へば、必ずしもさうではない。市場には必ず早耳連と云ふ者があり、其れ等の人々は巧に政府の機密を搜り出して來る、國際間の交涉切迫して、戰端が開かれるであらうとか、或る地點に向つて、軍隊の輸送が開始されるとか云ふような事件は勿論何國に如何なる突發事件が起つたとか、日本銀行が金利步合を改正するであらうとか云ふような事に至るまで、一々一部の人々に依つて、早く嗅ぎ付けられ、取引を決定する指針に充てられる。

斯る官廳の秘密を搜り出すには、如何なる方法が用ひられるであらうか。一國政治の中心的勢力とも云はれる大臣權官の門に出入することの必要であるのは勿論であつて、時には大臣の顏色の如何に依つて、政治の將來を卜した者すらあると稱せられる。而して單に大臣の門に出入するばかりでなく、更に一步を進めて、機密を利用して、儲け得た利益の一口を大臣に與へることゝし、斯くて大臣をして進んで機密を洩らさせることにしたならば、早耳連中の益する所は少なからざる譯である。苟も國務大臣たるものが政治上の秘密を他人に漏洩するが如きは、ある可からざる話であるが、既に明治初年に於ても山城屋和助であるとか、藤田傳三郎であるとか云ふような政商が居り、一方に今日に爲つて見れば、二枚舌を遣ふ大臣も、臣節を盡さな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

い大臣も、株式の賣買で、巨利を博する大臣もある位の世の中であるとすれば、斯る品性の人々が政商を近附けて、官廳の機密を漏洩し、其欲する如くに、投機市場を左右するに至らしめることも誰れか能く絶對にないと云ひ得るであらう。

私は第一種の政商は起る必要があつて、生じたものであつて唯其悪用されることを遺憾とする旨を述べたが、第二種の政商に至つては、何等之を必要とする事由を存じない。彼等は大官權臣をして不正の利を營ましめる毒蟲であり、又市場に於て誠實に、又健全に行はれ可き取引を攪亂する魔物である。彼等の存在することに依つて、政治上の德義も、經濟上の道德も共に腐敗の境に導かれる譯であつて、其罪憎むに堪へたりとしなければならぬ。昔は武臣の命を惜み、文臣の錢を愛するを以つて悪業の双璧として居つた。然し今日は世が澆季に爲つた故であるか、文臣の錢を愛するが如きは、尋常の事であつて、而して如何にして其愛する錢を得るかと云へば、多くは政商の協力援助に依るのである。左ればこそ政黨に於ても、會社を濫設して、其權利株を要路に分配したり、幹部に割與したりする政商が威を張る次第であつて、官紀の如きも、斯る政商輩に依つて、蹂躙されるものと云はなければならぬ。

政黨と政商

從來政商なるものは、時の大官權臣に迎合して、其歡心を繋ぐに忙はしかつた。道途の風説では、墨堤に在る某富豪の別莊は大官の淫樂を縱にする所であるとか、或る富豪は桂公の爲めに嬖妾を周旋したとか途方もない話は屢々世人の耳目を惹いたようである。藩閥や、官僚が政治を壟斷して居つた時代には政商は藩閥なり、官僚なりの代表者又は近き將來に於て代表者たる可き人に離る可からざる關係を結んで居れば、其れで目的を達し得られた譯であるが、政黨政治の今日に爲り、政黨が一つの團體として、政治的勢力を持つように爲れば、政商輩は自ら政黨に着目する。一方に政黨も政治運動の爲めに、巨額の資金を調達しなければならぬ地位に居るので、自然政商と結託し平生若干の資金を貢納させて、其代りに其代償と成るだけの利益を政商に與へることゝ爲る。然も政商に與へられただけの利益は自ら、民衆に負擔を蒙らせる所以と爲りはしないであらうか。果して然らは民衆は政黨と政商との結託した結果として、犧牲を荷はざるを得ない道理である。

近頃政黨と政商との關係で、世間に發露されたのは、神戸の船成金内田某が憲政會總裁加藤子に條件付きで五萬圓を與へた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と云ふ事件であるが、私の耳にして居る所では、此位の事は今日の政界に於ては尋常茶飯事であつて、毫も異とするに足らない。政商が政黨に寄附金をするのは、政治上の趣味から來るのでもなければ、其主義を實現させる一助に充てようと云ふ考に基くのでもない。晩かれ早かれ其政黨の政權を掌握した時に臨んで、政權を利用して、既に寄附した金額の十倍にも、二十倍にも當る儲けをしようと云ふ算盤勘定に依るものに外ならない。加藤と云ふ人は此邊の取引に於ては素人であると見へ、後日の證據と爲る可き禮狀などを出し、而して內田は自分の思い通りに憲政會の動かない、否自分の仕事に對して、憲政會員が衆議院で攻撃を加へたと云ふ腹癒せに、加藤の禮狀を他人然も敵黨の手に渡すような途方もない事をしたればこそ、所謂珍品問題も世間に喧傳されたようなものゝ、他に證據を晦した、さうして規模の大きい珍品問題は幾らあるか知れない。日本の政治が何時まで經つても、金權政治の色彩を脫し得られないのも、故ありとす可きである。

特權保護事業と政治

今日經濟組織の複雜である以上は、一概に以前行はれたような極端な自由主義で、政治と經濟との關係を律するを得ない。或る場合には、政府は一の會社に事業を經營する特權を與へ、營業者をして其經營に安んぜしめるのが必要であらう、又或る事業に保護を與へて、其存立を助長することも、有用の方策であらう。然し一方から云へば、斯る政策の行はれる爲めに、政府の支配下に立つ會社なり、銀行なりが出來、其會社銀行の重役は多く政府に依つて任免の權を握られて居り、政府の命に背いたならば、直に其地位を奪はれる虞れがあるので、假令ひ會社銀行に不利益を及ぼすことであつても、政府の命令に服せざるを得ないことゝ爲るであらう。さうすれば彼等は一個の實業家であるようなものゝ實は一個の政商で、政府の命令を奉じ、時に大官權臣の慾望を會社や銀行の營業上に充たさうとする者に外ならない。

昨今世間の疑惑に掩はれて居る滿鐵問題は如何なる結果を告げるか豫測するを得ないが、是れまで世間に知れ渡つて居る事實に據れば、同會社の正副社長や、二三の理事の如きは、即ち卑む可き政商であつて、自分等を其地位に任命して與れた政府の爲めに、又自分等を擁護して與れる政黨の爲めに奉仕することを知つて、會社全體の利害を閑却した譏を免がれないようである。最近數年間我國の政治が著しく政黨的色彩を帶びるように爲つてから、内閣が更迭すると、保護會社や、保護銀行の重

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

役に異動を生じる例が多い。滿鐵の如き、其内でも最も著しいものであるが、他にも其れに類似したものがある、又異動のない場合にしても、斯る銀行會社の重役は新内閣の大臣なり、又は其内閣を擁護する政黨なりに連絡を設け、自ら進んで或る御用を勤め、斯くて地位の安泰を謀つて已まない。政治は今や事業の或る方面を蔽うて、其獨立を脅かしつゝあると共に、世を擧げて政商の跋扈に任せて居ると云つて差支なからう。是れで我國實業の發達が期せられるであらうか。特權事業や、保護事業と政府との間に存する關係を一新し、政商跋扈の弊を絶つことは今日の急務である。

政商卑む可し

政府の請負を爲す者又は主として政府の請負を爲す法人の役員の衆議院議員被選擧權を有しないことは、我國選擧法の規定する所であるが、是れは眞向正面から請負人たる政商の獨立の意思に缺ける點多きを理由として、政治上の無人格者とした所以であつて、如何に請負人の卑む可きかを法令上に明にしたものである。英國に於ても先年ジヨセフ、チエンバーレン氏が殖民大臣であつた際、氏の兄弟が「コントラクター」（請負人）であると云ふことが議會の問題に上り、チエ氏をして辯護に力めしめたことがあつた。然しながら政商の卑む可きものは、獨り請負人のみに止まらない、政府の機密に乘じる者も、保護や、特權の恩惠に縋る者も、政商として政治を腐敗させ、社會を攪亂させる點に於ては、請負人に讓るものではないのである。

如何にしたならば、此卑む可き政商を社會から一掃し得るであらうか。固より其根本策は資本主義を基礎として、現在の經濟組織を一新するにあるが、是れは差當り行はれないし、又無理に行つた後の利害も明なるを得ない。モツト實行の容易なる方法としては、

第一、特權保護を得る銀行會社であつても、其重役の任選は株主總會に一任すること、

第二、特權保護の爲めに、銀行會社が其創業時代に利益を得たとすれば、事業の發達した後に、保護金なり、特權に對する代償金なりを政府に返還納付せしめること、

第三、特權保護に依つて、存立する事業の會計狀態は周密に之を世人に公示すること、

第四、請負に關する會計事項に就ては、會計檢查の嚴正を期すること、

第五、政黨は同志者の任意的寄附以外に、他より何等の損害を仰がず、會計上に獨立自治を謀ること、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第六、政商や、政商を近づけた政治家に對する社會的制裁を嚴正にすること、

の數點を擧げたいと思ふ。

「鏡に映れる醜婦の顏」

永井柳太郎

專制國の官吏は無限の權力を有するのであるから、法律上何をしても無責任である。併しそれでも道德上の責任は免がれぬ。その横暴が度を越ゆれば、或は暗殺とか或は革命とか、何等かの制裁を受くるに至る。立憲國に於ては官吏の支配權は法の規定に基き制限せられて居るから、法律上に於ても決して無責任でないのみならず、民衆の公僕として民衆全體の幸福のために奉仕すべき道德上の責任は頗る重大となるのである。だから立憲國に於て政權を執る者は、國憲を重んじ、國法に從ふ誠意がなければならぬのみでなく、民衆全體の幸福を圖り、常に民衆全體の利益を先にするにあらざれば、君主又は國家に對する忠誠を全ふした事にならぬ。若し此責任を完ふし得ざる者があれば、斷じて其地位に止まるを許さず、必ず之を彈劾すると云ふやうでなければ眞の立憲國でない。

然るに今日の我國に於て政權を執る者を見るに、果して立憲國に於ける政治道德の何たるかを解して居るか何うかを怪まざるを得ない。アフリカのブシメンと云ふ野蠻人は善惡を判斷するに際し、何でも己の欲する事は善、己の欲せざる事は惡と云ふさうで、譬へば自分の女房を他人が奪つて行くと彼は惡い奴だと云ふ。それは人の女房を奪る事が絶對に惡だと云ふのではなく、自分の女房を奪られる事は自分の欲せざる事であるから惡である。自分が人の女房を奪る事は自分の欲する事だから善であると云つて居るのだと云ふ事を曾て聞いたが、今日の我國に於ける政治家が互に自己を辯護し、又其反對黨を攻撃して居る政治道德の標準は此アフリカのブシメン人と多く異る事がないやうに思ふ。譬へば所謂元老が皇室と人民の中間に在り、封建的感情に基きて政權を左右せんとする事は、之を攻撃しても自分の黨派か同じく政權を壟斷して黨利黨略を專らにする事は敢て罪惡とせぬ。反對黨が富豪から選擧費の寄附を受けた事は罪惡の如く吹聽しても、自黨が公權を濫用して公金を私する事は毫も恥とせぬ。最近は此弊風が益々著しい。かの滿鐵問題や阿片問題や、東京市疑獄事件や横濱脫税事件や、それからそれへと不正事件が續出して、遂には總理大臣の周圍に在つて、何

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

理大臣と最も密接なる地位に在りと認めらるゝ人々に迄嫌疑が及ぶと云ふ程になつて居るに拘らず、總理大臣が之等の人々に包圍せられて居りながら、毫も自己の政治道德上に於ける責任を顧る事なく、却て一般の民衆に對して世道の頽廢を論じ、公德を振興するの必要を說かれつゝあるが如きは實に矛盾の大なるものと云はねばならぬ。

凡そ國家は法律のみに依りて治めらるゝものでない。法律の後には輿論がある。輿論の後には人民の道德的信念がある。法律は畢竟するに人民の道德的信念を形式的に發表したに過ぎないのであるから、其人民の道德的信念が消耗し、公議輿論が起らなければ、法律はあれどもなきが如く、畢竟一片の空文に終り如何に峻嚴なる刑罰を以て之を強制せんとしても、法網を潜る者隨處に起り、遂に國家の組織其物が崩壞を免れぬのである。今日の我國に於ける政治家が法律上の罪人さへ出さなければ政治道德上に於て如何に疾しき所があり、人民の非難が如何に喧すしくとも之を顧る所なく、法律が善惡正邪を決する唯一の標準であるかの如く考へて居るのは、實に國家の生活の根底は其社會に於ける道德的信念に存すると云ふ大事實を忘却したるものであつて、國家を危機に陷るゝ事此種の政治家より大なるはない。凡そ健全なる立憲政治の下に於ては、暗殺とか革命とか云ふものゝ必要は消滅すべき筈である。暗殺とか革命とか云ふが如き不幸を經過せずして文化の進歩を促す事の必要から立憲政治も起り來つたので、立憲政治の眞値も亦其處にある。だから立憲政治は或意味に於て新陳代謝の政治であるとも云ひ得るのであつて、人民の公議輿論に從ふて政權を掌握し、居る者が常に新陳代謝する事を其道德上の責任と認むる政治である。然るに其公議輿論に從ふて進退すべき道德上の責任を無視し、法律上の罪人とならざる限り、永久に政權を掌握し、其私利私欲を逞ふし得べきものなりと信ずるが如き政治家ありとせば、そは即ち立憲政治の破壞者であつて、斯くの如き政治家の存在する事が、立憲政治の本義と反する如き諸種の危險思想を醸成する根本原因となるのである。

今や我國民は政治道德上に於ける一大覺醒の時機に遭遇せりと云はねばならぬ。頻々として起る疑獄事件は、一方に於て資本專制主義の經濟組織に避くべからざる弊害を曝露したものであると同時に、他方に於て日本國民の中に未だ人間の人格の絕對價値に對する自覺がない事を白狀するものだと思ふ。資本專制主義の社會に於て資本家が跋扈するのは當然のことで、獨り政治家のみでなく、學校の經營者も、新聞雜誌の經營者も、時としては勞働運動の指導者迄も、其前に膝を屈する事が少くない。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だから政治道德の腐敗の背景に資本專制主義の經濟組織あることは認識する事が出來ぬけれども、それと同時に日本國民が自己の人格の絶對價値を信じ、個性の權威を發揮せんとする情熱があれば、民衆の生存及び利福を犧牲として自己の屬する黨派又は階級のみの利益を專にせんとする政治家を排斥する事は、決して不可能でない。國民の大多數は爵位ある者の尊きを知り財產あるものゝ尊きを知り、又權力ある者の尊きを知つて居るけれども、總ての人間は人間としての絶對價値を有する者なる事を知らぬ。總ての人は其人に非れば果す事能はざる獨得の使命を帶びて此世に生れ出たる者にして總ての人の人格は此意味に於て絶對價値を有する。此價値は其人の位階や財產や權力に獨立したものであつて、此價値を認識し、各個人をして其生存の眞意義と信ずる處に徹底すべき均等の機會を保障する事が卽ち憲法に個人自由の權利を保障する所以ではないか。此人間人格の絶對價値を認識すると云ふ事が卽ち現代文明の特徵であつて、此文明の特徵を理解せず、自己の個性の權威を充分に自覺しないと云ふ事が今日の日本に於て眞の立憲政治が行はれず、政治道德の興らざる根本原因であると思ふ。だから今日國民が政治道德の腐敗を歎じ、政治家の罪惡を攻擊するは、恰も鏡に於て、醜婦が鏡に映れる其顏の醜惡を攻擊するが如くである。國民の大多數が其個性の權威を自覺し、人間人格の絶對價値に對する認識に徹底せざる間は社會共存の倫理を基礎とする政治上及び社會上の改革は不可能であつて、特殊なる一階級又は一黨派の政治道德を無視したる階級的又は黨派的掠奪が繼續するに相違ない。

國民の政治的興味を高めよ

文學博士　三宅雪嶺

日本の所謂紳士階級の間、頻りに疑獄が起るので人が驚き、若し訐き立てれば何處まで及ぶか知れぬと云ふので、いよ／＼驚かずには居れぬ。腐敗事件は何處にでもあり、エッフエル塔とて世界に名高い巴里の塔を建築したエッフエルから、特殊の才能を抱きつゝ腐敗の嫌疑で行方を昧まして了ふた。健在して居れば、戰爭中に何か珍しい工夫をしたらうに、惜しい事になつた。

然し何處にても腐敗事件あるものの、日本の紳士階級と英

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のゼントルマン階級とを比べれば、前者の劣るを許さずに置けまい。戰時中後者の家庭を破壞したのが少くなく、戰前程ゼントルマンの品位無いにしても、腐敗を許き立てれば何處まで及ぶか知れぬといふ疑は無い。惡いのもあるけれど、尙ほ信用を繫ぐに足る。日本の紳士は食・衣・住の程度が高い丈けで、性格に於て何の優る所あるかを示さぬ。普通に賤民とし卑む所が、却つて心掛けの好い事、丹那山の坑夫を以つても察し得られる。

紳士階級が當てにならぬといふ事、誰云ふとなく知れ渡つて居る。知惠もあらう、知識もあらうけれど、性格に少しの優る所がない。何故に此の狀態であるか。曾て自ら道德を以て任じ、君子國を以つて處り、學術技藝に劣つても道德を以つて優ると信じ、而して現に此の有樣を見るは、奇異の感を免かれぬが、實は明かに由りて來たつた所がある。一に國民道德が比較的練磨されぬ所があり、二に德教關係者が實相を解せず、判斷を誤つた所あるに由る。明治維新まで階級の區別を嚴にし、同階級間に道德的關係が成立ち、他の階級と沒交涉の姿になつて居つた。武士の間、所謂武士道があるけれど、素町人土百姓の與り關すべきでないと定まつて居り、町人に何が判るかと相手にしようとせぬ。武士も永らくの太平で、當初起つた必要を失ひ、形を具へ實を缺くのみでなく、戰時にこそ適すれ、太平に必要な事を缺いて居る。理が否でも君命を以つて死すれば可いとする。忠孝丈けで人間の分が濟み、其他は何うでも可い事になつて居る。若し各階級が相錯綜すれば、道德的關係が一方に偏せず、國民道德といふべきものが成り立つのであるが、幾分かさうならうとし、其儘封建瓦解となつた。

英國のゼントルマンは昔の騎士の風の一般社會に及んで醇化したのであつて、其處に日本の紳士との違ひがある。維新以後多くの場合に階級を撤廢し、武士道が紳士道に移らうとし、尙ほ整はぬ所が多いのであつて、多くの年數を經れば、經驗を積んで練磨し、相當に紳士道の成るを見ようが、なるべく之を早くするには、德教關係者に於て力を用ひねばならぬのであつた。所が德教關係者が力を用ひず、用ひても眼が利かず、事を謬つた。德教關係者のみで事を成し得べくも無いが、今少しく眼が利いたならば、半世紀を經て今日の狀態になつて居るまい。德教關係者の眼の利かなんだのは返す〴〵も遺憾の次第とする。

明治維新まで德教は、儒教及び佛教を主にしたが、儒教に足らぬ所がいろ〳〵ある。儒者の內行の治まらなんだのも故無いとせぬ。文字に拘泥し、眞の道德の何たるを解せぬのが多い。親不孝と云はれた賴山陽は、放蕩こそしたれ、家庭は之を罵つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た儒者よりも治まつて居る。聖堂の儒者で風采無いのがある。何でも形さへ整ひ、人前で行儀を好くすればそれで濟む事になつて居る。將軍直屬の旗本に至つては、何とも話にならぬ次第であり、それを田舍漢の出來ぬ事と誇つて居つた。水戸の藤田相澤等頻りに之を嘆じたのでも分る。

佛教は地獄極樂を以つて勸善懲惡を說くやうで、其善惡の觀念甚だ茫漠に失し、或ひは如何なる惡事をしても念佛を唱へさへすれば救ばれる、阿彌陀は惡人程可哀相に思はれると說く。說き樣によつて一理ある事ながら、斯かる調子で何程國民道德を陶冶し得るか。神道が發達し懸けて發達せず、政府で權力を以つて之を佛教に替へようとしたけれど、無效に了つた。相應の人があれば何事かを爲し得たらうが、さう行かなんだ。

維新以前に或程度までの道德的訓練が行はれ、後に要求する程の訓練が行はれず、或點は稱揚し得るも、後より顧みて如何にも缺點がある。明治維新の起つたのも、缺點の積み重なり、何とか作り替へねばならぬ樣になつたに外ならぬ。年數を經、日本が世界の間に揉まれゝば、厭やでも應でも道德的訓練を經るが、政府に於て豫め此邊に注意したならば、其速度を速かにし得たに、生憎其邊に眼の利いたものが無かつた。人智に限りあり、濫りに之を望むべきでないと云はば云へ、眼の利かなさ加減は隨分甚だしい。維新當時佛教に力無いと見、當時僧侶とし腕を振つた鴻雪爪が神主に早替りした程であつて、政府で一切の革新に當らうとする覺悟であり、それならばそれ相應にすべきであるのに、爲す所他愛もないものであつた。さう思ふやうに行かぬに定つて居るけれども、適當の方法を以つてせば更に效能あつたに相違ない。文部省で教育を普及し、德教を高める心得であつたが、最初より權力者の位置を維持するを本位にし、凡てを之れから割出さうとする。殊更ら企くむよりも、自ら斯くするの當然なるを信じた所に智惠の度合が分る。幕末からの慣しで、佛國ナポレオン三世の政府を以つて政治の要を得て居るとするの傾向がある。使節一行が佛に行つて感心した事もあるが、文明と云へば佛を第一に推す。實に使節が何處へ行つても巴里程好い感をせぬ。明治になつても陸軍は佛に則り、海軍は英に則り、陸軍と共に行政も教育も佛に則らうとした。明治三年佛が獨逸に破られ、帝制を變じ共和にしたのは、意外の珍事で、多少面喰つたが、迚も共和で續かず、必ず帝制と成ると信じた。六年に廢帝が歿しても、尙ほ皇太子があり、必ず帝制を起さうと考へた。十二年に皇太子が南阿で戰死し、帝制恢復の種子が無くなる頃、獨逸のビスマルクに鞍替えする事になつた。何うしても少數者で權力を占め、民衆を押へ付けねばなら

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ぬと定めて居る。それで學校の設備と云へば米國に倣ひ、殆ど直譯的にする。云はゞ米國の教育から自由の精神を拔き取つたものが教育當局者の方針である。學校の職員及び學生は苟且にも政治に關してならぬとし、如何なる條件の下にも之を勵行するを憚らぬ。

明治六年民選議院設立建白が出で、次いで自由民權運動が起り、飽くまで之を抑へねばならぬとなつて居る。比較的最も久しく文部に職を奉じ、それで男爵になつた辻が最後まで新聞發行停止の廢止に反對したのでも察する事が出來る。其辻が文部を去り、新文相井上に抵抗を試みた時、井上は更に取締りを嚴にし、之をして屏息せしめた。所謂鉗口令なるものはそれから勵行された。後に漸く寛になりながら、教育が政治より離れる勢は、依然存續して居る。文部省に於てはそれで尚ほ教育界に國家的觀念を強めようとして止まぬが、國家に對する興味は政治に由つて催される所が多い。政治を離れて何の點に興味を感ずるか、實際政治を離れて忠君愛國の念を養ふの可能性を考へ得ても、多數の上で何れ程の效果を望むべきか。教育が發展し、當初當局者が夢にも思はなんだ程、新教育を受けたものが各方面に廣まつたが、政治に冷淡、延いて餘り國家を問題にしようとせぬ。寧ろ文藝に興味を覺え、思想は直ちに文藝の媒介に由る。文藝が普通の道徳を關はぬ事、尚ほ支那の老莊に類し、下らぬ事に泥拘して何うするかと、熱屬せねば冷笑する。その情態は聊か露國に肖て居らぬとせぬ。民衆が政治を離れ、之に興味を覺えず、文藝によつて種々の事物を考へようとする。元と文部當局者は、學校の職員及び學生が政治に關係しさへせねば可く、文學物を讀んで大人しくして居れば頗る結構と滿足したのである。能く文藝を語り、政治を措いて問はぬ者を、何かにつけて褒め立てた。所が今は一般に文藝に傾き、政治は何うでも可いとし、普選問題が出ても甚だ冷淡、其經過を聞かうともせぬ。政府は自分の安全の爲めに之を喜ばうが、國家は何うでも可く、自ら得取れば可いといふ事になりつゝあるのを何うするか。

紳士階級が何時しか之に感染し、普通に道徳とする所を極めて手輕るに觀て居る。前からして國民道徳の訓練を缺いて居つたのに、後相當の訓練を經ず、直ちに世界列國と交るので、何故に國家を重んずるか、自ら惑ふを免かれぬ。國家の立場に於てせねば、自らの位置を維持し得ぬといふ丈けであつて、之を維持するに差支へない以上、何事をしても可く、只法律に觸れまいとする。次第に慣れが長じて、事が大きくなり、何としても防ぎ斷れず、遂に疑獄に次ぐに疑獄を以つてするに至る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

今は司法官の活動に待つとするが、司法官が何程信頼するに足るか。もと大學法學部に居るもの　働きのあるのが自ら望む方面を指して進み、やくざ者が裁判官となるの嫌ひがあつた。後漸く改まり、秀才で司法官となるのもあるが、畢竟何程の事を爲し得るか。司法權の發動を以つて風敎の廢頽を防がうとするなど、恰かも拔刀を以つて人に敎ふるやうなものであり、之れで何程政治道德を高め得るか。社會道德を高め得るか。

政治道德・社會道德の程度の低いのは、一般民衆が政治の興味なく、他に興味を求めるに伴ふ。初め文部當局者がナポレオン一世を崇拜し、後ビスマルクに移り、佛國が何の事變を經たか、獨逸が何の事變を經たか、何等考へた所がない。英國及米國は論外として、只學校の設備で參考にするに止まるとする。若し英國のゼントルマン階級が如何にして彼の如きに至つたかを調べたならば、必ず別に爲すべき事あるに考へ及ばずに居れぬ。或ひは調べても、先入主となり到底分らぬかも知れぬ。物は形ばかりで濟むものでない、紳士階級をして英のゼントルマン階級の如き狀態たらしめるには、國家的社會的幾多經驗で採んで採み續けねばならぬ。大審院長の位置が日本と英國と著しい距離あるのも偶然でなく、日本に權利義務の觀念の薄いのに由り、其の薄いのは社會の單純なのに由る。國家を以つて世界に事を處するには、國民全體國家を念とするやうにせねばならず、之を念とするには、政治に興味を覺えるやうにせねばならぬ。普選が實施されてもそれで目立つて好い事が無いにしても、多數民衆をしていくらか政治に興味を覺えしめ、國家の利害を考へるに至らしめる。今は政府當局者が權力の觀念あつて、國家の觀念あるか何うか疑はしい。自ら權力を維持し得れば足り、國運の發展について何の考ふる所が無い。之れを考へれば進んで普選を實施する筈である。

舊幕時代武士階級が各地位を維持する丈けの智能を具へ、以つて明治に至り、爾後敎育を受くる者、成るべく政治より遠ざけられ、習性となり、政治に冷淡なるを以つて得意とするやうになつた。自ら局に當れば不言實行、利益を得れば可い事になつて居る。未だ日本が世界的に經驗を積むの少いのに由るけれど、維新以來政府當局者が此邊に氣づかず、事を謬つたのが頗る多く與つて居る。佛獨や英米や、學校で敎へなくても、家庭的に社會的に、自づと公共的精神を發揮するやうになつて居る。日本で後れて居るのは、學校で力を用ひねばならぬのに、殊更ら公共的精神を除かうとし、露國の民衆に近いものにして了ふた。官吏の腐敗も怪むに足らぬ。年數を經れば改まらうが、何でも國民全體に國事を念とし、世界に眼を配ばり、採んで採んで採

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

み續けねばならぬ。政治道德、社會道德共間に進む。

公私道德の區別撤廢と正確なる金錢觀念の養成

高等女子師範學校長　湯原元一

近時都鄙各方面に揚がる疑獄事件も火の手は愈々益々熾んである。何時全く鎭火するか解からない。世人は今更の如く自家の面目の醜きに驚いてゐる。まさかにかくまでとは、誰も思つてゐなかつたらしいのである。

併し、腐敗は今日に始まつたのではない。吾々は從來幾回か此種の疑獄を見た。日糖事件、シーメンス事件、製鐵所事件等は比較的新しいもので、當時既に幾多の所謂名士が痛手を負ふた。其の時は誰しも最早當分はそんな事は起るまいと思つた。然るに事實はさうでない、腐敗は依然として續いてゐた。廓清された處か、彌やが上に腐敗は、其の深さを加へ、又、其の廣さを增すばかりであつた。近年のやうな不祥事件が頻發して、之を大業に新聞に書き立てられては、教育も何もあつたものではない。青年の頭には世は全く僞善の塊りだといふ考への外、ない。

併し冷靜に考へてみると、世は大概こんなものであらうと思ひ當てられないこともない。身分收入不相當な暮しをしたり、遊びをしたりする人は、必ず何か人知れず惡い事をしてゐるに相違ない。かういふ風に大體の見當を付けて世の中を見渡すと、大分善からぬ人が世間にあつて、而かも危ぶない綱渡りするものが多いやうである。或る人が、議員といふ者は先づ相撲取り處だ、何處かに負贔の客があつて、困まれば何んとかして吳れるものだと言つたが、是れは正直な告白である。而か・實際此相撲取り議員が却々に多いやうである。然らば單に彼等のみに依りて受くる社會の損害も決して少々でないといふことが、略ぼ想像が出來やうと思ふ。此の內情を知らぬものは、議員を選良などと呼んでゐるが、此頃の中央地方のを議會の言動を見ると選良でなく選惡若くは選醜であると言つた方が、寧ろ適切ではないかと思ふ樣である。

帝國議會の議員も初めて議會が開けた頃は、まだ幾分か其の志を行はん爲に出たものもあつたが、今日では最早やそんな抱負を有つてゐる者は極めて少數になつた。而己ならず、中には一種の商買をする氣で、それになつてゐる者もあるやうであ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る。こんな事を言へば、議員は定めて大に憤こるであらうがたとへ少數でも此嫌疑に裏書きするものがあれば、かう言はれても仕方があるまいと思ふ。而かも此種の議員は特に東京市會に多いやうである。是れには今回の疑獄があつたので、さういふのでない。議員の素性を見ても解かる。此處ではどうも昔から眞面目な人物が議員にならない。京都大阪當りの市會よりも議員の人物は餘程劣つて、特に金の要りさうな、金の欲しさうな男が多く出てゐる。それに利益問題の多い處と來てゐるから、所謂猫に鰹節で、ツイ惡心を起すものも多いのも、復た已むを得ぬのであらう。

そこで、近頃は是れは本を質せば皆選擧する市民が惡いからといふので、一般市民に對して警告を與ふることになつて、其の爲の講演會などが頻繁に開かれてゐる。併し是れがどれだけの效果を奏するであらうか、まだ判からない。元來市民は決して惡い人物を選擧した積りではない。善いと思つてしたことだが、詰り誑されたのである。昔から徒黨を組んでやる仕事に、君子が小人に勝つた例しばない。運動に掛けては小人は概して特別の技倆を持つてゐるものである。それで、今日でこそ市民も多少後悔してゐるやうだが、其の內又選擧が行はれたら、矢張何時もの通りに目潰しを喰つて、マンマと再び小人の手に乘るに違ひないと思ふ。現に砂利喰ひ、瓦斯喰ひで暗い處に押込められてゐる惡人ども並に其の與黨は今から既に捲土重來の謀を廻らしてゐるさうである。

放火强盜なら、罪人を捕へて處刑をすれば、それで惡人は惡人として一先づ片付けられるが、今回の如き疑獄になるとさうは行かぬ、其の關係する所が極めて廣い。問題の人の中にも、憎い奴もあるが氣の毒と思ふ者もある。且其の犯罪が特定の人に對して直接に損害を與へたのでないから、誰れと定まつて特に憤ほる人がない。唯多數者の道念が之が爲に傷けられて、一時は興奮するだけである。詰り、疑獄の場合には、放火强盜の場合のやうに、明確なる被害觀念が起らないから、言はゞ公憤だけであつて、私憤が伴はない。私憤の伴はない公憤は高尙なものだが、其の熱は低く、隨つて攻擊力は弱く、且永く續かないものである。是れが疑獄が一時世間を騷がしても、幾もなく忘れられて了ふ所以である。

それから、疑獄の起る原因の純潔でないことも亦、關係者に對する一時世論の激昂を幾もなく鎭靜せしむるのである。隱れたる他人の犯罪を好んで摘發する程の人には、所謂蛇の道はへびといふ諺の通り、往々へビに似た小人が多いものである。斯んな人物が起した事件に永久世人の同情が集まらう道理がな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

い。特に近年は政爭の手段として此隱險なる摘發が盛んに行はれてゐる。直に敵の秘密を訐いて其の極、君子の言ふに忍びざることを言ひ、爲すに忍びざることを爲すのである。本人は正議讜論をやつてゐる積りか知らぬが、元來其の奏する心琴の調子が低いのであるから、聽いて公平なる第三者には寧ろ惡感を與へるものである。それで、極論すれば、前述幾多の疑獄事件は、若し此政爭といふものがなかつたら、遂に起らずに了つたらうと思はれる程である。現に今日の滿鐵事件でも阿片事件でも確かに政爭の具に供せられてゐる。政爭の具に供せられないから、惡事が惡事でないとは言はぬが、少くも惡事が惡事としての値打——若し値打と言つてよければ——を下げて貰ふことになる。餘り敵が激しく出ると、此方でもさうは言はせぬ、さういふお前の方はどうだと逆襲する。すると、勝負は五分五分になつて、世人はそこで今は誰れを相手に憤こつてよいか一切解からなくなつて了ふのである。さうなると、玆に舞臺は一廻轉して、善惡の糾彈から權勢の爭奪にと早變はりするのである。而して平生から源平の盛衰を政治の常軌と心得てゐる我國民は、玆に忽ち今まで熱心に注意した問題を一時に抛ち去つて、最早道理を說かずして唯勢力を論ずるのである。政變近づき、內閣交迭と見て取れば、前の道德論などするのは寧ろ氣が利かない迂遠な感じがして、早くも魚を得て筌を忘るゝの例に倣はんとするのである。要するに、かくの如く我邦も道德論は動もすると敵を倒さんが爲め道具に使はるゝのであるから、其の用が濟めば再び必要の生ずるまでは、何處かの隅に放つて置かれるのである。是れでは、疑獄が幾回起つても毫も一般の人心を改悛させないのも復た無理ならぬと思ふ。

それでは、司法權の發動などは當分一切止めにして、腐敗の極端にまで達せられたらばどうかと、國民各自が直接に損害を其の身に痛感するまで、而も已むを得ずリンチを用ふるに至るまで、飽くまで小人の跋扈を許してゐてはどうかと思ふ。勿論是れが實際に出來ることゝは思はぬが、假りにそんな事を想像してみるだけでも、國民には多少其の反省の動機を與へることになりはしまいかと思ふ。或は更に一步を進めて一つの道德の標準を引下げてみたらどうであらう。さうなれば、世は洵に泰平で、今日のやうな不快な騷ぎを見ずして濟むが、併しそれでは我邦は賄賂公行の第二第三流の國に墮落するといふ覺悟がなければならぬが、まさかに其れで宜いと云ふ人もあるまい。してみれば、我國民はどうしても猛省一番して、今日の惡風潮に對して大に戰はねばならぬこととなると思ふ。

元來公德私德を區別する間は道德觀念は未だ純なるものでな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

い。晴れ着道徳と不斷着道徳と云つた風に道徳に表裏があつては、道徳には偽りが含んでゐる。それで、所謂私徳も公徳も同じ一つの道徳として之を人に責めねばならぬ。それと同じく公惡も私惡と同様に之を憎み得る國民にして始めて眞に道徳の門に入つたものと言へるのである。而してこゝに至るのには先づ其の國民に公共觀念の發達することが必要である。國民も各自が其の小我を集團生活の大我の中に見出し得るまでに進まなければ、其の國民は私憤を發しても公憤は起し得ない。公憤を起してゐるやうに見えても、それは見えてるだけで多くは雷同であつて其の心から湧き出してゐるものではない。公共の利害を各自の利害と同様痛切に感じ得る國民にして始めて、私憤公憤を一にして公惡私惡を同じやうに憎み得るのである。是れだけ言へば今日の惡風潮の原因も、又此惡風潮を豫防すべき大責任を有する我國現在の教育缺陷も大體自然に判からうと思ふ。

最後に、疑獄事件に關して世間では主として取る者を責めて遣る者を咎めないといふ傾向がある。是れも私徳公徳を區別して、特に私徳を重んじた昔の道徳觀念の餘弊である。取る者は奪ふに近く、遣る者は施すに似て、前者の甚しきものは盜人であつて、後者の至れるものは仁者であるといふ單純な考へが、此誤りを生ずるに至らしめたのである。遣ること必ずしも善いことではない。況して與ふるは取るたりの主義に出た遣り方もある。贈賄は即ち其れである。故に贈賄は收賄よりも其の心術を論すれば其の罪一層深いものである。收賄者は只取つて自ら利するだけだが、贈賄者は遣つて先づ人を誘惑し、然る後又自ら利するといふのである。してみると、此方が餘程根性の善くない奴と言はねばならぬ。處が、一般にはさう見られてゐない。刑法でさへ以前は唯收賄のみを罰して、贈賄を問はなかつた。今は兩方共に罰するが、矢張り前者を重くして、後者を輕くしてゐる。是れは道徳觀念から見ても誤つてゐる。而已ならず集團生活の綱紀を維持する上からは、寧ろより重く此贈賄者を罰するが良いと思ふ。

社會の表面に現はるゝ法律上の犯罪は、多く貧乏人の責めに歸するやうだが、實際は道徳上の犯罪は案外金持に多いものである。道徳上では、例へば節操を賣ることも惡いが、之を賣らすることも善くない。否、賣るものは已むを得ずして賣るも、賣らする者は已むを得て賣らするのであるから、彼れは餘裕なきに反して、此れは餘裕あつてするのであるから、金持の方が貧しい人より一段と惡い事をしてゐる譯になる。こんな事情があるのにも拘はらず、何かと云へば先づ罪を蒙るものは金持で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なく貧乏人である。呉れる者でなく貰ふ者である。遣る者でなく取る者である。取る者の中にも職權を利用して强奪に等しい非道いことをする者もあるが、今は却々金の力が强いのでそんな者は少く、多くは内緒で頭を下げて貰ふやうである。之に反して遣る方では、是れも昔と違つて袖の下などいふ寸方でなく大威張りで下し置くの態度を執つてゐるやうである。それで、貰つた方で言ふことを聽かないと、太い奴だとばかに何かの手段で極めつける、近頃の珍品事件の如きは卽ち其の一適例であらうと思ふ。

それで、今日の惡風潮の矯正には、道德的裁判は取る者より遣る者にも及ばねばならない。而して其れが出來るにはも少し人間の慾心が薄すくならなければならぬが、其れが却々難かしい注文なのである。金は思つたより有り難いものでないといふ講釋は、十分聞いて承知はしてゐるも、どうしても之を欲しがつて已まないのが、今に始まらぬ東西の人情である。就中、支那は今日でも拜金宗の國だけあつて、金錢に關しては昔から徹底した議論が其の一部に行はれてゐる。

昔支那の晉の時代に魯褒といふ人があつて、錢神論といふ一篇を書いてある。其れは今日の青年などは餘り知るまいと思ふから、玆に其の要點を擧げてみる。彼れは錢の神物たる所以を說いて云く、「位無くして尊く、勢無くして熱し、朱門を排し、紫闥に入る、錢の在る所、危きも安んぜしむべく、死せるも活かすべし、錢の去る所、貴きも賤からしめ、生きるも殺すべし、是故に忿爭辯訟も錢に非ざれば勝たず、脈弱幽滯も、錢に非ざれば拔けず、怨仇嫉恨も錢に非ざれば解けず、合聞笑談も、錢に非されば發せず。」又、曰く、「錢有れば鬼をも使ふべし、況んや人をや。子夏が云く、死生命なり、富貴天に在りと、吾は以おもふ、死生命無し、富貴錢に在り、何を以て之を明かす、錢能く禍を轉じて福となし、敗に因りて成を爲し、危者安を得て、死者生を得、性命の長短、相祿の貴賤、皆錢に在り、天何んぞ與らんや」と、少し誇張に過ぎてはゐるが、世の黄金拜崇者流の考へは、今日と雖大體こんなものである、是れが千五六百年前に出た議論であることを考へると、金錢の力の恐ろしいものであることは、隨分遠い昔から認められてゐたのである。而して此思想、否迷信が人間の心を支配する限りは、贈賄も收賄も共に何時になつても、其の跡を世に絶たうとは思はれない。

然らばどうすれば宜いかといふに、教育者は例に依つて修身教授に於て物質主義の攻擊でもすれば、其れで相當の效果があると言ふであらうが、こんな事で容易に目的が達せられる位ならば、今日の如き心配は初めから起りはしない。金を惡魔のや

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

うに言ふ人には、案外此惡癖に魅せられてみたいと思ふものが多い。口先で說かれる立派な議論などで以て、今日の惡風潮を根本的に廓清することはとても其望みもないことゝ思ふ。但し孔子は流石に偉い人であつた。彼れは決して人情に正面から反對せず、唯其の脫線を防ぐことに其の意を用ひた。曰く、「富と貴きとは、是れ人の欲する所、其の道を以てせずして之を得れば、處らざるなり。貧しきと賤しきとは、是れ人の惡む所、其の道を以てせずして之を得るも去らざるなり」と。富貴は貧賤に優ると見る人情を認めて、同時に道を忘れないやうにと戒むる。そこに大なる意義があるのである。取るべきものは取るが宜い、又、遣るべきものは遣るが宜い。取るも遣るも其の事惡いのではない。其の道理に合はぬのが惡いのである。

而して此位な處なれば敎へられる方でも、必ず尤だと首肯するであらうと思ふ。詰り靑年の心に十分道理を吹込んで之を合理的に陶冶するがよいのである。而かも此筆法は西洋人が之を用ひて相當に成績を擧げてゐる。西洋人の金錢に對する考へは寧ろ率直で、時としては、餘り露骨であると思はるゝこともあるが、案外取捨の道理に背かない。然らずして金錢を無下に賤しむ餘り潔癖な古風の敎へで以て行くと、言ふことは立派でも實行は覺束ない。侍の國と呼ばるゝ我邦に米國流のマンモニズムが臆面もなく橫行するのは、一つは此潔癖過ぎた古風の敎へに對する反動の結果である。要するに、金錢に對する敎育は却々容易なものではない。金錢の必要を其の實際以上に感ずる、一種の迷信を打破することが第一に困難である。併し困難であるからと云つて、打棄て置く譯には行かない。尤も金錢に原因する各種の弊害を少くするには、小人の征伐と道德論ばかりでは到底奏效はしない。經濟の根本に向つても大に改造を加へねばならぬ。例へば今日の利得經濟（エルウエルブスウイルトシャフト）に代ふる應需經濟（ベヂユルフニスデクングスウイルトシャフト）を以てせんとする企ての如きは、即ち其れである。是れも其の實現は却々容易ではあるまいが、幾分其の心持を採用すれば、多少なりと今日の餘りに利得に血迷へる人心を覺醒することが出來るかと思ふ。何にしろ金が仇なる世の中で、金といふものが無ければよいかとも思ふが、其れが無ければ一日も立つて行けぬ。此事情に餘儀なくせられながら、金を取つたり、送つたりすることを攻擊するのであるから、どうしても議論に權威かない。それで、如何にも不徹底な弱音を吹くやうだが、陳腐ながらも前述の如く情理並行を認むる孔子の敎へでも擔出して、當分之に依つて今日の惡風潮に對抗してみたいと思ふのである。

登録商標

事務ノ澁滞ヲ來サヾル**筆**而モ縦横酷使ニ耐フ

□極品八斗才　壹本　廿五錢
□貳號自在　一本　七錢

氣持ノ善キ光ト漆黒ノ**墨**而モ芬芳ノ香氣アリ

□櫻印紅花墨　一丁半形　壹圓
□わか菜　一丁半形　貳拾錢

鮮カニ氣持良クのびる**繪具**而モ色彩絢爛ナリ

□十二色絞出し　壹圓參拾錢
□三號六色入　廿五錢

事務ノ進捗ハ炷ノ薫**香**而モ終日執務ニ倦ズ

□梅ヶ香壺入　四拾五錢
□あかつき一把　參拾錢

熊谷鳩居堂

京都寺町　振替一大阪六三八
東京銀座　振替一東京二〇七〇

目録御報次第呈送

帆足理一郎著

哲學概論

最新版

菊判天金函入
布製四百五十頁
定價四圓五十錢
郵税拾八錢

專制主義貴族主義のドイツ哲學は破產し、絕對主義論理主義の形而上學は破滅した。今や哲學も實際經驗の鍛冶場に走り、勞働の膏血洗禮され、民衆文化の琴線に觸れたものでなければならぬ。著者はヘエゲル派の哲學に養成されてロッツエの人格主義に走り、轉じて實際主義の堂奥に參し、今や進化論的生命主義の哲學を提げて吾が學界に呼號し、傳統哲學の迷妄を破つて新哲學の曉鐘を鳴らしつゝある。本書は早稻田大學に於ける講義の概要であつて、簡單平明、尙哲學の各部門に亘つて在謂問題を取扱ひ、一々明快なる批判を試みてゐる。加ふるに行文流麗、何等澁晦の跡なく、文壇の新人たる著者の面目躍如たり。單に初學者の入門として適切なるのみならず、新哲學の概觀として稀有の名著である。

內山賢次譯

チエホフの手紙

（新版）

▼四六判五百五十頁分製函入
▼定價參圓五拾錢郵税十四錢

▼トルストイ　青年時代の日記　▼定價三、三〇

作家の生活とその作品との交響は、文藝に思ひをよせるものゝいつも變らぬ問題であり、作品對生活の關係は大體に於て主著對日記私翰を以て表はされる。日記や手紙が作家の研究に重要な位置を占めて居る所以は實に茲にある。誰も知るやうにチエホフの思想は近代露西亞作家の中でも特一のものであり彼の作品のもつあやの多い陰影は彼の生活から投げられたものであることを思ふとき彼の書翰集の有つ價値が特に目立つて來る。譯者は情熱を托して茲に一書を成し原著者の憂鬱と微笑の影深き生活記錄を世に送り得るを欣ぶ。

發兌元　東京市麴町區隼町廿番地　振替口座東京二〇一九一四　洛陽堂　（目錄往復葉書進呈）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

◎內外郵便切手特價販賣

外國切手袋入部

○五十種廿五錢○百種五拾錢○百五拾種壹圓○貳百種壹圓六拾錢○參百種參圓廿錢○四百種九圓○五百種六圓五拾錢○八百種拾五圓○壹千種廿圓○特別各國廿種四拾錢○大形特製廿種八拾錢○各國動物切手廿種九拾錢○各國未使用拾五種六拾錢○ベルジユム大形拾種卅五錢○同小形拾種卅錢○獨逸廿二種九拾錢○佛國廿五種四拾錢○英國大形高額四種壹圓○英國廿九種四拾錢○伊太利拾八種卅五錢○バヾリヤ拾種卅錢○ロシヤ廿種六拾錢○オランダ八種廿錢○ガテマラ風景八種四拾五錢○支那拾二種卅五錢○スエーデン四拾種七拾錢○獨逸飛行二種廿錢○ニヤサ動物六種九拾五錢○北ボルネオ動物六種四拾錢○リベリヤ拾種貳圓○セルビヤ戰事大形三種四拾五錢○同小形九種壹圓廿錢○オクライナ風景五種廿錢○朝鮮（五文十文廿五文五拾文百文）五種參圓五拾錢○瑞西拾五種卅錢○リベリヤ大形風景二種五拾錢

日本郵便切手袋入部

○櫻印一錢三種六拾錢○同茶青一錢四種五拾錢○櫻印二錢三種卅錢○舊小判形七種拾二錢○中古小判形拾三種拾五錢○明治最終拾八種拾五錢○紀念銀日清日韓八種卅八錢○觀兵式二種廿五錢○大禮紀念四種拾五錢○立太子紀念拾一種壹圓九拾錢○平和紀念リ種拾五錢○軍事字入三種四拾五錢○明治五圓拾圓ル拾錢○大正白紙十一種廿五錢○大正毛紙十一種拾錢○大正五圓拾圓毛紙廿五錢○明治支那字入拾八種八拾五錢○大正白紙支那字入十一種四圓卅錢○大正毛紙支那字入十一種參拾圓○國調神宮紀念四種八錢○○各壹種ニ付拾組以上御注文ノ節ハ特別割引ス○詳細ハ目錄ニ記入アリ

右諸品ノ價格ハ早明治廿二年開業本年ニ到ル卅有餘年間實地事ニ當リ多年愛顧ノ各位ニ報恩ノ爲薄利多賣ノ目的ヲ以テ定メタルモノ故他店ノ夫ト比較シタレバ必ズ驚カレル事ト確信ス弊店ハ信用商品ノ品質優良ヲ生命トス實地ハ是非價附ヲ手ニシ御購入ノ品物ト參照御滿足ノ上益々振ッテ御注文ノ程ヲ祈ル

◎內外郵券價附全一冊（附錄 端書○封印○諸皮紙◉燐票 古印紙○古金銀貨幣全部價附）（金廿五錢）（送料共）

直輸出入商

大阪市南區八幡筋

堺筋東ヘ入ル南側

岡田商店

振替口座大阪七九〇七番

電話南四〇八三番

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大評判になつた
統一化粧
米國みやげ
ゼピー化粧料 組合函

組函内容
ゼピー藥洗粉
ゼピーシクレ(化粧水)
ゼピー波状白粉
ゼピー化粧布
ゼピー粉末白粉
ゼピー十番香油

定價金二圓(送料無要)


柳ばし、米子

色白くニキビをとる
ゼピー藥洗粉
男女洗顔料

ゼピー藥洗粉は皮膚を根本から整へる高價藥を主材として作られた洗粉である脂性の婦人の常に苦まされるお顔の脂を取つて生地を整へお白粉の共保ちを佳くし併せて色黒き手や顔の表皮を洗滌して新たなウブな白い表皮を作らせる美白劑

大阪東村町 日光館(電話東[illegible] 振替大阪[illegible])
ヘモグロボート輸入元

間違だらけの 日本の化粧
エヌポーター述

日本の婦人は甲製造の洗粉と乙化粧水丙白粉と云ふ風に平氣で製造者の異つた品を混用なさる様ですが是は大變な間違である。品質から考へましても全く縁のない品の混用ですから本統の効能が表われません而已ならず却て力の殺ぎ合をする場合も出て來ます香氣丈から見ましても各品各樣の香氣が何等の統一も系統もなく發られる為に氣を消す事もあり又消さぬ場合も其の香 蛇皮味なものになるに定つて居ます。香料の調合は音樂に於ける音律の調和と全く同じ道理で系統的に調和せぬものは蛇皮駄目ですから。詳しくは新化粧術に書てあります

此所を切て送らば
美本ポーター著
アメリカ式
新化粧術
(定價一圓)
を進呈す

道德

オノトを使用するは
道徳也
完全に最善に勤勉に義
務を盡す道なれば也

オノト萬年筆　無飾八圓　飾付九圓以上
オリオン萬年筆　無飾參圓五拾錢　飾付四圓五拾錢
アルビオン萬年筆　飾付五圓五拾錢
萬年筆用アテナインキ　四拾五錢
送料各拾八錢



東京神田駿河臺下（振替東京二一八一六番）
大阪心齋橋博勞町（振替大阪七四番）
京都三條通（振替大阪一七三番）

東京日本橋通
丸善株式會社
（振替東京五番）

横濱辨天通（振替東京一一八五二番）
福岡上西町（振替福岡五千番）
仙臺國分町（振替仙臺一五番）

健康增進
結核豫防

稻林醫學博士推奬
片瀬醫學士鑑査證明

ワダカルシユーム錠

……片瀬醫學士述說明書郵呈……

人體にカルシユーム分の缺乏が各器官を衰弱せしむるの基をなす事は、既に遍く世の知る所なり。本劑は此不可缺なる要求を補ひ、益々健康を增進せしめ、且つ病菌に對する抵抗力を旺ならしむるの卓效を有し。婦人にありては分娩前後に用ひ胎兒の發育を補け產後母體に敏速なる恢復力を與ふ。尚齒牙保健に著效あり。全國藥店に販賣す

三百錠入 壹圓四十錢
千錠入 四圓貳十錢
三千錠入 拾壹圓

發賣元
和田卯助商店
大阪道修町

關東代理店
田邊元三郎商店
東京本町四

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

中央公論社 發行

婦人公論

定價五十錢
郵税一錢五厘

五月號要目

■今期議會は何をしたか…田川大吉郎

■故農學博士 三宅恒方氏の夫人に旅から送った手紙

■今春の女子學校卒業生の―

結婚觀

◆愛と悩みと苦みを感じ得る人間…東京女子大學卒業生
◆ザツト、イズ、クエツシヨン…第二高等女學校卒業生
◆年若き結婚には賛成したくない…第一高等女學校卒業生
◆お話し申すもお羞かしいこと…フレンド女學校卒業生
◆私は神聖なる戀愛の讃美者です…千代田高等女學校卒業生
◆A子さんの理想と現實…日本女子大學校卒業生
◆男子の貞潔・童貞を要す…東京女醫專學校卒業生
◆男子の想像も及ばぬ程熱烈に…東京女子大學校卒業生
◆結婚者の隙間だらけの生活…日本女子大學校卒業生
◆私の望む理想的良人…成女高等女學校卒業生

■讀書の意義とその利弊……阿部次郎

■ラッセルの結婚論……木村久一

■戀愛悲劇 男女の三角關係 物語 本間久雄

■山田憲の死刑になる迄…辯護士 塚崎直義

死を待つ人の心

◈死に面した人の信仰 教誨師 藤井惠照
◈T檢事への抗議…本荘可宗
◈死刑囚の心理 教誨師 勝水淳行
◈死刑のいろ〳〵…寺田精一

◈死刑に就ての雜筆…法學博士 牧野英一

■鑛物文明展覽會を觀る(婦人記者) ■自由論壇=岡本春子に宛てた三篇=

■血液の性質より觀た人間の四種類 醫博 三田定則

■浪子不動に投身せんとした女畫家……澤田撫松

■藝妓制度の撤廢に就いて……帆足理一郎

創作

■冷涙(長篇小説) 正宗白鳥
■ドォリーの話(短篇) 田中純
■春のひと日(短歌) 若山牧水
■天狗と少女(童話) 江口渙
■新しき村に入り度い女へ(感想) 武者小路實篤
■女怪(長篇小説) 宇野浩二



「日本」を見る
附　北京籠城

木村荘八

はしがき

一

　大正十年二月十三日午後、私は友人の家へ行くので電車に乘り神保町で乘りかへることになつて、彼所で一たん下りた。ところが風の吹く中で待てども待てども方向違ひの車ばかり來て、肝心の乘りたい電車が來ない。――それで、私は鬱さばらしに、電車停留場のすぐわきにある古本店へ何を見る氣もなく、はいつて見た。

　一通り洋書の棚を見て二三歩奥へはいつて行くと、棚の下に又本を地面へ近く並べておいてある壇が一列出來てゐる。眼をおとすとそこにもすぐ何かしら見える樣に、うまく出來てゐる。

　そこにかねて見て知つてゐるファン、アイクの本の（表紙色刷の）婦人肖像がチラと見えた。――その本は今別に欲しくも見なくともいゝ、知つてゐるが、それがある以上何か仲間がありはしないか？で、こごんで、そこの仲間を注意して見た。「ファン、アイク」の仲間は何にも見つからなかつたが一冊……Peking と赤字で太く題を書いた本が目についた。――

The Siege in Peking

（義和團かな？）

が、何故 Peking がイヤに目に付いたか？――その地へ去年

秋、行つたからだ。

今が去年の二月なら此の本はどうその赤字表題が太からうとも、別に目に付きはしなかつたらう。

よく人事にもある勝手な情だ。

またそれが自然だがそんなことはまあどうでもいゝとして――

――

その本は厚さ一寸位ひの堅表紙の英書で表紙クロースは清く一杯に薄白く支那城門の繪がぬき出してある。多分北京の鐘樓を圖案化したものと思はれる。――（さういふ觀察が又つい此の本を自分に親しくする。）―― W. A. P. Martin」と著者の名が下に朱刷りで出してあり、上に、「北京籠城」の表題が大きく二行に、朱でおしてある。

一九〇〇年十一月にニューヨークから出た本である。

卷頭に「籠城當時の服装せるマルティン博士。かくて氏は一九〇〇年十月二十三日ニューヨーク市に到着した」と説明刷込のある肖像が出てゐる。

ツルゲネーフに稍險いある、又はより苦勞をした、さも意見あり氣な生眞面目な顔をしてまともに向き、白ヘルメットを被り、薄地黒(?)の粗末な外套をフロックの上に着てその一列ボタンを張ち切れ相に胸までメめ付け、下のフロックの方が外套より長く、少しすその方がはみ出してゐる。――それからズボンが材木の樣に二つ、心持ち踏ん張つて立つてゐる。

右手を自然に垂れ、左手に革でメめた毛布をしつかり下げてゐる。手袋やシャツもそれにくつけてある。

それから異樣なことには、左肩から胸にかけ右わきへ落してはすに、眞正面に、ツヤツヤ光るライフル銃を一挺吊つてゐる。丁度胥樂師が小太鼓を胸へかけるやうに銃を麗々しく前にかけて突立つてゐる。――が極く眞面目な嚴格な顔の刺戟する印象のせひか、わざとらしくも滑稽にも別に感じない。

只如何にも事あり氣な、（成程こんな姿でやつてゐたのか――――）

といきなり、背景を異樣に忍ばせられる。

十月二十三日に安全の地(ニューヨーク)へ着いて十一月十四日までの二十日間に、此二百頁の China against the World の本を書いたと云ふ。何の調べる餘裕もなく參考書もなく、凡て by an eye Witness で速記者に口寫しして書いたと云ふ。公使館保護の爲めに死んだ勇敢な人々の靈にとデヂケーションがある。凡て、事あり氣な何だか見たい氣のする本である。

私は暫く立ち讀みしたりあつちこつち挿繪を見たりしてゐたが、――その挿繪寫眞の北京の圖は何れも眞ものを僕の見たと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ころだ――とう〳〵それを本屋へおかず買ふ氣になつて、買つてやがて電車にのり、電車が先方へ行く間から先づ、讀んで行つた。

二

私はその本に一種興味を感じた。がその本が書かれた背景の北清事變とは一體何から起つたことであらう。――それよりも、何と自分は大體歷史を知らずにゐるであらう。例へば自分が去年實地を見た、その北京ヽ町――崇文門のところで、密使が淸軍につかまつて身の危險を感じ、彼は持つてゐた手紙を呑んで危ふく銃殺を免かれたとある。その「事實」には變に刺戟があつて本を讀んで見ても、何がどうする密使か、背景は殆んど不明瞭にしか私にはわからない。一體支那と日本がどう、なつてゐたのか、又ゐるのか、その他事情はまるでわからない。

その「わからない」ことに、一種不服を感じるに至つた。過々手に入つた「北京籠城」の本はその事件の實地背景を見たとか、繰る頁につれて出て來る籠城事實に刺戟があるとかして一種「興味」で、讀んで見たが、讀んだから如何なつたか、――その場合の心理は餘り自分が外界事情を知らずにゐることを識り今更變な氣分がした。

（そんなことは知らないでもいゝさ）

（然し知つたつていゝさ）

寧ろ時には一通り知つておく方がいゝ、此の機會に――といふ知識慾とも何ともつかぬ氣分が出て來て、――

實は私は先月から今月へかけていろんな「變な」本を讀んだ。「開國五十年史」と云ふものを見た。「國際的現代日本」と云ふものを見た。「最近三十年外交史」と云ふ本も買つて來たし「東洋史」「日本歷史」その他明治三十三年に出てゐる風俗畫報の增刊北清事變號等、いろ〳〵、私はさう云ふ場合に私のたんのう出來るだけ一通り讀むものをとうとう讀んで見た。

で結局この原稿にそれ等の思ひを書き解かうと思つてゐるが、マルテイン博士が博士の本を by an eye Witness で書いたと斷つてゐるのにならへば、此の私の稿は一種「讀書餘稿」のやうなものである。

上篇

一

假令半年弱でも、――近い隣國へでも――日本國境を越へて

他國へ行くと、その時一時境遇的にさへ人は故國を客觀し眺める立場に立つ。

私はさうして滿洲や支那で日本を初めて客觀的に眺めた地理的經驗を持つてゐる。――向ふから歸つて來て船が朝六連島の霧の優雅な風景へつくと、そこに島上に家が見え「生活」が見える。それ等は懷しい郷土の「自分の」ものであつて、あり得る巢の臭ひが鳥へ來る樣に有形無形に郷土の感が私を蔽ひ、捕まへる。又は抱く。それは想像以上に親しい感じだ。そして同時に、成程自分は今迄此の空氣から離れてゐた。丗の無形及び有形とは歷史も地理も別のところに立ち、そこから之等――祖國――を眺めてゐたと云ふことを感じる。

自分はさうして客觀的に「日本」を見た一つの經驗は去年旅びでしたが、つまらぬ事だが氣が付くとその日本にはいつてゐながら「日本」を時間的乃至歷史的に見た經驗は殆んどないと云つていゝ。古い昔の動かなくなつた歷史は多少知つてゐるが近い――その方が生活的に自分に密接關係を起す――祖國の歷史なり、狀態なりは、殆んどまるで知らないと云へる。

然し或ひは私の此の考へ――又は字が強すぎるが告白――は私特別の不識、うかつさ、或ひはのんきさを現はすばかりかも知れない。

私だけのことで他の人――少くも最少限今年三十歲前後の人――には餘り無いことかも知れないが、兎に角私にとつては、例へば臺灣はそれが日清戰爭以來「日本」となつたことは知つてゐるがそれより直接の一種の實感では、一體既でに日本の地で、それに別に不思議も事件もないかに思はれる。

琉球などは、殊に琉球の字音それ自身、初めから日本の一つで、それが實は元來日本の島津氏に屬してゐた（と日本歷史は云ふ。――恐らく支那にもさう云ふ同じ云ひ草は又あつたらう）が、何しろ日清兩國へ朝貢して所屬が判然としないでいけない。それ故、明治の初めに琉球王を日本は恐らく勝手に藩王に封じ、華族に列し、猶いけないので十二年には王尙泰を日本の東京へ連れて來て了つた。――如何云つて連れて來たか、氣の毒に思ふが、それから、問題があらはに國際的となつて支那から苦情が出で、遇然か必然か何れにせよ當の「琉球」とは別段緣も無さ想なアメリカ大統領グランドが「神の如く」仲裁にはいつて、判然日本の所領となつたと云ふ。判然、所領等言葉からして少し氣になるが、――さう云ふ事情は、一體自分にとつては今更に新奇である。

自分は云ふまでもなく學校生活で歷史をやつたが、何を習つたか、まるでおぼへがないと云ふ方が當る。今二十九に成つて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

初めて東亞近世史を讀み、例へばこの琉球のことなど、新鮮に感じる。そこには(よくある樣に)土地所領慾の互ひのあくどさを醜態に感じる。

——領土の片を付けるのはいゝが、稍もすると直ぐいがみ合ふのはいつも見てイヤな醜態だ。

その他、自分には自分の知らぬ、實は自國についての手近かの出來事が山程ある。北白川宮が臺灣征討に上られたことは朧ろながら、臺灣の土民が叛いたからと知つてゐたが、その前に猶西鄕從道が臺灣征伐に向ひ、支那との間に國際問題の起つたことは、知らなかつた。——その原因は、それより後の琉球問題から見れば當時は未だ日本とも支那ともつかなかつた筈の琉球島民虐殺から起つた。

漂流者を虐殺した臺灣生蕃の行爲について日本から支那へかけ合つたに就き、「熟蕃は支那の民だが生蕃は化外の民故、知らぬ」と毛昶熈が答へたと云ふ。

所が全く幸か不幸か、此度け日本内地岡山縣(?)の者が琉球漂流民と同じく生蕃にやられて危ふく逃げ返つて來た。——そこで理由が立つて、矢庭に政府は臺灣へ出兵したかの觀がある。つい少し前の征韓論もみ消しを臺灣征討で埋め合せ、そこへ民心への突嗟の安全瓣を開いたと同時に、影には一種領土慾の如きが妖火の樣にホノ見える。

それが國政の機微であらうか。——スキフトのフイムムがヤフーから聞いた話のやうに自分にもどうも腑に落ちないが、鬼に角さうして結局は「生蕃も支那化外の民に非ず」と云ふことになり、日本は兵を使ひ償金を得て片がついた。が、およそその間の事大的な成行と云ひ、人命危險と云ひ、自分は之等をまるで知らなかつたが今知つて見ると、スグ見えすいた能なきことに感じ、渦中の國と人に就ては一種不愉快を濕氣のやうに感じる。

政治は元より必要である。地上をとりしまるに無いと云ふことのあり得ぬおきての意味で、必要である。只屢々如何に地上ばかりのことに拘泥するであらう。どうでもいゝであらう。それ以上に只いゝではすませぬ事が多からう。イヤになるであらう。およそ「生命」に就て第一に思ふ者にとつては。——對象を被蔽から偶々のぞき見る場合には。

二

私はそれに就て殆んど知らない。知らないでも生活に何の差しさはりさへなかつたが故に。恐らく今後も差しさはりない樣に。(と、斷言はうかつには出來ないが。)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

それは或ひは、私の知らぬ、さう言ふ歴史をこしらへる政治的(乃至國際的)當局の人、――世の表面の人が、我々藝術家乃至藝術について知らぬ、知らなくともその生活には何の差し障りも起らぬ、或ひは今後も亦さうである――度々、双方同じではないか。

「およそ人が藝術について知らずにゐていゝであらうか」

「およそ人が政治について知らずにゐていゝであらうか」

――此の論は、論では水かけ論に終る。どつちが頑張つても結局同じである。と云ふよりも自分、藝術に從ふ者は、初めから頑張らない。――棄權してかゝる。それが一の態度となる。

（自分は理想主義すぎるかも知れない。自分の見る政治家が大中、現象主義すぎるやうに。）

天は地と爭へるだけ安つぽく、ひくゝなる。自分は天にゐる。又は地でも名はどつちでもいゝ。兎に角政治には餘り關心なく、關心は藝術及びそれに關して一途の者だ。

が、さう云ふ自分に兎に角政治乃至國政それ自身、一體どう映るか。政治と藝術、乃至藝術に心を寄せる者――さう云ふ人間の考へることゝ、どう關係があるか、此の天地の二つの間にどう融合か、又は離反が、あるか。――殊にお互ひに祖國である「現日本」に於て。

――之れが云はゞ此の稿の一つの畫因のやうなものだ。私はそこで一通り歴史を順に見て見るが。

三

およそ歴史の見方――又見られ方――は、見る者の生存年月から一つの尺度が初まる。人各々に依つて違ふ。元より最近事情を殊に見るについて云ふが、實感と否とは自づから差になる。少年的實感と雖も。

私は明治二十六年に生れ、二十八年日清の役が和議になつた頃には、――實は私もおぼへないが聞くと、――病氣をしてゐた相である。生れてから弱く、まだそのひ弱さが續いてゐたらしい。然し私は言葉は何かしらやつと、云へたかも知れない。

私は子供の頃支那人――と云ふよりチャンがにくゝて仕方なかつたおぼへがある。「チャンチャン坊主毛有り」と云つて家の番頭にイヤに感心されたおぼへもある。同時にその頃、一體然しその「チャン」は日本人ではない様だが何だらう。「チャン」と云ふものが又別にあるのか、と漠然、多少不審に思つたことがある。「外國」と云ふものを最初に感じたそれが記憶である。

或ひはそれが北清事變の頃かも知れない。

前後判明を缺くが「内地雜居」と云ふことがあつた。それを異

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人がそば屋に入り、モリに汁をかけて立て膝で食つてゐる。ボンチ繪でおぼへた。

有名な三國干渉は學校で初めて教はつておくれ走せながら、ドイツやロシアを不愉快に思つたが、先生がいろ〳〵云ふからこつちも思ふので先生がいゝかげんに云へば、自分もそれは何でもなかつたにちがひない。實感へは何しろさつぱり來なかつた。

西南の役も憲法發布もまるで知らない。維新的內治政亂は――幸ひなことに(と書く可・であらう)――まるで知らない。が日露戰爭は知つてゐる。極めて實感的に志士的にさへ識つてゐる。戰爭理由はよくわからなかつたが何だかロシヤはにくゝ思つた。日本はたのもしく、強いのでうれしく、無上愛國主義となり、その左黨となり、熱狂した。

戰後の燒打は理由は別にぴつたりしなかつたが又實に、面白かつた。面白くて亢奮してたまらなかつた。幾日でもあればいゝと思ひ淺草橋を境の爭鬪を夜通し、家の二階から見物した。餘りに見たいものがよく見えるので心が踊りすぎて實はもつと見ゆ可きものが何所かに隱れてゐるかの不安。不滿を感じた。

屋根へ上つて見ると闇空へ東西南北、至るところに遠く近くボーツと火の手が上がつてゐる。幾筋も。――何と思ひ切つた刺戟的な夜景だ！

川向ふで慄くときの聲が狼の樣に上がつて、電車に火をつけてそれを引張つてゐる。その火の手がゆらゆらと動く。「電車」に火をつけて引いてゐる。玩具ではない眞ものゝ電車に。

家からまつすぐの淺草橋上には一人も人影なく、シーンとしてかゝり、然しこつち川岸と向ふ川岸には一杯に人影が對陣し合つて双方かゞりをたいてゐる。時々黑い影繪が輝く燒木杭をかついでツカツカと人なき橋上に進み、向ふの陣へそれを投げ込む。音はきこへずに然し火の粉が散つて異樣などよめきと共に、人垣がくずれる。バタバタとこつちから一團の影がそのくずれ目へ突き入らうとする。とキラキラ向ふの人垣に劍が光つて、橋を渡りかけた影は右往左往、逃げて來る。

戰爭である。

二三人劍に切られて倒れた姿もたしかに見た。想像をまともに初めて見た。

鐵の電柱をカーンカン叩く男があつて、その音が夜陰に慄く寂しく今も耳にのこる。又チャリン、チャリン火の棒杭を投げ込むので或る家のガラスを破る音もそのまゝ今きこへる。

白鞘の刀を持つて人力に乘つて行つた男があつた。家へ泥だらけの男が石油罐を徴發に來てぞつとした。又家の佐太郎が

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

みぬきをして、右足血だらけにして眞夜中にドンドン大戸を叩き、ビシヤビシヤはいつて來たその顏が浮ぶ。汗ぐつしよりに光り、メまつてゐた。青かつた。

自分は夜通しそれ等を見てゐてあくる日二學期始業式の學校へとうとう行けなかつた。中學一年の十五のことゝ思ふ。——シーンと感情はありありそのまゝにさへ思ひ起すが、事件への理性的解義は思ひ出せない。思ひ出せないではない。それは一體「無かつた」のが事實だ。

何がいゝのか惡いのか、更にわからなかつた。燒打ちの方がいゝのだらうと思つた。初め十二時一時の頃には事件に亢奮して世にも面白く夢中でゐたが、夜が更けるにつれ、怖くなつた。一度は兄キと兩國まで出て、或る場所の火の手が炎々その上の電線をあぶる。その電線がずうつと僕の立つ後ろの電柱へはすにすぐそば迄ダラリとつゞく。それを心付いて、若しや電流がこれを傳はつて如何かしはせぬかと思ひ、非常に危險を感じて、すくみ、泣き立てゝ了つた。

が兄キに頭から輕蔑され怒られてその場を五六間わきへ出鱈目に引きづり退けられ、「危險」がなくなると、つい泣いたのが全く工合惡く、兄キの心理を考へて一種、落膽した。——そんなおぼへが——之れは懷かしくおかしく——ある。

四

自分は此所の小回想に「日英同盟」を落してゐる。——のは何故なら恐らくそれも「內地雜居」程度にしか感じなかつたからである。只、英國がたのもしい味方の樣な、親愛な氣はした。が要するにたしかにどうでもよかつた筈だ。

自分はそんな國家の難かしいつまらぬことは如何でもいゝ、十歲の快活な小學生だつた。

同盟とはまあ「仲間」だと思つた。——「仲間」と云ふものが學校にあり、少くも秘密に、行なつたおぼへがある。馬喰町裏新道の象牙屋へ行き、象牙メタルを數だけあつらへて眞中に「仲」と彫り、——實際おかしくなる——それを秘密にアゲの下へぶらさげて學校で「仲間」と共同動作をした。

それは一種秘密な何か、「かくしてゐる」と云ふに就て後ろぐらひ又それだけに變に樂しい、刺戟ある行爲であつた。

「莊チヤン」と僕を下駄箱廊下の隅へ引張つて行き「仲」メタルを示して「日本は英國と之れだぜ！」

と根津源が云つたかも知れぬ。

あゝ、その折りの思ひがする。

「仲間」よ。君達その後如何してゐるか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

——英國と日本は、この「仲間」約束の世界環視の中で世にも露骨な、詩情なきものだ。我々の「仲間」には意識も感情も意氣もあり、詩もあり熱情的な正義もあつたが、日英にはその點冷たい何があるかわからぬ。

然し日本はそれで東洋に確定の歩をガッシとした。（それは恐らく「仲間」の煮しめ屋の長助が袴やシャツポを融通された以上に明瞭に。）

五

私は日露役後、「年頃」となり、文藝美術に次第に心を牽かれて、從つて私には意識も智惠も「人間」も進んだが世の出來事に對しては一向、どうでもかまはなくなつた。

韓國併合の明治四十三年には私は十八だつたが、——「十八歳と云へば、全フランスが日の前にぶらさがつてゐる」と云つたジョーヂ、ムーアの句に亢奮した——「併合とは併せる意味だが一體併せていゝのかしらん」とぼんやり思つた。然し一體政治及び政治家に就ては頓に好意が無くなつた。時には無理想革命主義的になり、およそ組織破壊の考へ乃至出來事に「病的」と云ふ可く關心を持つて、そのまゝで進めば自分は或る種のボヘーミアンに成つたかも知れぬ。——然しそれは私の人格的思想よりも一層生理的「危險」思想で、私はその無理想から間もなく救はれ、確たる理想曙光を認め、凡てを擧げて、禱に從つた。

新聞は殆んど讀まず、政治國勢事情は更に知らず、そしてつい近年までおし通して來た。

——その我が眼にかくされたるものをフト見たのは、全く近くに及んでゞある。實を云ふと、私は今之れをかくいまだに近き歐洲戰争がどういふキッカケで起つたのか、それを知らない。その結果だけはよく知つてゐるが。（餘りに要素的に事を直感するので今更原因にさかのぼつて見やうともしないが。）

その私に國際乃至政治帷幕がフッとほころびて世の樣を見せた近き初めは、ロシアにケーレンスキー在政時代のことである。

或る日はからず新聞で露の「死刑廢止」案を見て、おや、こんなことまでしてゐるのかと思つた。——好意を感じた。

それからはわりに注意もして、いろ／＼と見てゐる。尤もいつも支那革命の騷ぎや日本議會の經過等は、ゴシップ以上には見たこともないが。

六

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

で一體此の「日本」は、安政年間の初めての國際外交條約の時には西歐白人に依つて、群小有色人種土耳共、波斯、暹羅等並みに扱はれ、露骨に見下されて、外人を國法に依つては裁判出來ぬ規約、外國がこつちの税關を束縛する定め等、極めて不利な條約を結んだのである。僅か七八十年に足らぬ以前のことだが全くその頃日本は又一つの暹羅、一の波斯であつたかも知れない。――明治三年に岩倉右大臣一行が洋行した時、米國で此の條約改正のことを話して見たが相手にされなかつた。

その頃のよく見る寫眞を見ても思ふ。――生蕃の樣な。――或ひは問題にならなかつた方が當り前かも知れぬ、と。

然し明治三十年、おそくも四十四年代には條約改正の素志が透つて、列國並みの交際となつた。――それが「今」では時には列國交際尺度をこつちから多少動かしても、不自然でない發展に至つた。

日清戰爭の時には、日本は支那に必らず負けるものと白人諸國に概算されて、英國は支那が勝つと東洋貿易にありあり不利益の起ることを恐れ、諸國に協議して豫め日清役を仲裁しやうと試みた。然し獨逸は――何れもと聞き入れておく必要がある――自利益上から十分支那の勝利を望む故、應ぜず、露國は又英國と此所で提携するのが思はしくない爲め、斷つた。そこで仲裁の名に於ける「列國干渉」は戰前には只煙りだけで火にならずに了つたが、戰爭の結果は豫想に反して黑が白だつたので諸外國は小「日本」を注意して見た。

例へば只實力一途に仕事してゐた不有名の畫かきが、偶々世間公開の展覽會などに畫を出して――その俗世間的手段に依つて――世運を展くと似たところがある。日本は「戰爭」手段を以つて世に認められた。――然しまだ頭から三國干渉をすぐ受ける程、「甘く」は見られてゐたが。

全く日本は戰爭に依つて「利益を得た」露骨な國家の顯著な一である。よし日本が本來は好戰國家でないとするも、――好戰國民でないことは無論だ（そんな國民は世の中に無い）――諸外國から軍國主義扱ひされる理由は充分ある。彼等が日本を見た歷史以來、日本は戰爭して得してゐる故。

中篇

一

日本は日清役戰勝の運に依つてめき〳〵と國際自由を得、初めて「世界」に地位を得た。

で若しも戰爭で勝つと云ふことの此の世での「ありがたさ」

を何よりも露骨に最近三四十年の日本の歴史及び事實が示すとすれば、又負けた場合の慘憺たる様は、世にも露骨に支那の同年代が我々に示す。殊に日清役後の支那を見ると思ふ——

例へば待ち設けた林檎が一ケ所腐つたので、上からも下からもどつと地蟲がその焦點へはひ寄るかの様だ。——自分は今丸い地球儀を見て、その感を強める。

明治三十年前後の頃、此の地球と云ふ林檎の上で淸國の黄色い個所が腐つた爲め、忽ち上のロシアからも遠い裏側のドイツからも、イギリス、フランス、イタリア、擧つて、ぞよぞよ虫がそこへ集まり寄り、あらはにスキを見ぬかれた支那は文句なしに彼等——「列强」と云ふ——にバタバタ鐵道權をとられ、鑛山發掘權をねだられ、膠州灣を占められ、旅順、大連を借りられ、威海衛、廣州灣……等、よさ想なところを、より取りされた。いゝやうに外人——强者——にされた。弱根につけ込まれた。

それは——之れは當時列强諸外國を怒らせ、且あつけにとらせた China against the World の宣戰詔勅の一節だが——淸朝が出だした上諭の「……彼等も初めは我が範圍に就き我が約束に遵ひたりしが、三十年來我國の仁厚(?)を恃みて乃ち益々梟張を肆にし我國家を欺凌し、我土地を侵占し、我人民を蹂躙し我が財物を勒索し、朝廷稍々注意する所あれば彼等其兇暴を負ひ、日一日より甚だしく至らざるところなし……」をも、無理ならず肯かせるに近い程露骨にである。

で、一體支那がさう「國家を欺凌」された基ひは、支那それ自身の衰頽にもあらうが、近く外からは、差し當り同じ東方伴侶の日本に依つて痛く腐敗口にはつきりキズを付けられたに初まる。列國環視の油斷もスキもない鬪場に於て。——ところでこの群盗にうまく金藏の戸をこぢあけて見せた「殊勳者」小日本は、日本で別に頭から手きびしく戰後三國干渉を受け、要するに當時は西歐勢力が東洋へイヤに横柄に拔目になく、はびこつて來た年代であつた。殊に支那へは遮二無二殺倒して來た。いゝまうけに。

(此所でまうけなければうそだ!)と露骨に。

その痛々しい迄にむき出した國際心理は、何所にもザラにある様に手近かには「國際的現代日本」と云ふ本の序に、大隈侯が、「我が國創立以來二千餘年、開國進取は當初よりの國是なりしに、——(徳川の瑣國を否み)——蓋し國家若し自己の永存を欲せば、その發展を期せざる可からず。その發展を欲せば、國際競爭を避く可からず。」

「退嬰保守は衰亡の基なり。發展進取は繁榮の源なり。而して國際競爭は、危險に似てその實、國家安全の道之れに優るは莫

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

し」とある。

そこに紙背に、沁み出してゐる。――「國家安全の道、之れに優るは莫し！」

人命危險の道之れに優るは莫し。慾望露骨の道之れに優るは莫し。政治家勳功の道之れに優るは莫し。凡てエゴイズムの道之れに優るは莫し。呵々

二

當時支那に、端郡王と呼ぶ勝てば官軍となる、「志士」があつた。殆んど政府當局に。

彼は自分よりも帝系に順の遠い光緒帝が只西太后の妹の子と云ふ縁に引かれて帝位に上つたことに、不服であつた。

――餘り年代を隔てず約その頃と思ふが、日本革新者の伊藤公が北京へ行つたことがある。彼は在留外人から「日本にはまだ猶革新の要があるか」と聞かれたに就て、斷然「然り、大いに」と返事をした。此の進取的な「然り」は支那有志の者を刺戟したと云ふ。――光緒帝は、康有爲等を用ゐて、支那維新のことを斷然初めやうと思つた。

外國勢力も東漸してゐる。これをうまく水路へ導いて、伊藤公等の日本に於ける如く、國勢を更新しやうとした。いきなりしやうとした。――それは過激であつた。

結局女帝西大后の反對に逢ひ、幽閉せられ、康有爲等は殺され、變つて端郡王の子傳儁があらはの皇嗣となり、それは自然帝權を介して影の端郡王が西大后に對し、滿洲朝廷を脅やかして立つ立場の顯著なる段となつた。

一體「不平家」の端郡王には義和團と云ふ守舊勢力の一派が堅く結んで翼となり、彼の「實力」となつてゐた。

彼は威權を振つた。西大后はその勢力が怖かつた。然し端郡王は威權を振つたが、卽ちそれが清朝威權とは云へなかつた。少くとも彼は外戚である。――清朝にはさう云ふ二面がある。

かくて滿洲朝廷には難かしいヒビが入かけ、そのヒビは端郡王から入つて彼は對皇室にエゴイスティックの不滿を抱き、その王の不滿を彼女は又皇位に關してエゴイスティックの執着を有する西大后により強く見す可く、そこには義和團が影にあつたのである。――王の劒として。

かくて清朝は端郡王に指が差せない。やがて外國が差す以外には。

三

義和團、卽ち拳匪（Boxer）である。山東から直隷へかけて

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

起り、既でにその一世紀も以前から民間に一種共濟組合の結社として存在を認められ、政府の注意するところともなつてゐた。時には稍もすると政治色彩を帶びると云ふので、社を詰ぶに對し清朝から禁止令を課されたこともある。——思想的には佛、老、孔の教へを一體に感じ、愛國的で、自然排外的、獨尊主義になる。

殊に年來支那に對しておしよせつゝある西力東侵の露骨さに對しては、痛く苦々しく思ひ、高く「興清滅洋」の旗幟を掲げた。——その隱然の頭目には清朝皇族の端郡王がある。王と團徒と「不平」が歩み合つてガツチリ結んだ。山東直隷の邊一帶には、支那官權以上の實權——端郡王——の火に對して、いつでも應じる漲る石油の海が出來た。

* * * *

北京はこの無氣味たのたうつ海中にポツンとその眞只中に、浮んでゐる。

當時そこの交民巷に住んでゐた外人の中に、北京大學の總長をしてゐた W. A. P Martin と云ふ博士があつた。

彼は火がいつつくともわからぬ「危險」の只中にゐて、然し故郷の親族に手紙で云つた。——近頃排外思想のものものしい氣合ひが山東邊には尋んあるが、よしや他の個所は事情どうあらうとも、北京は大丈夫安心である。各國公使もさう云つてゐる。北京には清國政府の軍隊があり、匪賊を防ぐ。「憂ひなく、北京が支那での最安全の地帶である。」

少くも博士も情勢は元より知つてゐた。有害な油が山東直隷一帶に流れてゐて、火がつくとあぶない。然しその火は北京にはない、と。

ところが支那軍隊の如何ともしがたく、軍隊權威者——皇室の更に如何ともしがたい、端郡王と云ふ火、乃至端郡王對西大后の超國家的關係の妖火が、紫禁城内に燃へてゐる。北京の眞中の宮殿に燃えてゐる。それがもう義和團の排外の油へつきかけてゐる。その火からやがて大火が起らうとは。最安全の地帶から眞先にいきなり燃えやうとは。

博士は紫禁城の清國政府及びその軍隊力を當てにしたが、當然當てにす可きを當てにした藥で、却つて命を危ふくするそれが迷信とまるで同じとは、まさか神經が普通な限り、思はなかつた。——此の一節の「博士」と云ふ字は又「外人」と變へて同じである。

* * * *

それ故何と安心した平和な紳士であつたらう。

彼は基督教牧師の樣に黑フロツクを禮儀正しく着て、頭髮

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

口髭アゴ髯共白く、律氣な容貌をして或る日馬に乘り、散歩に東華門外の宮殿外壁に添ふ一つ橋内の樣なしめつた通りを、ポカポカやつて來た。

と、矢庭に十六七と思はれる靑ボロ服の少年が大甜水井胡同からまつしぐらに飛び出して來て、博士の馬前に大地に突伏し動かなくなつた。息さへ無いもの丶如くなつた。

博士は突嗟の事故その背の上をまともに馬で乘りかけ相になつたが、やつと控へた。——何故の少年？ どうしたのか——と云ふことは、然し博士には氣が付くとすぐに、了解出來た。

博士は突伏した少年の樣をいつそ持合せのカメラに「參考に」納めやうかと思つた。が然し「うかうかして自己催眠から醒められると、此度は暴行しかねない。」——危ないと思ひ、そのま丶馬を早めて行つて了つた。

何を博士は「了解」したのか。又參考に寫眞に少年を撮さうとは？

その少年は、義和團に屬してゐるのである。

普通軍隊にいろ〳〵演習がある樣に、義和團には義和團で一派の實地演習がある。體驗演習とも云ふか。——彼（少年）は、偶々、大甜水井の橫町を通りへ出て來るとバッタリ騎馬の外人に出逢た。そこで彼の「義和團的精神」が、突嗟に演習の好機を感じて、ガバと馬前に身を投げて見たのだ。

（馬に踏まれても平氣か如何か？）

「平氣なら俺には神が憑いてゐるのだ？」

博士はこの「義和團的演習」をすぐ了解した。——又博士でなくとも。當時之れは北京に於て家常茶飯の市井事である。

四

彼等（義和團員）は各自隨時隨意に無我無想となれる身心の練習——それは一種自己催眠の狀態である——を貴び、從つて體苦にはその時受感がなくなり、卽ち神が身にのりうつつたと思つた。人々も信じた。

彼等はこの體驗に絕對的神秘感を抱いて、信仰を起し、同時に拳鬪術をしきりに鍊へてその實力の前には、彈丸も無效とかたく信じてゐる。——西大后さへ宮廷へ團員を呼び、彼等の實演を見て、偉力を信じた史實がある。

團員集會の時には一人を催眠狀態に陷して彼をメデイアムとし、神託を聞く。式が終ると北京からは遙か南方の空を仰いで

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一同禮拜する。――その方角の山東から起つたからである。
彼等は彼等を信頼する官憲から揃ひの長劒を武器に貰つた。その一團には常には幽居してゐる婦人の一團さへ加はるに至つた。

軍歌がある。

我等長劒の兄弟先陣となり
紅燈の姉妹殿軍となる
共に力を合して夷敵に當り
撃ちて海に落さん

上に短劒と朱房のついた、ギサギサわくの風になびく手旗を持つて、その白旗には黒で「助清滅洋」及び「義和團錬」と二行文字がある。

彼等は病氣の樣に地方に忽ち傳播し、加ふるに何時からか自然勞働者一團がまとまつて彼等の一派となつた。

長らく白河の船夫をしてゐた仲間が、外國蒸汽船に株をとられて失職したので團徒に投じた。手押しの車で荷運びした人夫は、汽車工事が出來ると職ばなれが起るのでいつとなく團徒に投じた。又、古來飛脚山越をして手紙を運んだ苦力がある。然し郵便が出來て見るとそれは要らなくなる――それ故に團徒に投じた。氣の毒なのは又、長年々期仕込で手工を覺えた金工等である。彼等は時には憎い外國器械を破壞に殺倒し、云ふまでもなく團徒に投じた。そこへ猶長らくの早魃で田畑に出られず、ヤケになつて、農夫もいつそ仲間に加はる者が增へた。

彼等は云つた。

「外人と云ふ外人を中國から根絕やしに絕やさぬ限り、雨は降らぬ……

「……一人同志に加はれば彼は未來の不幸を免除される。五人同志に出す家があれば彼の一家はあらゆる惡から免れる。又十人の同志を出す村は悉く災害苦難から免かれる。が、一人も同志に出さなければ、出ない者はやがて首が遠からず無くなるだらう……」

實際、首が落ちたらう。

猶、支那獨得のパラドックスで

「もし不幸にして外人が毒を入れた井戸の水を知らずに呑んだ者があつたら、卽座に次ぎの聖藥を處法して呑め、

黑乾梅　半オンス
Solanum dulcaniara　半オンス
甘草根　半オンス」

彼等は排外を先づ鐵道事業妨害から初めた。線路を壞し、枕

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

師を襲ふた。が序でに外人會堂を目の敵に燒いた。次第に一揆より政治運動の色を帶びた。北京へ北京へと近くなつた。政府下附の長劍をしきりにひらめかした。

然し「二面」の清國政府は、交民巷の外人達には、

「之等義和團の徒は兵にあらずして只その身一族を守るが爲め罪なき體操術の一種をことゝする者なり。時には近隣の基督教民と事を構へて血を見たる場合も無きにはあらねども、由來教練なき烏合の徒なれば、官兵に向つては抵抗す可くもあらず。西大后陛下は直ちに勅令して彼等を離散せしめ、各々その家に歸らしむ可し。」

それ故マルテイン博士――を初め外人は、まだ安堵してゐた。どつちを守るのかわからぬ閉まつた城壁の中　薄氷の上で。

五

支那には敢て珍らしくはないが、然し當時の天津北京一帶を襲ふた旱魃は又非常なもので、人々は農夫でなくとも連日雨を待ちのぞんだ。清朝皇帝は天壇へ出かけて雨乞ひ式をしたかも知れぬ。

この望外の天災の期は民衆政治家――義和團――に巧みに利用された。

天津では義和團の「神聖布令」が盛んにまかれた。その冒頭に

「カトリック及びプロテスタントの教義は神に對して不遜であり、聖なるものに破壊的態度を執り、佛教思想に從順を示さず、天と倶に地をも怒らすものである。雨雲は當分我等を訪れないと思はれる。が然し八百萬の靈兵がその代り天から下つて帝國を通じ凡ての外人を追ひ拂ふであらう。

――すれば初めて靜かに降雨があつて地をうるほし、Buddha's Patriotic League of Boxers は安全に帝國を守り諸民を保護するに至るであらう……と書いてある。

一體排基督教思想、反クリスチヤンは又彼等の考への一つの強い源動を爲した。

「如何に多くのカトリツク教民が殺戮されたか、云ふに忍びぬ」とマルテイン博士は嘆いて書いてある。――團徒に脅やかされて心ならず改宗したクリスチヤンがそれだけで北京地方に三千の上ある。彼等義和團は暴動の序でにあたりの無辜の住民をも殺し、又は燒き、理由としてはいつも公言して云つた。「異教を信ずるが故に殺した」と。

偶々英國の宣教師ブルータスはその物騒な山東省を旅行してゐて、義和團員に襲はれ、殺害された。その他日に日に教民はやられた。至るところで。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

世紀は漸く一九〇〇へ變るか變つたかの早々であつた。

六

その二十世紀第一年の三月、歐洲人危難の報が北京へ來た。五月、保定府で天主教徒六十一名が殺され、會堂が燒かれた。雲南で英佛宣教師が害に逢つた。六月一日、拱辰（マンチン）の英國教會堂が燒かれ、宣教師が二人殺された。二日、歐洲人三十三名の一行が天津附近で襲撃された。四日、北京天津間の鐵道連絡が杜絕した。八日、楊村の鐵橋が燒かれた。通州からは米國宣教師が危ふく北京公使館内へ逃げて來て、夥しく基督教民の殺されたことを話した。九日には洋人遊樂所が燒け、教民が一人燃ゆる火中に投げ込まれた。同じ日、英國學生が騎馬で北京城外へ出て團徒に襲はれ、逃げ返つて來た。

各國公使は初め清朝の人命保護疎漫をきびしく責め、地方官を交迭させたが無益であつた。三月初めには排外運動禁止の上諭を出させやうとした。そして大沽沖に英國軍艦を派遣した爲め、四月には義和團加入を罰する上諭が清朝から出たがきかれなかつた。五月には萬一の守備に水兵陸戰隊を各國共北京へ入れる準備をした。その三十一日には三百十七名の兵士が來て、一時北京は靜謐に見えた。然し端郡王は益々義和團保護に傾き西大后にはそれを如何にもしがたい樣がありあり見えた。六月六日には英國マクドナルド公使が清朝宮廷へ宣教師虐殺に就ての談判に行つたが、溫和派の慶親王はそれとなく北京宮中の成行を見せ、「膠州灣、旅順、大連、威海衛等の各國占領以來排斥熱が高く漸く、義和團に依つて洩れつゝある。」——之を今官權から抑壓することは、不可能のみならず滿洲朝廷の存立に關すると云ふ情を談判より熱心に、示すに努めた。

政府は五月二十九日、三十日及び六月六日と三度、義和團の暴行を戒めたが、それを叱するとよりはこはごは「義民だが」と顔色を窺ひ、却つて團徒數百名を殺した聶士成は譴責された。六月九日、西大后が萬壽山から歸つて民意に從ひ、斷然、千兵を以つて攘夷を行ふ風聞が立つた。

英國公使は即刻大沽のセーモール提督に陸戰隊派遣を電命した。端郡王が大臣となつた。六月十三日、日本書記生はセーモール軍の入京を迎へに停車場へやられたが南城正門を出るとすぐ、官兵に捕まつて殺され、死體は何處かへ見えなくなつた。北京市中に於て既に暴行する者があつた。公使館雇用の支那人が續々脅迫され、又殺された。午後から夕にかけては團徒が續々市内に入り込み、教民を殺し、教會及洋館を燒いた。

一方セーモール提督の兵千七百は、天津から北京へ進出の中

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

開郎坊で支那官兵に遮られ、結局、引くも出るも出來ぬ立場に至つた。――(彼等はやつと天津へ逆行した。)

慶親王が退いて總理衙門主席に端郡王が成つた。

公使館區域の水兵は危ふく虐殺からクリスチャン二千名を救つて公使館に助け入れ、或る一隊は又市内の寺で敎民を燒き殺さうとする犧牲の丁度その折りに出會し、匪徒四十人を射殺してやつと救つた。

かくて戰鬪狀態となつた。

淸國政府は、また然しその正義的一面を捨てず、「人民と基督敎民とに爭ひが起つた。政府は軍を出だして公使館外人の天津に逃れる者を保護する」云々の勅令を發した。六月十八日、それで總理衙門から大臣が三人交渉に來たが、偶々その前日大沽で外國聯合艦隊が淸兵の敵對行動に先立ち砲臺引渡しを要求した。がきかないので攻めて之を占領して了つた。その報が淸朝に達するゝ衙門の大臣は態度がガラリと變つて「二十四時間内に各國公使外人共北京を立退け」と要求して來た。

「公使館は危險にして、淸國政府は有效の保護を與ふること困難なる地位にあり。」

各國公使はそこで善後策に就て協議したが、大體之れ以上の相手との談判は不信な淸朝に對しては、無用だと思つた。只獨逸公使だけそれに反對した。

この數日前、義和團の頭目が二人馬車に乘つて、堂々と盛裝して公使館區域へ示威運動に來た。――彼等が獨逸公使館前を通つた時、公使は忽ち彼等を捕へさせ、一人逃げたが、つかまた一人は公使館々庭にズルズル引きずり込まれて公使ケットレルは持ち馴れた太い杖で、彼をイヤと云ふ程毆ぐりつけた。

六月二十日、そのケットレル男は書記を從へ、各國公使とは一人だけ反對意見で淸國總理衙門へ談判に出かけたが、道で崇文門大街を横切らうとすると、矢庭に後ろから銃聲が起つて往來へ倒れ、卽死した。

書記は負傷して逃れた。――私は去年北京で、その慘劇のあつた大街のちきわきの横町にゐたことを今思ひ合はす。

七

同じ日の午後、北京大學の敎授ジエームス氏は基督敎民の避難所を作らうと思つて紫禁城内へ出かけたが、その四面建築、城門にかこまれた石敷中庭にみぞが通つて、大理石の橋が八つ並んでかけてある廣場がある。――私は去年そこへ三四回出かけて、西側の廻廊でコーヒーなど吞み、白大理石橋をわたる中庭中央の人など黑點の如く見える景をまだおぼえてゐるが、そ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の黑點のジエームス氏が、橋にかゝると忽ち何所からか巧みな狙擊にかゝつて、死體は空ぼりへさかさに落ちて了つた。

（虐殺が起つた！）

宮城にさへ銃口が開いてゐる。外人には何所かしらから銃が向いてゐる。みんなやられる！

外人は恐慌してそれぞれ國旗の許――各公使館へたよつたが、又改めて一かたまりに中では最大の英國公使館へ籠ることゝなつた。戰鬪員は使館區域で働き、非戰鬪員は男女子供、殘らず英國公使館へはいる。――殆んど世界十四ケ國の人々から成り、十一ケ國の各公使がゐる。總數千名を下らず、猶別に保護の要ある敎民が二千人程ゐる。實は云ふまでもなく不足してゐる。ローマン、カトリックの敎民四五十名はいつも建物の間の野天にねたが、そこは彈が來る故誰かしらねてゐながらも死ぬ。

プロテスタントの四十三名は區域内天主會堂にね起きしたが、敎會堂どころか最下等のそれは旅籠と云ふ可く、一度も祈りの會はそれ以來見たことがなく、日曜も元より戰ひをしてゐる。――十字架像は今日は血なまぐさく、或るシムボルにかゝる。

街門の立退要求以來、排外の敵は民軍、――義和團だけではなく、寧ろ支那官兵となつたのである。保護す可き者が變つて敵に現はれた。

毎夜、暗い空へは火の手がのろしの様に上がつた。マルティン博士は初め米國公使館にゐたが　その時高く仰ぎ見る前門（チェンメン）の高樓へ見る見る火がうつつた。火の手は米公使館へモロに天から蔽ひかぶさり、焔の布の如く、如何とも危險の避けやうなかつた。が、偶々風が變つて、ホツと安堵した。

何しろ排外の一派は、逸つて六月中にある中夏祭期間に殘らず外人をやつて了はうとかゝつてゐるのだ。そこへ六月九日、西太后が歸城してからは猶有力な官兵董福祥軍が、下ちた淺黄森の影から助勢に一時に現はれた。事件が北京城外から城内へいきなり移動した。端郡王の火が發した。使館區域のとなり、紫禁城から！　六月二十日からは、外人にとつてはあらはに脆い英國公使館がたのみの唯一の城となつた。

その後八週間！

人は減るが、新手は夢の他出て來ない。馬や騾馬は悉く食料に食ひつくされた、八十頭！

着がへは元よりなく、シャツがからだへそれ自身又は皮膚の如くペツトりまきつき、ぬいだためしがない。――それぞれ胸に苦痛を抱きながらそれが今では避け得ぬ生活となり、互ひの顏にせめてその色を讀むことを恐れる。或るノールエー婦人は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

氣ちがひになつた。

およそ闘ふに足る男子は尤弾して、朝五時から夜八時まで各々持場所に出張り、「仕事」に從ふ定めが出來た。――例へばマルチイン博士は或る戸口のそばの持場所を「かため」た。

そのすぐわきに小高い門塔が立ち、公使館旗がヒラヒラ風に舞ふてゐる。いつも平和の時と同じに。――ところが支那人は自然己れの經驗から旗の下には、幹部が居ると思つてゐる。それ故しきりにその英國々旗を狙ひ、小銃彈が飛んで來る。

或る日旗竿をやられて旗が地におちた。博士は不吉故早速それを立て直した。又撃つて折られた又立てゝ直した。それから何度も。――了ひには、竿がなくなり、旗は風にも動かず、ダラリと只門塔にくつゝく布片となつた。

その最中の或る日のこと、博士のすぐわきで一人陸戰隊兵がボンヤリ立つて何か眺めてゐたが、突然、全く突然射殺された。――その彈の來たと思はれる方向をそつとのぞいて注意して見ると、コンモリと茂つた木が一つ目立つてゐる。その葉の中に一人ゐると見える！狙撃兵が。

夜、食事にテーブルに集まつて一團丸くなり、一人がテーブル中央のランプへマツチをすつたことがある、で、火がつくとその火が食卓を照すか照さないかにビユーンと彈が來て、ランプはみぢんに飛び暗くなつた。

―「What a good shot, devilish!」（何とうまく撃ちやがる、畜生！）

手に手に、たいまつを持ち、わめいてゐる。その、たいまつが危ない、危ない！

それを何所かしらへ放る度びに、忽ち地物へ何かしら火が付いてパチパチ燃へ上り、直きに大事に至り、火の手は公使館區域へ選ふ様にきまつてやつて來る。――外から燒いて籠城を火攻めにかけやうと云ふのである。

時には高貴な翰林院圖書館が燒けた。五世紀、六世紀もの以前にさかのぼつて系譜をたどることの出來る由緒ある藏書が、火に化してハラハラと飛び、地に散つて兵士に無慘に踏みにじられた。

又時には自分のつけた火の手に風都合故自分で追はれて、目口を蔽ふてバラバラ攻城兵が逃げるのを見た。

「まぬけ！」「ざまを見ろ！」「バカ！」と公使館からは歡呼を浴せた。

放火兵が放火の序でに、石油を籠城外人へ投げかける程亂暴に近よつて來たためしがある。ぬからず、外人は彼に頭から硫酸をぶつかけて、世にも痛い出遭つたためしなき目を見せた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

或る時アレ〃と云ふ間に、籠城をすつかり見下ろす高い城壁上に清兵がかたまつてラツコの様に群れ現はれた場合がある。

(あすこから狙ひ撃ちされたら敵はない!)

然し彼等は彼等からこつちがよく見える様に、それより先きこつちから彼等がくつきり見上げ狙ふ標的となつて、外人にピシピシ狙撃を受け、雀の様に人が上からバラバラ下ちた。

が、その城壁は占領せねば危険である。そこでアメリカ陸戦隊のマイヤーが英米露兵の決死隊指揮官となつて、マイヤーは"My men, yonder are four hundred women and children Whose lives are dependent upon our success. If we fail, they perish,and we perish also," ――何しろ一氣に突撃して取らう、と云つた。

露國兵には彼の言語はまるで意味不明だつたが、アクセントでさすがはつきりきいたよりわかつた。彼等は結束して公使館を出で、城壁へ突貫して占領にかゝつた。この「無謀」な行爲は甚だ清兵を脅やかすに足り、相當損傷の後、然し目的城壁は外人の手に占領出來たが、只勇敢なマイヤーはその目的を見ぬ間に、血だらけに重傷してうめき倒れた。

世にも亦勇敢な男は矢庭に一人駈けて行つて公使館を撃つに据えられた小形大砲の一つへ向ひ、清兵と格闘の後、大砲の向きを反對に向けてさあ!と云つた。係りの清兵は驚いて一目散に逃げてしまつた。――同時に勇敢な男も一目散に逃げて來た。

籠城の婦人達は學校教室の如くミシン臺を並べて座つてせつせと防禦の砂嚢を縫つた。「時にはミシンが機關砲となつた」又立派な色糸クションや上等絹布も婦人や子供を包む代りに、砂を包んだ。

マンゴー一家には三人の若い婦人が集まつてゐた。令嬢と、近頃シカゴから來た友人とである。友人は不運な時に公使館を訪ねて籠城の憂目に逢つた。彼女等はしほれた花のやうに咲いてゐたがその他、若いパイヤンは水彩畫を描き、ウツドフード夫人はしきりに寫眞を撮した。

夫人はみんなから"Mamma"と呼ばれ、元氣で、或る時には男子から銃をかりて敵兵を撃つた。「之れがあの時撃ち殺した男です」と云つて黒い乾板をのぞかせた。

およそ不幸の中にも何かしら幸福が出來上る。――之等の婦人團については、又いつかしら集まる若い男の一團が出來てその或る一對は話せぬことも話し合ひ、彼等は籠城社交の一中心となつた。そこへ又グツド、ユーモアーの名士ロバート、ハー

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ト、スペイン公使も仲間入りして時には何か笑ひ合つてゐる明るい瞬間も花の様に咲いた。ハートは汚れた服をたゝいて、「どうです諸君、一張羅々々々！」

その明るい影に、一人のネスガートと云ふノールエー人があつた。

彼は奇人で英公使館へ來てからも誰とも交らず、武器も執らず、撃たれもせず始終孤獨で悄然としてゐたが七月二十三日、夜雨にまぎれて、公使館を脱走しのんきに敵栄祿の軍營へフラフラはいつて行つた。

「英公使館では食不足故逃げて來た」と云つた。

――それから四日すると、白旗を掲げた支那兵に守られてションボリ公使館へ又歸つた來た。

或る大學教授は馬肉調理方となつた。壕を堀る「土方」の人もあつた。ロバート、ハートは洗濯の係り一切を監督した。

殊にスヰッツル人、シヤモーと云ふ男は、妻君と共に、一身に食事方實務を引き受けた。――彼は後佛公使からレヂオン、オヴ、アナーの受賞者に選まれたが――朝暗い中から起きて、夜までみんなのパンを燒いてくれる。

彼は度々パン車を曳いて交戰區域を通行したが、小旗を一度撃たれた切り、一度も身には負傷しなかつた。只パンが身代りに盛んに彈丸を食つた。

籠城の中頃から、フランス及びドイツ公使館にすぐ近接して王城府の北端に最大口徑砲が据えつけられた。又英公使館のすぐわきには、紫禁城々壁の三角隅に中徑の砲が据ゑられた。――それ等は門扉、建物を有力に撃つて來る。

それに應へ得る有力の砲は然し籠城軍にはないのである。

米國陸戰隊のミッチエルは心付いて、使館備付の二本の消火器を用ゐて臨時砲身を作らうと思つた。が、消火器はイザと云ふ時必要故、サー、クロードは使用を禁じた。

およそ金具と云ふ金具は彈丸に鑄られ、その他いろ／＼戰具に使用されたのである。指環、婦人の裝身具、彫刻品等凡て。

偶々、近くの船具店に鐵製大砲の[illegible]頃のがあることを一支那人が見て來て、報告した。すぐ様買入れ、適宜に据ゑ付けその他工夫して攻城軍に應戰した。――餘り時にとつては役に立つので之れは英國製の砲だらう、と云ふことになつた。實は支那製舊式の砲であつたが。

彈丸がうまく行かぬ爲め中々手數はかゝつたが然し、この砲は愛撫されて各國々際的に多忙に使はれた。彈丸は持つて來たが銃は忘れて來たロシア兵、自分の銃は重いので氣に入らぬイタリア兵、その他英國兵米國兵、何れも熱心に砲手となつた。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ト―殊に兵士ミッチェルは此の砲を我がスキート、ハートの樣に熱中して、そばを離れず、しきりに攻城砲に應戰してゐたが彼は或る日、砲彈に腕を寸斷された。

マンゴー家令孃はこの砲の初めての發射の時、その轟音と共に父上の膝に身を投げて聲を擧げて泣いた。

英國士官ハリデーは突貫でひどく重傷した。その後繼者ストルートは門前の水路を橫切る途中で、射殺された。レー大佐は銃をとらうとかゞんだ拍子に頭を擊ちぬかれて、不具になつた。フランス陸戰隊もやられた。日本義勇隊の安藤大尉、外交官楢原、兒島氏等、戰死した。米國海軍のリレーは大砲砲手に立つて、巧みに狙擊を受け、卽死した。――恰かも目立つ守將を摘み取るかの如く、ポツポツ逝く人があつて寂しくなつた。

籠城の最後には殊に食料がなくなり、或るフランス人の如きは着てゐる麻シヤツを食つた。只胃を充たす料に。

八

「およそ世に「籠城」攻城は多く、その期間も中々長い場合があり損害も戰狀も悲慘のものは他に例があるが、此の北清の籠城の如き――支那「一國」が世界列國を向に廻した――特殊性質のものは、他に例がない。」(マルテイン氏)

圍まれた英國公使館から支那稅務總司ロバート、ハートが六月二十四日、「午後四時密使に托して送りたる『外國人は英國公使館内に攻圍せられつゝあり、事情絕望に瀕す、急げ』の音信天津に達したるときは、實に世界の心をして寒からしめたり。」(有賀氏)

世界の視線は有形無形に「北京のこと」に集注された。電信は偶々北京から洩れ出でるとめぐる彗星の樣になつて、太洋海底をくゞり又は地上銅線を傳はり、同時に地球各地へ頻繁に飛び交ひ、各國政策は瀕死見とりの樣に熱し、時には希望が傳へられ、絕望が傳へられる

――何れも然し度が外れて眞相は支那それ自身の如く、漠としてゐる。

アメリカでは公使の重圍通報を頭から、「信じがたし」と返電して來た。駐劄支那使官が眞相を仲に立つて蔽ふたからだ。又英國外務省からは籠城公使へ「七月四日迄貴官の存命を知れど……」その後如何したか――世にも心もとない電報が來た。

籠城は顯著な二つの期に分れ、初め十日間は義和團が當面の敵であつたが後八週間は官兵がまともに敵地に立つた。――一時清政府の二面が一面に統べられたのだ。

がさう云ふ一面ばかりでは來ない。(若しさうばかりで來たと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

したら籠城外人は皆死んだらう。)

籠城軍では、曾てアフリカに轉戰した經驗ある英公使マクドナルドを總指揮官として、日本公使館武官柴中佐以下その下に働き水兵義勇兵共戰鬪員は四百五十名程あつた。

清朝は又義和團の神機、虎神營等にそれぞれ賞銀を特に與へ軍を編成せしめて、外人に當る勅諭を發した。

「殊に雷鳴の時には一齊射擊が猛烈を極めた。支那人は、砲擊的天變を自分ら砲銃を打ち鳴らすにいゝ、好個のキッカケと思ふらしい。」(マルテイン氏)

ベルギー、オーストリア、オランダ及び伊太利の各公使館は忽ち焼打にかゝつて倒壞した。籠城軍は本城英國公使館と各使館區域につゞくかずがひとなる、肅親王府を力を併せて、守つた。――そこが陷ちると、袋の鼠になる。

籠城」は北京中央にあり、高い城壁を隔て六十哩强先きの天津を隔てゝ、海から各國聯合軍が救援に來る――かも知れぬ。更にわからない。籠城は凡て辛かつたが中でも精神的に辛さに耐へ兼ねたのは「消息不通」と云ふことであつた。――あの城壁の外に今何が起りつゝあるか。自分達はいつまで一體どうなるのか。まるでわからない。死ぬ爲めに戰ふのか、又は助かる見込みがあるのか!

何度か城外へ密使を各國團から差し向けたが大てい效果不明に終り、一度十六歳の支那少年がうまく盲人に扮裝して、圍みをぬけ、又圍みを通つて歸つて來た。彼は救援軍の模様を知らす一通の書面を持つて歸つたが惜しいことに、その文は軍人の書いたものでない故抽象的で、讀む「想像」が益々心を苦しめる。――よくもわるくもとれる。

一度は又密使が途中捕まつて、却つて清朝慶親王の公開書文を持つて來た。それには、清國總理衙門へ相談に來て平和に天津へ退去の策を講じられよと書いてあつた。

七月十五日のこと、英國公使は親王に返書を認めて衙門へ行かぬ辯解、及び何れ外國救援軍が來るがそれは我等の生命財産を保護に來るのである、別に他意はないと云ふ旨を傳へさせた。

親王からはそれに又一通の返書が來た。「各國公使の無事なるを喜ぶ。若し外國軍にして發砲せざれば政府も亦清兵に命じ發砲せしめざる可し」

然し現にその書信の使ひが使館へ來るのに、宮城内の大砲は三度び行路を射擊して使者は一體天國へか地獄へか、迷ふ氣がした。

清朝政府は平和意志を持つ。(かも知れぬ)。清軍と義和團は

明らかにそれを持つてゐない。――そして清軍及義和團を清朝は統御、とても出來ない。

寧ろ公使館籠城が安全である。退去の途中、皆殺しに逢ふ。

（天津退去は危險である！）

――誰が誰を恨み、又は訴へるか。

西大后のダブル、マスクは危險だ。それは外人にとつても危險である様に又清朝當事者にとつても危險である。攻城將董福祥は近頃如何態度す可きに疑念を有し、和議に傾いた榮祿と議論して見ると自分は矢張りこのまゝ主戰一方に押し通す他ないと考へ――それは國家を或ひは壞すかも知れぬ？――ろくに食事も平和にはとれぬと風聞がある。

その一方には又、山東巡撫兵等の新手が帝命を受け大擧して外人全滅に殺倒して來るとの噂もある。

どうなるのか！

然し七月半ばからは頓に銃聲もなく、十七日には敵哨兵がブラブラ使館區域へ近づいて來た。今は休戰だからお互ひに幸せだ、今日は「散歩」に來たと笑ひながら云つた。それから近くの民家へはいつて何だか荷物を、かつぎ出した。

「それを如何するのだ！」

「町へ行つて賣るのだ！」

彼等は次第に數が增へた。

或るフランスの學生は一人、その「散歩」がてら「掠奪」に來る「休戰」支那兵の方へ出かけて、いろ〱彼等と雜談して見た。と、矢庭にドヤドヤと兵數が增して彼は捕まり、政府總署へ連れて行かれた。――然し總署では却つて彼を丁寧に遇して水瓜などくれ、（何と支那の水瓜は甘からう！）彼は手紙を持つて來た。

「此の數日外國軍より一の發砲なきは政府の大ひに喜ぶところなり」

然し王城府の城壁は休戰を幸ひしきりに攻擊砲座を事業してゐる。

あくる日、ためしに「散歩」の支那兵に食料買入れをたのむと彼は快くそれを承諾した。やがて水瓜や玉子、果物の類が（それがどんなに安く且澤山あるだらう！）運ばれた。食料が來た！

外人は食物市を開いて大ひに食つた。

――その支那兵にまぎれて、七月初め天津へ派した密使の一人がやつれて然し、歸つて來た。彼は內懷ろから手紙を出したがあゝ！福島少將軍からの手紙だ！　少將は軍三四千と共に今天津にゐる。山口中將の援軍一萬五千も到着した、と。

この確報は、籠城者へ忽ち酒の樣に利いて何れも狂喜した。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

水兵陸戰隊はかたまつて軍歌をうたつた。

七月二十日、政府總署から籠城者へ水瓜を車四臺に積んで、おくつて來た。英公使は笑つて「いつかの手紙に戯れに別に不自由なく過してゐる。(此の上には少し水瓜でもあればいゝと書いた」その返事だらうと披露した。

(此の水瓜は然し海外各國へは、支那は義和團一揆に苦しめる籠城者を食料保護す、と高く書き出された!)――が、それと同時に、籠城者の爲めに食料、代買ひをした支那兵は告發されて、銃殺になつた。

二十六日からは外人の電報を支那政府が隨時取次ぐ、と云つて來た。「但、人々の健康に關すること。暗號を用ゆ可からず。」

西大后はかなり今は和議派となつたが、既でに及ばず、近々外國聯合軍が來ると聞き危險を感じて、北京を去り、遠い大原へ蒙塵を考へてゐる。

或る日、或る支那兵がやつて來て話した。――天津には今外國兵がゐる。その外に支那兵がゐて、それから少し先きへ行き楊村へ來ると、外國兵がゐる。楊村の北には支那兵がゐて、その北河西務には又外國兵がゐる。

要領を得ない。

北京同文館教授杉氏は腹を立てゝ、おどかしに刀をとりに館内へ行つたがその間に彼は逃げて了つた。

(何とか云つて金がほしかつた!)

最後の十數日は引き續き北京退去を要求して來る政府に對して、能ふかぎり遁辭をかまへて實は日を延ばすことに、幹部が外交的苦心をした。支那の常用手段を外人が學んだ。

然し八月に入り、支那暦にはその月閏がある。八月閏は兇事の兆である。不穩に人心の騷ぐのがきこえる。

それに加へて愈々食糧が缺乏して來た。籠城者杉氏の日記に八月八日、……猶若し援軍到着せずば我等は實に餓死を免かれず。戰はずして死す可し」

九

救援軍はどうしてゐるか、聯合救援軍は?

彼等はセーモール提督軍の行き惱み以來、六七月の交、日本軍大部隊の到着を待つてから眞直ぐに天津を陷入れ、北倉、楊村に向ひ、そこで籠城者からの危急を訴へる密書に接し更に前進して通州を占め、八月十二日、愈北京總攻撃と迫つた。

* * * * *

八月十日、籠城軍は福島少將からの二度目のたしかな密書に接して、どよめいた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「八月八日發信、南葵村北二十四キロ碍廠にて日本軍及び聯合軍は……途中貴信に接し……貴官等を共苦境の裡より救出せんことを期し……意外の故障あるに非ざれば、九日河世務、十日馬頭十一日張家灣十二日通州に至る豫定にて北北京城下に進出するは蓋し十三十四日の兩日ならん

福島少將

柴歩兵中佐殿

あゝ！彼等は涙を流した。

* * * * *

通州からはあと北京迄五里程あるがその間を十四日朝、大强行で二里は全驅足で行軍した。——その爲めに從軍記者の如きは一人も本隊について行けなかつた。

軍は北京の側面朝陽門から攻擊にかゝつた。——門へ約千六百米突のところにズラリと砲列を敷いて、やがて空が白んで城砦シルエツトがほのかに前面に浮び上ると、同時に榴霰彈の一齊射擊が開始された。砲は總計五十四門あつた。

* * * * *

その夜籠城者は大半ねてゐたが午前二時頃に至り、東方に砲聲が起り、(それは露兵が先んじて擊つた)城壁上から應戰する小銃亂射の音が鐵板を打つ如く、彼我の喧騒は次第に時と共に夜が白むと一層猛烈になつてやがてはすぐ使館區域へさへも城壁を貫ぬいて彈が來相た轟音となつた。

或る哨兵は土足武裝のまゝ禮も忘れて公使等寢室へ

" They are coming!"

と怒鳴り込んだ。

が既でに一同起きてイソイソとしてゐた。婦人達も起きた。大なだれのやうな攻城砲が耳よりも心へ、ぢかに響いた。Never was music so sweet とマルティン博士は書いてゐる。婦人は耳を蔽ひ、互ひに抱き合ひ、うれしさに泣いて地團太を踏んだ。

* * * * *

外では砲擊を指揮して或る大隊長の如き「何と反應のない敵だ。演習射擊としか思はれぬ」と輕蔑を感じて、云ひくさした。

然し「演習射擊」とは云へ、これは一概に城砦を破ると云ふより寧ろ城門破壞の工兵動作を掩護するにあるので、敵の反應より一途に味方工兵を守り、朝から午後まで、殆んど斷間なく砲擊された。彈丸四千六百發を擊つた。

この掩護射擊の下で富山工兵中隊は先づ敵城直下に現はれ、小銃射擊の雨に擊たれつゝ然し遮二無二突進して生きて到着し

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た兵だけ、敵城直下の壁へぴつたり、やもりの様にへばり付いた。

富山大尉はそこで自分等のへばり付いた壁から城門は右か、左か、調べることにした。――右側へ行つた西井曹長は然し動くとすぐに敵から撃たれて倒れ、左側への一團は隱して出ることが出來なくなつた。

仕方なしに奇策を用ゐて、一部の兵をして全速力で壁をはなれ、ぐるりとまはつて、又全速力で元位置へ返りその間にチラと見た、城門の在り場を報告さすことに考へ付いたが、イザそれを一息でも壁を離れて兵が駈けたとなると忽ち城壁上からは射擊角內に入ることになつて、見る〳〵一人に二十發位ひ、彈がくし差しに當る。――城門は見ても見た眼は死骸になる。

一隊壁下へへばり付いたまゝ動けなくなつたが、敵は上から煉瓦や石、火のついたもの等ガラガラ投げ落して苦しめる。

偶々後方砲兵の掩護射擊が一瞬でも途切れると、どつと淸兵は城壁上へ現はれて小銃を直下に向け、工兵隊や擊つ。

如何とも死に絕へる他には、仕方ない。

で、中隊長は一時退却を下命した。その「退却」が又至難である。二三人づゝスキを見て鼠の樣に、バタバタと逃げし出して近くの民家影まで引き上げる。その間に三人に二人位ひは、必らず擊たれる。

然しどうかかうか、退却は出來た。

官川は不可能と云ふことになつた。

然し退いて見ると此度は「門」が豫め注意出來る。血氣の木下一等卒初め七名の「勇士」は是非にと願つて許され、又も彈丸雨下の中をば城壁目がけて突進したが、百メートルに行くか行かぬに木下は倒れ、その他晤いた石の樣にチリチリに倒れた。

やがて夜になつた。

決死工兵隊は三組の爆發隊に分れて地を這ふ樣に進み、城へ數十間のところまでやつと進むと、月が出た。――城壁の支那兵はそのほの白い光りに依つて地上に影と動くかたまりを見付け、滅多打ちに擊つた。

暗ければかなり見付からなかつたのだ。決死隊は何れも裸體で地物にまぎれ、這つて鹰の樣に進んだのである。

然し彼等は此度は目的を達した。九時十八。綿火藥に依つて朝陽門の第一、二門を粉碎した。――その爆音を合圖に、待ちかまへた後部の步兵はドツと流れの樣に城門へ突き入る。

* 　* 　* 　* 　*

同じ頃、同じ樣にして外城東便門には印度兵の一隊が城壁下へへば・付き、塞めいてゐが、フト氣が付くと城下に內外へ

通ずるドブである。——そこへ一人潜み、二人潜み全隊がドブへかくれた頃には先頭は門内へはいつて門を開けた。

彼等ヅブ濡れの兵士はそれから内城々壁に添ふて進み、正陽崇文二門の間の又ドブ——水ト兒(シュイコール)をうまく見付けてもう一度もぐり込み、そのまゝ宮城護城河へズンズン進行をつゞけて戰はずして、先登第一に公使館外へ達した。

＊　＊　＊　＊　＊

同じ夜、朝陽門の隣りの東直門が又日本兵正攻に依つて、破れた。

そこへは井上工兵中隊が向つたが、晝間は味方の掩護射撃に却つて味方撃ちの起るを恐れ、とは云へ射撃がなければ行かれないので豫め潔くあきらめ、初めから事は夜を待つて、大尉は軍の白服を嫌つて各自に黒外套をまとはせ、わらじばきでこつちは月の出ぬ中既でに、門外に達した。

その第一門、第二門共手ぎはよく、——朝陽門より先きに——爆破した。三十吉羅の裝藥。

破壞工兵は喊聲を擧げ、君ケ代の喇叭吹奏を行つた。味方歩兵への開門合圖である。

ところが四邊森々として合圖が透らず、待てども／＼歩兵隊が來ない。

一方敵は城門を破られたので必死となり、牆の上から下を狙ひ撃つ。井上大尉は第一門から第二門への通路のところで眞上から頭へ小銃彈を食つた。それはツーンと痛く貫通した。——が軍帽を。大尉は夢の如く、命を拾つた。

云ふ迄もなくその間に工兵はバタバタやられた。——そこへ漸く後部歩兵の密集が來た。彼等はわめき叫び、突貫して第一門から二門へ拔けるが、そのせまい限られた通路には工兵負傷が一杯ゐる。

「負傷だ。踏んでくれるな」

「踏むな踏むなまだ生きてゐるのだ！」

が、その足の下の聲は、殆んど聞かれずに恐らくみんな踏み殺された。

＊　＊　＊　＊

各方面で、敵は頑強に抵抗した。然し大勢は忽ち聯合軍のものとなつた。やがて我が全聯隊は湧く様に、北京城牆上へ現はれたが、支那兵はそこで撃たれたか、壁から落ちて死んだか、又は道つゞき一路の紫禁城宮殿へ生き殘つたものは、逃げ込んだ。

その時市内南方から第七發目の花火が上がつて、燦爛とかへり、消へた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

それは公使館の猶安全なることを攻城軍に知らせる合図であつた。

* * * * *

翌朝十時、英國公使館では大扉を八文字に堂々として開いて聯合軍を迎へた。天使の様に迎へた。

"By a Eye Witness"

A

私は大正九年秋北京にゐた時、三條胡同(横町)にゐた。そこは例へば京橋南(北)横町あたりの平行する通りが右へ行くと京橋大通りへ出で左りへ行くと外濠線電車通りへ出る様に、左右にタテに又並行する二つの大通りに依つてはさまれてゐる。二つの大通りから成る梯子の段(二條、三條……)に當る。――その大通りを、東を崇文門大街と云ひ西を王府井大街と云ふ。王府井(ワンフーチンターチエー)大街は又 Morrison Road として外人間に知られてゐる。そこに暫く倫敦タイムス通信員モリソンが住んでゐたからである。

――そのモリソン氏は籠城中或る日防禦區域を巡視してゐて狙撃を受け、右足を打たれた。――

崇文門大街は北京内城へはいる正陽門(正門)の第二位東に開く城門から初まり、そこから城内へ北行するに従ひ通り目貫きのところに先づ東單牌樓が立ち、猶道の先き(北)に東四牌樓がある。

牌樓(パイフウ)とは通り一杯にまたがつて立つた、例へば御大典などの時によく馬場先門あたりに出來る杉葉アーチと似たものである。――木製で彩色装飾模様を施し、屋根があり品字形になりその下に廿字形に柱が地を踏んで立つてゐる。色は濃朱で風雨に錆び、模樣は支那味に紛糾してゐる。

その東單牌樓と東四牌樓との間に、猶この大街にはもう一つ大理石製牌樓があつた筈で、ケツトレル紀念牌樓と呼ばれてゐた。――それには、羅甸語獨語及び清語を以つて紀念的な支那の謝罪碑文が示され、明々と通り中央に掲げてあつたが、つい歐洲戰の初めか何かの頃、ドイツを支那も敵にまはすに就きそれをいゝ機會(?)に、壊したとか云ふ。

壊さずにそのまゝ今もあつたなら 私は三條胡同にゐたのだからいつも通りへ外出の度び、それを見たりくゞつたりしたらう。――そこはさびれた然し北京大通りの目貫きの一つで、屋並みひくゝ商家が並び、一方は何かの石塀であつたかも知れぬ。小ガス燈が立つてゐる。そこに露店骨董商が出てゐて私はひやかして、ラマ佛を買つた。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

商家の側にはいかけ屋、道具屋、靴屋……などある。——一體何所に狙撃者がゐたか、二十一年前、何しろこのカチカチに踏みかたまつた通りの何處かで此の現場で、ケットル公使は白晝やられた。

B

で、その「不名譽」なケットレル紀念牌樓はうまく壞したが、まだ壞せぬ、否増すかも知れぬ、「紀念」は彼の地に澤山ある。北京中央の宮城に對して例へば帝劇とか海上ビルデイングとか云ふいゝ工合のところに、麗々とある他國の砲壘、兵營、等は壞せず、市の內城外城を廻る高い見晴らしのいゝ城壁上には外人の他、一歩も乘れぬ。——その城壁所有者、支那人は。

乘せてそこから——又例の様に——眼の下の外人居留地を狙ひ撃ちされ はたまらぬと云ふので。

——で、大方夏の夜などには、一杯に月光を浴びて城壁上には外人一國の愉快な納涼音樂會があり、下の上り口の見張りのところに、却つて銃を持つた番人の自國支那兵が暗い、蒸し暑い思ひをしてゐるかも知れぬ。

又も「どつちを護る城壁かわからぬ。」

紀念は壞れずに澤山ある。

肝心の都市に外から至る鐵道沿線にも、例へば奉天から來る山海關以西一帶には付け劍の日本兵が不寢番してゐる。宮殿——今は總統府——近くの交民巷には、各國兵が立つていかめしく武裝してゐる。

その反對である。凡て日本は。

——だから「發展進取」が國家安全の道か。軍國のお影と誰が云ふか。否！日本は島國である。國防に於て天の利を得てゐる。およそ蒙古が襲來すれば、神風が吹くのだ。がそれにはつゝしみが又世にも必要だ。天與の利を人慾に依つて壞すと危險が來る。（何所か離れた島にでも殖民地域があるといゝが！）

下篇

一

此の極東の事件の爲めには、日本は最も人命を賭して「世界の爲めに」働き、日本軍は天使ガブリエルの紋章に從ふかの觀が、明瞭にあつた。——一體日本は北京騷亂の時、此所で自分が軍隊を出せば團匪事件など——それに支那官兵が加はると雖も——バタバタ片付くことは實力的に、よくわかつてゐた。恐らく諸外國にもよくわかつてゐた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

然し近き過去二三十年此の方己が地位的環境に著しく起つた國際關係の立場を氣づかつて、無闇に出兵はとても出來なかつた。時には何なら國際のうるさい顧慮を苦にするより寧ろ、北京籠城者を「見殺しにしても」いゝ態度をとつた。

「とらされた」と書く可きが至當かも知れぬ。何故なら初め出兵を國際的に計つた時、英國初め露獨等殊にいゝ顏をしなかたからである。

彼等は北京騷亂を靜めるより「日本」と云ふ國の活躍を苦にした。腐女の如し。

又さう云ふ國際的「進歩」の途上にあつたのである。日本は――此の極東事件は「日本」にとつての一の過渡期である。

彼は云はれる「軍國主義」に似ず、軍を用ゆるに全く臆した。外務省では各國公使を或る時集めて北京からの危窮報知を讀んできかせた。が、だから救援に兵を出すとは一言半句も云はなかつた。

(貴君方が許せば出すけれど……)

かねての武士が劍を棄て、燕尾服を着て俄かに人交りの場にはいつたので、まるで自由を滅したかの形ちだ。

然し次第に北京の危險は迫り、國の一番近い日本は兵を派することが未來の何よりも現在の大勢上、寧ろ人道的に自然となり、外國も多くそれに贊し、殊に英國は次第に積極的に希望して來た。

然し日本は猶躊躇してゐた。――兵は出せるし出したいが他の思はくが無氣味だつた。救援のあり得る正義觀念より屢々過ぎたる不正義の外交觀念が強すぎた。(それがこの場合の缺點である。)

結局、決答を要する場合に迫つても猶左見右見曖昧な日本電報に對して、英國は一九〇〇年七月、頭から、日本軍隊がもし遲ければ今では既でに重大責任が彼等の上にかゝる時だ、出兵せよ、金は出す、「此の點に付き國際談判を重ぬる時は緊急の時期を失す可ければ」單獨に決めると云つて來た。

かくて日本は餘りに立ち馴れぬ舞臺に臆したが爲め、彼の氣にした國際外交表面では英國から強請されあまつさへ金まで出させて、出兵したかのイヤな形ちとなつた。――實は初めから兵を出したかつたしあとで實地では一番働らいたが――例へば高林戰では日本騎兵が突貫で眞先きに清兵を破り然し戰利品はあとからついて來た印度騎兵が拾ひ集め旗までとつた。屢々日本兵の肉彈戰は外國兵に賞められたが賞める外兵は、うしろで休めをして觀戰してゐた、――凡てえんの下の力持ちとなつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が、私は此の當時の過渡的日本を愛する者である。その應した る國際態度には無知識ながら程よき一種美點があり、その小日本の除外國間にはさまつた様は、又興味の出來ない感じである。外交論者は之れをも然し離するであらうし殊に、日清戰役三國干渉に日本が懲いてすぐ滿洲を離して、然しあとで他に讓らぬ約を何故しなかつたかと咎める者があるが、私は思ふ。さつぱり離して了ふところに或ひは日本の綺麗な意氣が出てゐる、と。日本は此際の様にはわるくねつくない。強ち惜かつたとばかりには思ひたくない。

兎に角、日本は引きつづき國際舞臺へイヤに乘り出した。内外の機から。――殊に北清事變の結果は、一種正義の冠をおどく頭上にかざして又世の注視を新たにした。

(お姑さん御成人)より必然に、實力的に。

二

が、世界は何と變るであらう。――當時のロシアを思ふと、およそ誰に約二十年後現代の革命ロシアが思へたであらう。尤もその萌芽はその現時の如く顯著ならぬ様が、大帝國主義時代のロシアに充分生へてはゐたが、事實に於てツアールがケーレンスキーに、更にレーニンに變るとは。

當時ロシアは世にも侵略的舊世紀的國是を楯にして、北京事件のさ中にうまく支那軍のブラゴエチエンスク砲撃をとりこみ、――如何にさう云ふ「不幸」が外交には「幸福」になることだらう――之れは列國關係の議題に非ず、支那が我が國境を犯したものだ、露對支那の特別國際問題だとして、滿洲占領を支那との間に謝さうとした。支那談判委員を無氣味な黑海沿岸へ連れて行き、強ひて調印させやうとした。

團匪討伐以來又遙かに姿を對世界的には鮮明のものとした日本はこの時、殆んど原因的には英國の拔目なき外交使嗾に依り、きかなければ戰爭する氣でロシヤに提議不當を抗議した。――我々は十幾歳でのんきにしてゐたが、或ひは日露戰爭はあの數年先きに起つたかも知れなかつた。

が、その時はロシアが抗議に應じて事無く濟んだ。然し影にはカシニー密約その他があつて、滿洲は次第にロシアとなり、彼は東洋に海港ハケ口を摑まうとかゝつた。

所謂「臥薪嘗膽」の十年に日本はそこでぶつかつた。日露戰爭――どうせ戰はずにはすまなかつたかも知れぬ勢ひ。露骨に他國の土地で、第三者同志が血を流した。

その結果は、去年私としては少くも氣になりながら見て來た通り、野蠻のロシアが失敗して退き、反對に出來不吉の滿洲に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は稍もするゝ滅故郷的な日本人が充ちた。

――私は滿洲の土地と生活を思ふ度びどうも不自然で、イヤでいけない。一種不正を具體感していけない。――又彼所から何か間違ひが引き起り想で怖くていけない。

三

それからのことは書くまでもない。

曾て「日本號」を出した。「倫敦タイムス」に、「歴史にして十九世紀の大政治事件に適當なる配景的地位を與ふとせんか。一八五三年、ペルリ提督の艦隊日本領海に出現せることよりも大に子孫の目を惹くものはあらじ」

「是れ蓋し一東洋國民としてその力を自覺せしめ、東西關係に全然革命を齎らしたるものなればなり」――とあると云ふ。自分も既でに「子孫」の年代の者である。さすがうかつでなしに國史を今更に讀んで見ると、「大に目を惹」かれ、「日本」の出現に我れながら、のんきでなくなる。

全くそれは既でに一の「昔」である。ペルリが日本領海に現はれ、もし開港を肯かなければ先づ琉球をとつてから初めると「黒船」が吞んでかゝつたその小島國「日本」は、今は「恩人」ペルりの國にいろ〳〵指導された或る明治年代をもとうに過ぎ去り、多年の朝鮮は遂に吞み去り、滿洲をも進んで敢へぬ「專管」では既に我が有であるかの様に自由に振舞ふ、――早く云ふとイヤに「大」日本である。今は。

太平洋をはさんで東洋的以上世界的に、露骨に、七十年以前には師であつたアメリカ大陸と對抗してゐる年代である。强ち誇張でなく、「しのぎをけづる」と云ふに似てゐる。

ラングトン大尉事件の如き、もし情原が逆つたら、少くも明治何年代の對アメリカの日本であつたら、抗議を受けて直ぐ謝まるか――一種素直に謝まれるか、又は向ふから概してさう問題にはしなかつたであらう。よし問題にしても一地方問題ですんだかも知れぬ。否、全然あのことは起らない。日本はシベリアへのさばる「資格」がないであらう。

世界は今世紀の「日本」出現を奇蹟の様に思ふであらう。

日本はかくてその「姿」はかなり確然と「世界」の視野中心に映じ出した。十九――二十世紀の紀念的時間を以て地球裏の――或ひはいつも暗く見えたかも知れぬ――東亞の海から「日本」がありありと球全體への交渉範圍に、一の存在に、現出した。

「人」はその姿を見た。

然し「神」はその姿を同時に見られたか如何か。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

四

私は徂國者で、此の地球上で他國人に生れず日本人に生れたことを、矢張り感謝する者である。「日本」と云ふ我が母を信ずる。

その美術を見よ。——他のことは謙遜的には云ひにくい故この點で何と云つても假令神の前にも、臆せず云へる一語を使ふが美術を見よ。——此の美術ある國家、藝術の至高の花ある國家が、能く開國して然しメキメキと地球から現出したのは、私に云はせれば、或ひは外人が思ふかも知れぬ「奇蹟」ではなく、當り前だ。

「日本」は元來叡智の實力あり、叡智を有する優秀國民である。

その國際的「姿」を「人」が見たのは、只見なかつた前と境遇がはつきり違つたまでだ。

「神」が日本を見られたためしは、私は日本の昔を思ふ時はつきり端的に感じることが出來る。

例へば推古朝の美術をどの神が喜ばないで見たことがあらう。平安朝を、鎌倉期を、乃至戰國時代にさへも、徳川期の立派な「日本美術」を、その浮世繪藝術を！——それ等は永遠の美界となつて、神に嘉納され、神に見られ捧げられてゐること、天にかゝる虹のやうだ。

もし日本美術が天にかゝらなければ、恐らくギリシア美術もかゝらないだらう。——その程度に。

只、自分の云ふのは、あらはな地球的關係、國際範圍にはいつて以來の日本を「人」が驚き見た樣に、又「神」が驚き見たか如何かは——怪しいと云ふのだ。

以前に「人」が見なかつたのは見られる頃に鎖國だつたからだ。「人」の眼は透らず、現世關係外には見えぬ故。——然し神はその時日本を見て居られた。

ところで近頃は「人」は子供も知つてゐるが、神はそんなことは見られたか如何か、内分は怪しむ。

神は國際を人に任される。

外交官乃至政治家は實は神の委任に依り、地上雜務をとり扱ふ可き事務官である。——然し稍もすると神より惡魔の手下になる。その本來に於ては名は假令支那と云ひ、英國と云つても、その支那のものでも、英國のものでもあり得ない疑ある土地を、賊はのけて、「威海衛及び水師を租與す」などと蟲よき書き付けを書き合つてゐる。

神は然しそれを咎めぬ。戰爭しやうが、地をとり合はうが、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

神はそんな事は一々とり舉げない。――その神に見られぬと云ふことは、世に存在のないことだ。神は咎めも見もしないがそれには「亡ぶ」と云ふ罰が避けがたく、付いてゐる。惡魔の好きな臭ひである。

日本の國際發展と雖も、地上人間上の只それだけのことならば神にはどうでもいゝことだ。假令領土は七割五分増加し、軍艦は明治初年の一萬餘噸が大正三年百九十萬噸に變り、收入は初年の三千三百八萬九千圓が大正二年五億八千六百八十萬七千圓に達しても、神はさつぱり問題にしない。一體領土のキメや軍艦の要や金の話しを神は知るまい。

で自分は思ふが、此所で日本にはさう云ふ地上現象だけでなく、もう一つ不滅のものが出來ぬと、神に見られるものが出來ぬと――花が咲かないと、此度は日本の近く踏んだ上り坂はやがて下り坂になるかも知れぬ、有無結局能なきものになるかも知れぬ、と。

五

私は此の一節で筆を擱くが、心安んじて擱筆出來ることを此の稿の主題なる祖國、敬愛する「日本」の名の前に謝し、同時に神にも時代にも自分にも深く心から謝す者だ。

「抑々我が獨立の國家として世界の舞臺に現出してより以後茲に約七十年、その間歐洲文化の影響を受け、歳と倶に國運發展し、漸次、國際的地位を向上するを得たりと雖も、その眞に實力ある國家として列强に承認せらるゝに至りしは日露戰後即ち最近僅かに十年來の事に屬す。」

之れは大正三年版「國際的現代日本」の序一節である。誰しも亦同感の調子に書いてある。

然し自分はそのあとにもう一行加へる。「然れども更に眞の世界的存在に對する精神的內容を稍、然し確實に、備へんとするに至りしは、維新以來」實際此の數年、一九二〇を略境してのことだ。今引いた序節の書かれた、そのあとだ。歐洲戰以來の日本の事實である。

自分はそれを目擊する。故に此の稿の擱筆結論に肯定を齎く――舉げて說明はうるさいからしないが。

で、今や現世的には「人」が見る如く下事業もすんで、自然になつた。日清役の時でも、北淸事變の時でも、日露の時でもない。今はそれ等のすんだ、多事ながら便宜な片付いた時代である。世界的日本の立場は國際に目に見えて既でに出來上つた。油繪を兎に角日本へ持つて來た黑田さんは本場のアカデミシアンにされるし二三日前香港では、あの見識ぶつた英國水兵が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「未曾有に」日本水兵を迎へたと云ふ。此の上は當分平和でゐるといふ。噂の日米戰などどうかないといふ。

およそ眞美の自覺ある以上、「日本」は便宜なる境界を生かすであらう。維新以來も國難戰爭に死んだ人々も眞美への土臺にチャスティファイされ、生き返る日があると思はれる。私は抽象的に然し實感で云ふことは、何れ遠からず日本が火の様に世界へ投げて不滅の階にするだらう。——人には見えないでも神には見える時がある。

それが立ちつゝある。

私は私の年代を辭き、「日本」を祝す！

（大正十年二——三月稿）

近世デカダンスの享樂趣味

高須梅溪

（一）晩春初夏の情調を思はせる江戸文化爛熟期

春がくると、誰も享樂氣分を生ずる。だが眞に享樂するにふさわしい時期は、主として晩春初夏の頃にあると思ふ。春の盛りには、誰も彼れも、陶醉したやうな氣分になつて、夢中に浮かれ戲れるので、環境が騷々しくてしんみりとした享樂氣分に沒つて居ることが出來ない。

ところが、爛熟した春が漸く老いて、美しい微笑を湛えて居た花が大方、柔かい風に散り始めて、若葉が、梢の上にちらほらと見え出す時分になると、騷々しかつた人々も、いつか靜まつて、一味の哀愁が漂ふうちに、深い餘情が脈々として波うつのを感ずる。沁々と生の享樂を味ひ得るのは、此の時分だ。

私は晩春初夏の頃になると、能く郊外へ出かける。茶室がかつた四疊半位の小室に閑座して、金色の陽光を浴びて居る庭の若葉や、梢に少しばかり殘つた櫻花の淡紅色を眺めながら、一

椀の苦茗を啜る心持は、何とも云へないほど快い。私は左樣した氣分、情調を市川の松桃園などで味ふことがある。

左樣した時、私は、甘いやうな、酸つぱいやうな晩春の空氣を呼吸し乍ら、いろいろの空想に耽るのである。此の場合、私は一時動搖の烈しい、不安の影の濃い現代の苦惱世界から暫く遊離して、生の享樂に關係ある事柄を思ふのである。享樂と云ふと、私は眞先に歐洲に於ける時代末のデカダン派の詩人らを連想せずには居られない。淡紅色の胴衣(ダブレツト)を着て、自作の詩を高誦しながら、パリーの巷を歩いたゴオチエ、衰殘の花の重苦しい嘆息や、夢心地の秘術を愛したパレース、音樂の色彩や、色の合奏を愛好したペール、中世風の美服を喜んで、胸や、襟などに向日葵百合の花を挿し、孔雀の羽を手にしたワイルドらを始め、ボードレエル、エルレイン、ポーらの耽溺的な享樂の姿を思ひ出すのである。彼等は、近代文明の爛熟と頽廢との中から生れ出た享樂兒であつた。

だが、それは、ひとり、歐洲にのみ見出される現象ではない。ある一時代の文明が、其の頂點にのぼりつめて、爛熟し、頽廢せんとする時分には、必然的に、何處でも現はれる時代末的特徴である。假りに、其の匹儔を近世日本史上に求めると、江戸の文化文政時代前後が、正に文明の爛熟期、頽廢期であつた。それに先立つて起つた元祿期の文化は、華麗で、豪放で、若々しく、水々しいところがあつたが、何處となく、荒削りな點や殺伐な、疎豪な點があつた。畢竟、江戸文化の創生期にあつては、左樣した缺點から、脱出することが出來なかつたのである。

けれども正德から、寶曆、明和、天明、寬政等の時代を經て江戸文化が、次第に進歩して、洗練され純化さるゝと、上方には見られない獨創的な美質が形造られた。それが、文化文政時代前後には恰度、頂點にのぼりつめたのである。それは、正に爛熟の春のやうな光景を帶びて、一度、其の文化が打破られて更らに新しい文明が生れねばならぬ狀態に到達したのである。斯うした頽廢期がくると、江戸人も自然、一種のデカダン的色彩を有するやうになつて、纖細な鋭い官能の滿足を求めんとする享樂趣味が、非常に發達した。

だが、彼等は、一足飛びに左樣なつたのではなくて、其の途中、幾段階を經て來たのである。彼等が、都會人らしくなり始めたのは、元祿時代からで、當時情感的に解放された彼等は、主として、遊廓の天地に久遠の享樂園を見出して、次第に圭角を磨滅し始めた。武人階級も亦町人と同じやうに、戀の世界に放浪するものが殖えて、殺伐味豪放味を減じて、次第に都會人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

としての柔か味を帯びて來た。

斯うして、町人と武人とが都會人としての感情や、思想や、趣味が發達すると、京阪文化とは、全然、別な江戸文化の特色が、徐ろに形造られるべき趨勢となつた。彼等を取卷いて居た平和な空氣は、彼等に享樂の自由を與へて、洒落、機智、諧謔、滑稽、淡泊た色合を帶びて居るところの新江戸人を形成させた。安永四年に出た戀川春町の『金々先生榮華夢』と云ふ黄表紙物やいろいろの洒落本や、明和時代から天明時代にかけて流行した川柳、狂歌、狂文などは、何れも、京阪人とはちがつた江戸人の性情や、趣味を鮮かに反映したものであつた。

彼等は、また一方に於て、其の久遠の享樂園として居たところの遊郭に耽溺して、所謂『通』と稱した、洗練された花柳趣味を創造した。それは、本能生活の洒落化、諧謔化、淡泊化、を意味したもので、京阪人士の所謂『粹』の一歩進んだものとして、江戸人の誇つた點であつた。

以上の傾向が、江戸文化に於ける著しい特色として、芝居の上にも、文學の上にも、美術の上にも、民衆の上にも、表現されたのであるが、其の絕頂に達したのが、文化文政前後の爛熟期である。それは、江戸文化の春が爛熟し切つて、デカダン的傾向が、著しく、民衆の上に現はれた時代であつた。季節の上では、恰度、晩春初夏の風物を思はせるやうなところがあつた。私は今、其の時分に於ける享樂趣味について、述べようとするのである。

(二)江戸のデカダン生活と享樂の世界

デカダンの一般的特徴は、内的生活に對する不滿を補ふために、絕え間なく生の享樂を追求してやまない點にある。文化文政時代の前後に於けるデカダンの生活は、當時の戯作の上に反映されて居て、一見、極めて呑氣で、洒落な恬淡なところがあるけれども、それは、皮相上のことで、深く彼等の内的生活に、突き入つて見ると、そこに、ピエル・ロチイが云つたやうに、歡樂の奥に覆面した哀愁が潛んで居たのである。

元祿期の江戸人には、殆ど哀愁の影が見出されなかつた。彼等は、豪放で、快活で、其の趣味も、官能も、荒削りだつた。ところが、明和、安永、天明時分の江戸人になると、豪放から淵雅へ、快活から俊爽へ移つて、それに洒落味が加はつて、趣味や、官能が大分、デリケートになつて來た。而して其の知識生活も亦以前にくらべると、稍進歩した。換言すれば、今までは、外界の事物、出來事に對して、殆ど沒批判的であつたのが幾分か批判的になつて來た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

斯うした狀態にまで到達した彼等に取つて抑へ難い不快は、不自然な階級制度から來た強い壓迫であつた。黄金慾は、彼等の働き方一つで、相當の滿足が得られたであらうけれども、權力慾、名譽慾は、殆ど其の一生のうちに於て、どんなに努力しても、得られなかつた。彼等は、勿論、左樣した不滿に對しても先天的にあきらめねばならぬやうに育てられて來たにちがひないけれども、此の不合理に對する不滿が、時にはひよつくり頭を擡げて、どうすることも出來ない場合があつた。そこに、形容し難いほどの自棄的な淋しさが漂うて居た。

彼等は、また永く持續されてゆく靜平に對して、一面感謝の情を以て居たであらうけれども、平凡とに對しては、深い倦怠を感じないわけにゆかなかつた。其の永い靜平から來る單調と恰度、際涯のない、一本筋の平らな道を辿つてゆく旅人のやうな氣がして、其の單調を打破るところの何物かを期待する憫想を抱かないわけに行かなかつた。

斯うした內的生活の不滿は、勢ひ江戸の民衆を驅つて、デカダン的傾向を有せしめなければ措かなかつた。彼等の多くは、左樣した心內の寂寞、孤獨、倦怠をまぎらすために自然個人主義的となり、享樂的とならざるを得なかつた。どうしたら、樂しい一日を送ることが出來ようか、と云ふことが彼等に取つて、一番大切な生の問題であつたやうに思はれる。彼等は、此の問題を解決してゆく鍵を狹斜情調の上に求めた。即ち狹斜情調を中心とした藝術、狹斜的色合を中心とした繪畫、小說、狹斜氣分を中心とした人氣質乃至洒落趣味、若くは左樣した方面に關係した食味、其の他の好みと云つたやうな世界に、享樂の目標を置いた。左樣した傾向は、先づ何よりも、狹斜方面に於ける著しい發展となつて現はれた。

私は、此の事を叙する前に、當時に於ける生活上の進歩について、一寸して置きたい。此の方面の進歩が漸く目立つて來たのは、田沼意次の執政時分からである。田沼は、奢侈な生活をした人として、有名であるが、其の治世には、好んで、舶來品を集めた。ドンクルカームル(暗室寫眞鏡)テルモメートル(寒暖計)ウエールガラス(晴雨計)トーフルランタール(現妖鏡)と云つたやうな類を愛玩して居た。田沼の風は、自然、江戸市民の上にも影響して、幾分か其の驕奢を增した傾向があつた。

だが、それ等は、未だ目ざましい程のものではなかつた。眞に生活の進歩が著しく現れたのは、文化文政に近い頃だつた。其の頃は、一個二十五兩の煙草入をもつものや、引出、銅壺が着いて居て歩きながら足を暖め得る下駄や、二百匁の肉ある傘や、縫物をつくしたいろいろの工藝品などが、市民の間に普

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

通に用ゐられるやうになつた。

服裝も亦以上に準じて、非常に贅澤になつて居た。三馬が『浮世床』のうちに、當時の女の服裝を巷間に托して描いたのを見ると、『つむりの上がさつと三十兩、櫛がばらふで簪が今風二本、うしろざしが少し流行におくれたれど甲は結構』と云つたり、屋敷物の女を見て『紅裏の惣模様きりゝしやんとして宜い。』と云つたり『紫縮緬に帯が八石織だ。』と述べたりして居るので、大體の樣子が窺はれるのである。

男の服裝も矢張女に讓らなかつた。鯉丈の「八笑人」のうちに、當時の若衆の有樣を描いて、『黄八丈に七つ襟の小紬、緋ごろうの帯をメめ、朱の二重緒の雪駄をはき。』と述べて居る。余程、女性化した優艶さを喜んだ樣子が想像されるのである。

それから飲食についての僣上沙汰、住居についての好み、それ等も亦前代にくらべて、餘程、進化したことは云ふを俟たないのである。左樣した生活を背景として、彼等が、どう云ふ風に生の享樂に耽つたかと云ふことを述べて行かうと思ふのである。

(三)狹斜情調と町藝者、茶汲女

江戸人が、享樂した性慾として、第一に擧げねばならぬのは、狹斜の巷である。其の繁昌は、江戸市中の私娼が、四千一百八十餘人に上つたと云ふだけでも、略ぼ想像し得られよう。

岡場所の流行、茶汲女の増加、それ等は、元祿、享保の時代には、見られなかつた現象である。殊に町藝妓が擡頭して、時人の嗜好に投じたことは、當時の新現象の一つであつた。

蓋し肉慾の天國に憧憬れた元祿期には、遊女や、男娼や、私娼の類が相當に旺んではあつたけれども、割合に浮靡なところがなかつた。客の遊び方も、豪放で、濶達で、一夜に千金を擲つと云つたやうな男らしいところがあつた。

ところが、文化文政前後になると、文化的に進歩した江戸人は、『通』とか『粋』とか云ふことを無上に尊重して、表面、豪奢な遊びをするよりも、寧ろ趣味のある遊び方をするやうになつた。そこに、彼等のデリケートな趣味があつたのだが、それと同時に、浮靡な傾向をも伴つて來た。斯うした時代に、町藝者が、非常な勢で、流行して、在來の遊女を壓倒しようとするに至つたのは、自然の勢であつたらう。

江戸に於ける藝者は、最初踊り子と云つて、元文頃に始めて現はれた。その時分は、極めて少數に過ぎなかつたが、漸次、増加して、明和、安永の頃には、藝者若くは『者』と呼ぶやうになつた。彼等は、始め藥研堀や、橋町に一廓を爲して居たが、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

文化文政の流行期に入ると、芝高輪、深川仲町、下谷廣小路、湯島天神附近、柳橋、本町、淺草仲町などに散在するやうになつた。

彼等は、遊藝を主として、客の宴席に侍したのであつたが、矢張遊女のやうに、色を賣らなければ、命脈を支持してゆくわけに行かなくなると、止むを得ず、客の望みに應ずるやうになつた。それが、當時の要求に協つて、文化文政前にさへ非常に流行して、在來の遊女以上に歡迎されるようになつた。『賤のをだ卷』と云ふ本には、江戸中、何處へ至つても、藝者の居ない町がないほどに繁昌して、吉原や、品川の遊女の妨げとなつたところから、遊女屋が公訴して、高輪邊の女藝者が十餘人、捕へられたことを記して居る。

藝者以外に於ける私娼の跋扈も、甚しかつた。深川は、彼等の最大な巣窟だつた。殊に興味の深いのは、掛茶屋に於ける茶汲女の流行で、それは、今日のカフエーに於ける女給に相當して居た。笠森稲荷の茶屋に於けるお仙、淺草觀音境內に於けるお藤の二人は、當時最も嬌名が高かつた。蜀山人は、特に『阿仙阿藤優劣辨』を書いたほどだつた。當時、青春の人々は、左様した美しい茶汲女の明眸にひきよせられて、毎日、參詣にかこ付けて、茶を飲みに出かけたのである。

斯うして、町藝者、私娼、茶汲女と云つたやうな種類が増加したけれども、吉原の繁昌は、元祿期にも増して居た。それは安永七年の時分に遊女が夜具蒲團に非常な奢りを極めて、公儀から叱責されたのを見てもわかるのである。其の記錄によると、江戸町一丁目の扇屋の遊女瀨てるは、『猩々緋金糸にて紋ちらし惣模様七つ蒲團』を用ゐ、同じ家のはな扇は、『淺黄繻子衣緋縮緬染出し龍田川模様の夜具蒲團』を用ゐたとある。其の他、緋縮緬や、古錦襴や、紺地錦などの蒲團を使用した遊女があつたと云ふことは、必竟、吉原の花やかな春を象徴するものだ。

斯うした狭斜に於ける江戸人のデカダン式な生活は花柳文學(ポルノグラフイー)の上に鮮明に表現されてある。思ふに、彼等は、今日あるを知つて、明日あることを知らず、刹那的な愉悦があるを知つて、永遠の愉悦あることを知らず、自己があつて、社會のあることを知らずと云つたやうな有様で、其の內的生活の不滿から生ずる哀愁を女色のうちにまぎらさうとしたやうに思はれる。それが習慣的になると、醉生夢死主義に墮せざるを得なかつた。而して其の深い痴夢から、容易に醒めなかつた。だが、彼等のあるものは、左様した境涯に沈み切つて了つても、倘浮魂の孤獨と悲愁とを忘れ得なかつたこともあるだらう。けれども、彼等は、それを通ぬ粋の衣裝を以て、包んで、灑味とか、艶消しとか

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

云つたやうな色合で、性欲生活を純化して、一見洒脱に樂天的に思はせるやうな風を示して居たのである。

それで、元祿期の狹斜生活に見るやうな奔放なところ、露骨なところ、華麗なところは悉く取り去られて、洗練され、修飾された一種の江戸式の色合のさつぱりしたものが、そこに立派に出來上つたと云つて宜かつた。左樣した趣は、京阪に於て見られなかつたのである。

(四)官能の發達とデリケートな食味

江戸人が、享樂した世界として、第二に擧げたいのは、飲食方面に於ける趣味である。江戸人の官能のうちで、一番、能く發達して居たのは、舌の味識である。三馬の小說の主要部分を占めて居るのは、飲食に關する話であるのを見ても、また一九の『膝栗毛』のうちに於て、食膳の椀の身や平の中を詮鑿することが、巧みに描かれてあるのを見ても、鯉丈の『八笑人』に食談會などのことが、面白さうに書かれてあるのを見ても、江戸人が喰意地の張つた市民であることを想はせる。

殊にデカダン的傾向を有するやうになると、始終倦怠して新しい刺戟を要求することが多いから、先づ五官のうちでも、舌の官能を刺戟して、そこに一つの滿足と安慰とを見出さうとするわけになる。元祿時代の前後から、京阪文化を輸入して上方の食道樂風をも模して以來、いろいろの食味を覺えた江戸人は先づ舌の官覺から、特殊の發達をし始めた。それが凡そ百餘年の長い月日を經て、次第に洗練されてくると、舌の感覺が、五官の中心として、極めてデリケートに働くこととなつたのである。

歐洲近代のデカダンも亦一般に舌の感覺を發達させて居たが、其の中心となつたのは、饗宴であつた。殊に酒であつた。フランスのデカダン派が、パリーに於けるカルチエー・ラタンのカフエーに集つた、徹宵、强い酒を痛飲しながら、議論したり氣焰を吐いたりしたことは、誰も旣知のことである。彼等のうちには、アブサンの香に詩魂を養つて、其の醉つた口から流れ出る美しい言葉が、脚韻や、頭韻を踏んだ立派な詩歌となつて居たと云ふ話さへあつた。

江戸のデカダンも、切に酒を愛した。だが、それは、アブサンのやうな强烈なものではなくて、芳醇な日本酒であつた。宮戸川とか、隅田川とか云ふやうな名を付けた酒を飲んで、心裡の倦怠と哀愁とを忘れようと力めた。彼等のうちには、エルレインや、ボードレエルのやうな狂醉者はなかつたけれども、三馬が『酩酊氣質』のうちに記したかつぎ上戸、しやべり上戸、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

わき上戸、なき上戸などは居たであらう。

三馬が『酩酊氣質』の始めに書いた序文を見ると、當時の酒徒の一面を思はせるところがある。其の一節に『不佞三馬、素上り澤山江の酒にもあらず、地黄坊が孫にもあらねど、呑んでゆらるゝ由良殿の蹤を引き、酒にあかさぬ夜半もなき沈醉の暨腹、夕に安與湯と柚の梅とを吃し、朝に湯豆腐と豆花茶汁とを用ひたる、腹中の不同を思へば、人心同じからず、吾面の如しと頓に銘酊時の差別を考へ、無くて七癖生醉類と題し、便ち發客の醉人に與ふ。』とあるのを見ると、江戸の酒徒が、宿醉を治するために安與湯などを用ゐ、酒の肴に淡白な湯豆腐の趣味を愛したことが略ぼ常態になつて居たのである。

江戸のデカダンは、花見にも、月見にも、悲しい時にも、淋しい時にも、酒と離れることが出來なかつた。如何な時にも『まあ一杯』と云つた調子であつた。酒にも、いろいろの飲み方があるが、一個に彼等の多くは、ゴーリキーの小說中に現はれる放浪者のやうに酒に沈醉して了ふやうなことはなかつた。またエルレインのやうに、居酒屋から居酒屋を廻つて歩いて、酒が醒めると、寺院の薄暗い側廊のうちで、悔恨の苦い淚を流すやうなこともなかつた。彼等は、快く酒を飲んで、それから來る微醉と感興とによつて、平生洗練したところの洒落味を發揮した。彼等が酒中に洒落のめした醉態は、鯉丈の『八笑人』など一到處り出さるゝ一特徴である。

食道樂は、彼等の誇りとしたところであつた。勿論、それはローマの頽廢期に於けるやうに、眞珠を葡萄酒に溶かして飲むとか、孔雀の腦髓、紅鶴の舌、鯖の肝臟などから調製した珍味を賞玩するとか、鶯を燒いて喰べるとか云ふやうなことはなかつた。けれども新鮮な、若くは、珍奇な材料とそれにふさわしい料理法とを好んで『通』を氣取つたことは、云ふ迄もなかつた。所謂通人を以て自任して居たものは、一個金一分の鮨、一個三匁九分の鹿の子餅、一個一匁九分の牡丹餅を食ふのを常例として居た。而して菓子は、深川の船橋屋、鮨は堺町の今竹輪ずし、本所の松の鮨、料理は淺草の八百善と云つた風に、一番、宜いところを撰んだ。

たいした風であつたから、一個の料理も亦文政前後の頃になると、大分進步した。在來民間では『甘藷百珍』や『豆腐百珍』などの料理本が行はれて居たのが、更らに數步を進めて『八百善通』と云ふたやうな本が出來て、それには、龜田鵬齋が序文を書いて、食通熱を鼓吹すると云ふ有樣になつて來た。

彼等は、すべて、季節はづれの珍しいもの、或は初物を最も賞味した。胡瓜、茄子、十六豆、隱元などを始め、初鰹、初茸

と云つた風に初物に舌鼓を打つた。季節はづれのものは當時『モヤシ物』と云つたが、それは、今日の溫室の代りに、室内へ炭團火を作つて、それで暖めた。また香の物などに、三兩を支拂ふことを惜まない人々が少くなかつた。其の香の物は、鉢植にしてある茄子を、熟つたまゝ、一個々々味に漬けてあるのを手でも當放して快喫したのである。それを彼等は、最上の『通』であるとして誇つた。三馬の『四十八癖』のうちには、食道樂の町人が描かれてあるが、鰯の鹽燒や、泥鰌や、鰻の蒲燒位には、迚も滿足しなくて、八百屋に向つて『初毛のきつまゝも、じやがたらの西瓜はねえか。』と云ふところがある。味覺が、デリケートになればなるほど、珍奇なもの、新しいものを嗜好し、要求するやうになるのである。同じ魚でも、彼等のうちには、河豚を愛用したり、鯉を煮て、滋養分を攝取しようとする風が、相應に行はれた。彼等の官能主義の優れたことは、斯うして、膳の上に於て、殊も能く發示されて居たのである。

斯うした有樣だつたから、料理屋は、非常に繁昌した。八百善などを筆頭にして、尾花とか、梅本とか、山本とか云つた會席料理をする相當な家が、深川邊に出來た。『狂詩選』の詩人が『會席風流良已罰る、庖師は近く水の旗に對す。』と洒落れたのは、そのためだつた。『五月雨草紙』によると『料理茶屋おびたゞしく、芝の通り筋より筋違見付の內外、その外堺町葺屋町、淺草邊に至るまで酒店、鮓屋の類、幾百といふ數限りなく。』とあるのを見ても、食通の得意な時代を思ふことが出來よう。

(五) 江戸人の行樂と豬牙船

鯉丈の『八笑人』を見ると『遊行け』と記して、當時のデカダンの人が、洒落氣を漂はせながら、行樂した場所が記されてある。それは、大體に於て、今日の東京人が行樂する場所と共通して居るやうであるが、また中には、既に廢れて了つたところもある。今、其の場所を數へると、飛鳥山の花の雲、角田川の花筏、高田の里の螢狩、兩國川の凉み船、百花園の秋七草、海晏寺の楓狩、青樓の夜の雪、淺草寺の年の市などである。

江戸名所が、曾て其角の云つたやうに、極めて平凡なものであるとしても、行樂すべき場所は以上に留まらないであらう。他に芝浦の月見、高輪の二十六夜待を始め、尚ほ多くを數へることが出來よう。けれども彼等の行樂は、必ずしも、其の場所の多いことを望まなかつたのである。單なる風流としての行樂は彼等の欲するところではなかつた。唯それだけでは、生の倦怠を忘れることが出來なかつた。進んで、其の行樂を洒落味のうちに包んで、諧謔化し、滑稽化して、そこに笑の世界、笑の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

空氣を作り出さなければ、滿足しなかつた。

彼等の行樂の背景には、必ず洒落味が伴つて居た。飛鳥山の花見に出かけた時も、單に櫻の花吹雪の下に饗宴を開くだけでは我慢しなかつた。仇討の趣向を立てゝ、花見の人々をあつと吃驚させることにした。また高田馬場で、螢狩をするにも、ある者が狐に化けて、其の神通力で螢をあつめるやうに見せかけて、持參した螢を一齊に放つて、人目を誤魔化すと云ふ趣向を立てた。それ等は、何れも、失敗したけれども、彼等は、寧ろ其の失敗さへも、諧謔化しようとしたのである。

彼等の行樂のうちで、最も彼等を喜ばせたのは、船宿の棧橋から猪牙船に乘つて、柳島や、深川や、山谷に通つた舟中の趣であつたらう。春水の『春色英對暖語』の始めには、猪牙船のことを記して、『猪の牙の船は其むかし　明曆萬治の年間に、押送りの長吉といふ者が、舟を藥研のかたちに作り、魚荷を積んで押來るに、矢よりも早き風情を見て、三谷舟の船長が倩と考へ付き、通ひ路急ぐ川船に、これをつくりて乘申さば、誰さんばしにもよろこびならんと、家職に念入兩國の、笹屋利兵衞といふ人と、淺草御門の外河岸なる、玉屋勘九兵衞といふ人が、造らせ初てお客を乘せ、元押送りの長吉舟より、思付きたる小舟なれば、長吉舟といふべきを、略して通よきに呼ならはし、今又猪牙と文字に書くは、小舟の形が猪の牙に似てあるからのことつけなり。』と言つて居るのを見ると、當時、比較的に快速な猪牙船が、行樂の時に、最も喜ばれたことを察することが出來る。三馬も亦『辰巳婦言』に於て猪牙船のことを記して、深川に遊ぶ青春の人々が、其の快速を利用したことを傳へて居る。

當時の深川は、中流以下の人々が遊ぶのに最も適して居た。三馬は、深川の狹斜情調について『此世界の風土といへるは、長髮羽織の細身指、黑縮首のぱつち尻はしよりといへるきん〳〵姿の青樓風を毀し、或は晒の手拭を肩にかけ、花色襦子の帶貝の口に結び、或は前垂腰にまとふ。丸額の大銀杏、客人か將た船頭か、船頭とも見へ、また客とも見へ、大きに賓主の禮を亂して、二上りの騷唄。夕しごげんの程もなふ、又ぞや內の御首尾の程と、文のさき目の口紅粉は、萬客皆むとなめられて、行客の詠めは絕ずしてしかも元の客にあらず。流に浮ぶ川竹の、且切れ且繼びてと長明が、方丈の文にはあらねど、實や賑ふ繁花の地。』と述べて居る。戀に憧憬れ、性欲生活に渴した青春の人々の眼には、勿論、天國とも見えたであらう。彼等は『サツサ押せ〳〵。』と勢の宜い猪牙船によつて、深川の歡樂郷に通ふ快さを泌々と味つたにちがひない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

今日の狭斜は、大分、さびれて居るが、當時は、閑雅な詩味に富んだ場所として、行樂するにふさわしかつた。吉原に近い山谷へ赴くのも、ロマンチツクな情味があつた。左様した場所へ、猪牙で急ぐ心の時めき、美しい一種の憧憬、そこに、彼等の遊びが作つて居たであらう。而して狭斜の彼等は、歌妓や、遊女や、戀や、酒や、食味や、船宿のロマンスやいろいろのことを洒落に話し合つて、快く笑つたであらう。其の傑意、生の哀愁も、暫く忘れて、青い水の上にいきいきした眼を注いたであらう。

〔六〕頹廢趣味と「梅暦」を書いた春水

江戸のデカダンが、どう云ふ風に、狭斜の巷に耽溺したかは、春水、京傳、三馬らの小説のうちに、詳しく描かれてある。京傳の『江戸生艶氣樺燒』は、春水の『梅暦』に匹敵すべき作であつて、其の滑稽の人物艶次郎の自惚が鮮明に描かれたところから、自惚れる男を一時、艶次郎と云つたと傳へられて居る。それは『梅暦』の男主人公丹次郎の名を、色男の代名詞として、常用されたのと同じ趣である。

けれども『艶氣樺燒』が、殆ど忘れられて了つたに關らず、春水の『梅暦』が、不思議に今日も、尚ほ一部の遊蕩兒の間に記憶されて居るのは、どう云ふわけであらう。それは、春水が京傳に優つて居たのではなくて、狭斜情調にまつわる戀の色合、葛藤、滋味を發現する上に、春水の長所が、遺憾なく、發揮された爲めだらうと思はれる。

春水は、一個の戯作者に過ぎないが、當時に於ける狭斜を中心として、江戸人の美的生活を精細に見る眼を持て居た。戀に浮き身をやつす若旦那の心持、意地と張りとを押通さうとする江戸藝妓の情緒、乃至純な娘の愛に滿ちた美しい心などについては、巧みに其の焦點を掴まへることを忘れなかつた。『梅暦』を始め『春告鳥』『梅見船』『英對暖語』などには、春水が描いた當時の人物が、浮き出してくるやうに現はされてある。多少低級なポルノグラフィーではあるけれども、それによつて、當時の世態をも覗ふことが出來るのである。

『梅暦』の書き方は『梅一輪一輪づゝの暖かさ、春の日向に解けやすき雪の中裏なかなかに憂き事つもる假住居。それさへ絶て米八が三筋の糸し可愛さの、女の一念眞實に、思込んだる仕送りを、請けてその日の産業は、人前つくる丹次郎。』と云つたやうな調子で、七五調式で、而も洒け言葉などがあつて、一種のアフエクテーションを伴つて居る。

私は、左様した書き方を好まないけれども、『梅暦』のうちに

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

現はれる米八と仇吉とには、相當の興味を感ずるのである、殊に米八の江戸女らしい强味、優し味に對して、共鳴させられる。彼の女は、丹次郎に其の操を捧げたきり、他の誘惑には應じない强さを持つて居た。けれども丹次郎に對しては、撫子の花のやうに優しかつた。而して燃ゆるやうな愛を注いだ。彼の女のぽつと赤味を帶びた眼元の愛愁、髮の毛が少しばかり、白い頰に亂れかゝつた嬌態、何處となく、悧巧なうちに暖か味のある樣子、それ等は、生粹の深川女を思ひ出させる。

丹次郎は、色男の偶像と云つた風に描かれてあるが、當時、若旦那と云はれた階級のうちには、丹次郎のやうに、端麗な風采を持つて、彼れのやうに、女から惚れられ、女から仕送りを受け、戀の渦卷のうちに其の日を空しく送ると云つたやうな人間が居たにちがひないやうに思はれる。

『梅暦』から『春告鳥』に移ると、鳥雅と云ふ若旦那の耽溺生活が描かれてある。鳥雅は、富商の家に生れて、向島の別莊に起臥して居るのであるが、彼れの仕事は、俳諧や遊藝に凝るか、美しい小間使と話すか、遊女薄雲のところへ行くか、美妓お濱の許へ出かけるかと云ふほかには、何もなかつた。彼れが習練し得たのは、戀の口說や、狹斜に於ける洒落や皮肉な戯言に過ぎなかつた。而して彼れは、薄雲らに執心して、餘りに金を費消した爲めに勘當されて、向島の別莊を離れねばならぬ悲しい身になつた。鳥雅の耽溺生活は、一身の破滅がくるまで、續けられたので、そこに放蕩に惑溺したところの當時の若きデカダンの一面が、さながらに出て居た。

丹次郎や、鳥雅を近松の描いた忠兵衛や治兵衛などにくらべると、餘程、ちがつたところがある。江戸の色男の口說や、誑引は、忠兵衛にも、治兵衛にも見られない點である。元祿期に於ける上方の色男は、どんなに優柔でも、熱烈な一本筋な、打込んだところがある。化政期の江戸の色男には、少しも熱烈なところもなければ、一本筋のところもない。身を零落させる迄耽溺しても、女に對しては、何處までも、技巧的で、北の口說が綿々として盡きない。女の氣を引いて見たり、冷淡な風を裝ふたり、拗ねて見せたりして、そこにデリケートな味を示して居る。嫌味ではあるが、大分、洗練されたところがある。換言すると、其の耽溺味が、餘程、近代的な色調を帶びて居る。唯沈痛なところ、暗鬱なところ、烈しい自棄的なところが缺けて居るばかりである。

(七)幻妖趣味と怪談物を書いた鶴屋南北

江戸人が、狹斜の巷に次いで熱愛した歡樂郷は梨園の上にあ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つた。文化文政時代は、江戸演劇の爛熟期で、俳優には、坂東彦三郎(三世)松本幸四郎(五世)尾上菊五郎(三世)坂東三津五郎(三世)市川團十郎(七世)らが居た。作者には、菊五郎、松助らと提携して、怪談物に新生面を開いた鶴屋南北(四世)が居た。

當時、江戸人の官能主義は、一面に於て、餘程、頽廢して、其の鋭敏の度が病的に近くなつて居た。アブノオマルな刺戟を追求して止まないと云つたやうなところがあつた。それで、當通の花やかな場面や、戀の葛藤を取扱つたものや、[illegible]り位では、中々、滿足しなくなつて來た。ローマ[illegible]が人間と猛獸とを格鬪させて、手を拍つて喜んだやうな趣[illegible]た傾向を生じて居た。殘酷な殺人の場面や、無氣味な[illegible]る怪談や、強く肉感を刺戟してやまない濡れ場などを喜ぶ[illegible]があつた。鶴屋南北は、巧みに左様したアブノオマルな[illegible]好に對して、強烈な衝動を與へるべき呼吸を解したのである。而して彼れが其物の前に提供したのは、概して物凄い怪談[illegible]あつた。でなければ、幻術を中心としたやうな物であつた。[illegible]の代表作は『四谷怪談』などで、後者の代表作は『天竺徳兵衛[illegible]』などであつた。

當時、南北と提携した尾上松助　松緑)及び其の[illegible](三世)は共に怪談物や、幻術物を演ずる上に於て、特殊な[illegible]を以て居た。松助は、自分で此種物を[illegible]したのみならず、早變りの[illegible]術に獨創的な巧みさを備へて居た。彼れは天明四年の『小野[illegible]』に於て、[illegible]の亡靈が[illegible]ら蘇生するところを鮮かな手際で見せた。寛政十二年の『[illegible]』では奥女御前が邪法に[illegible]られて、俄かに[illegible]、母のやうに白く輝いて居た。ま[illegible]に[illegible]になつて、[illegible]する早變りを見せた。[illegible]には『[illegible]』の[illegible]に[illegible]、河津の亡靈が[illegible]像か[illegible]る[illegible]にして、[illegible]を驚かせた。[illegible]と長技とを[illegible]した、[illegible]の當り藝に、南北の手[illegible]『[illegible]兵衛』に於て、[illegible]の[illegible]前に通した妙趣を[illegible]たのである。『[illegible]』や『[illegible]代記』を見ると、大[illegible]に[illegible]、松助が[illegible]に化けて、[illegible]を打ちながら、[illegible]て居るところへ、[illegible]め寄せると、忽ち[illegible]の[illegible]へ飛び入る、水が勢よく、それと一緒に吹きあがる。[illegible]から、長上下、[illegible]の上に[illegible]で悠々と出てくるといつたところが、當時の觀客に喝采されて、三ケ月に[illegible]大入を見たさうだ。

松助の[illegible]菊五郎の作品物に[illegible]、早變りの鮮かであつた[illegible]は、[illegible]に使つて居た。彼れの[illegible]に、『四谷怪談』のお岩、『[illegible]』の[illegible]『[illegible]』の狐、『[illegible]』の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

亡靈、『百木屋』のお駒の靈『天竺德兵衛』の早變りなどであつた。

此の菊五郎の妙技と相俟つて、作者としての面目を鮮かに示した南北は、別に學問もなければ、文字の用法にも、餘り通じない男であつた。けれども彼れには、當時の江戸人のデカダン的傾向にぴたりと當てはまるべき主題と內容とを直觀する力があつた。彼れ自身は寧ろ清貧を樂む飄逸な善人に過ぎなかつたのであるけれども、不思議に物凄い場面を出すところの幻妖趣味と異常な想像力とを持つて居た。『四谷怪談』は彼れの劇的才能の結晶であつたのだ。

『四谷怪談』を上演した際には、一二三の興味ある插話があつた。劇中、民谷伊右衛門がお岩が手にして居る蚊帳を無理に奪つてゆくところは、南北自身が貧しい日に米鹽の缺乏に苦んで、夏にも拘らず、女房の留めるのも耳に入れないで、蚊帳を携へて、質屋に赴いた時の苦い經驗を應用したのであつた。

『四谷怪談』の上演前、彼れは、觀衆の注意を惹くことの上にも、相當な努力をしたのであるが、その趣向は、最も奇抜であつた。それは、既に半年ほど前から、市村座の櫓に青ざめた妖艶な女の首が、美しい振袖を怨めし氣に啣はへて居る繪を描いた大凧を揚げたのである。市村座の前を通る人々は、何れも驚異の眼を睜つて、其の物凄い大凧を見上げた。其の評判は、忽ち江戸市中にひろがつた。芝居好きの市民は、此の暗示から、近いうちに怪談物が上演されるであらうことを豫期した。烈しい病的感覺の所有者であるところのデカダンの徒は、早くも、暗鬱な、陰慘な場面を想像して、戰慄の快味を貪らうと待ち構へて居たことであらう。

果然『四谷怪談』は、異常の喝采を得た。それから來るアブノオマルな刺戟は、どんなに江戸のデカダンを感動させたか、知れなかつた。この一事によつても、江戸文化の廢頽期の空氣が濃厚に象徴されて居るやうな氣がするのである。

(八) 戲作『八笑人』『和合人』の人々

濃厚な觀劇趣味を持つて居た江戸のデカダンは、彼等の倦怠を忘れる一策として、芝居に緣の深い茶番狂言に浮き身をやつす場合が少くなかつた。でなければ、風變りの饗宴や、食通會や、百物語式の怪談會と云つたやうな趣味に傾倒した。それ等の遊びを精細に描いた作品は『八笑人』『和合人』『七偏人』などである。

彼等の茶番狂言は、忠臣藏か仇討かに限られて居た。而して其の技巧の上に於て、極めて素人であるに關らず、各自、役者

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

氣取で居た。『八笑人』には、劇中の人物が、忠臣藏の五段目を演じて、錯誤に錯誤を重ねて、滿場の人々を笑殺したことが描かれてある。此の五段目は、ある老人の賀の祝に演ずると云ふので、第一に緣起をかついで、人の死なぬ事に仕組んだ新趣向を立てた。

それに依ると、先づ勘平と彌五郎との出合があつて、彼等が立わかれて引込むと、『又も降り來る雨の足。』とチョボになつて、正面の稻村のかげて、燒酎火をもやすと同時に、與一兵衛が登場する。定九郎が現はれる。此は普通の芝居の通りにして、定九郎が、與一兵衛の財布を奪つて、口にくわへると、それは唐茄子であつたことにする。而して與一兵衛は、吹きかへで案山子となる。そこへ猪の代りに狐が稻村のかげから飛び出して倒れると間もなく、案山子を頭に被つて、猪の身振をする。此の間、定九郎は、始終、狐に化されて居る思ひ入れで、可笑味のある立廻をした末、定九郎が急に逃げ去らうとする途端、どんと鐵砲の音がして、狐は稻村のうちへ隱れる。そこへ勘平が現はれる、與一兵衛に扮した質兵衛と云ふ老人も出る、而して勘平が『オヤおとつさんか、夜道は物騷だ。』と注意する。だが、與一兵衛は、一向、驚かないで『馬鹿を言へ、與一兵衛なら危からうが、夜質兵衛だから、氣づかいない。』と答へる。それで『斯うした怪我人のない五段目は珍しい、一つ祝つてやりませう』と狐拳になるところで幕を下すと云ふ趣向である。どう見ても低級な喜劇であるが、彼等は、一生懸命にそれを演出して、見事、大きな失敗をした。

彼等が、風變りの饗宴は『和合人』のうちに出て居るか、それは、月見の宴に對して、日見の宴を開いたのである。彼等は夏の日中に冬の袴、羽織を着けて、初日の出を見ると云ふ心持で土場六と云ふ男の家に集つた。而して客となつたものは、年頭の祝詞を述べて、年玉を出す、主人側は、屠蘇と重詰とを持つて出て小宴を開く、酒が宜い加減に廻つた頃、彼等は、冬裝束のまゝで、太陽が强く照り付ける物干へ交代に出て、空を仰ぎながら、狂歌を一首づゝ詠むことにした。若し狂歌が出來なければ、幾時間でも、ぢつと物干に居ると云ふ規定にしてあつた。第一番の籤に當つたものは、頭から、ぽつぽつと渦卷くやうな湯氣を立てながら『どうも寒い。』と呟いて、月並式な狂歌を作つた。それは『まこととある友に呼れし日見の宴あつき惠みにあふぞくるしき』と云ふのであつた。恐らく、斯うした風變りの饗宴でなくては、荒みはてた彼等の心を愉快にしなかつたのであらう。それほど、彼等の官能は、鋭く病的になつて居た。

彼等が池の端の酒狂亭に於て開いた會合は『八笑人』のう

ちに描かれてあるが、それは、茶氣に洒落したものであつた。

彼等は、万ひに申合せて、食品に擬した物品を持ち寄つた。其のうちの一人は、先づ前菜として口を開いて、『鱸を一本さし上げませうと存じまして、今朝とり寄せて、生洲へ漬けて置きました所が、餘り生洲を掃除して、水をかへましたら、濁りが取れました。』と云つて、花野の薄を取り出して『すゝきに成りました。』と苦しい洒落を云つた。すると、他の一人は『鮑を一ぱい差上げます。』と玩具の釣鐘と小田原提灯とを、てんびんにかけて見せて、『此の提灯と釣鐘とを鮑と云ふのは、片重いと云ふ意味です。』と解いた。

それ等に對して、更らに他の一人は、田舍狂言の無間の鐘の圖を出して、『これが梅が枝田夫です。』と洒落れる。何れも、見戯に類した可笑味に過ぎないけれども、生の單調に苦みつゝあつた彼等は、左様した無意義な輕い遊びにも、自己の逃避すべき世界を見出して、一種の愉悦を感じたのである。

(九) 笑謔趣味の結晶

私は、最後に彼等の笑謔を結晶した狂歌、狂句、狂文、狂詩などについて、述べたいけれども、餘り長くなるので、これで擱筆しよう。要するに江戸のデカダンの享樂趣味は大體、以上に盡きて居る。私は晩春初夏の頃になると、時々、左様した頽廢期の歡樂と情趣とを思ひ浮べることがある。不安と動搖とに脅威されつゝある現代を遊離して、時にのんびりとした氣分に浸り得るのは、江戸デカダンの賜物であるかも知れない。私は左の狂歌を引用して、此の稿を結ばう。

花はみなおろし大根となりぬらし鰹に似たる今朝の横雲　(馬場金埒)

夏山の緑の衣にぬひかけし花は松葉の針さきに見ゆ　(唐衣橘洲)

夏たちて布子の綿はぬきながらたともにのこる春のはな哉　(地形方丸)

以上は、晩春初夏にちなんで、笑謔した江戸人の頓才の閃きを示したのである。彼等の洒落に輝く顔が、何となく見えるやうだ。愛すべき江戸のデカダンの群よ！

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

五月雨情調

佐々木指月

電話帳

その頃は私は十九。

ところは淺草の藝者屋町。

下地ツ子がひく三味線の雨だれ拍子に、五月雨の日は、もう來やうとしてゐた。

とよ子さんと、私は、一米と云ふ待合の、おもての櫺子窓に腰かけて、電話帳を見る。

先の番地だけはわかつてゐて、名はわからない。電話番號もわからない。それを、引き當てやうと云ふので、曇つた日の、ほそい路地の、ほそい空からうす日のさす、窓へ二人は出て來てゐた。

とよ子さんの唐人髷の、鬢つけの匂が、フンとして、私のひたひにはその柔かい前髪がさはつてゐた。

番號は、あけてもあけても出て來ない。

『じれつたいねえ!』と、とよ子さんが云ふ。二人は顏を見合せて、思はず、ため息をもらした。さうしてお互ひに、につこりと笑つた。

『もうこの上は御祈禱して、あけて見るよりほかしかたがない』と、私が云ふ。『それでは、何さまに御祈禱しやうか?』と、とよ子さんが心配する。

觀音樣は、こんなことには勿體ない。深川の八幡樣は遠すぎる。『二人がなかは夜着のうち、にこどり大概、大二天。』六二天樣はどこだつけなあ?

端唄の文句のなかから、電話番號を敎へてくれさうな神樣はないかしらと、私たちはさがした。

やつぱりない。『そんならこの路地の入り口にある、お地藏樣に願かけて見やうぢやないか?』と、私が云つた、それにきま

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つて、二人は互ひに手を合はせて、目をとじて、一心不亂にお地蔵様の名を口ずさんだ。

『この電話番號を知らしめ給へ。一い二ふ三ツつ』と、目をむきながら、ぱつと開くと左の頁の上の並びの三行目に、知つてた番號があらはれて、思つた人の名があつて、念じた電話番號はあつてゐた。

二人は目と目を見合はせた。とよ子さんの顔色はかはつてゐた。眞白なひたひにさがつた鬢の鉄絲のふさはふるへてゐた。

雨だれ拍子の三味線も鳴りやんで、今は、また一としきり、どんよりとなり、藝者屋町の昼すぎに、ひつそりとしてゐた。

火事の思ひ出

長火鉢の向ふには、大丸髷の、お花さんが坐つてゐる。

千枝子さん姐さんは、出の着物を、引のしごきの上で畳んでゐる。

外は小雨が降つてると見えて、庇には、雨だれの音がしてゐる。

お花さんは、また話しだした。

『あんな時には、却て、素人よりも藝者の方がよくはたらくよ。なに云つてやがるんだいツて、巡査に、あくたいつきながら非常線のなかへ駆けこんだ藝者があつたよ。』

『野次んまは、大騒ぎさ。』と、千枝子さん姐さんは、そのあとへ付ける。

私は、その場のありさまを、想つて見た。

赤い腰卷きに足袋はたしで、甲斐々々しく働いゐる藝者たちの姿が、目にありありと浮かんでくる。

『何でもかまはないから、あたいたちは、匣とお座敷着さへ持つて逃げれば、いいんだよツ!て、云ひながら、駆けてゐる藝者もあつたよ』と、お花さんが話す。

『まあ誰れでもさう思つたらうねエ』と、千枝子さん姐さんが云ふ。

私はまた、その時の光景を想像した。

火は、うしろから地を這つてくる。烟は、細い路地をこめて水は上から降つてくる。血まなこになつた消火隊。藝者の白いその脛には、泥がはねあがつてゐる。

おもての格子が、がらりと明いて、見番の若い衆がはひつて

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

來た。

『へい今晩は』と、若い衆は丁寧にあたまをさげて、『今夜は、〇〇〇御相談がありますからどうかお集りを願ひます。九時からはじまりまして、夜明しをしても御相談をまとめますので、へい——あの、神樂坂では、當分、廢止ださうでございます。へい——さやうならのちほどに。』

『どうも御苦勞さま。』と、お花さんが返事をする。

若い衆は出て行つた。入り違ひにはひつて來たのが、お豊さんと若丸さん。

『姐さん、あの公園でも、廢止にするんですつて。』と、云ひながら若豊さんは、もうお座敷着の帶止をとりはじめる。

『新見番があるからね、ここでは廢止は出來ないよ。』と、千枝子さん姐さんが云ふ。

若丸さんは、私にものを云つてゐた。隣の金時からは三味線がきこえ出す。

吸入

のん龍さんは、また咽喉をこはして、吸入をかけてゐる。

新橋の醫者横町の晝すぎ。〇〇女醫のしなやかな手つき。吸入器のコップにもられた、タアヘンタインがふる〳〵ふるへる。

女醫とは云ふもの〳〵、〇〇さんは美しい。髪こそ、ハイカラに結つてるが、みなりは、いきた作り。着物も粋者そつくりだ。

私は、この間、ここへ訪ねてきた時のことを思ひ出した。

格子をあけて『御免なさい』と云ふと、障子があいて、婆あやさんが、とりつぎに出た。

私の名を云ふと、なかから聲がして『おあがりよ』と云ふ、——その聲のふとさ。

見ると、のん龍さんが、ぽつねんとして、夕御飯をたべてゐる。うちのなかは、暗かつた。

『長らく逢はなかつたねヱ。』

『あゝ十五年も逢はなかつた。』

『もうさうなるかねヱ。』

のん龍さんの聲は、ますます、ふとくなつてくる。しんみりと、ものを云へば、云ふほど、ふとくなつてくる。

私は、靴をぬいであがつた。義太夫藝者が、のん龍さんは、私の義理ないとこにあたる。

のん龍さんは、口がかかつてゐて、そろそろ、お座敷着を着

はじめた。私は非服の足をのばしてそれを見てゐた。

ぱツと、電氣がつく。

白襟に、黒縮緬の裾模様に、琥珀の帯。髷は銀杏がへし。丈は、すらりとしてゐた。

『さあ、一緒に、そこまで、出やうぢやないか?』と、のん龍さんが云ふ。

私は、つれ立つて外へ出た。

のん龍さんは私をふり向いて『お前は、昔よりも、一貫が出たねエ』と云ふ。

『ながらく苦労をしたからね。』と、私が答へる。

『だが、うッ、ハイカラでやりきれない。』と、のん龍さんは、着物の褄を、ぐつと高くとり上げた。

その、のん龍さんも、今日は、この通り。大きな口をぽかんと明いて、たれるよだれをニッケルの、うがひ茶碗へうけてゐる。

〇〇女醫は、またタアペンタインを、なみ〳〵とつぐ。

もみ色の、縞絆の袖の向ふには、吸入器に、ともしてある火が見えてゐた。

洲崎

これは今から半月前。ある夜桜の晩に、私は洲崎へ行つて見た。

洲崎は綺麗になつた。私は桜の下を通つてつきあたりの防波堤の上へのぼつて見た。

両がはの、お茶屋の明りに、夜るの桜は、輝いてゐた。

まだ日も、とつぷりとは暮れないので、人も、さうは出さからない。花の下や、その邊の道のわきには、格縞すがたの女郎衆が、二三人づゝ佇んで、小聲で話しなぞしてゐる。

うしろからは、海の風が吹いて來るけれど寒くはない。少し暖かすぎる晩だつたから、丁度いい心もちだつた。

磯の臭ひが、ほつかりとしてくる。私は海の方を見た。潮はひいて、洲ゞ黒く。今日の終りの一と筋の光線が、水平線の上に浮いてる一抹の雲を、明るくそめてゐた。埋立地で、芥を焼く、赤い火。白い烟。佃島の灯が見える。

また、私は向き直つた。もう、半玉が打ちこむ『さんざ時雨』の、さまざまの太鼓がきこえてゐる。左がはに、軒を交えた女郎屋は、燈火の海。私は以前この廓で育つたが、それはもう二十二年の昔である。

私は、昔の知り人に逢ひたくなつた。

防波堤を降りた私は、ともかくも左へ曲つて二號地へはひつ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。

その頃は、この邊は、草原で、夏は氷水を賣る見世があつたぐらゐなもの。病院へ通ふ女郎衆の、草履のあとからは、土けむりが立つたほどであつた。

それが、もう今では、女郎屋が立ちならんで、下足を祝ふ鼠鳴きがきこえてゐる。

知り人の家は、どこにどう散つてしまつたか尋ねやうもない。鼓を抱へてお座敷へ急ぐお酌の振袖は昔に變らないが、私の姿は變つてゐる。ものを尋ねて驚かすのも可愛さうだし、また尋ねたとて、こんな子供が知つてゐやうはずもない。

私は空しく四つ辻に佇んだ。

格子には、吸ひつけ煙草の烟も絶えて、なかには寫眞が飾つてある。見世先の男が呼ぶその聲は、私の耳に、くすぐつたくひびいて來た。

私は、ひよいと、いいことを思ひ出した。私は見番をさして行つた。

梅八さん

櫻川梅八は、急ぎ足で歸つて來た。

格子を明けながら私の顏を見る。私は梅八の顏を見た。面さしは昔に變らないが、すつかり禿げて、めつきり年をとつてゐた。

『私を覺えてゐますか』と、云ふと、『覺えてゐるとも』と、云つて、私の名を呼んで、『さあ、上へおあがり』と、云ふ。『をさな顏も殘つてゐるし、たまには噂もしてゐたから忘れやしない』と、云つた。

『今、才造さんのところへ云つたら、丁度お座敷で、ゐなかつたから。こつちへまはつて來ました』と、云ふと、『よく來てくれた』と、よろこぶ。

二人は、そののちの話をした。

ことに、この遊廓の、うつり變りは、はげしかつた。二度の大水と、それから大火事。

『これ御覽』と、梅八が指さした壁の上には、まだ水につかつたあとが殘つてゐた。

私は、昔、ここの櫻川梅孝と云ふ幇間の家にゐて育つたが、そのをりの事を思ふと、私の目には、さま〴〵な、もとの夢が また、うかんでくる。

梅孝の家には、善中と云ふ弟と、梅作と云ふ弟子がゐた。茂蔵といふ半玉と、才造と云ふ藝者がゐた。さうして私も、そのなかにまざつてゐた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

萬歳は、梅孝の姉さんの一人娘で、姉さんは梅孝の家のかかり人だつた。

この人は、私に藝事を教へてくれた。

『お前の目は、花井のお梅さんに似てゐるから、人殺しをしやしないかしら』と、私のために、取りこし苦勞をしてくれた。

一と夏、萬歳は、腦を病んで床に就いた。私は毎晩ねむらずに、夜る夜つぴて氷を割つた。

管中は、不動様へ、日夜のお百度を踏みにゆき。梅作は藥とりに馳けまはつた。

才造は、看病の枕もとをはなれない。姉さんは、たゞ、おろ〳〵と泣くばかり。梅孝は火鉢の前で、腕を組んで、たゞ凝と考へてゐた。

けれども萬歳は、とうとう死んだ。友禪のお座敷着と、島田にまいた絞りのきれと、鼓と、大鼓と、踊り扇は、その日から涙の種となつて殘つた。

『その上は、二人におすがり申します』と、云つた姉の言葉をきいた梅孝、管中は、手の甲をぬらした。

その梅孝が、十七年以前に死んだことは、私も知つてゐる。

今、梅八の云ふところをきくと、管中も、その後になつて死んださうだ。

『姉さんが一人になつて、しばらく才造さんの家に、世話になつてゐたが、それも去年の二月に死んだよ。』と、梅八が云ふ。

お座敷

五月雨頃のお座敷は、うつとしい。

ことに晝間のお座敷は、ほんとに勤めにくかつた。

ある、雨のびしよびしよと降るお晝前に、日番から口がかかつて、筋向ふの小桃さんと云ふお酌さんと、私は、大八幡樓へ行つた。

私は、その時、十七だつた。姉さんに、出の衣裝を着せて貰つて、火うち石の火花をあびながら、傘をさして出かけた。

私は絞り縮緬の單衣に、少し寒いから、黒縮緬の羽織を着て出た。

お座敷は、玉の井さんと云ふ花魁の部屋で、花魁は、緋縮緬の夜具のなかで、まだ、寢てゐた。

小桃さんと、私は、ならんで手をついて、『花魁え、ありがたう。』と、おじきをした。

夜具の襞には、障子を透いて洩れてくる雨の日の、光線がだるくさしぐんで、玉の井さんの寢姿の髷は、夜具の襟の、黒天

鵞絨のなかになかばはかくれてゐた。

『あら花魁てば、まだ、およつてゐらつしやるの？』と、小桃さんは、立つていつて、緋の總のさがつてゐる、花魁の、黒ぬりの匣枕をうごかした。

小桃さんの友禪の單の袂は、疊にながくなびいたが、それにも雨の日の光線が、だるくさす。

『あらいやあよ、花魁は、くすくす笑つてゐらつしやるよ』と小桃さんは、今度は夜具の襟に手をかけた。

夜具はむくむくと動いた。大きな夜具は火の波のやうに盛り上つて靜かに動いた。

花魁の白い額は、夜具の襟から、だんだん出る。

長い眉毛が先づ出て、夢にとろけた目が出て來て、それから赤く上氣した、まあるい頬があらはれた。けれども、唇はなか〳〵出ない。花魁は、夜具の襟で口をふさがれて、苦しさうにくすくす笑つてゐる。

小桃さんは、夜具の襟をまくつた。

『あらッ！』と、驚いた小桃さんは、飛んで來て、私のそばへすはつた。

小桃さんの耳たぼは、私の頬に熱かつた。

私たちは、しかじかとさゝやき合つた。

しばらくすると花魁の髷がほぐれて、紫の手がらはとけてたれかゝつた。

色んな一座

大一座は、つまらない。

何よりも、私が一番いやだつたのは、大廣間と云ふと、きつと、疊がよごれてゐて、白足袋の裏はすぐ、眞つ黒になつた。立つて踊りを踊るときに、足袋の裏の黒いのを見るほど氣のひける事はない。何だか、一番の踊りが、もうそのために、めちやくちやになつたやうな氣がした。

衣裝がよごれるのは、それは家業だからいとはない。だが、藝がよごれると思ふと、私の氣はむしやくしやした。

遊廓の藝者を總揚げと云ふやうな、大座敷も、たまにはあつた。けれども、それは、ただ騒ぐ座敷で、藝を見せる座敷ではない。

旦那は脇息にもたれてふところ手。花魁がお出ましになると、一座の藝者幇間は、みんな、あたまをさげる。

お酌さんが、打ちこむ太鼓の桴のさばきに、乙と、甲との、二つの鼓が調べを合はせる。

笛は米孝。大太鼓は梅八さん。居流れた藝者衆が、弾く三味

の音につれて『鶴龜』の一曲を謡へば、さすがに長唄は上品だ。

大一座にいいところがあると云へば、先づこゝだけだ。

お酌さんが、揃つて踊るのも惡くはないが、あれはたゞ綺麗だと云ふだけだ。

私はそれよりも、小さい一座がすきだつた。

俳優の、まざつた一座には、私は興がすかなかつた。俳優は、おつうすましてゐて、氣もちが練れてゐなくつて、藝なんぞも窮屈かつた。

一座にまざると、落語師は、あはれだつた。わざとらしいくすぐりを云つて、義理に笑つてやるやうな事が多かつた。

壯士役者は、無藝だつた。町の師匠が一座にゐると、藝事が所帶じみて、をかしかつた。

梅幸と、出る一座は、つらかつた。どんな唄を唄はうと、どんな踊りを踊らうと、その場できつと直された。藝者衆は、見て見ないふりをした。お客は、わかりもしないくせに、笑つて人を莫迦にした。

だが、外から來た藝者の前で、自分で振りをつけた踊りを、踊つてみせるのは、何よりも面白かつた。藤間にも、花柳にも、西川にも、[illegible]川にも、そんな手はないと云つて、大抵はびつくりして見てゐた。

足

私は顔より足をよく氣にして洗つた。

ほかの若い藝人は、うす化粧をしたけれども、私はそれはいやだつた。顔へは、かくし紅ひとつさしたことはなかつた。けれども足にはきつと、水白粉をつけた。

まゝ私は、桐の下駄はきらひだつた。すぐによごれて洗つても綺麗にならない。あんまり輕すぎて、踏み出すときに、足くびに、いい形が出て來ない。

だから私は、誂へて、黒塗りの山桐のさつま下駄をはいてゐた。滑らかな塗りのおもてが、ぴつたりと足のうらに吸ひつくと、私はもうたまらなく嬉しかつた。

下駄の鼻緒は、夏でも冬でも、黒天鵞絨に、白の、とつこがたつた一本はひつてゐるのをすげてゐた。

だが私は、つま紅をさすのはきらひだつた。なんだかあんまり女みたいになつて、外をあるくのにきまりがわるいから。

すると、二號地のお湯屋の二軒となりに、ぼたんさんと云ふ、もう一本にならうと云ふ半玉がゐた。

丁度それは、さみだれの五月がすんで、洲崎には、からりとした、夏の日が來はじめた頃だつた。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ぼたんさんは、おもての縁臺に腰をかけてゐて、私の名を呼んだ。
「一寸、こゝえ、おかけよ」と云ふ。
私はかけた。さうして濡れ手拭につゝんだ石鹸匣を、手の上へのせて、手を膝の上へのせた。
手拭からは、水おしろいの、匂ひがする。
『あらいやだ、お前おしろいをつけるね』
と、云つて私の顔を見たぼたんさんの、目は眞つくろに光つてゐた。
さうして鼻を、私の衿にあてゝ嗅いだ。自分と同じ年頃な、ぼたんさんの、白い額が私の耳にさはつたとき、私のからだはぞつとした。
『お前どこへお白粉をつけてゐるの?』と、ぼたんさんはきく。
私は、なんにも答へずに足を見た。
私の足は、私の好みの下駄をはいて、小砂利の沈んだ往來の土の上に、湯上りの赤い指さきを見せながら、そろつてゐた。
私は、うまれつきいい形を持つてゐる自分の足を喜んだ。
氣がつくと、ぼたんさんも、私の足を見てゐる。
ぼたんさんの足にもお白粉はついてゐた。さうしてやつぱり黒塗りの下駄に、一本の、とつこの、鼻緒。
二人は顔を見合はせて、につこり笑つた。
それから二人は仲よしになつた。

お職

遊廓にゐる藝人は、なかでは、遊べないことになつてゐた。
『本とうの藝人にならうと思へば、今つから遊んぢやいけねえ』と、師匠は、私を、たしなんだ。
六軒の通りの、ある、小見世に、ある、お職がゐた。
私は、始終、一と晩に二度も三度も師匠の用で、そこの前を行つたり來たりしてゐたが、ある晩のことだつた。
お職は私を呼びかけて、張り見世の格子のはじからはじまで歩いた。
お職は私の藝名を、知つてゐた。
私は、行き過ぎたのをかへつて來て、格子さきに立たなければならなかつた。
『おあがり』と、お職は云ふ。
『あたいは、遊廓の藝人だから、あがれないよ』と、こたへた。
『いいからおあがり』と、云ふ。
『よかあないよ、あたいは、お金をもつてゐないよ。』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

お職は、笑つた。

『お金はいらないからおあがり。』

私は、ちよいとびつくりした。

『いやだよ。あとで師匠に叱られるから』と、云つて私は逃げた。

その後、七、八日すると、六軒の、その小見世から、私の名ざしで口がかかつた。

私は、着換への衣裝で、座敷へ出た

藝者が、一人に、お酌が一人。座敷は淋しかつた。

すると、その、お職が、お客の膝にもたれてゐて、もう、盃は、まはつてゐた。

お客が、はばかりに立つて、お酌がそのあとについて出たその留守に、お職は私にさゝやいた。

『ほんとに逢ひたかつたよ』と。

私は、恥かしかつた。うれしかつた。

だが、かうして、私を、名ざしてまで、あげてくれた、その心が氣の毒だつた。

やがて、お客は、座に歸つた。

お酌さんの踊りのあとで、私は藝者にたのんで、『眞葛が原』の一曲を、金入れに踊つて見せた。

お職は、まだ若かつた。

それから二三度、そのお職は、私を呼んでくれた。

三孝さん

私は、十九になつた。

世間を見ると、世間には、私の習ひたいことは澤山あつた。

私は、柳橋の、櫻川三孝に頼んで、梅孝の家を出た。

三孝が、その時に、私に云つてくれた言葉がある。

あたしは、それを、今でも、覺えてゐる。

『世の中を渡るには、座敷へ出たつもりでおやり。死に身になつての勤めだと、思つておやり。』と、云つてくれた。

柳橋の、櫻川三孝は、まだ達者でゐるさうだ。けれども、もう、八十を越えてゐるだらう。

三孝の藝は、底がぬけてゐた。固くなつてはいけないとか、柔らかくしやうとか、そんな頓着のない藝だつた。

私がいよいよ洲崎から出て來たとき、三孝の家にゐた二人の藝者は、私に一と言づゝ別れの言葉を云つてくれた。

ひで子と云ふ藝者は、かう云つた。

『どつちがこの先、出世をするか、出世のしつこをしましやう。』と、云つてくれた。

たま子と云ふ藝者は、かう云つた。

『堅氣になるの？　藝人でお通しよ。お前は堅氣にはなれないよ』と、云つてくれた。

ひで子は、綺麗な藝者で、たま子は、やさしい藝者だつた。

それから、もう二十年たつ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

座敷へ出たつもりにもならなければ、死に身にもならない。出世もしなければ、藝人でもない。と云つて堅氣では勿論ない。

今になつて、ふりかへつて見ると、社會のどん底と云はれてゐたところには、却て、心のうつくしい人たちが、澤山に住んでゐた。

柳橋

柳橋の藝者屋町は、すつかり變つた。

兩國橋が掛け換へになつて、廣小路も新らしく出來て、元の藝者屋町は、狹い路地になつてしまつた。

私の知つてた藝者屋は、もうない。今では看板が、みんな變つてしまつてゐる。

昔は、こゝに限らず、藝者屋町と云ふと、かど並みに御神燈をかけて、その御神燈には藝者の名か書いてあつたものだ。まり子とか、色奴とか、小まめとか、名だけ讀んでもその藝者の、新や氣 ちがわかるやうな、看板と云ふものが出てゐたものだつた。

それが今では、その筋から、さしとめられて、御神燈は、もちろんのこと、藝名を書いた瓦斯燈もゆるされない。

本名を書いた木の標札が、仕舞た屋のやうに淋しくかけてある。

見てもほんとに腹の立 やうな、さびれかただ。昔 の人たちのして來た、あらゆる、おつなこと、いきなこと、いいことは、すべてから云ふ風にして、みんな亡ぼされて、行つてしまう。

柳橋を渡つて、昔よく來た龜淸樓を右に見て、日の落ち方の裏地へはひる。ふりかへつて川を見ると、昔あつた、屋根舟宿は、もう見えない。ペンキ塗りの、モナタアポートが浮いてゐた。

新藝者屋町の、この新地へ出來たのは、いつ頃のことか私は知らない。しばらく見ない間に、この土地もすつかり變つてしまつた。

見あげると、丁度、雨あがりの新月が、家と家との廂あはひの松の梢にかゝつてゐる。

若い藝者が二人で、うす明りのなかで發聲をならしながら佇んでゐる路地の角を、左に曲つて、忍び返しのついてゐる格子に、添つて、私は、昔い、とよ子さんの家を訪れた。

とよ子さんは、今では、新派俳優、小堀誠の奥さんになつてゐる。

こゝのうちも、やつぱり藝者屋。竪て鏡に、緣起棚。その頃の、とよ子さんぐらゐな、お酌が一人、障子のかげで小說をよんでゐた。

小堀は、いま、横濱の小屋へ、行つたと云ふ。抱への藝者は出はらつて、家のなかは、しんとしてゐた。

御簾の鈴の音が、おもてでする。

とよ子さんは私の實の從妹にあたる。(完)

國民的强健術現はる

中井房五郎氏創始
十文字大元氏編

最新刊

自彊術の解說と實驗談

▼自彊術は十文字氏の宣傳により、個人及び各家庭に於ては勿論、諸學校、諸會社、諸工場に於て團體的に實行され、今や滔火の勢を以て全國各地に流行し、その實行者數十萬に及び眞に國民的强健法であります。

▼自彊術は健康を增進し、萬病を全癒し、而も男女共に實行極めて簡易なる最新式强健法であつて、實行者は根本的に將た理想的に其身軀を改造することが出來ます。

▼本書は中井先生自ら自彊術創始の由來を語り、十文字氏各運動の方法と其効果とを詳說し、附錄として後藤男爵、湯原女子高師校長、小笠原伯爵夫人を始め、諸名士の實驗報告を滿載してあります。即刻本書を求めて實行して下さい。

後藤男爵題字
實寫十數葉入
名士實驗報告
定價九十錢
郵稅四錢
三六判美本

ドクトル・メヂチーネ 竹中繁次郎氏
健康相談所長醫士 伊藤尚賢氏 共著

心臟の衛生 附 肝臟の衛生

再版

病氣の中でも最も恐るべき心臟病の症狀一般及び手當法を述べ、肝臟の衛生法を說いたもの

七十錢 郵稅[illegible]錢

村井弦齋氏著

難病の治療法

肺結核 糖尿病 腎臟炎

再版

病理上及び諸種の實驗上より、懇說なる注意を與へ、殊に食餌療法を說いたものであります。

二圓卅錢 郵稅八錢

東京京橋南紺屋町 ◆ 實業之日本社 ◆ 振替東京三二六番

時論

法學博士　吉野作造

ヤップ島問題

四月十八日外務省發表の「ヤップ島問題に關する日米交渉經過」に基いて、本問題の大要の解說と批判とを試みて讀者の參考に供しようと思ふ。右は米國大使よりの公信が三通、之に對する日本政府の答書が二通から成り、頗る詳細の點に亙つて居るが、要するに根本の爭點はヤップ島を日本の委任統治區域の中に包含せらるゝや否やと云ふに在る。但し兩者の交渉の進行につれて、具體的の爭點は順を追うて多少變つて居る。予は先づ此事から說明を初めよう。

事の起りは去年十月の國際通信會議に端を發する。通信會議で海底電線仲繼所としてのヤップ島の處分が問題となつた。此問題は國際通信會議と云ふ特別の委員會で極めようと云ふ事は最高會議の決議に基くので、初めかて問題はない。現に日本からも此爲めに態ゝ代表員を米國に派遣したのであつた。處が圖らずも此會議の席上に於てヤップ島の統治に關する問題につき、日米兩國の間に意見の相違を見た。日本はヤップ島は既に大正八年五月七日の最高會議の決議に基いて立派に我國の委任統治區域となつたと解して一點の疑を置かないのに、米國は之はまだ未定である、此事は海底電線問題と共に新たに何とか決められなければならない問題だと主張する。是に於て大正八年五月七日の最高會議の決議に、赤道以北の舊獨領諸島は之を日本に委任して統治せしむとある中に包含せらるゝものなりや否やが問題となる。

米國は云ふ、最高會議は「國際通信に重大なる影響を及ぼすべき種々の理由に鑑み……本島を國際管理に附し、以て之を國際海底電線仲繼所として使用に供するを得んが爲め何等かの協定を見るべきを期待したるを以てヤップ島の終局的處分は將來更に考慮する爲め之を留保したり」と。即ち最高會議其物がヤップ島の除外を留保する諒解の下に他の一切の赤道以北の諸島

を日本の委任統治に附したと解するのである。之に對して日本は斯う云ふ特別の除外を留保するには明示的の聲明を要する。何等の聲明なき限り無條件に一切の島嶼を委任したと見なければならない。從つてヤツプ島も無論其區域内に包含せらるゝものであると主張する。

之に對して米國は五月七日の最高會議に至るまで前數回の會合に於て、米國側が常に留保を主張した事實を擧げ、之ほど明白にヤツプ島については疑義があつたのだから、特に之をも包含する意味の明示的聲明がなければ之は包含されないものと解するのが至當だと說いて居る。之に對して日本は、米國の主張するやうな事實はあつたらう、あつたとしても單純なる意見の陳述は如何にそれが強く主張されても決議に對する留保としての效力はない。況んや此等の米國の主張に對しては我々は初めから不同意を表明せるに於てをや。故に此問題は特別の除外の宣言が無ければ留保無しのものと單純に認めなければならないと主張する。

茲までの議論の進め方については如何に公平に考へても米國の言ひ分に理屈は無い。理屈と理論の上では日本の主張は徹頭徹尾正しいと思ふのである。

米國は初め最高會議の決定其物の效力については爭はなかつた。只爭つたのは其解釋の問題としてヤツプ島を包含すと認むべきや否やの點であつた。而して此點については前述べた通り米國の言ひ分は正しくない。さう氣が附いた爲めかどうかは分らないが、米國は次いで論鋒を一轉して來た。即ち最高會議の決定の解釋として日本の言ひ分が正しからうが、其決定其物が一體米國を拘束することの出來るものかどうか、米國は此決定に拘束せらるべき何等の理由がないからヤツプ島の處分については云ふ丈けの事は自由に云ふと云ふ態度に出て來た。斯う云ふ議論の進め方についても米國の態度は必ずしも終始一貫してゐない。

米國は最初少くともヤツプ島の問題については最高會議決定の當時、米國全權は、ヤツプ島は除外せらるゝものと云ふ推測の下に行動したと主張する。若しヤツプ島でも日本の委任統治の區域に包含せらるゝと諒解せらるべきであつたなら、彼は之を爭ふことなくして行動する筈はない。故に最高會議の決定の解釋がヤツプ島 包含するものと云ふ事に決まつても、此點は米國の明白に同意せざりし所である。從つて米國は其同意せざりしものについて拘束 受くる理由はない。即ち彼に少くともヤツプ島に關する限りに於て最高會議決定の米國に對する拘束

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

力を否認するのである。

所がやがて米國はベルサイユ條約其物の拘束力を否認する態度を取つて來た。よしんば此條約が米國全權の同意の下に出來たとしても、米國は之を批准しない。從つて米國は之によつて何等拘束せらるゝ所が無いのである。斯くして曰く「本件に關しては米國の間に何等條約を存せず、從つて米國を拘束すべき一九一九年五月七日の決議あるべき理なきが故に、同日の最高會議の簡略なる議事錄につき論議すること亦不必要」だと。而して今度の戰爭は同盟及び聯合國の共同一致によつて勝利を得たものだから、「同盟及び聯合國が掌握せる權利は米國も之に均霑し得ることは論理上必然の歸結」であり、從つて「米國の加盟せざる條約が米國の既得權に何等の影響を與ふるものにあらざる事」は云ふ迄もなく、米國の同意を俟たずして、獨逸海外領土を正當且つ有効に處分し得べき筈のものではない。だから最高會議の委任統治に關する協定の如きも、もと〳〵「主たる同盟及び聯合國の一たる米國の同意を得るにあらずんば効力を有し得ざるの事實を承認する意味に於て起草せるもの」であるのに之を其儘有効なる協定なるかの如くに解し、「米國の同意を求めずして前記統治權を委任するに至りしは如何なる理由に基くものなるや」解し能はざる所であると云つて居る。斯うなると、國際聯盟其物の値打を根本的に覆すものであつて、最早や日米兩國間丈けの問題ではなくなる。

斯く米國の主張は段々と變つたが、大別すれば最初は最高會議の協定の解釋に關する日米兩國間の紛議であつたのが、やがては協約其物の効力に關する根本疑義ゝなつた。若し之が單純なる解釋上の意見の相違に止るなら、此協定に關係せる英佛等の意見を聽くなり、或は特別なる專門委員を任命して解釋を一定すると云ふ方法もある。けれども米國が國際聯盟其物までも疑ふと云ふ態度に出て來ては、最早やさう云ふ字句の解釋の問題丈けではない。國際聯盟規約其物が或國の全權が之に調印し而かも其國の批准を得なかつた場合に於ける効力如何と云ふ一般的の問題になる。米國は獨り此ヤツプ島問題についてばかりでなく、先き頃のヒユース國務卿の聲明に現はれたるが如く右樣の態度を露骨に宣言した。之に依つて英佛諸國は皆面喰つて居る形である。いづれ此點は早晩何とか片がつくであらう。之につき予輩に多少の意見がないでないが今は述べぬ。從つて差當り此問題についても、此點まで遡つて議論することは避けた方がいゝ。といふ風に英佛等の諸國は考へて居るやうだ。日本としても之は偶々ヤツプ島問題に關聯して直接我々に提供され

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た問題ではあるが、關係する所國際聯盟に加入して居るすべての諸國に渉ることであるから、共同の大問題として別に之は極めた方が得策だ。そこで此問題に關する今後の日米交渉は恐らくヤップ島をどうするかと云ふ日米間の紛議と云ふ立場から解決案が講ぜらるゝであらう。

却説本問題は結局どう決まるだらうか。少くとも日本としては如何なる點を取つて米國に對抗すべきであらうか。今日までの交渉の經過について見ると、日本の論據が餘りに法律的である、法律的見地からすれば日本の言分は正しい。けれども厭くまで法律論を楯に取つて爭ふのは國内の裁判所では有効かも知れないが、國際外交の舞臺に於ては殆んど無勢力と云つていゝ。議論は如何樣にもつく、問題の解決は表面口には出さない、腹の底の實際を看破してかゝらなければならない。之を無視して單純な法理論を弄ぶのは吝嗇な金持に向つて寄附を迫るやうなもので、如何に公益だの社會奉仕だのと議論の說破に成功しても、結局金は引出し得ない。出さないと云ふ腹で居れば言を左右に托して負擔を免れる丈けの言ひ繕ひは如何樣にも出來る。現に米國の態度にした所が、議論で負けると、夫れから夫れと據つて立つ所の根據を變へて居るではないか。此問題を議論で始末しようとすれば、名に於て勝つて、而かも實に於て何の得る所もない。日本の從來の外交は何時でも斯くして實利を失つて居る。

予輩の觀察する所によれば、米國の眞意は通信機關の國際化と云ふ點にある。此點が十分保障さるゝならヤップ島の統治權の如きはどうでもいゝ。從つて一昨年の會議に於ても米國は此點に專ら力を注いだのであるが、日本は先づ第一に其統治關係を決めようと主張した。統治關係を先決しては通信機關の處分が怪しくなるので米國は之を喜ばなかつたのである。而して日本は統治關係が決まれば、海底電線の陸揚げ、及び運用に關しどういふ處分をするかは其國の勝手で、豫め之について他國の拘束を受くべきでないと云ふ主張を豫々して居つたから米國は益々ヤップ島の日本に歸屬することを嫌がつたのである。畢竟問題は此點に伏在する。

斯くして米國はヤップ島の所屬はまだ決まらない、之から新たに決めようと云ふのであるが、赤道以北の他の獨領諸島と共に、日本に任せようと云ふ事にならぬとも限らないが、其時にはヤップ島について特別の條件を附しようと云ふのである。此事は現に二度目の公信の中にもほのめかして居る。卽ち「萬一ヤップ島が日本の委任統治に割り當てらるゝ場合には　他のす

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

べての諸國も海底電線の陸揚げ運用の爲め、自由且つ無礙に同島に接近することを得べしとなす米國の見解に同意を表せられんことを希望」する旨を附言した。

此れ丈けの條件を承認せられんことが本米の希望なので、ヤツプ島を絶對に日本に遣りたくないと云ふのではない。更に進んで之を日國に遣はふと云ふ考は毛頭無いと信ずる。此點については恐らく英佛諸國も異議はなからう。只英佛諸國は一旦ヤツプ島を日本にやると云ふ協定を承認した行き掛りに、米國の言ひ分が正しいと云ふ譯には行かない、露骨に物を言はないのが從來の外交界の常で止むを得ないが、腹の中では米國の希望が容れられた方がいゝと考へて居るに相違ない。そこで彼等は日米兩國の單獨交渉で此爭點の解決せられよかしと希望して居るのである。

然らば此點について帝國政府の態度は如何と云ふに、政府は二度目の公信に於て米國の主張の如きは「同島が委任統治區域たるの事實と何等關係なき議論なるに於ては右は結局當該地域の施政を司る國即ち帝國の自由に考慮すべき問題なり」といひ、又「海底線の陸揚及び運用に關し、他國に米國政府主張の如き自由を認むるの義務あるものとは帝國政府に於て思考し能はざる」旨を明白に斷言して居る。理屈は誠に明白だ。けれども此理屈を押し通すのでは問題の解決は遂に困難であらう。是に於て此際日本は如何なる態度を執るのが最良の策かと云ふ問題が起る。

米國は恐らく云ふだらう。日本が斯んな態度に出づるに決まつて居るから　治權の問題を海底電線の問題と一所に講究せよと云つたのだと。而して日本は此兩問題は全く別箇の問題なりとし、且つ統治權の問題を第一着に解決すべきを主張して成功した。委任統治區域と認められた以上は、後をどう始末するかは日本の自由である。海底電線の問題についても日本　意のまゝに之を解決する。必ずしも國際化をイヤだと云ふのではないが外國の干渉は認めない。國際化すると云ふ事を外國に聲明する事もしない。英佛諸國は斯う云ふ論理上の結論に附着する事を深く、意に留めずして日本の主張通りに決めた者であらう。此點に於て一昨年五月の外交の舞臺に於ては日本は實に見事な成功を收めたと云つていゝ。其協定の文面に基いて權利を主張するのだから、日本の言ひ分に十二分の理屈のある事は申す迄もない。けれども日本の主張通りにすると、否、ヤツプ島を日本の自由經營の下に放任して海底電線の自由に對する何等の保障がないと云ふ事は世界的見地から見ていゝかわるいかは一つの大い

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なる問題だ。さらでだに日本が世界の疑惑を被つて居る今日、日本政府が進んで少くとも此點については極めて自由公正な態度を取るべき旨を内外に聲明せざる以上、世界の人々の道徳的後援が自然米國側に傾くべきは怪むに足らない。果して然らば日本は此儘で押し進んでは名に得て實に失ふの怖れがないでない。此點に於て我が外務當局は本問題の處理については餘程愼重なる考慮を費し巧妙なる手腕を揮はねばなるまいと考へる。

終りに臨み、本問題の解決に就て、更に我々の希望に絶へざるは、ヤツプ島問題の解決と同時に、も一つ重大な問題の解決に、着眼せられんことである。

前にも述べた通り、日本の主張は、法理上正しい。けれども世界の人々の道徳的後援は、米國側にある。何によつて然るかと云ふに、世界の人々は假令此種の委任統治區域がその統治國の屬領と同様に治めらるべき事が決つたとしても、その國の我儘な法律が、その儘行はれて、爲めに國際的道義が、犧牲に供せられんことを欲しないからである。國際的通信機關が日本の我儘な取扱の下に管理されたくないと云ふ考があればこそ問題が起つたのだ。

日本では折角日本の統治に委任しながら、又統治の形式につきいろ／＼條件を立つるのが怪しからぬと云つて憤る。面目問題としては尤だが結局此れは先方の言ひ分に本當の道理がある。日本としては向ふの言ひ分に讓つたからとて實質的に何の失ふ所もない。故に之は潔く米國の主張に讓つた方がいゝ。さうすれば何もかも圓滿に解決がつく。更に之を機會として米國の排日熱を緩和し、世界各國の誤解を一掃するの投けともならう。而して我々は之と同時に凡そ文明國は國際上の通義に對しては一國の我儘な主張を犧牲にすべきであると云ふ原則を立つることに努力したいと思ふ。日本は米國の主張に讓つたが之はヤツプ島丈けの問題として讓つたのではない。斯う云ふ場合には一般に讓る可きだと云ふ原則に服從すると云ふ意味から讓つたと云ふ事にする。さうすれば日本の讓歩は同時に或高尚なる一原則の國際間に確立するを促すものにして、斯くてこそ初めて日本は大いに國際關係の進歩發展に貢献するとも云はれやう。加之日本丈けの實利の問題としても斯う云ふ原則の確立することによつて、アングロ・サクソン人の頑迷な白濠洲主義を破ることも出來る。印度や南亞に於ける對亞細亞人の門戸閉鎖政策を雄辯に斥けることも出來よう。此處に得て彼に失ふ、利害の打算から見ても我々の執るべき途は明かだ。得たものは少しでも失ふまいと云ふ態度一點張りでは得べきものをも得ら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れずに終ることがある。斯く觀ればヤツプ島問題の如きは我國に取つて厄介な問題と云ふよりは寧ろ大いに乘ずべき機會を提供する問題だと見ることも出來よう。

小題小言二則

◉猶太人の世界顚覆の陰謀の説について

此頃よく猶太人の世界顚覆の陰謀と云ふ風說を耳にする。注意して見て居ると、新聞や雜誌にもチヨイチヨイ出るが、相當有力な人からロづから之を聞く。四月中旬の「時事新報」にも數日に亙つて之に關する記事が出てゐたし、三月十五日發行の「外交時報」にも東京帝國大學助教授今井時郎氏の之に關する長文の記事が載つて居つた。して見ると相當有力な階級の間にも問題にされて居ると思ふのであるが、予輩の觀る所によれば之は實に飛んでもない大間違である。此等の人々の議論の種本は「シオンの長老の決議」と題する書物で、英獨佛に一時問題になつたのであるが、それが荒唐無稽の作り物であると云ふ事は今日何人も疑はない。之が此頃二三の人の手を通して日本の讀書界にも紹介されて居るのであるが、之より先き、一兩年前西伯利出征軍關係の或る方面から秘密出版物として日本の要路に流布されたので、今や可なり廣く行き亙ることになつたのである。讀んで見れば荒唐無稽を極めたものであると直ちに看取されるが、兎角世間の人は讀まずに噂のみを信ずるので其所謂荒唐無稽なる所以は氣附かれずして世界に流布するに至つた。猶太人こそ好い迷惑である。而して之が單に猶太人の迷惑丈けならいゝ。延いていろ〳〵の人が迷惑もするが又日本自身此誤解に基いてどれ丈大きな損害を蒙つて居るか分らない。尤も西洋に於てなら斯う云ふ誤解の流布さるゝについても多少の理由はあるが、日本は全然其理由を缺くにも拘らず、爲めにする所あるものから散々惡用されて居るのだから堪らない。此等の點について予輩は次號に詳細なる一文を草する積りであるが、兎に角此風說の何等據り所ないものであると云ふ事を特に警告して置く必要があると思ふ。

◉「勞働運動者のひとり言」

麻生久君の近著「勞働運動者のひとり言」は近頃讀んだ書物の中で最も强き感動を我輩に與へた。麻生君は最近足尾の同盟罷業運動の最高指導者として活動して居ることは改めて言ふ迄もない。正々堂々の陣を張り、訓練の乏しい勞働者をあれ程まで立派に指揮した手腕と熱誠とは敬服の外はない。日本の今日の狀態を以てしては、今度の罷業騷ぎは先づ勞働者の運動として理想的のものと觀て

よからう。此處までに到らしめたについては尙多くの人の力を數へねばならぬだらうが、第一の功は何と云つても麻生君に歸せざるを得ない。斯う云ふ地位に居る人の著書として本書は相當の價値あるものたるべきは云ふ迄もない。予輩は斯る豫想を以つて本書を讀んだ。豫想は勿論裏切られなかつた。けれども本書は更にそれ以上の多くの尊いものを包含して居る點に於て予輩は更に多大の讃辭を呈せざるを得ない。第一には文藻の富贍なることである。第二には至誠の其儘の發現であることである。殊に前二篇に於て其著るしきを觀る。あれを讀んでは何人も勞働者の悲慘なる境遇に同情し、勞働運動者の犧牲的精神に感奮せざるを得ない。從つて又勞働運動の我國に於て起らざるべからざる所以が明かにされる。勞働文學としても一個出色の文字であると思ふが、日本勞働運動の具體的說明として見逃し難い價値を有すると思ふ。其外日立鑛山事件、芝浦製作所事件、富士紡事件等の顚末を叙して最近勞働運動の由來を述べたる諸篇も我々に取つて教ゆる所頗る多い。至誠の迸る結果にや、多少昂奮に過ぐるの嫌ある箇所もある。從つて理論を說いて些か常軌を外れると爭つて見たいやうな箇所も可なりある。併し此等は固より本書の主たる眼目とする所ではない。兎に角日本の勞働運動を有りの儘に說明し、日本勞働運動者の生活を赤裸々に示して與れた點に於て、之れまで出版された多くの著書の中、本書は最も傑れたものと云つてよからう。勞働問題を机の上に取扱つたものとしては他にいくらも本はある。活きた勞働運動者から活きた勞働問題の說明を求めようとなら、本書は其最も傑れたものの一つであらう。此意味に於て予輩は特に本書を世上に紹介するの責任を感ずるものである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



子を奪ふ

豊島與志雄

兎に角、母が一人で行つてくれたのが、彼には嬉しかつた。普通ならいつも間にはいつて面倒をみてる伯父が、當然その役目をすべきだが、「女は女同志の方が話がしよいから、」と幾代は主張した。そして伯父を同伴することさへ拒んだ。「では行つてきますよ、」と彼女は云ひながら、重大な用件で小石川の奥から三田まで俥を走らせるのに宛も日常の用足しでゞもあるかのやうに、落付き拂つて家を出た。

母は安心しきつてるやうだ、と彼は考へた。然し、もしも向ふで子供を渡さないと云つたら……。

彼は眉根をしかめた。ふと空を仰いでみた。晴れ渡つた空が一杯日の光りを含んでゐた。彼は一寸口笛を吹いた。それから妻の所へ行つてみた。

兼子の弱々しい纖細な顔には、かすかに興奮の赤味があつた。彼女は良人の姿を見ると、無理強ひの微笑を浮べた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「これでお前も安心したらう?」と彼は冗談の調子で云つた。然しその言葉を云ひ終へないうちに、心と反對のことを口にしてゐるのを感じた。その言葉が當てつけがましい皮肉のやうに、我ながら思はれた。それでも兼子の答へは素直だつた。

「でも、向ふの返事を聞きませんうちは……。」

「兼子、」と彼は云つた、「しつこいやうだが、僕は今になつてもまだ不安で仕方がない。よしあの子が本當に家へ來たら、お前は心から愛することが出來るかしら?」

「出來ますわ。」

「然し……少しひどい言葉だが、兎に角、僕と他の女との子だといふことは、忘れられはしないよ。」

「さういふ子があることは、結婚の時にあなたから仰言つたではありませんか。私はその當時からもう何とも思つてはゐませんわ。それは昔のことですもの。昔のことはどうだつていゝと、あなたも……。」

「いや、どうだつていゝといふのは、過去のうちに埋めてしまへるからだ。現在の生活の外へおつぽり出してしまへるからだ。所があの子が家へ來ることはさういふ過去が現在のうちへ顔を出すことになるからね。」

兼子は、頭を支へかねるかと思へるやうな細い首を、きつと眞直に伸して、彼の顔を見ながら云つた。

「では、あなたは今でもその女の人を愛していらつしやるの?」

「いや。」

「それさへなければ、私はあの子を、あなたの子だから猶更愛せられるやうに思へますわ。」

彼は口を噤んだ。いくら云ひ合つた所で、前から何度もこね返した問題をくり返すに過ぎなかつた。そして常に一の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

疑問が最後まで殘るのであつた。兼子は誤つた感傷に囚はれてるのではないか？といふこと。感傷が單に感傷として止まる間はまだよい。然しそれが生活の方向を指定するまでに、儼たる存在を取る時には……。

最後に木村博士の診斷を受けた時、彼女は凡てに氣兼ねでもするやうに、表の格子をそつと開き足音を竊んで、伏目がちに家へ歸つてきたのだつた。やはり一種の病氣ださうだといふやうなことを、ごく簡單に答へたきり、幾代や彼の問ひを明かに煩さがつてゐた。默つて考へ込んでる彼女の姿を、彼は幾度も茶の間に見かけた。

「さうしてると、お前の首はいつもよりなほ細つて見えるよ。」と彼は云つた。然し、顔色がいつもよりなほ蒼く見えるといふことは、口へは出さなかつた。

「あらさう？」と彼女は答へて、頭をもたげながら彼の方を見上げた。その眼には夢見るやうな柔かい潤ひがあつた。彼は安心した。然しその晩に、彼女の眼は熱い黝ずんだ光りを帶びた。そして木村博士の診斷を、良人と母とに殘らずうち明けた。平素身體が比較的弱いのは、やはり子宮の内膜の病氣が原因だつた。その病氣は、うつちやつておいても、別段差支へないとのことだつた。そして、手術すれば全癒する可能が多いし、手術しなければ不姙の可能が多いけれど、結局何れも可能に止るとのことだつた。――全癒の見込が確かでない手術なんかはしない方がいゝ、といふことに皆の意見は一致した。大して差支へのない病氣なら、身體を強くする方法は他にありさうだつた。

何でもないことだ、と彼は思つた。然し幾代と兼子とにとつてはさうでなさゝうだつた。その晩兼子は長く眠れないでゐるらしかつた。夜中に彼はふと眼を覺した。兼子が聲低く彼を呼んでゐた。彼は大きく開いた眼で意味を尋ねた。彼女は云つた。

「私、やはり手術をして貰ひませうか。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「それもいゝね。」と彼は答へた。「何なら僕がなほ木村博士に相談してみやうか。」

彼女は何とも云はなかつた。そしてたゞまじ〳〵と眼を見開いてゐた。頬の細そりとした面長の顔が、薄暗い光りの中に浮き出して、靜に枕の上に休らつてゐたが、底のない穴を思はせるやうな眼だけは、變に鋭く活いてゐた。そして時々瞬きをした。それをぢつと見てゐると、瞬きの毎に怪しい惑はしが傳はつてきた。彼ははつきり眼を覺しながら、そのまゝ白けた眠りに落ちた。

其後も一度眼を覺して、なほ眠らないでゐる彼女の姿を見たやうな記憶を、彼は朝になつて意識に浮べた。

彼は木村博士を訪れた――幾代と兼子とには内密で。然しその結果得たものは所謂子宮内膜炎といふ病氣には非常に多くの種類があること、兼子のそれは殆んど體質的とも云へるほどの慢性の輕微なるものであること。そのまゝにしておいても健康に大した害は及ぼさないこと、但し不姙の恐れはあること。然し手術其他の手當の效果については確かな保證は出來ないこと、……要するに、兼子の口から聞いたことゝ大差なかつた。

「醫者としては、」と博士は云つた、「一層のこと手術なさるやうにお勸めしますが、然し嫌でしたら、それにも及びますまい。まあ時々、さうですね……年に二回ばかりも診察を受けられて、何か變化があつたらその時のことにしても宜しいでせう。始終外的治療を受けられるのも大變でせうから。一體この、子供の少い痩せた……神經質な婦人を檢査しますと、あれ位の病氣は半數以上持つてるものです。それが多くは、一生氣付かないで過してしまふのです。」

彼は、醫者としてよりも人としての博士の言に、信頼するの外はなかつた。年に二回ばかりの診察を頼んで、病院の門を飛び出すと、急に明るみへ出たやうな呑氣な氣持ちになつた。問題は彼の心の中で消えてしまつた。彼は午前の日の光に充ちた街路を、ぶらり〳〵歩いて歸つた。そして母と妻とへ、報告的な告げ方をした。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「まあ僕の氣管支と同じ程度のものさ。」と彼は云つた。「少し氣をつけてさへゐれば、身體の方はすつかり丈夫になるよ。心の向け方一つだ。」

所が彼女等の心は、彼が思ひも及ばない方へ向いていつた。

物に反射し易かつた露はな敏子の神經は、憂鬱な曇りのうちに沈み込んでいつた。彼女は外出を嫌つて家居を好むやうになつた。裏の花壇の手入れを女中共に任せつきりで、常磐木の木影深い表庭を好むやうになつた。針仕事に對して、妙に執拗な熱中を現はすやうになつた。然し仕事そのものを愛してゐるのではなかつた。平素着の仕立物などを外へ出すことを拒みながら、着物一枚を幾日もかゝつて弄てることがあつた。いろんな布を膝の前に散らかし、針箱を引き寄せて坐つてる、さういふ境地を愛してるらしかつた。幾代の態度もまたそれを助長してゐた。身體を動かすやうな仕事を幾代は出來るだけ彼女にさせなくなつた。その上いろんな細かい世話までやいた。魚屋が來ると自分で立つて行くことさへあつた。滋養の多いものを取つて體力をつけさせること——そのくせ運動を少くさせながら——それが彼女の主義らしかつた。そしてしまひには、二人で入湯の旅に出かけることを夢想しだした。夢想……に違ひなかつた。いつまでも實現出來なかつたから。

敏子が遊び半分に針を運んでる側で、幾代は彼から買つて貰つた種々の地圖を擴げた。敏子も針を置いて覗き込んだ。そして二人で諸方の温泉を物色し初めた。やがては旅行案内記のやうなものまで讀み初めた。

「早くきめたらいゝぢやありませんか」と彼はよく云つた。

「でもねえ、女ばかりの旅ですから……。」と幾代は答へた。

彼は仕事の關係上長い旅は出來なかつた。それで、往きと歸りとだけ伴をすることにしようと云つたが、初めから女

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だけの方がいゝと幾代は答へた。そして彼女等は頭の中で、温い湯の湧き出る野や山の自然を、築き上げたり壊したりした。さういふ感傷的な氣分のうちに、二人の心は實の母と子とのやうに結ばれていつた。彼はそれを喜んだ。二人の心が落付いたと思つた。

二人の心は實際落付いてはゐた。然し、彼が夢にも思はなかつたほどの深い所へ沈潜したのだつた。二人は、依子を家に引取つて育てたいと云ひ出した。

依子！その名前を今公然と持ち出されると、彼は一種の暗い壁にぶつかつたやうな氣がした。半ばは異性に對する好奇心から、半ばは本能的な肉慾から、何等の豫想なしに設けた子であり、當時その存在に對して、愛着と憎惡とを投げかけた子であつて、其後母親の手で育てられてるといふことを自ら責任回避の口實として、折にふれて氣にかゝりながらも、忘れるともなく忘れがちになつてゐた子であるだけに、その子のことを考へると、暗い影に心が蔽はれた。彼は母と妻との申出に對して、諾否の返答が與へられなかつた。そしてたゞ、二人の心持ちだけを執拗に分解してみた。然し幾代の理由は簡單だつた。どうせ兼子に兒がないとすれば、そして兼子自身で望んでゐることである以上は、依子を引取つて育てた方が、家の血統のためにも皆のためにも、凡て好都合ではないか。もし兼子に兒が出來ても、女の子であるから少しも差障りはない。

「固より向ふとはきつぱり手を切つてしまうのです。」と彼女は云つた。

「然し戸籍の上にはいつまでも殘りますよ。」と彼は母が氣にしさうなことを持ち出してみた。

「それ位は仕方がありますまい。」彼女の答へは落付いてゐた。「兼子さんに兒が出來ないとすれば、他から何とかするよりも、その方が都合よくはありませんかね。第一兼子さん自身でさうしたいと云てることですし……。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

否々、と彼は心の中でくり返した。そのことを考へ出したのは、兼子自身ではない。また幾代自身でもない。それは二人の間の空氣、善良な女性としての二人の間に醸し出された空氣、に違ひなかつた。

「お母樣からお話がありましたでせう。」さういふ風に兼子は彼に云つた。「……私も是非さうしたく思ひますわ。どうせ自分には兒がなささうですから、その子を自分の子として育てたいのです。」

「然しそれは、お前の本當の心から出たことではないだらう？」と彼は云つた。

「いゝえ、いゝえ、私からお母樣にお願ひしたのですわ。」

彼女の顏は晴々としてゐた。夢みるやうな眼で、彼の眼をまともにぢつと見返した。彼は視線を外らして、額を掌で支へた。

子供のないことが、血を繼ぐべきものゝないことが、一家の母としての女性にとつては、また一家の妻としての女性にとつては、——幾代と兼子とにとつては——如何なるものであるか、それを考へると、彼は泣いていゝか笑つていゝか分らない氣持ちになつた。然し兼子に子供が出來ないといふことは、まだ確定した事實ではなかつた。たゞ四年間の結婚生活によつて裏書きされてるのみだつた。不姙の「かも知れない」を肯定するならば、手術の効果の「かも知れない」をも肯定していゝわけだつた。然し幾代も兼子も手術を嫌つた。そして、不姙の「かも知れない」を肯定しつゝ、それを實は打ち消さうとしてゐた——奇蹟を信ずるやうな心で。

「よその子供を育てると、不思議に家でも兒が出來る。」

馬鹿、馬鹿！と彼はやけに首を振つた。そんな迷信で生活の調子を狂はしてはいけない。子供とはいへ、一人の存在を弄んではいけない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「そんなら、」と兼子は云つた、「私にはその子供を愛せられないと思つてゐらして?」

然し彼から云はせると、それがたほいけなかつたのだ。愛しやうと欲することゝ愛するといふ事實とは、別なものであつた。彼女はそれを混同してゐた。他の女と良人との間の子を引取つて、それを實の母のやうに愛すること――愛したいといふこと、其處に彼女の任俠的な感傷があつた。そして子供の上に、一種の美しい幻を投げかけてゐた。

「僕はお前を愛するから、」と彼は云つた、「僕の過去の暗い罪で、お前の生活を亂したくない。」

それでも彼女はびくともしなかつた。彼女の存在は無意識的に、自分一個の生活よりも、更に廣い生活を欲してゐた。たとひ自分の一部を犧牲にしても、次の時代の母となりたがつてゐた。依子を引取ることによつて、奇蹟のやうに自分に兒が出來るならば、それに越したことはなかつたが、たとひ兒が出來ないまでも、それは少くとも美しい感動すべき行ひだつた。そして依子を實子のやうに愛したら……。

兼子と幾代とは、間接に依子の面倒をみる瀬戸の伯父に、相談をしてみた。酒肥りの大ざつぱな瀬戸は、即坐に贊成した。そして自ら進んで彼に說いた。彼は諾否の返答を與へなかつた。然し皆にとつては、返答がないのは承諾と同じだつた。

「私が內々向ふの意向を探つてみませう。」と幾代は云つた。

幾代が一人で出かけてくれたことは、彼にとつて嬉しいことだつた。然しそれに自ら氣付くと、いつのまにか自分も茲まで引きずられてきたことが、驚いて顧みられた。

「一體お前自身は、そうしたいのかしたくないのか?」と彼は自ら反問してみた。何とも云へない嫌な氣持ちになつた。信じきつてるやうな兼子の顏を見ると、狼狽の氣持ちまで更につけ加はつた。彼はふいと坐を立つた。書齋の机に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

坐つてみた。庭を歩いてみた。それから散歩に出てみた。然し遠くへは行けなかつた。何だかしきりに氣にかゝつた。家の前を何度も往き來した。或の板塀の下の隙間から、可愛らしい仔猫が首を出して、彼の方を覗いてゐた。それを見て彼は、また家へはいつていつた。

「お母さんはまだ？」と彼は尋ねた。

「はい、まだお歸りではございません。」と女中は答へた。

母は家を出てから、四時間ばかり後に歸つてきた。その時彼は書齋にぼんやりしてゐた。玄關先の石疊みを踏む兩刳の下駄の音で、それと知つたけれども、なほぢつと耳を澄したまゝ身を動かさなかつた。暫くすると、急いで階段を上つてくる足音がした。兼子がはいつてきた。

「あなた、お母樣が歸つていらしたわ。」

彼は默つてその顏を眺めた。彼女は何かしら慌てゝゐた。ちらと眼を外らして、そのまゝ階下に下りていつた。彼も立ち上つた。室の中を一廻りくるりと歩いて、それから母の所へ行つた。

幾代は火鉢の前に坐つて、茶を飲んでゐた。そして兼子に話してゐた。

「さほど遠いやうな氣もしませんでしたよ。氣が張つてゐたせいでせうね。」

「然し、」と彼はいきなり云つた、「隨分時間がかゝりましたね。」

「えゝ、いろ〳〵話があつたものですから。」

「そして、あの向ふの御返事は？」と兼子は尋ねた。

「大體のことは承知したやうですけれど、四五日待つてほしいと云つてゐました。餘り突然だつたものですから、そ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れは喫驚しましてね……。」

幾代はふと口を噤んだ。そして思ひ惑つたやうな風で二人の顔を見比べた。それから急に眼を瞬かした。彼女は少からず興奮してゐた。一度に種々なことを饒舌りだした。

「狭い古い家ですけれど、わりに小綺麗にしてゐましたよ。……すぐに分りました。ふいに俥を乗りつけたものですから、怪訝な顔で私を見てゐましたが、すぐに私だと分ると、まあ奥様！と云つたきり、上れとも何とも云はないではありませんか。一寸相談があつて來ましたと、私の方から云つて、座敷に通りはしましたが、何と挨拶をしてよいものか、私も全く困りました。瀬戸さんに萬事お任せしてるものですから、時々噂を聞くきりで、逢つたのはあの時から初めてなんでせう。……室の隅の方で、小さなお河童さんの子が遊んでゐました。眼の大きな可愛いゝ子でした。私の方をぢろ〳〵見てゐましたが、お辭儀をなさいとお母さんから云はれて、小さな膝を揃へて丁寧にお辭儀をしたかと思ふと、そのまゝ玩具の上に屈み込んでしまひました。その子だといふことは、初め一目見た時から、私にはよく分つてゐました。早速手土産の玩具を出して、こちらへおいでと云ひましたが、いつまでもぢつと縮み込んでゐます、氣がついてみると、お敏はしく〳〵泣いてゐます。私も思はず涙が出て來ました。何と云つてよいか分りません。それに、あなたといつたやうな調子が、どうもうまくゆきません。今では兎に角、仕立物をしたり、近所の娘さん達にお針を教へたりして、立派に一家を持つてる身分ですから、昔家に使つてゐた時のやうに、ぞんさいな口の利き方も出來ませんからね。

「いつまでさうしてゐても仕方がないから、思ひ切つて相談を持ち出してみました。兼子さん、あなたの氣持ちもよく話しました。なまじつか隱し立てをしては惡いと思つて、こちらの事情を詳しく述べましたが、お敏は何とも返辭を

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しません。ちつと疊に眼を伏せたきり、石のやうに固くなつてゐました。髪のほつれ毛が顫えてゐた所を見ると、よほど胸を打たれたに違ひありません。全くの所、餘り突然のことでしたからね。私は、さうした方が子供のためにもよいし、皆のためにもよいといふことを、よく得心のゆくやうに云つてきかせました。あの當時とは事情も違つたのだからと……そして、今後あなたの身の上についても力になつてあげたい、と云ひ出しますと、お敏は何と思つたのか、きつと顔を上げて、私の身の上のことは私一人で致しますと、思ひつめたやうに云ふのです。私の云ひ方が惡かつたかも知れませんが、そんな言葉を聞く譯はないと思ひました。そして妙に氣持ちがこぢれてきました。しまひには二人共默り込んでしまつて、どうしたらいゝか分らなくなりました。

「子供は無邪氣でよござんすね。私達が餘り默つてゐたからでせう、私がやつた人形を抱いてきて、お祖ちやん、これおばあちやまに頂いたのね、とふいに云ひ出したのです。けれどもそれがいけませんでした。お敏は子供を引き寄せて、胸に抱きしめましたが、ぽろり〳〵涙をこぼすではありませんか。それを見ると、私は氣が挫けてしまひました。どうしたものか、途方にくれてしまひました。……所が丁度、近所の娘さんがお針の稽古に來ました。お敏は立つて行つて、お客様だからと斷つてるやうでした。そしてまた坐に戻ると、ふいに、ほんとにふいに、奥様濟みませんと詫びるのです。何で詫びるのか私には分りませんでしたが、たゞ、いゝえ私の方が餘り突然だつたものですからと、云つてやりました。それですつかりよくなりました。落付いてゆつくり話をすることが出來ました。私達の氣持ちは、向ふにもよく分つたやうです。四五日考へさしてほしいと云つてゐましたが、大丈夫承知しますでせう。」

さういふ話を聞きながら彼は、話の内容には餘り氣を止めずに、敏子——昔のとし——と依子との生活を想像に浮べてゐた。あの時別れて以來、彼は二人に逢つたことがなかつた。嚴格な父の怒りに觸れて以來、彼の耳には二人の消息は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

更に達しなかつた。たゞ何かの折に、二人が三田に住んでることを一寸耳にしたので、入り組んだ小路をやたらに彷徨したことがあつた。然し敏子らしい姿は一度も見かけなかつた。そして疲憊しつくした彼の眼には、慶應義塾の美しい圖書館の姿が、暮れ悩んだ空を景色にして、くつきりと殘つたのみだつた。それから、彼は凡てを過去に埋める氣で、忘れるともなく忘れていつた。父の死後、瀬戸の伯父から二人の様子を、ちらと匂はせられるやうな機會が、よほど多くはなつたけれど、その時はもう彼の生活は可なり前方に押し進んでゐた。彼は兼子と結婚し、兼子を愛した。過去の罪をふり返ることは、更に罪を重ねることのやうに思はれた。兼子は彼を許してくれた。彼も自ら自分を許した。そして今突然——幾代と兼子との申出でから半月ばかりたつてはゐたが、彼にとつては非常に突然の感があつた——今突然敏子と依子とが彼の前に立ち現はれてきたのだつた。

「どうしても子供を引取らなければいけないのですか。」と彼は云つてみた。

「まあ、何を云ふのです？」と幾代は驚いた眼を見張つた。「引取らなければいけないといふのではありません。引取る方が萬事都合よいから、こちらから向ふへ相談に行つたのではありませんか。あなたは一度承知しておいて、今になつて不服なんですか。」

さすがに彼も、承知した覺えないとは云ひ得なかつた。たゞ、自ら進んで相談に與らなかつたまでだ。いゝとも惡いとも言明しなかつたまでだ。そして、今後の兼子の心をばかり氣遣つてゐたのであつた。

「だけど、考へてみると、」と幾代は云ひ續けた、「氣の毒のやうでもありますね。あれまで手許で育てたのを、無理に引き離すんですから。」

「お話の模様では、いゝ子のやうでございますね。」と兼子は云つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「えゝ、おとなしさうな可愛いゝ子でしたよ。言葉も上品ですし、よほど注意して育てたものと見えます。家の子だとしても恥しくはありますまいよ。」

「私濟まない氣がしますわ。」

「それもさうですけれどね……。」

「それが人間として本當の氣持ちだ！」と彼は思はず叫んだ。

象子は頭を垂れて唇をかんだ。彼はぢつとしてるのが苦しくなつた。坐つてる膝頭をやけに揺ぶつた。變に氣持ちがねぢれてゆきさうだつた。

二人きりになつた時、象子は彼の腕に縋りついてきた。

「どうしたら宜しいでせう？」

「どうしたらつて、今になつて仕方はないぢやないか。今更向ふへ取消すわけにもゆくまいから。」

さう云ひながら彼は、何を云ふんだ、何を云ふんだ！と自ら心の中でくり返した。それでも彼は、先刻母へ向つてあんなことを云つた同じ口で、象子を説得しようとしてゐた。

「兎に角、さうした方がいゝかも知れない、もう玆まで來てしまつたんだから。子供も、一生父なし子で暮すよりは、公然と家で育つた方が幸福だらう。その幸福は、凡てをよくなしてくれるかも知れない。たとひ一時はつらくつても、母親はそれを喜ぶに違ひない。そして、お前とお母さんとは、云ひ出した本人ぢやないか。あの子を實の子のやうに愛してさへくれたら……愛することによつてお前の生活が、晴々としたものに、さうだ、晴々となつたら、僕はどんなに嬉しいか知れない。僕にはあの子は愛せられないかも分らないけれど……。」

「あなた！」と兼子は云つた。

「僕は元來子供は嫌いなんだ。然し一緒に暮してると好きになるかも知れない。當然憎むべきお前でさへ、あの子を愛すると云ふんだから……。僕は心からお前に感謝してる。お前があの子を愛してくれるのは、僕の過去の罪を二重に浄めることなんだ。而もそれによつて、お前自身の生活にも張りが出來てきて、陰鬱でなくなるとすれば……。」

彼はふと口を噤んだ。自分でも、本當のことを云つてるのか嘘を云つてるのか、分らなくなつてしまつた。僞善者め！と嘲る聲と、痛切な感激の聲とが、同時に心の中に響いてゐた。

俺はやはり子供を引取りたいのだ！ 彼は其處まで掘りあてると、頭を一つがんと毆られたやうな氣がした。五年間父親から無視された小さな存在、眼の大きいお河童さんの子、膝を揃へてお辭儀をした子、はにかんで疊につゝ伏した子、言葉の上品なおとなしい子、……その上個々のものが眼に見えてきた、小さな手、貝殻のやうな爪、柔い頬、香ばしい息、眞白な細かい歯並、澄んだ眞黒な瞳。——誰に似てるのかしら？ 彼は敏子の面影を思ひ起さうとした。然したゞ、肉感的な肉體だけしか頭に浮ばなかつた。ともすれば、面長な首の細い兼子の姿が、一緒に混同されがちだつた。記憶を押し進むれば進むるほど、その面影は同じ程度に遠退いて、常にぼんやりした距離に立つて居た。

馬鹿！と彼は自ら自分に浴せかけた。依子の一生の運命に關することだ、さう考へ直してみた。然し問題は既に決定されてゐた。それが最善の途らしかつた。何の氣もなく偶然兼子に述べた言葉だけが、更に深く掘り進められていつた。依子は戸籍上私生児となつてることを、彼は考へた。私生児が世の中で如何なる待遇を受けるか、それを彼は想像した。依子の認知をして家に引取り、そして兼子と二人で愛してやつたら、それは依子の生涯に光明を與へることに違ひなかつた。さうすれば敏子とても、一生世に埋もれずに濟む、少くとも自由な途が歩けるだらう。それで自分の過去

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は時々となるのだ。罪の贖ひなのだ。而もそれによつて、兼子の生活まで救はれるだらう。女には良人以外にも一つ、生活の頼りとなるべき人形が必要である。その人形は、普通の女にとつては子供なのだ。兼子に子供を與へることは、彼女の寂寞たる生活を救ふ途かも知れない。さうだ、彼女がその子供を愛しさへすれば……。

彼は執拗に兼子の眼色を覗つた。その眼は少しも濁つてはゐなかつた。

「お前は、」と彼は云つた、「後悔するやうなことになるだらうとは、少しも思つてゐないのか。」

「えゝ。なぜ?」

「自分の兒でなければ子供なんか寧ろない方がいゝとか、または、依子よりも寧ろ他人の子供を養子にした方がよかつたとか、そんな氣持ちになりさうな不安は、少しも感じないんだね?」

「えゝ、ちつとも。私たゞあの子を育てたいんですわ。」

「なぜ?」と此度は彼の方で反問した。

彼女の答へは簡單だつた。

「あの子なら、全くの他人ではありませんから。」

「だからなほいけなくはないかしら。」

「いゝえ。私はもう昔のことは何とも思つてゐませんの。結婚前のことですもの。……あなたが本當に私を愛して下さるなら、私の心も分つて下さる筈ですわ。」

「それほどお前は本當に思ひ込んでるのかい。」

「え、何を?」

何をだかは、尋ねた彼にも說明出來なかつた。たゞ心から信じての上でさへあれば、それでよかつた。

「私はたゞ、」と彙子は眼を伏せて云つた、「あの方にお氣の毒な氣がしますけれど、そのうめ合せには、あの子を倍も愛してあげるつもりですわ。」

彼は無言のまゝ彙子の手を握りしめた。そして、その後ですぐ自責の念が萠してきた。何とかかとか其場々々は理論で押しつくろひながら、結局は依子を引取る理由を更に裏書する言葉を、彙子の口から引出したがつてゐたのではないか。ちつぽけな利己的な僞善だ。……とは云へ、公平な心で考へても、依子を引取るのが自然で正當であるやうに思はれた。さうしたいといふ欲求は、彼の頭の中に深く根を下してゐた。誰に遠慮がいるものか！ 彼は運命といふ名に固執した。區々たる一時の感情を捨てゝ、一生を通ずる大きな運命といふものをのみ見やうとした。依子、敏子、彙子、自分、凡ての者の運命がそれによつてよりよくなされる、さう彼は考へた。愛は誰か一人を護ることではなくて、凡ての者の運命を正しくなすことだ！

彼は早くその日が來るのを待つた。ちり〳〵した日を送つた。然し敏子からは何とも返事がなかつた。幾代も別に催促に行く風もなかつた。彙子も落付き拂つてゐた。そして彼女等は、溫泉旅行の夢想を捨てゝ、新らしい夢想を描き出してゐた。子供を中心にして、種々な計劃がめぐらされた。先づ第一は玩具であつた。珍らしい玩具が澤山物色せられた。それも實際玩具屋に行つて見て來た物ではなくて、彼女等の頭でありさうに想像された物だつた。中には座敷の中で火をたいて湯が沸せるやうな、小さな世帶道具まであつた。「火を弄らせるのは危いから止しませう、」と幾代は云つた。第二は遊覽場所であつた。公園、動物園、植物園、觀音樣、郊外の野原……地圖の上に赤鉛筆で印がつけられた。活動や寄席は小さな子供にどうだらうか、それが問題として殘つてゐた。第三には着物のことだつた。餘り贅澤をさせ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

てはいけないといふことに、二人の意見は一致した。けれども地色や柄は、子供の顔立に似合ふものでなければならなかつた。それには肝腎の顔立がよく分らなかつた。幾代は子供を見た時の印象を、出來るだけ細かく思ひ浮べやうとした……。

「そんな計劃ばかりしてどうするんです？」と彼は云つた。

「でもねえ、前からきめて置きませんと……。」幾代は答へた。

「然しまだ返事がないぢやありませんか。もし斷つてきたらどうします？」

「そんな筈はありませんよ。」

「もう約束の四五日になつてゐますよ。」

「それは約束ですけれど、向ふだつてさう急にはきめかねるでせうよ。少しは向うの身になつても考へてやりませんではね。猫の仔一匹やりとりするのでも……。」

「犬猫の仔とは違ひます！」と彼は叫んだ。

「だから猶更待つてやるのが本當でせう。」

「いえ、だから、人間一人の運命に關することだから、變にこぢれないうちに早くきめなければいけません。」

見方が違ふんだ、と彼は考へた。彼女等にとつては、依子は一の玩具に過ぎない。依子の存在に對して、現在愛の心が動いてるのではなくて、愛するといふ空想を樂しんでるのだ。隙にあかして、ゆつくり期待の時期を味はうといふのだ。然し……依子の運命を弄ばさしてなるものか！

「兎に角、きめるだけ早くきめたらいゝでせう。」と彼は云つた。

「おかしな人ね。」と兼子が云つた。「初めはあんなに躊躇してゐらしたくせに、今になつて、どうしてさう性急(せつかち)なことを仰言るの？」

「僕の心がきまつたからだ。」と彼は答へた。「心がきまつた以上は、僕は是非とも依子を引取つてやる。向ふで嫌だと云へば、奪ひ取つても構はない。……安心しきつて下らない空想に耽つてるうちに、またどうなるか分らないぢやないか。その方を先に解決するのが第一だ。」

「では何を危ぶんでいらつしやるの？」

彼は默つて兼子の眼を覗き込んだ。その眼は好奇の色に輝いてゐた。彼は不安な氣持ちになつた。見せてならないものを見せたやうな氣がした。依子を愛することが、何で兼子に氣兼ねする必要があらう？　さうは考へてみたけれど、はつきりした形を取らない仄暗い不安が、何處からともなく寄せてきた。依子が來たら凡てよくなるだらう、と彼は自ら云つた。そしてそれまでは、もう依子のことを口にすまいと決心した。

彼が默つてゐればゐるほど、兼子の眼は益々彼の內心へ向けられていつた。彼はそれをはつきり感じた。

「眼が大きいさうですから、屹度あなたに似てる子に違ひありませんわ。」と兼子は云つた。

俺をためしてるんだな、と彼は考へた。

「家に引取つたら、」と兼子は云ひもした、「餘りいろんなことに干渉なすつてはいやですよ。女の子は、女親の方がよく氣持ちが分りますから。私ほんとにいゝ子に育てたいと思つてゐますの。でも、惡いことをしても私には叱れないかも知れません。そんな時はお母様かあなたかが叱つて下さるといゝんですけれど……。」

彼女の言葉は甘つぽい嬌態を帶びてゐた。彼は其處に一種の武器を見て取つた。彼女は自分一人で子供を占有したが

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つてるのだ、と彼は感じた。占有したいんならするがいゝ、とも考へた。然し……それでいゝだらうか？　理由はなしにたゞ否といふ氣持ちが、心の中に湧き上つてきた。彼女はそれを見て取つたらしかつた。

「おかしいわね、あなたはどうしてさう急に子供がほしくおなりなすつたんでせう？」

「子供がほしいんぢやない。」と彼は答へた。

「さう。では私達にかぶれなすつたのね。」

然し彼女の眼はその言葉を裏切つてゐた。揶揄するやうな小賢しい光りがあつた。嫉妬してはいけない、と彼は心の中で彼女に云つた。そして、自分の子でないといふ焦燥を彼女の心に起させるのは、最もいけないことだと思つた。彼は口を噤んだ。彼女も口を噤んだ。互に相手が何か云ひ出すのを待つて、二人はいつまでも默つてゐた。

彼は一度、三田行きの電車に乘つてみた。別に依子に逢ひたいといふ氣でもなかつた。早く決定しなければ堪らないと思つた。幾代と兼子とが、既に決定したもののやうに先のことばかり考へてるのを見ると、彼は現在の不決定な狀態に益々苛立つた。電車の中に、乳母らしい女に負さつてる二歳ばかりの女の子が居た。手に一枚の鹽煎餅を掴んで、鼻汁を垂らしてゐた。粘つこい眼付で彼の方をじろじろ眺めだした。彼は不快な氣持ちになつて、遠くへ席を避けた。然しそのことが更に不快な氣持ちを煽つた。彼は電車から下りて、眞直に家へ歸つてきた。

一日も早く解決しなければいけない、と彼は執拗に同じ考へをくり返した。然し自分から進んでどうするといふ方法はなかつた。

其處へ瀬戸の伯父が、向ふの返事を齎してきたのだつた。彼は女中から知らせを受けて、座敷へ飛んでいつた。幾代と兼子とが、ちらと眼を見合して彼の方を顧みた。彼は反抗的な氣持ちになつて、わざとらしいほど丁寧に伯父へお辭

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

儀をした。

「思ふ通りになつたよ。」と瀬戸は云つた。

「さうですか。」と彼は冷淡な返辭をした。

「但し條件づきでね。」

條件といふのは、庶子の認知と千五百圓の金とだけだつた。

「簡單なことだから、私が獨斷で承知して置いた、お前にも異存はあるまいと思つて。」

「えゝ。」と答へながら、彼は瀬戸の顏を見つめた。「そんなことをとしが云つたのですか。」

「いや、永井が代理に來てからの話さ。」

彼は眉をしかめた。不意に泥の中へ足を踏み込んだやうな氣がした。話は幾代と敏子との間の穩かなものだと、彼は考へてゐた。少くとも、幾代が自ら出かけて行つた以上は、敏子が自ら幾代へか瀬戸へか返事をする筈だと思つてゐた。然るに、あの下劣な永井を間に立てゝ瀬戸へ談判を持ち込むとは……。體のいゝ取引に過ぎないのだ。――彼は永井を嫌つてゐた。あの當時家へ談判をしに來たのも永井だつた。父が向ふの要求を尋ねると、子供が小學校を卒業するまで月々三十圓の仕送りをしてほしいと、たゞそれだけのことを切り出すのに、一時間餘りもくど〳〵と饒舌り續けたさうだつた。彼の行ひを責むるかと思へば、敏子の方が惡いのだと云つてみたり、また某々の家ではどういふことがあつたとか、後の始末がどうなつてるとか、それも眞僞の分らない話を廻りくどく述べ立てゝ、遂に父の立腹を買つたのだつた。父から怒鳴られても永井は平氣だつた。そしてなほ饒舌り續けながら、要求が容れられるとすぐに歸つていつたさうである。彼も一度逢つたことがあつた。常に問題の中心に觸れないで、下らないことをのべつに饒舌り續ける永井を、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

彼は不思議さうに眺めた。髪を丁寧に撫でつけ、鼻が低く、眼が絶えず動いてる、撫で肩のその姿を見ると、彼は一種の道化――都會が産んだ道化――を見るやうな氣がした。然し道化にしては餘りに惡賢こかつた。この男が敏子の身を保護してるのかと思ふと、他に緣故の者もない孤立の敏子を、彼は憐れまずには居られなかつた。……然し今、たとひ他に人がなかつたにせよ、その男を敏子が間に立てたかと思へば、憤懣の念に堪へなかつた。恐らく敏子はたゞ相談したのみではあつたらうが、その手中に話を托すとは、餘りに凡てをふみつけにした仕業だつた。依子の一身は、そんな風に取引されていゝものであつたらうか？

「その條件を拒んだらどうなるんです？」と彼は云つた。

「それはまた話をやり直すまでのことだが、」と瀬戸は云つた、「それほどむづかしい條件でもないぢやないか。」

「條件はどうでもいゝんですが、永井が間にはいつてるのが嫌なんです。」

「いや、なるほど、永井には私も閉口だ。」

「それでも、これで永井とはさつぱり緣が切れるわけだから、却つてよくはありませんか。」、幾代は云つた。

「あなた、」と敏子も云つた、「いろんなことを云ひ出すと、なほ面倒になるばかりですわ。いつもあなたが云つてゐらしたやうに、早くきめてしまつた方がよくはありませんか。」

それは打算的な理屈だ、と彼は考へた。然しそれが最も便利なまた安全な方法だつた。取引によつて依子の運命に塗られた泥は、依子を愛することによつて償はれる！ 俺は二重に依子を愛してやらう、と彼は心に誓つた。

夕食後、彼は瀬戸を送つて表に出た。肥つた筋肉を狹すぎるやうな皮膚に包んだ瀬戸の身體は、酒のためになほ張り切つて見えた。地面に轉つたら、ぽんとはね返りさうに思はれた。棒のやうな足でこと〳〵歩きながら、彼の方を顧み

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。

「これですつかりよくなつたといふものだ。女も時には素敵なことを考へつくものだね。」

「え？」と彼は問ひ返した。意味がよく分らなかつた。

「然しこれからが大事だね。」と瀬戸は構はず云ひ續けた。「永井でなくても、へまするとお前は誤解され易いよ。」

「永井が何と云つたんです？」

瀬戸は他のことを尋ねた。

「お前は依子を引取ることを、大變急いでるといふぢやないか。」

「えゝ。變な風に話がこぢれるといけませんから……。」

「然し案外だつたらう、餘りすら〳〵と運びすぎて。」

彼は返辭に迷つて、何とも答へなかつた。瀬戸もそれきり默つた。暫く行つて坂を下りつくすと、瀬戸は俄に立ち止つた。

「送つてくるのなら、もういゝよ。それに、今晩は家でゆつくりした方がいゝだらう。」

さう云ひながら瀬戸は、中々歩き出さうとしなかつた。彼も仕方なしに立つてゐた。やがて瀬戸はかう云つた。

「やはりお前に云つて置いた方がいゝだらう。實はね、永井の奴變なことを云ひ出したものだから、私は怒鳴りつけてやつたのさ。奥様に兒種がおありにならないとしますれば、敏子もどうせ生涯獨身を續けると云つてゐますから、お側に仕へさしても……。」

「僕の妾に、といふんですか。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「まあさうだね。だから、今後永井も敏子も近づけてはいけないね。勿論敏子は何も知らないんだらう。早く云へば、永井の喰ひ物になつてるんだね。」

彼は瀬戸の顔を眺めた。街燈の薄暗い光りを受けてるその顔は、笑つてるやうに見えた。

「伯父さん、揶揄つてるんですか。」と彼は云つた。

「はゝゝ、」と瀬戸は笑ひ出した。「揶揄はれたと思ふやうな心なら、まづ安心だよ。然しね、兼子にそんな疑ひを起させないやうにしなければいけない。それが一番大切なことだ。」

「兼子は僕を信じてゐます。」

「それはさうだらう、夫婦の間だからね。……まあ兎に角、二人で圓滿にあの子を可愛がるんだね。」

彼は瀬戸と別れてからも、暫く此處にぼんやり立つてゐた。謎をでも投げつけられたやうな心地がした。馬鹿々々しかつた、さりとて笑へもしなかつた。彼は頭を振つた。俺は敏子のことは何とも思つてはしない、あの時だつて眞面目な心の動きはなかつたのだ、さう自ら云つてみた。然し……その「然し」から先を彼は無理に頭の外へ逐ひやつた。

家へ歸ると、彼は兼子の顔にぢつと眼を据ゑた。兼子は彼の方へ寄り添つてきた。そして彼の手を執りながら、「あなた！」と一言云つた。

これですつかりいゝのだ！と彼は考へた。その晩はいつもよりなほよく眠れたやうな氣がした。朝起きると空が綺麗に晴れてゐた。それを眺めてゐると、涙ぐましい心地になつた。依子、依子！さう心にくり返すことが嬉しかつた。それは瀬戸の伯父がつけてくれた名前だつた。

家の中には急に種々なものが増えてきた。幾代と兼子との夢想は實現されていつた。兼子の身體も肥つてきたやうだ

つた。彼女の膝の前には、美しい友禪模樣の布が並んだ。彼女と幾代とは、新らしい玩具をいぢつては微笑んでゐた。彼も時々その仲間にはいつた。幾代は二度ばかり三田へ行つた。その度毎にいゝ子だとほめてゐた。

それでも、影のやうな不安が、彼の心をふと掠めることがあつた。凡ては未解決のまゝ單に通り越されたのみだつた。兼子の病氣と手術と不姙との問題、依子の運命の問題、彼と兼子と依子と敏子との今後の心的交渉の問題、それらが表面上は解決された形になりながらも、彼の心のうちでは少しも解決されたのではなかつた。たゞ次から次へと移り變つていつたのみだつた。と云つて、それは解決される問題でもなかつた。凡ては未來に懸つてゐた。それを考へると彼は、現在の立場が悉く幻ではないかといふやうな、はかない不安な氣持ちになつた。それならばどうしたらいゝのか？　どうといつて仕樣はなかつた。たゞ未來を信じて進むのだ。思ひ切つて凡てにぶつかつてゆくのだ。

そしてぶつかる日は早く來た。

未明に少し雨が降つた薄曇りの日だつた。彼は二階の椽側に立つて、庭の隅の薄赤いものをぼんやり見てゐた。乙女椿の花だといふことに自ら氣付いたのは、暫くたつてからだつた。彼は眼鏡をかけるのを忘れてゐた。慌てゝ眼鏡を取つて來て、また椿の花を見直した。――その日の午後、依子は家へ連れられてきた。

兼子は、敏子自身で依子を連れてきてほしいと希望した。敏子は、そんな厚かましいことは出來ないと云つた。然し、依子は殆んど母親と一緒にしか外出したことがなかつた。それで兎に角、敏子は女中代りの内弟子に留守を賴んで、ついて來ることになつてゐた。幾代が迎へに行つた。三人は自働車でやつて來た。

彼は晝食を濟すとすぐに、散歩に出かけた。女達ばかりに任した方がいゝと思つた。敏子に一度逢ひたくもあつたが、今は逢はない方がいゝと思つた。夕方歸るつもりだつた。街路をぶら〳〵歩いてると、薄ら寒い賴りない氣持ちになつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。然し友人の家へ行きたくもなかつた。瀬戸の伯父を訪ねたくもなかつた。知人の顔は一切見たくなかつた。ふと思ひついて植物園へはいつた。櫻の下や池の縁の人群れを避けて、高山植物試培場附近の、木立の奥のベンチに坐つた。

濕氣を含んだ冷かな微風が、低地から匂ひ上つてきた。朽葉の匂ひにほのかな甘酸い匂ひが交つてゐた。細かなものがはら〳〵と落ちてくるやうな氣配に、ふと顔を上げてみると、鬱蒼たる木立の梢に鮮かな新緑が仄見えてゐた。都會のどよめきが遠く傳はつてくる……。彼は何物にとなくぼんやり耳を傾けて、自分自身を忘れたやうな心地になつた。寂寞の境地に人を避けて、子供のことを心の奥に想つてゐる、かういふ自分の姿が、昔……遠い昔にも、あつたやうな氣がした。それは自分ではない、父でも祖父でもない。それでもやはり自分なのである。そして、子供のことを考へるのは、遠い祖先のことを考へるのと同じだつた。一種神秘な血の繋りだ！……彼は涙ぐましい心地になつて、膝頭の上に頭をかゝへてゐた。

晴れやかな笑ひ聲に、彼は喫驚して飛び上つた。四五人の女學生が彼の後ろを通つて行つた。彼はぼんやりつゝ立つてゐたが、彼女等の後姿を見送ると、自分の來るべき場所ではなかつたやうな、外國人といつたやうな、淋しい心持ちになつた。やはり家に歸らう、さう彼は自ら云つた。

彼が家に歸つたのは四時過ぎだつた。玄關に並べられてる下駄で、敏子がまだ居ることを知つた。變にぎくりとした。立ち止つて一寸躊躇したが、また思ひ切つてつか〳〵と上つていつた。

皆は何處に居るのかと彼は女中に尋ねた。母の居間にとの答へだつた。彼は階段の下に佇んで、母の居間へ行かうか書齋へ上らうかと迷つた。そこへ敏子が出て來た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「まあ今まで、あなたは何處へ行つていらしたの！」と彼女は云つた。

彼は默つて彼女の顔を見返した。彼女の顔には晴々とした冷さがあつた。彼はそれを美しいと思つた。崇むべき美しさだと思つた。變な氣持ちになつた。

こちらよ、と彼女は素振りで云つた。

さう、と彼は眼で答へた。

彼はつとはいつていつた。幾代の視線を受けて、彼は額が汗ばむのを感じた。すぐ其處へ坐つた。見ると、向ふに居る一人の女からお辭儀をされてゐた。彼も默つてお辭儀をした。

「この女が……。」幾代は云ひ出して、急に口を噤んだ。彼女は彼に敏子を紹介でもするつもりらしかつた。その間の惡さを自らまぎらすためかのやうに、彼女は子供の方を向いて、慌てゝ云ひ續けた。「これがあなたのお父様ですよ。さあ抱つこしてお貰ひなさい。ほんとにね、長い間……。」

彼女はまた口を噤んだ。そしてぢつと子供を膝に引寄せてゐた。

彼はたゞ、額ににぢみ出てくる汗を我慢することに、全力をつくしてゐた。やがて眼がはつきりしてきた。幾代の膝に半ば身體をもたして、顔を伏せてる小さな子を、彼は見た。細かな柔かな髪の毛と細つぽい手の爪とが、はつきり眼の底に殘つた。彼は立ち上らうとした。その時、子供を見守つてる敏子の眼を感じて、また坐り直した。敏子の方へ顔を向けることが憚られた。執拗に子供を見守つてる彼女の眼が、眼には見ないでもそれを感ぜられるその眼が、一種の威壓を彼の上に及ぼしてきた。彼は睨むやうに瞳を上目がちに見据ゑて、子供の前に澤山散らかつてる玩具を、一つ〳〵眺めやつた。一本の糸に繋がれてる大きな兎と龜とがあつた。疊の上に平べつたくなつてる龜の首が、妙にそのふ

ら〳〵の長い首が、變に氣味惡く思はれた。立ち上つてそいつを蹴飛したいやうな氣になつた。ちい〳〵してきた。

「さあ、お父樣に抱つこしてごらんなさい。」と幾代は云つてゐた。「ほんとにはにかみやさんですね、先刻(さつき)まであんなに元氣だつたのに……。尤も、はにかむ位の子供の方が、頭がよいと云ひますが……。」

子供は幾代の影から、そつと顔を上げて、彼の方を覗いた。そしてつと立ち上つて、敏子の膝へ飛びついた。片手にしつかり麥桿細工の箱を持つてゐた。

「まあ、どうしたのです、慌てゝ……。」と敏子は云つた。

彼は眼を外らした。咄嗟の一瞥で、眼の大きな顔の短い子だといふことが、見て取られた。それが醜いものゝやうに思はれた。

兼子がはいつて來た。彼女は一坐をちらと見廻して、すぐ子供の側へ寄つていつた。

「こちらへいらつしやい。抱つこしてあげませう。ねえ、お父樣も歸つていらしたでせう。ねえ、いゝ兒ちやんですね。」

然し彼女が覗き込めば覗き込むほど、子供は益々深く母親の胸に顔を埋めた。

「どうしました、え？　先刻(さつき)はあんなに馴れつこになつてたのに……。困りますね。」と兼子は云ひながら、沒表情な微笑を浮べた。

彼はその方を見やつた。そして、子供の上に屈み込んでる敏子の横顔を見た。皮膚のたるんでるやうな頬、きつとしまつた厚い唇、太い首、眉の横の黒子(ほくろ)、……凡てよく見覺えのあるものばかりだつた。彼は落付いた氣持ちでそれらを眺めた。兼子が來てから敏子の方を平氣で眺められるやうになつた自分の心持ちの變化を、不思議なほど内心にぴたり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と感じた。またさう感じることで、心が落付いた。ぼんやり視線を注いでゐると、ふと敏子の耳が眼に止つた。後ろにかきあげた揉上の毛に半ば隱れ、幾筋もの曲線をうねらし、耳埵がしやくれつ氣味に縮れ上つてゐた。彼は珍らしい物を見るやうな氣がした。それは記憶の中の彼女とは、全く沒交渉なものだつた。餘りにしげ〳〵と見てはいけない醜い發見物のやうにさへ思はれた。

彼が眼を外らすと、彼の方をちつと見てる敏子の眼に出會つた。敏子は視線を外らさなかつた。澄みきつた黑い冷かな瞳が、彼の眼を吸ひ取らうとしてゐた。彼はその瞳に眼を定めたまゝ、彼女の顏全體を見て取つた。細やかな薄い皮膚、たるみのない痩せ形な頬、すつと高い鼻、薄い唇から覗いてる眞白な齒——彼は彼女の美貌に喫驚した。彼は今迄さういふ風に彼女を眺めたことがなかつた。……彼は眼を外らして、敏子の横顏をまた眺めた。肌目の荒い肉が白粉に包まれてゐた。

ふゝんと鼻で笑ひたいやうな氣が、彼のうちに起つた。それに自ら氣付くと、變に息苦しい所へ心が落込んでいつた。彼は我知らず立ち上りかけた。そして咄嗟に誰へともなく云つた。

「庭の方へ出ませんか。」

彼は立ち上つて障子を開け、緣側から庭へ下りていつた。庭の眞中に立つて、深く息を吸ひ込んだ。いゝ氣持ちだつた。何もかも、依子も、なるやうになるがいゝや、さういふ氣がした。

「いやよ、いやよ、お母ちやん、いやよ！」と泣き叫ぶ聲がした。ふり返つてみると、依子が敏子の胸に縋りついてゐた。幾代が何か云つてゐた。敏子はちつと首を垂れてゐた。幾子がその肩に手をかけてゐた。

彼は素知らぬ風をして立つてゐた。暫くすると、皆は庭へ下りてきた。敏子は眞直に彼の所へ來て云つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「依子がどうしても赦しませんものですから……。」

それが彼女が直接自分にかける最初の言葉なのか！……と彼は思つた。彼は彼女の顔を見つめた。彼女は頬の筋肉一つ動かさなかつた。その厚ぼつたい肉の下に、感情は悉く隠れて見えなかつた。

「どうかゆつくりなさい。」と彼は云つた。

彼女はちらと彼の眼を見上げて、それから依子の後を追つていつた。機嫌を直した依子は、先刻からの麦稈細工の箱を抱へて、幾代と二人で庭の奥へはいり込んでゐた。

彼はぼんやり三人の後を見送つた。

「あなた！」

ふり向くと、敏子がすぐ眼の前に立つてゐた。

「なぜあの子を抱かうともなさらないの。まるで他人の子のやうですわ。」

彼は何とも答へられなかつた。二人は暫く黙つてゐた。

「僕は變な氣がする。」と彼は云つた。

「何が？」

「あの子が本當に自分の子だかどうだか分らないやうな氣がする。」

敏子はちらつと彼の顔を見た。それから云つた。

「あなたによく似てゐますわ。それに、あんなによくお母様に馴れてるんですもの。」

それは何も理由にはならない、と彼は思つた。それでも彼は依子の方へ歩いていつた。依子は敏子と幾代に代る交る

縋りつきながら、汚くない松葉を拾つては箱の中に入れてゐた。房々と垂れた髪の下に、曇りない廣い額が半ば隠されてゐた。大きな眼玉が潑溂と動いてゐた。先だけがぽつりと高い團子鼻が、豊かな頬の間に挾まれてゐた。口がわりに大きく、顎が短かゝつた。――これが俺に似てるのか、と彼は考へた。抱いてみやうといふ氣も起らなかつた。皆を其處に殘して、ふいと家の中へはいつて行つた。

然し書齋に坐つてみると、どうしてもぢつと落付けなかつた。彼はまた階下の縁側に出て來た。それからまた二階に上つた。また縁側に出て來た。しまひには其處へ腰掛けて、足をぶら〳〵さしながら、しひて空嘯いてみた。

夕食間際に瀬戸の伯父がやつて來た。

「一寸廻る所があつて大變後れてしまつた。……やあ來てるな。機嫌はどうだい？」

瀬戸はそんなことを一人で云ひながら、依子を抱いてきて、彼の腕に渡した。彼は默つて受取つた。依子は振り向いて敏子の方を見たが、それから彼の顔をぢつと眺めた。いつのまにかべそをかいてゐた。妙に口を大きく引きつらして、今にも泣き出しさうになつた。

「いけない、いけない。」と瀬戸は云つた。「抱き樣が惡いんだ。……まあゆつくり馴れるさ。」

依子は瀬戸の手で抱き取られた。彼の腕にはたゞ、柔かくてずつしりとした重みの感じだけが殘つた。

卑怯者！と彼は自ら自分に浴せかけた。夕食の膳に向ふと、瀬戸の相手になつて無理に杯の數を重ねた。

「あなた、そんなに召上つてもお宜しいですか。」と敏子が云つた。

「いゝさ、」と瀬戸が引取つて答へた、「芽出度い日なんだからね。」

然し芽出度いといふ感じは、一坐の何處にも現はれてゐなかつた。それはたゞ妙にしんみりとした――それでゐてご

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た〱した——晩餐だつた。依子は固より幾代まで、自分が食べるのをうち忘れて、依子の面倒をみてやつてゐた。依子は促される度に小さく口を開きながら、自分では食べやうともせずに、食卓の上に並んでるいろんな皿を、珍らしさうに眺めてゐた。多くの皿は手がつけられないで殘つてゐた、依子も幾代も兼子も、ごく少しゝか食べなかつた。たゞ瀨戸と彼とだけがやたらに食べた。彼は片手に杯を持ちながら、危うげに箸を摑んでる依子の小さな手附を、しきりに眺めてゐた。眼の底が熱くなつてきた。皆が箸を置かないうちに、彼は一人ふいと立ち上つた。

足がふら〱して頭がかつと熱つてゐた。煙草に火をつけながら、庭の中を歩き廻つた。空は一面に曇つてるらしく、星の光りも見えなかつた。濕つぽい冷かな空氣が何處からともなく流れてきて、今にも雨になるかと思はれた。彼は俄に眞黑な木立に怯えて、それでもなるべく薄暗い隅を選んで、緣側に腰掛けた。ぢつとしてゐると、わけもなく淚が出て來た。それを自ら押し隱すやうにして、背中の柱に輕く頭をこつ〱やつた。頭の動きが一人でに强くなつていつた。しまひには、輕い眩暈を覺えた。然し柱の角にぶつつける痛みは、頭の皮膚に少しも感じなかつた。

食後皆は向ふの室で何をしてるのだらう？　そんなことが夢のやうに氣にかゝつた。そして自分一人が仲間外れの不用な人間のやうに思はれてきた。さうだ、皆はこの自分が同席しない時の方が氣樂なのだ。勝手にするがいゝ！……それでも彼は何かしら待つてゐた。誰かゞ、皆が、自分を探しに來てくれるのを……。

瀨戸が彼を探しに來た。そして彼の肩に手を置いて云つた。

「實は、私は依子を連れ戻すために來たんだが……その手筈だつたんだが、あの模樣ではね。……まあ今晩一晩だけ泊めてやつたがいゝだらう。幾代も兼子もさう云つてるんだから、お前もそのつもりでね。」

「いゝやうにして下さい。」と彼は冷かに云つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

瀬戸が歸つてゆくことは分つてゐたけれど、彼は玄關まで見送りもしなかつた。機械的に立ら上つた足で、庭の中をまた歩いてゐると、向ふの室に敏子の姿を見かけた。彼は一寸眼を見据ゑた。それからつか〳〵とはいつて行つた。

敏子は膝の上に子供を抱いて、室の隅にしよんぼり坐つてゐた。彼の方をちらと見上げて、また眼を伏せてしまつた。彼ははいつて來た縁側の障子を閉めた。閉め切ると、自らはつとした。電氣の光りに輝らされてる四角な室、隅つこに顔を伏せてゐる彼女、入口を塞いでつゝ立つてる自分、その光景が宛も、檻の中の猛獸とその餌食とのやうに頭に映じた。……彼はまた障子を開いた。そして、その敷居際に腰を下した。

「寒くはないですか。」と彼は云つた。

「いいえ。」と敏子は答へた。

彼は向ふの言葉を待つた。然し敏子は俯向いたまゝ何とも云ひ出さなかつた。彼は心の中で言葉を探した。適當な言葉が見つからなかつた。然し躊躇してるのはなほ苦しかつた。口から出まかせに云つた。

「いろ〳〵苦勞をかけて濟みません。」

「いゝえ。」と彼女は云つた。落付いた調子だつた。「私はこの子のために、ほんとに仕合せなことゝ思つてをります。」

そんなことを云つてるのではない、と彼は心の中で叫んだ。然しどう云ひ現はしていゝか分らなかつた。

「考へてみると、僕は何だか恐ろしい氣がするけれど……。」

「私は安心してをります。お祖母樣もお……母樣も、ほんとに御親切ですから。」

「僕もどんなに苦しんだか知れない。然し僕の意志ではどうにもならなかつたので……。」

「いゝえ、かうして頂けば、私は本望でございますもの。」

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「隨分苦しんだでせう。」

「いえ、まだ何にも分りませんから。」

さう云つて彼女は子供の頭に頬を押しあてた。

彼は口を噤んだ。彼が彼女のことを云つてゐるのに、彼女は故意にかまたは知らずにか、子供のことをばかり云つてゐた。彼は苛ら／＼してきた。少し露骨すぎる嫌な言葉だと意識しながら、ぶしつけに云つてやつた。

「僕達二人のことは、もう何とも思つてはゐないんですか。」

敏子は默つて彼の顔を見た。彼はその眼の中を覗き込んだ。然し何の意味をも讀み取れなかつた。彼は眼を外らして、庭の方を眺めながら、大きく溜息をついた。

「僕は依子を心から愛してやらう。」と彼は獨語のやうに云つた――そしてそれは實際獨語だつた。

すると俄に、此度は彼女の方から追つかけてくるのを、彼は感じた。冷かな淸徹さに滿ちながら光つてる彼女の眼の光りは、急に、中に濁りを含んだ淸らかさになつた。彼はさういふ眼の光りをよく知つてゐた。あの當時、彼女の淸く澄んだ眼の中に現はれてくる、その熱つぽい濁りを。彼は幾度も見て慴えたのであつた。……彼は不安な氣持ちになつた。無理にしめくゝられたやうな皺のある厚い唇、太く逞しい頸筋から上膊、厚ぼつたい胴、皮膚がたるんでるやうな肌目の荒い肉體、それらが誘惑しかけてくるのを感じた。彼は我知らず身體を少し乘り出さうとした。するとその瞬間に、彼女の眼はまた冷かに澄んだ曇りに返つた。その曇りの底には、もはや何物も見て取れなかつた。曇りながら冷たく澄みきつてるのみだつた。

彼は我に返つて、心のやり場に困つた。一瞬間前の自分が恥しくなつた。そして、幾代と敏子とがいつまでも出て

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

來ないのが、彼に氣になり出した。罠を張られたのではないかといふ氣がした。

彼は默つて立ち上つた。障子をしめた。何とか云ひたかつたが、言葉が見つからなかつた。敏子は子供を抱きながら輕く身を搖つてゐた。

「みんな何處へ行つたのかしら?」と彼は平氣を裝つて云つた。

坐敷を出て、茶の間を通り、玄關の方を覗いてみると、其處に幾代と兼子とが立つてゐた。

「どうしたんです?」と彼は怒鳴るやうに云つた。

「一寸困つたことが出來ましてね。」と幾代は云つた。彼女の云ふ所に依ると、昨日永井が瀬戸の家へ來て、約束の千五百圓を求めた。瀬戸は一先づ五百圓だけを與へて逐ひ歸した。然しこの金は直接敏子へ渡すべきだといふので、今日殘額の現金を持つてきて、幾代の手に托していつたさうである。「それでも、」と彼女は云ひ續けた、「私から今すぐお敏へ渡すのも、あまり當てつけがましくつてね、兼子さんとも相談してゐた所ですが、あなたはどう思ひます?」

「そんなことが出來るもんですか!」と彼は云つた。

「さうでせうね。兼子さんは、後で、お敏は明日の朝歸しますから、その後で屆けたらと云つてゐますが、さうしませうか。」

「それでいゝでせう。」

彼は投げ出すやうに云ひ捨てた。早くそんな話は切り上げたかつた。嫌な氣がした。二人が坐敷の方へ行くのを見送つて、彼は暫く佇んでゐた。それから二階へ上つた。

話の底にはまだ自分の知らない、嫌な事物や手管が潜んでるやうに、彼には考へられた。そして、自分自身がなさ

けなくなつた。あの時もさうだつたが、此度のことでも、彼の意志は殆んど何等の働きをもしなかつた。彼がたゞ一人で考へ込んでゐるうちに、外部からすら〳〵と事は運んでいつた。彼はたゞその後について行くの外はなかつた。なぜか、なぜか？と彼は反問してみた。然し答へは得られなかつた。……彼は長い間机につゝ伏してゐた。さうだ、俺はたゞ依子を愛してやらう！さう最後に考へた。依子の小さな姿が眼の前に浮んだ。今どうしてゐるだらうかとしきりに氣に懸つた。階下へ下りて行きたいのを我慢した。縁側の雨戸を閉める音が聞えた。終には堪へられなくなつて、階段を下りていつた。

依子は敏子の膝の上で、もう眠りかけてゐた。合さりがちな眼瞼をうつとりと開いて、はいつて來た彼の顔を見上げた。淡い安らかな視線だつた。然し彼はその頭を撫でゝやらうといふ氣も起らなかつた。離れてゐるとあんなに氣に懸つたのが、眼の前にその姿を見ると、もう手を出す氣も起らなかつた。觸るのが憚られるやうだつた。彼は自ら變な氣持ちになつた。その氣持ちを堀り進んでゆくと、敏子へ餘り拘泥しすぎてることに氣付いた。……彼は敏子の顔を眺めた。敏子は落付き拂つて、それでも遠慮がちに、幾代や榮子と短い言葉を交はしてゐた。

「では、もう寢んだら宜しいでせう。依子が眠さうだから。」と幾代はやがて云つた。

「はい。」と敏子は答へた。そして子供の上に屈み込んで云つた。「寢んねしませうね。」

奥の六疊に床が敷いてあつた。

皆が立つて行つた後に、彼は一人腕を組んで坐つてゐた。やがて縁側の雨戸を一枚開いて、庭へ下りていつた。冷たい夜の空氣が額を撫でた。空を仰ぐと細かな糠雨が、殆んど分らない位に少し落ちてゐた。植込みの影が風物のやうに蹲つてゐた。何處からか射してくる淡い光りに、楓の若葉がほんのりと見えてゐた。彼は吸ひさしの煙草をやけに地面へ

叩きつけた。譯の分らない不滿が心の中に澱んでゐた。長い間歩き廻つた後、彼はいつのまにか奧の六疊へ忍び寄つてゐた。雨戸の外から耳を傾けてみた。何の聲も物音も聞えなかつた。彼は更に耳を澄した。しいんと靜まり返つてゐた。それでも彼はなほ暫く佇んでゐた――待つてみた。戶が開いて……敏子が……、そこまではつきりした形を取ると、彼は自分の不貞な空想に駭然とした。さうぢやない、俺は云ひ殘したことがあるのだ！と彼は自ら云つてみた。然し不安は去らなかつた。彼は急いで足を返した。けれどもなほ庭を歩いてゐると、其處まで落ち込んでいつた彼の頭には、過去の記憶がまざ〳〵と浮んできた。檜葉の茂み、楓の幹、岩の影、空池（からいけ）の中の小石、それらは皆闇に包まれてはゐたが、それらにまつはつてるあの當時の思ひ出が、しつこく頭に浮んできた。然し俺は本當に戀したのではなかつた、粂子の方を本當に戀してゐるのだ、と彼は心の中で呟いた。その呟きの下からまた、先刻敏子に對して懷いた一瞬間の興奮を思ひ起した。彼は理屈に縋らうとした。夜の燈火の下では、肉體の眞の美よりも、肉體の一種の醜の方が、一種のあくどさの方が、より強く男の心を惹きつけることがある。なぜならそれは、美意識を通じて働くのではなくて、直接情慾に働きかけるから。然しそんなのは、取るに足らないことだ、心に關係のないことだ。……そこまで考へた時彼は、なほ一層不貞な自分の姿を見出した。その考へは、粂子をも敏子をも共に辱めるもののやうに思へた。彼は何處まで自分の心が動いてゆくか恐ろしくなつた。急いで家の中にはいつた。

茶の間へ行くと、粂子がぼんやり坐つてゐた。何かしら口を利かなければ、自分で自分が苦しかつた。

「雨が降つてきたやうだね。」と彼は云つた。

「さう。」と彼女は氣の無い返辭をした。

「この雨ではもう花も駄目になるだらう。」

彼女は默つてゐた。

「明日青葉の花を取換へてくれない？もう凋んでしまつたから。」

「水上げが悪かつたのですかしら。」

「さうかも知れない。……ほんとに嫌だな。雨か曇りかが多くて。」

「なぜ？お出かけなさるの、明日は。」

「いや出かけはしないが……。お前達こそ、これから依子を方々へ引張り廻すつもりぢやないのか。」

「そのつもりですわ。」

「もう依子は寝たのかい？」

「えゝ、先刻。」

「一晩餘計母親と寝られるので……。」

彼は云ひかけてふと言葉を途切らした。衆子は頭を擧げた。眼が潤んでゐた。睫毛の黒い影がはつきり見えるやうだつた。彼は默つて彼女の手を執つた。冷たい手だつた。彼はそれを握りしめた。そして他のことを云つた。

「お母さんは？」

「お居間でせう。」

彼は立ち上つて母の所へ行つてみた。幾代は佛壇の前に坐つて、手を合してゐた。佛壇には蠟燭に火がともされ、抹香の煙が立ち昇つてゐた。それを見ると彼は、眼に涙が出てくるやうな心地がした。然し心にもない言葉が口へ出た。

「何をしてるんです、縁起でもない！」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

幾代はふり向いて眼を見張つた。然し彼女は何とも云はなかつた。

彼は足を返した。何を慌てゝゐるんだ？と自ら浴せかけた。自分自身が堪らなく慘めな氣がした。熱い茶を飲んで、すぐに寢た。布團を頭からすつぽり被つた。それは昔からやりつけてる自己催眠の方法だつた。然しなか〱眠れなかつた。幾度も頭を布團から出したり入れたりした。

翌朝彼は遲く起き上つた。昨夜兼子が、突然熱烈な態度に變つて、しまひに泣き出したことを、夢のやうに思ひ起した。不眠の後のやうな、神經の疲れと弛緩とを覺えた。そしていつまでも床の中に愚圖々々してゐた。漸く起き上つて出て行くと、向ふの室で兼子や依子の笑ひ聲がしてゐた。彼は變な氣がした。何だか家の中の樣子が違つたやうに思はれた。顏を洗ふ時、やたらに頭へ水を浴せた。

敏子は朝早く歸つていつたさうだつた。

「さうですか。」

彼は簡單に幾代へ答へた。そして何にも尋ねなかつた。幾代もそれ以上何とも云はなかつた。

依子は別に母親を探し求める風もなかつた。幾代や兼子や女中達と面白さうに遊んでゐた。玩具に倦きると庭へ出た。庭に倦きると表へ出た。そしてまた玩具の所へ戻つてきた。も少し馴染むまでは遠くへ連れていつてはいけない、と幾代は云つた。その幾代を、依子は「お祖母ちやま」と呼んでゐた。兼子を「お母ちやま」と呼んでゐた。

さういふ依子を、彼は不思議さうにわきから眺めた。これが自分の子かと思ふと變な氣がした。

「あなたによく似てゐますわ。」と兼子はくり返し云つた。

遠くから見ると、大きい眼と口とだけが著しく目立つた。近くから見ると、髮の毛に半ば隱れてる廣い額と短い頤と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が、何となく不平衡な感じを與へた。短い頭の下に、更に短い首があつて、すぐにいかつい肩へ續いてゐた――こゝの所は敏子そつくりだ、と彼は考へた。然し口へは出さなかつた。

「さあ、お父ちやまに抱つこしてごらんなさい。」と敏子は云つて、彼の腕へ子供を渡さうとした。

彼はそれを一寸抱き取つて、すぐ下に下した。しなやかな小さな兩腕、圓つこい彈力性の胴體、それがずつしりとした重みを持つて、足だけが妙に輕やかだつた。その輕い足で子供は向ふに駈けて行かうとした。不安だといふ氣が彼に起つた。彼は俄に子供を捉へて、また胸に抱き上げた。子供は輕い足だけをばた〱やつた。いつのまにかべそをかいてゐた。

この小さな存在は、一體俺を何と思つてるのかしら、と彼は心の中で考へてみた。然し一の考へは、子供の姿と少しもそぐはなかつた。彼は考へ直した、一體何を考へてるのかしら?――子供は玩具を持つて餘念なく遊んでゐた。疊の上にちよこなんと坐つてゐた。白いエプロンが胸から眞直に垂れて、膝は殆んどなかつた。膝の上に物をのせてやつても、一寸身體を動かせばすぐに轉げ落ちた。それでも、立ち上ると帶から下がすらりとしてゐた。櫻の花を渦卷きに散らしたメリンスの着物の下から、眞赤な綿天の足袋がちよこ〱動いて見えた。

家中の者が總がゝりで、依子を退屈させまいとした。彼女の珍らしがる物はいくらもあつた。床の間の香爐、敏子の手提袋、幾代の室の人形棚、庭の隅の櫻や椿の花瓣、空池の底の小石。玩具に倦きるとそんなものまで持ち出された。けれども晩になると、彼女は不思議さうに室の中を眺め廻した。皆からあやされてもいやに默つてゐた。

「お母ちやん!」と彼女は云つた。

「え、なに? お母さまは此處に居ますよ。」と敏子は云つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「お母ちやま。」と依子は云つた。それから頭を振つた。

依子はどうしても寢間着へ着換へたがらなかつた。幾代や兼子がいくらすかしても駄目だつた。しまひには泣き出した。幾代はそれを抱いて、室の中をよい／＼して歩いた。次には兼子が代つた。依子は何時までもぢつと眼を見開いてゐた。兼子はそれを背中に負つた。電氣に蔽ひをして室を暗くした。餘り長く默つてるので覗いてみると、依子はもう眠つてゐた。安らかにつぶつた眼瞼の縁に、ぽつりと涙が一滴たまつてゐた。

幾代が抱いて寢ることになつた。布團の上に寢かしても、依子はもう眼を覺さなかつた。寢間着に着換へさしても、口をもぐ／＼やるきりで、ぐつすり寢込でゐた。

「寢坊な子ですわね。」と兼子は云つた。

「晝間の疲れでせう。」と幾代は云つた。

彼は幾度も幾代の寢床へ、依子の寢顔を覗きに行つた。依子は變にちゞこまつて眠つてゐた。

「これなら大丈夫だ。」と彼は云つた。

「おとなしい子ですわね。」と兼子は云つた。「そして大變悧口さうですよ。今朝いきなり、お祖母ちやまだのお母ちやまだのと云ふものですから、喫驚しましたわ。勿論あの方が、よく敎へ込んで置かれたのでせうけれど……。」

四五日もすれば家の子になりきるだらう、と彼は思つた。そしてすつかり馴れてしまへば、萬事がよくなるだらう。

然しその翌日、幾代が三田へ行つてる留守中に、依子は俄に泣き出した。誰が何と云つても泣き止まなかつた。初めは些細なことだつた。女中がカステイラを二切皿に入れて持つて來た。依子はその半分だけ食べて止した。「もう澤山です

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

か。」と兼子は尋ねた。依子は何とも答へなかつた。「よかつたらお食べなさい、」と兼子はまた云つた。依子は默つてゐた。それで兼子は、殘りの菓子をあちらへ持つてゆかした。そしてまた玩具で遊ばせやうとした。然し依子は身動もしなかつた。「あらどうしたの、お腹でも痛いの、」と云つて顔を覗き込まれると、彼女はくるりと向ふを向いた。譯が分らなかつた。兼子は試みにまたカステイラを持つて來さして、手に握らしてやつた。依子はそれを放り出した。「あら、何かすねてるのね、」と兼子は云つた。そして菓子を無理にその手へ握らせやうとした。依子は執拗に頑張つた。「すねるものではありませんよ、」と云はれると、急にわつと泣き出した。何とすかしても泣き止まなかつた。女中が背中に負つて、表へ出てみた。いつまでもしく／＼泣いてゐたさうである。

「どうしたのでせう？」と兼子は云つた。

「屹度、」と彼は答へた、「一つだけ食べて、一つは後まで樂しみに取つておくつもりだつたんだらう。」

「そんなら、すぐにまたやつたからいゝぢやありませんか。」

「さうだね。」

それ以上のことは彼にも分らなかつた。恐らく子供に對する態度の違ひ、家の中の狀態の違ひ、だらうとだけ想像された。彼は前に何度も母から聞いた話で、三田の家の內部を、敏子と依子との生活の有樣を、推察しやうとした。然し確かな大事な點は少しも分らなかつた。

三田から歸つて來た幾代へ、彼は種々尋ねてみた。然し彼女はそんなことを何にも語らなかつた。彼女は少からず憤慨の調子で、金のことを第一に述べた。

「私がお金の包みを出しますとね、お敏は手にも取らないで、これは永井へ渡してくれと申すではありませんか、こち

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

らからわざ〳〵屆けてやつた心が、少しも通じないのです。瀬戸さんの考へや私達の思ひやりを、くわしく云つてやりましても、お敏は默つて俯向いたきりですもの。私はよつぽど持つて歸らうかと思ひました。」幾代は暫く言葉を切つて、彼と敏子との顏を見比べた。「けれども、さうしないでよこさんした。やはり瀬戸さんの仰言る通りでしたよ、とう〳〵無理に受取らせることにして、この中に千圓あるから一應あらためて下さいと云ひますと、え千圓！と喫驚したやうな顏をしました。で私は、五百圓は瀬戸さんから永井へ渡してあるので、これで丁度お約束の金高だと云つてきかせますと、千五百圓！とまた喫驚してゐるではありませんか。よく聞きますとね、あれは全く永井のたくらみだつたのですよ。お敏はただ、これから小さな煙草店でも出すつもりで、四五百圓の補助を受ければよいと思つてゐたさうです。每月三十圓のうちから貯金もだいぶしてゐるらしいのです。そんなに澤山頂いては濟みませんと、なか〳〵受取らうとしませんでした。瀬戸さんからの五百圓だつて、まだ永井から貰つてゐないのですよ。」

その話を聞きながら彼は、別に憤慨をも感じなかつた。それ位のことはありさうだと、前から知つてゐたやうな落付を覺えた。幾代が今更怒つてるのが、可笑しいほどだつた。それよりも彼は、敏子自身のことを、出來るならば依子が居た當時から其後のことを、悉しく聞きたかつた。然し幾代は金のことにこだはつてゐて、最初の時のやうな話し方をしなかつた。彼女は時々、少しばかりづゝ話してきかした。その上、そんな事柄は彼女の頭に深く殘つてもしないらしかつた。――依子がお父ちやまだのお母ちやまだのと云つてるといふ話を敏子は大變喜んだといふこと、そして敏子は餘り依子の其後の樣子を聞きたがらなかつたといふこと、その二つだけが彼の心に印象を與へた。

幾代は帶の間から、小さな金襴の袋を取出した。中には鬼子母神の守札がたゞ一枚はいつてゐた。敏子が云ひにくさうにもじ〳〵しながら、これを依子の肌につけてくれと頼んださうである。――然しなぜか、その守札は佛壇の上に乘

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

せられたまゝになつた。

俺は……俺が……これから依子の運命を護つてやらう、と彼は心の中でくり返した。

然し依子の日常は、殆んど幾代と兼子との手中に在つた。彼は傍からたゞぢつと、依子の姿を見守るの外はなかつた。彼は殊に依子の膝のない坐り姿を好んだ。膝がすつかりエプロンの下に隠れてしまつて、遠くで見ると胴體だけで坐つてるかのやうだつた。彼は近づいていつて、坐つたまゝの彼女を抱き上げた。彼女は足と手とを伸さうと踠いた。小鳥のやうなこまく＼した運動が彼の腕に感ぜられた。

「あら、まあ――！」と兼子は或る時叫んだ。彼女は坐つてる依子のエプロンをめくつてゐた。依子は小さな足できちんと胡坐をかいてゐた。「この子は胡坐をかいて坐つてゐますよ。」

依子は兼子の顔を見、それから彼の顔を見てゐたが、つと立ち上つて室の隅つこに逃げてゆき、くるりと向ふを向いたまゝ、いつまでもぢつと佇んでゐた。兼子はそれを抱いてきた。

「極り悪がつてるのね。胡坐をかいてもよござんすよ。可愛いあんよね。」と兼子は云つた。「さあお坐りしてごらんなさい。」

依子は兩膝をきちんと揃へて坐つた。いつまでも默つてゐた。しまひには身體を揺り初めた。

「どうしたの、おしつこなの？」と兼子は尋ねた。

兼子はその手を取つて立たせやうとした。依子は漸く立ち上つた。立ち上るとすぐにばたりと倒れた。そして疊の上を轉げながら、足をばたく＼やつて、大聲に泣き出した。誰が何と聞いても、譯も云はずに泣き續けた。しきりに足をばたく＼やつだ。抱き上げると更に激しく身を踠いた。放つて置くより外に仕方がなかつた。暫くすると、突然泣き止ん

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だ。餘りにそれが突然だつたので、皆は呆氣にとられてしまつた。依子はだしぬけに立ち上つて、向ふへ逃げていつた。

譯が分らなかつた。

「足にしびれがきれたのではないでせうか。」と幾代は云つた。

兼子は眉を顰めた。

足にしびれがきれただけならそんなに執拗な筈はない、と彼も考へた。何かあるに違ひないと想像された。然し彼は初めからその光景を見てゐながら、どうしても理解が出來なかつた。彼は依子の後を追つていつた。依子は玄關に立つて、ぼんやり外を眺めてゐた。彼は何だか恐ろしい氣がした。女中を呼んで負はせてやつた。

「お前何か嫌なことをしたのではないか。」と彼は兼子に云つた。

「いゝえ、何にも。」と兼子は答へた。

彼女が何もしたのではないことは、彼も初めから知つてゐた。然し……。彼は兼子の樣子を見守り初めた。兼子は依子の樣子を見守つてゐた。

依子に向けられてる彼女の眼は、女性特有の細かな鋭さを具へてゐた。彼女は依子のあらゆる具體的な特長を一目に見て取つた。前髮を掌で後ろになで上げて、いゝ生え際だと云つた。大きな凸額だと云つた。そして次には、「大きなお目だこと、」と云ひながら、その眼瞼に接吻した。「頤がないのね、なくつてもいゝわねえ、」と云つてはその短い頤を二本の指先でつまんで引張つた。「大きな短い首！」と云つて、後ろから頸を指先でつゝついた。依子が首を縮めると、むりにその頸筋へ接吻した。――依子は菓子を一つづつ大人の手から貰ふのが嫌ひだつた。菓子盆ごと貰つて、一つ食

べては彼を自分の手でしまつて置きたがつた。「この子は慾張りでしまりやだわ、」と粂子は云つた。

「お前は批評するからいけないんだ。」と彼は粂子へ云つた。「かう〳〵だといふだけならいゝ。然し批評は子供に惡い。」

「だつて私、」と粂子は答へた、「批評なんかする氣で物を云つたことはありませんわ。」

「それぢや無意識の批評といふのかも知れない。」

粂子はぢつと彼の眼を覗き込んだ。

「そんなにあなた不服なら、御自分で世話をなさるといゝわ。私は一切手を出しませんから。」

噓をつけ！と彼は心の中で云つた。一切手を出さないと云ふは、一切を自分一人でやらうといふ反語だ。……然し彼は爭つてもつまらないと思つた。自分にもさういふ心があると思つた。そして穏かに云つた。

「一切手を出さないといふのは、子供を愛する所以ぢやないよ。」

「そんなら、あなたは私があの子を愛さないとでも思つていらつしやるの。」

「愛してはゐるだらうが……。」

「私一度だつて叱つたことがありまして？」

勿論彼女は一度も依子を叱つたことがなかつた。どんなことがあつてもたゞ庇つてばかりゐた。

「然し、」と彼は云つた、「叱られる方が子供には嬉しいことだつてあるだらう。」

「そんなことがあるものですか。私が我慢して叱らないからこそ、あんなになついてるではありませんか。昨晩だつてごらんなさいな。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

昨晩――依子は早く寢た。一人で幾代の室に寢かされてゐた。すると、三十分ばかりして急に泣き聲が聞えた。幾代が茶の間から立つていつた。彼女は半身を布團の中に入れて、依子を寢かしつけやうとした。然し依子は泣きじやくりを止めなかつた。「お母ちやん、お母ちやん!」とくり返した。幾代に呼ばれて兼子はやつていつた。彼もついていつた。依子は「お母ちやん」を云ひ續けて泣いてゐた。

「お母樣が來ましたよ。」と兼子は云つた。「もう泣くんぢやありません。さあ、いゝ兒ちやんですからね。どうしました。え、どうしたの?」

依子はぢつと兼子の顏を見た。そしてたゞ一言「お母ちやま」と云つて眼をつぶつた。兼子はそれを膝に抱いてやつた。上から搔卷をかけて、寢かしつけやうとした。然し依子は長く眠らなかつた。彼が代つて抱くと、まじ〳〵と眼を見開いて室の中を眺め廻した。兼子が抱くとすぐに眼を閉ぢた。然し眠つたのではなかつた。兼子は半分布團の中にはいつて、長い間かゝつて遂に寢かしつけてしまつた。

「寢そびれるといつもかうなんです。」と幾代は云つた。「夜中に眼を覺して、お母ちやん、お母ちやんと云つて困ることがよくありますよ。よつぽどあなたを起しに行かうかと思つてゐますと、いつのまにか眠つてしまうんですよ。」

兼子と一緖に寢かした方がいゝかも知れないと彼は思つた。然し幾代はやはり自分が抱いて寢ると主張した。彼女は晝間依子と遊ぶのよりも、夜一緖に寢るのを樂しみにしてゐた。そして實際、依子の機嫌を取りつゝ遊ばせるのは、彼女にとつては餘りに氣骨の折れることだつた。彼女はせめて夜だけは孫を占有しやうとしてゐた。

「餘り困つたら起しに行きますから。」と彼女は云つた。「それにしても、ほんとによくあなたになづいたものですね。」

それが思ひ違ひだつたのだ。彼は事の眞實を發見した時、一種の驚きと恐れとを感じた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

風のない靜かな薄暮の頃だつた。依子の姿がふと見えなくなつた。方々の室を探し二階まで覗いてみたけれど、依子は居なかつた。先刻までおとなしく遊んでゐたといふので、なほ不安に思はれた。皆は家の内外を探し廻つた。すると一人の女中が彼女を見つけ出した。彼女は庭の隅にぼんやり立つてゐたさうである。女中が馳けてゆくと、「お母ちやん！」と叫んで、なかなか家へはいらうとしなかつた。そして遂に連れて來られると、たゞまじまじと兼子の顔を眺めてゐた。

さういふことがよくあつた。どうかすると縁側に立つて、「お母ちやん」と口走ることさへあつた。兼子が行くとその顔をぢつと見てから、「お母ちやま、お母ちやまね。」と云つた。

「お母ちやん」と「お母ちやま」とは、依子にとつてははつきり異つた存在であることを、彼は早くも氣付いた。一方は敏子のことであり、一方は兼子のことであつた。

彼は依子の心を思ひやつて、どうしていゝか分らなかつた。然し依子がさういふ所まで落ち込んでゐる以上は、どうにかしてやらなければいけないと思つた。またこのことを、兼子へ知らしたものかどうかをも迷つた。けれどもこの方は、彼から知らせるまでもなかつた。彼女の方でも早くも氣付いてゐた。彼は兼子がかう云つてるのを聞いた。

「これからはお母ちやんとお呼びなさい、ね。その方がいゝでせう。ちやまといふのは云ひ悪いから、ちやんとするのよ。ね、いゝでせう。」

依子は首肯いてみせた。けれどもかう答へた。

「いやよ、お母ちやまよ。」

「え、なぜ？」と兼子は依子の顔を覗き込んだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「そんなごまかしでは駄目だ」と彼は口を挿んだ。

兼子は明かに狼狽の色を見せた。

「僕にもよく分つてゐるよ」と彼は云つた。

兼子の幻滅は痛ましかつた。彼女は今まで自分が慕はれてると思ひ込んでゐただけに、この打撃に會ふと、依子の心凡てを疑ひ出した。依子の素振りをぢつと眺めながら、一人で苛立つてゐた。むやみに愛撫するかと思ふと、邪慳に突き放した。そしてむりにもお母ちやんと呼ばせやうとした。

依子は變に几帳面な所があつた。組みの玩具が一つ足りないと云つても、大騒ぎをした。何かのはずみに人形の片足が取れると、大聲に喚き立てた。

「人形が壊れた、人形が壊れた。直して、お母ちやま。直してよ、お母ちやま！」

それを聞くと兼子はきつとなつた。

「勝手にお直しなさい！」と云ひ放つた。

依子はわつと泣き出した。そして「お父ちやま、お父ちやま！」と叫び立てた。襖の影に隠れて、向ふの室を走り廻つてゐた。

「何とかしておやりよ。」と彼は兼子へ云つた。

「あなたしておやりなすつたらいゝでせう。あなたを呼んでるんですもの。」と兼子は答へた。

彼は暫くぢつとしてゐた。「お父ちやまよう！」と依子は俄に泣き立てた。彼は兼子の方をぢろりと見ながら、思ひ切つて立つていつた。人形の片足がち切れて轉つてゐた。彼はそれをくつゝけてみた。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「これは駄目だ。」と彼は云つた。「またいゝのを買つてきてあげるから、これはお捨てなさい。ねえ、またいゝのを買つてきてあげますから。」

「いやよ、いやよ。」と依子は泣き叫んだ。

彼は依子を腕に抱いてやつた。室の中をよい〳〵云つて歩いてやつた。然し彼女は泣き止まなかつた。しまひには彼も苛ら〳〵してきた。其處に投げつけたくなつた。それでも我慢して、いろ〳〵宥めすかしてみた。依子は遂に泣き止んだが、此度は執拗に默り込んだ。くるりと顔を外向けて反り返つた。彼は腹が立つてきた。其處に依子を放り出して緣側に出て屈んだ。依子はまたわつと泣き出した。

敏子が立つて來て依子を抱いた。依子はぴたりと泣き止んだ。

「あなたは子供を放り出して、どうなさるんです。」と敏子は彼へ向つてきた。

彼は默つてゐた。こんなことで爭つてもつまらないと思つた。然しその後で、依子がそつとやつて來て、「お父ちやま」と甘えた聲で云ふのを聞いた時、彼は依子が不憫なよりも寧ろ恐ろしくなつた。こんなに小さくて人に媚びてゐる！ 彼はたゞぢつとその樣子を眺めた。

依子は次第に、「お母ちやま」といふ言葉を口にしなくなつた。それと同時に、「お母ちやん」をも口にしなくなつた。然しそれは言葉の上だけだつた。彼女は前よりもなほ屢々、玄關に飛び出したり庭の隅へつゝ立つたりして、ぼんやり眼を見据ゑてることが多くなつた。それがいつも夕方から晩へかけてだつた。

さういふことが餘り度重るので、もしや……といふ疑念が彼に萌した。彼は隙を覗つて、依子が玄關につゝ立つてる時、いきなり表へ飛び出してみた。然したゞ、閑靜な通りが向ふまで見渡せるだけで、敏子らしい姿は何處にも見當らな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

かつた。

所が、ある夕方――敏子が依子を連れてきた時のやうな、今にも雨になりさうな曇り日の、風もない妙に濕っぽい夕方だつたが――兼子は、表に敏子らしい姿を見かけたと云つた。彼はぎくりとした。二人ですぐに表へ出てみた。薄暗い通りには何等の人影もなかつた。大きな犬がのそり〳〵向ふから歩いてきた。二人はその犬が通りすぎるまで佇んでゐた。それから家の中にはいつた。

「餘り神經をやんではいけない。」と彼は云つた。「お前までがそんな風になると、なほ依子がいけなくなるばかりだ。」

「でもたしかに變ですよ。」と兼子は答へた。「實はこないだ、庭に誰か立つてるやうなので、喫驚してなほよく見ると、それが椿の木だつたりしたこともありますが、それにしても、あの子の樣子が餘りおかしいんですもの。ひよつとすると、子供に逢ひたさの餘り、家の前をぶらついたりなんかなすつてるんぢやないでせうか。それならさうと云つて、家へ來て下さればいゝのに。」

「お前までそんなことを云ふからいけないんだ。」と彼は云つた。

然し彼自身も少からず神經を惱まされた。敏子のことはさうだとは思へなかつたが、一種の神秘なあり得べからざることが、却つてありさうに思へてきた。馬鹿な、そんなことが！と自ら云つてみたけれど、今にも更に惡いことが起りさうな氣がした。

そして實際、依子の樣子は益々いけなくなつていつた。それにつれて兼子も益々苛立つてきた。彼女は打ちこそしなかつたが、それよりも更に惡い冷たさを以て、依子に對するやうになつた。その合間々々には、熱狂的な愛撫を示した。依子はこの冷熱の間に苦しめられて、彼や幾代の方へ逃げていつた。兼子はそれをまた抱き取つてきた。胸にひしと抱

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

きしめながら云つた。

「依子ちやんは誰が一番お好き？え、誰が一番お好きですか。」

依子は默つてゐた。

「云つてごらんなさい。え、誰が一番お好き？」

「一番お好きよ、一番お好きよ。」と依子は口早に云つて、兼子の懷にしがみついた。

「さう。お母ちやんも依子ちやんが一番お好き！」

さう云つて彼女は依子を更に強く抱きしめた。依子は急に身を踠いた。眞赤な顏をして反りくり返つた。兼子はなか〳〵放さなかつた。依子はしまいに泣き出した。

「餘りしつゝこくするものぢやないよ。」と彼は云つて、依子を抱き取らうとした。

「いやよ、いやよ、いやよ！」と依子は叫んだ。「お父ちやま嫌ひ、嫌ひよ！」

依子は泣きながら逃げていつた。兼子は冷かな眼でその後を見送つた。

こんな風ではだん〳〵いけなくなるばかりだ、と彼は思つた。一層のこと幾代へ依子を凡て任せたら……とも思つた。然し幾代は、既に夜の間だけでも可なり苦しめられてゐた。――依子は夜中によく眼を覺した。もう泣き出しはしなかつたが、たゞぢつと眼を見開いてゐた。幾代はその間おち〳〵眠れなかつた。しまひには依子の眼付に脅えてきた。

或る晩、幾代は突然起き出て來て「兼子さん、早く〳〵！」と襖の外から呼び立てた。兼子はもう眠つてゐたが、彼は變な氣持ちで夢想に耽つてゐた。幾代の聲を聞いてすぐに飛び起きた。傍の兼子を揺り起しながら馳けて行つた。幾代の室にはいると、彼はぞつとした。幾代はいつも電氣に二重の絹覆ひをして寢るのであつた。その薄ぼんやりした光り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

——といふより寧ろ明るのみ中に、依子が悄然とつゝ立つてゐた。眼だけを大きく見開いて、沒表情な硬ばつた顔付だつた。彼は一寸躊躇した。それから猛然——さう自ら意識した勢で、側に走り寄つた。そうして依子を捉へやうとすると、依子はその手を異常な力で押しのけた。其處へ粂子と幾代とが後れてやつて來た。粂子が進み出た。依子はそれを押しのけた。粂子は危く倒れやうとした。彼が代つて掴みかゝつた。依子はそれをするりとくゞりぬけて、室の隅にぴつたり身を寄せた。向ふ向きになつて、突然大聲に泣き出した。彼はそれを背後から捉へた。身を踠くのを無理に押へつけて、布團の上に寢かした。すると依子はぐつたりと身を投げ出して、泣き止んだまゝ默つてしまつた。三人はその周圍に立ち並んだ。三人共、初めから一言も發しないでゐた。息を凝したやうな沈默が落ちた。彼はそれに氣付いて俄に恐ろしくなつた。殆んど機械的に電氣の覆ひを取つた。ぱつと明くなつた。彼は云つた。

「どうしたんです？」

同時に粂子も云つた。

「どうしたんでせう？」

幾代は長くつめてゐた息をほつと吐き出して、依子の方を覗き込んだ。幾代自身も事の起りを知らなかつた。彼女がふと眼を覺すと、依子はもう上半身を起して室の隅を見つめてゐた。彼女はその肩に手を置いて何か云はうとした。そしてはつとした。石にでも觸れたやうな感じを受けた。次にその眼付を見た時、彼女は堪らなくなつて飛び起きたのだつた——粂子を呼びに。

見ると、依子は眼をつぶつてゐた。險しい息使ひをしてゐた。顔がぽーつと赤くなつてゐた。粂子はその上に屈んで、額に手をあてゝみた。そして膝を立てた。彼も手をあてゝみた。額が燒けるやうに熱かつた。揺り起すと、依子はぼん

やり見廻したが、また大儀さうに眼瞼を閉ぢた。

病氣に違ひなかつた。さう思ふと、急激な病氣に違ひないといふ不安が高まつた。彼は檢温器を持つて來て測つた。熱は案外にも八度三分に過ぎなかつた。念のためにも一度測つたが、やはり同じだつた。險しい息使ひももう靜まつてゐた。たゞ脉が非常に速かつた。そして全體がぐつたりしてゐた。

彼と兼子とは着物に着換へてきた。そして枕頭についてゐた。いつまでたつても、依子はすや／＼眠つてるらしかつた。起きてゐても仕方がなかつた。依子の三方に床を敷いた。裾の方に幾代が寢、彼と兼子とが左右に寢た。

彼はどうしても眠れなかつた。眠れないと意識すればするほど、益々眼が冴えてきた。無理につぶつた眼を開くと、兼子がぢつとこちらを見てゐた。二人の間には少し下手寄りに、依子の房々としたお河童さんが、夜着の白い襟から覗いてゐた。彼は眼を閉ぢた。暫くして眼を開くと、兼子がまたこちらを見てゐた。然し瞬間に彼女は眼瞼を閉ぢた。彼はその顔を見つめた。淡い電氣の光りを受けた顔は、蠟のやうにたゞ白くて艶がなかつた。一種の陰影が、眼の凹みと口元とに深く湛へて、細そりした頬をすつと掠めてゐた。高い鼻筋と細い眉とが、淋しいほど滑らかだつた。乾いた薄い唇が、色褪せてきつと結ばれてゐた。彼はさういふ顔を、今初めて見るかのやうにぢつと見つめた。彼女は彼の視線を感じてか、靜かに寢返りをした。彼は眼瞼を閉ぢた。

眼瞼のうちに、種々なものがまざ／＼と見えてきた。兼子のこと、依子のこと、幾代のこと、敏子のこと、また自分自身のこと――彼も亦今見た兼子の顔と同じやうに、窶れた淋しい顔をしてるに違ひなかつた。彼はそれらの映像を眼瞼のうちに見つめながら、果してこれでいゝのかと考へた。皆の生涯を――運命を、よいやうにと希望しながら、茲まではまり込んでしまつたのであつた。然しこれは一時の經路なのだ、これを通り越せば凡てよくなるだらう、と彼は考へ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

てみた。それには先づ第一に、依子の病氣を治さなければならなかつた。

彼はそつと手を伸して、依子の額に觸つてみた。所がその觸感を知る前に、彼はぎくりとした。依子がぱつちり眼を見開いた。依子は天井を見つめてゐたが、俄に叫びだした。

「お母ちやん、お母ちやん！」

彼と泉子とは突嗟に起き上つた。幾代も起き上つた。然しその時にはもう、依子は眼を閉ぢてうと〳〵してゐた。

「夢を見たのでせう。」と幾代は云つた

三人共それきり一言も云はなかつた。また各自に床についた。

依子の熱は翌日になつてもさめなかつた。朝が七度六分、午が七度八分だつた。そして少しも食慾がなかつた。身體全體に力がなくて、顏色も失せてゐた。

彼は小兒科の醫者に來て貰つた。三時頃、醫者はやつて來て診察をした。依子はどう取扱はれても、少しも逆らはなかつた。逆らふ力がなさゝうだつた。

醫者は診察を終へて小首を傾けながら、また長い間脈膊をみてゐた。病名が分らないらしかつた。

「別に異狀もないやうですがね。脈膊がただ少し……。」

彼は思ひ切つて簡單に事情をうち明けた。依子を早く治すにはさうしなければならないやうな氣がした。

「なるほど、」と醫者は云つた、「それで分りました。まあ神經衰弱とでもいふんでせうね。別に惡い所はありませんから、そのうちには治るでせう。」

「子供にも神經衰弱といふのがありますんですか。」と彼は尋ねた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「はゝゝ、神經がある以上はあつてもいゝ譯ですね。……大したことではありません。けれども、もし熱が八度を越したりしたら、また仰言つて下さい。診てみますから。」

醫者は、型ばかりの處法を與へて歸つていつた。

彼はちつと兩腕を組んだ。神經衰弱といふのを聞いて、他の病氣だつたのよりも更に恐ろしい氣がした。依子の身體のためにではなく、その魂のためにであつた。凡てを驚異しつゝ凡てを取り入れてゆく、快活な晴れやかな四五歳の子供に、神經衰弱とは餘りに滑稽な病氣だつた。而もその滑稽が、依子に於ては滑稽でない事實であるといふ所に、絶望的なものが潜んでゐた。彼は敏子に來て貰はうかと思つた。然しさすがに云ひ出しかねた。

その上、依子の病氣は幸にもよくなつていつた。熱が次第に薄らぎ、食欲もついてきた。幻を見ることもないらしかつた。たゞ元氣は少しも回復しなかつた。いつも室の隅つこにぼんやりしてゐた。兼子はそれを室の眞中へ抱いてきた。彼はそれを負つて庭を歩いた。然しいつのまにか、依子はまた片隅に縮こまつてゐた。何物にも逆らはなかつた。何物にも冷淡だつた。

「こんなでどうなるんでせう。」と兼子は云つた。

大きな不安が兼子の心を蔽ひつゝあるのを、彼ははつきり見て取つた。然し彼自身もいつしかその中に卷き込まれていつた。依子のことを彼女と話すのが苦しくなつてきた。

彼はなるべく兼子の眼付がない際を覗つて、依子の側へ寄つていつた。そして膝の上に抱いてやつた。依子はちつと抱かれてゐた。然し彼が頬ずりをしたり頭を撫でたりすると、「いやよ、いやよ！」と云つた。

この子は深い愛撫には堪へないのか、もしくはそれを嫌いなのか？と彼は考へてみた。然し、何れとも分らなかつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

彼がぼんやり考へてゐると、依子はぢろ〳〵彼の樣子を眺め初めた。彼はそれに氣付いて、そつと向ふを見返した。依子は俄に立つて來て、默つて彼の膝に乘つた。然し彼にはもう抱きしめるだけの氣が起らなかつた。嫌な氣さへした。

「お母樣に抱つこしていらつしやい。」と彼は云つた。

依子は素直に兼子の方へ行つた。暫くして彼が覗いてみると、二人は少し離れて坐つてゐた。依子はむつつりしてゐた。兼子は冷かな横目で、時々その方を見やつてゐた。しまひに兼子は涙をぽろりと落した。そして依子を抱いたが、すぐにまた下に置いて、ぷいと立つていつた。

そこへ――依子を引取つてから二十日ばかりの後に、敏子から幾代宛の手紙が來た。幾代は眼を潤ませながら、それを彼の所へ持つて來た。彼は讀んだ。

私事、この度廣島へ行くことに致しました。依子さんのことをお賴み致します。昨日瀬戸樣へお目にかゝりまして、無事に皆樣からかあいがつていたゞいてゐることを承りまして、涙が出るほどうれしく存じました。永井が私へいろ〳〵いやなことをすゝめますけれど、私はだんじてそんな惡いことを致したくございません。廣島にいとこがございますのに相談致しますと、すぐ來いといつてきました。手びろく乾物屋を致して居ります。今晩たつことに致しました。一度お伺ひしたいと存じましたが、依子さんのために惡いと思ひまして、このまゝたちます。もし永井が參りまして、何かと申しましても、何にも知らないとおつしやつて、相手になつて下さいますな。お願ひ致します。依子さんのことをお賴み致します。お身體御大切にあそばしませ。皆々樣へよろしく申上げます。御恩のほどは一生わすれは致しません。廣島からお手紙を差上げてよろしうございませうか。皆々樣御身體御大切にお願ひ致します。

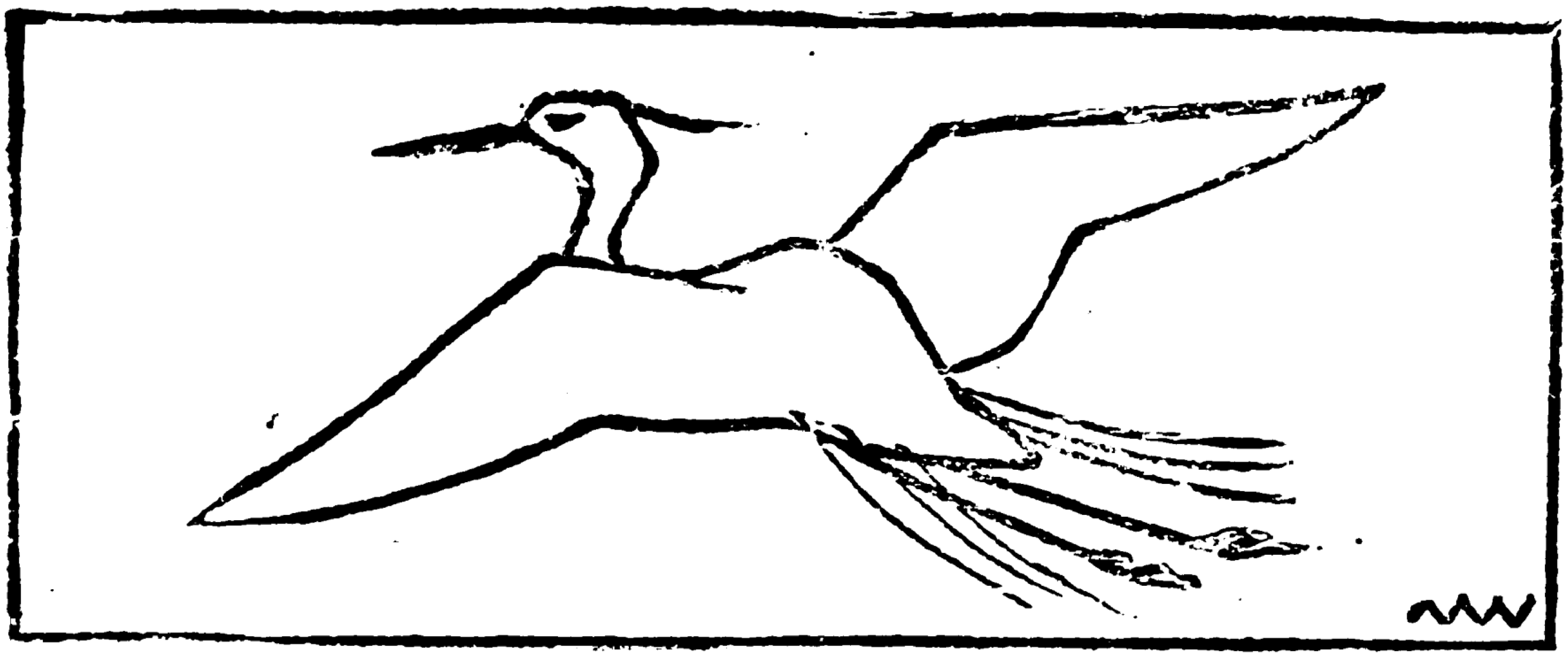
Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

彼は涙が出て來るのを、ぢつと我慢した。兼子が何か云はうとするのを押し止めた。依子がこちらを見てゐたからであつた。彼は依子の目と耳とを恐れた。

依子は向ふの隅に、玩具を前に置いて遊んでゐた。膝のないその小さな坐り姿を見て、彼は何とも云へない氣がした。家に「不姙性」の子供が一人ふえたのだ、と彼は思つた。依子をさうなさしたのは、彼女をその母の胸から奪つて來たがためではなかつたか。而も奪つて來たのは誰の仕業であつたか。それは彼でも兼子でも幾代でもなかつた。もつと深い所にあつた。然し誰であるかは分らなかつた。彼は一種の憤りを感じた。これは一時の道程だと強ひて考へても、自分と兼子と依子との現在の心が、餘りに根強く頭に映じてきて、凡てを塗りつぶしてしまつた。

彼は永井が來るのを待ち受けた。うむを云はさず毆りつけてやるつもりだつた。然し永井は姿を見せなかつた。やり場のない憤りの念から、彼は敏子と依子との別離を決定的なものだと感じた。そしてそれは、あらゆる光明を奪ふものだつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



一と踊

宇野浩二

一

私は、考へるとやつぱり不思議に思はれてならぬのである。そんな町、これ迄地圖の上でだつて、碌に目を止めて見たことはなかつたのである。それが三十歳の或る秋の日のこと、ふと何といふ譯もなく東京から汽車で八時間ばかりの道程のその町に、友達と二人で出かけたのであるが、沿道は隧道だらけだし、汽車はガタ馬車のやうに搖れるし、私たちは屢々途中でいつその事下りてしまはうかと言ひ合つた位であつた。それはたつた一昨年のことで、指折り數へて見ると、その日から未だ二年の月日さへ經つてゐないのである。

だが、今や私にはその町の停車場の、屋根一つない貧弱なプラットフオームも、二三等の區別もない一間切りの小さな待合室も、驛前に並んでゐる繭だか糸だかを入れる、一寸見ると兵營のやうな窓の澤山附いてゐる大きな白壁造りの土藏の行列も、停車

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

場前から一直線に走つてゐるでこぼこの道も、道端の家々の前を流れてゐる溝川も、青いペンキ塗りの郵便局も、その郵便局の建て附けの悪いドアも、さては二つに別れて急な阪道になる道の傍に立つてゐる石の地藏も、その道の突當りにある私の宿屋のいつも硝子が壊れたまゝになつてゐる瓦斯燈も、悉くそれ等は恰も私が生れた日以來ぢつと見馴れて來たもののやうに、私の記憶の藏の中に收められてしまつたものである。

だが、斯うはいふものゝ、而も私は何もその町につゞけて住んでゐた譯でも、滯在してゐた譯でもなかつたのである。その始めの時は二週間ばかり、二度目には一ケ月餘り、三度目にはほんの五日程、そして四度目の時は二ケ月近く——それが去年の春のことであつた。そして私はその町の一人の藝者と犬のやうに夫婦になつたのである、そしてそれが私の今の女房なのである。

五月、——彼女は彼女の家財道具を引纏めて、彼女は元東京の者であつたが、十年間その町に住んでゐたのである。彼女にとつて十年間の浮世の町、私は今日限りさらりと身を洗ふのだ、さらばさよなら、と惜氣もなくその町を引上げて來たのである。さればその秋に行はれた國の國勢調査の日、彼女はけろりとした顔をして、生れた時から私に連れ添うてゐたやうな顔をして、調査員に向つて、戸籍にもあります通り、私は何某妻でございます、としやあ〳〵として述べたことに違ひない。彼女は私の家に來て以來、あんな山の中の町、鬼に喰はれてしまへ、と言つて更に振り向かないのである。

けれども、私は彼女と夫婦になつた後も、彼女に隠れて又二度もその山の町に出かけて行つたものである。その譯は斯うである、——始め私はその町で今の私の女房でない、別の一人の藝者に戀したのである、その女は藝名をゆめ子と言つて、當歳の子を抱えてゐた、けれども私たちの間には到頭怪しい關係はなかつたのである。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

どんな男にもどんな女にも色々違つた面があるものである、それが白と黒と程の違つた面でも、その白もその黒も偶ではないところのその人間の一部なのである、例へば一人の辯慶が泣かぬ辯慶になつたり泣く辯慶になつたり、一人の賢女が教育家であつたり道ならぬ戀に陷つたりすることは、それ〳〵皆人間の自然なのである。つまり私も隨分惡い男であり、その子持藝者も案外だらしのない女であるかも知れないが、神樣の覺召しか、或ひは彼の惡戲(いたづら)か、私は彼女と組合はされた場合、お雛樣のやうに二人は向ひ合つて、處女のやうに二人は話し合ふのである。——何處(いづこ)を見てもいつの折も、何とも早や淺ましい、賤なことだらけの世の中である、私とあなたで一つ夢のお伽話をこしらへませうよ、とまあ斯ういふ譯なのであつた。

だから、別れてゐると二人は手紙を書き合ふのである。だが、その手紙には一切戀しいとか、好きだとかは認(した)めぬのである。二人は又屢々贈物などし合ふこともある、が、私は大抵わざと彼女の子供へのものを贈るのである、すると彼女は私の母への物を贈つて來るのである。念には念を入れ、用心には用心をしないと、夢のお伽話は壞れるのである。ところが、私がその町に二度目に出かけて行つた末の頃に、私等の間に今の私の女房が現れて、四度目の時の中頃に、私が彼女に握れたのか、彼女が私を攫つたのか、遂に取返しの付かぬことになつた次第である。

二

その私の女房といふのは中々悧好者で、しつかり者で、もつとも十年も藝者をしてゐたのではあるが、三本の簞笥と二本の長持と、その外茶棚やら本箱やら、(普通の書生の持つやうな本箱を二つも、)それから長火鉢やら瀬火鉢やら、手水鉢やら下駄箱まで、それ等を先に言つた隧道を幾つも通るガタ馬車のやうな汽車に、三十何箇の荷物にして持つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

來たのでも分るであらう。當時彼女はもう一本の藝者であつたばかりでなく、藝者屋の主婦でもあつた、配下に藝者さへ抱へてゐたものである。そして更に感ずべきことには、彼女の同僚であるところの、その町の七十人の藝者たちは、無論旦那がない筈がないが、しかし誰が、どんな人が彼女の旦那であるかを誰も知らない位であつた。斯ういふと、彼女は如何にも海千山千の鬪の者らしく聞えるかも知れないが、無論さういふ類の何かには違ひないが、私と同じ年の生れで私と似て至つて氣弱（きよわ）の性質で、姑である私の母にもよく仕へ、夫である私にも誠に柔順で、それは中々感心な女房である。

從つて、この女、隨分頭も働く氣のきいた者であるが、何處やらうつかり者のところもあるのである。彼女が私のがらんどうの家にその三十何箇の荷物を運び込んだ時、折から私は旅に出てゐて留守中だつた、そして三日目に私は歸つて來たのである。一週間程前、空家のやうな體裁の家から旅立つた私は、歸つて來て、その同じ家の中に相當な家財が充滿し、それ等が悉く整頓されておかれてあるのに驚いたことは言ふ迄もない。ところで、それ等の一つの箪笥の中からと、下駄箱の中からと、私は一枚の洗張りして間もない銘仙の男の丹前と、二三度穿いたばかりの男の下駄とを見出して、一寸困つたことである。だが、私はそれに就いて默つてゐたばかりでなく、私自身の丹前を洗張りしてゐる間、どんな男が着たのだらう？　その女房の持つて來た丹前を着、お湯に行く時などの不斷穿きに、どんな男が穿いたのだらう？　その女房の持つて來た下駄を穿いたものである。

これは然し女心の物を惜しむ性質から、思ひ切つて捨て兼ねて、彼女が持つて來たものかも知れないが、その所がなくてもやつぱり彼女がうつかり者である證據は、やはりその時分のことであつたが、「もう大抵入らないと思ひましたし、母さんもこれは入らないと仰言いましたが、念の爲に紙の類は新聞でも何でもこの中に入れておきましたから……」と

彼女は言つて、押入の中の一つの支那鞄を指さした。「さうか、さうか、」と私は答へて、その日はそのまゝになつてゐたが、その翌日何かの用事があつて、私はその支那鞄の中の紙屑を掻き探してゐた。その時私は一冊の小さな、見馴れない古びた手帳を手にとつて、何だらう？　と思つてばら／＼と中を繰つて見た。それは彼女の日記だつたのである。「何年何月何日」と細いペンの字で書いてあるのが一番始めに目についた、もう五年ばかり前の月日の事である。

私はふと好奇心に誘はれて讀んで見ると、それは特に彼女が懐しい何某といふ中に書いてある男と、伊香保に遊びに行つた二日間だか、三日間だかの日記なのである。その報告に依ると、彼女はその町の停車場から一人で乘つて、汽車が乘り換へになる或驛でその男と會つて、二人で樂しく出かけて行くのである。高崎から伊香保までの電車の中で、愛嬌のある醉つ拂ひの男に會つた話は、私がまだ彼女と客と藝者として坐つてゐた時分に、彼女からよく聞かされたものであるが、その事もこの日記の中に出てゐる。その話を聞いた時にも、無論彼女はそんな事とは言はなかつたが、私は心の中で誰か男と一緒に行つたのだな、と察してゐた、何故と言つて、彼女は頗る旅の見聞の狹い女で、旅行の話といへば、子供の頃箱根に行つた話と、この伊香保の話と、もう一つ何處とかに行つたこと切りない、その何處とかの旅行談には必ず連れの大勢の客や藝者たちの行動をまぜて話すのにこの伊香保の話に限つて決して彼女自身の身邊に就いて話さなかつたからである。

その日記の中で、彼女はその男と夫婦として三日間行動したことを、女らしい嬉しさを飾らぬ筆に現はして、その途上の電車中での所見にまで、嬉しさの情を現はしてゐる。私はそれを讀み終つた時、元よりよい氣持にはならなかつたが、そのまゝ支那鞄の紙屑の中に押し込んで、始めの自分の探し物を止めて、町に散歩に出たことである。が、それに就いて彼女に何にも言はなかつたのは勿論である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

そして彼女と私と連れ添つてから、早いもので丁度かれこれ一年になるのである。

三

さて又一月ほど前のことであつた、夕方、私たちは母を合はして三人で夕飯を食つてゐたところへ、女中が一束の郵便を運んで來て、私たちの傍でそれを改めながら私の前に置いた時に、一通だけ「これは奥樣、」と言つて一つの手紙を彼女の前においたことがあつた。

彼女は最早や實家がない身の上で、唯一人の義理の妹の外、どこそこに叔母が、どこそこに叔父が、又どこには以前父の店にゐた者か、などと話すことがあるが、妹と叔母との外には殆ど文通などをしてゐない。見ると、今來た手紙ははつきりした男の筆蹟で、彼女はそれを女中の手から受取ると、一寸顏色を變へて、あわてゝ懐の中に押し込んだ。無論、私も母もそれに就いて何の質問もしなかつた、「惡い手紙らしいな、」としかし私は思つたが……。

その晩も私は散歩に出て、夜遲く歸つて來て、すぐ床に就いたが、氣が付くと彼女の顏色がいつになくさえぬのである。いつもは乾度晴々しい顏をして、今夜は夫の機嫌はどうだらう？ と半ば伺ふやうに半ば浮氣づけるやうにする彼女が、その晩に限つてそんな餘裕を失つて、ひどく自ら悄氣てゐるのを見て、私は直に、あゝ、あの夕方の手紙に就いてだな、と思つたが、默つて床に着いたのであつた。

ところが、彼女は私が寢てからも、暫の間で、いつ迄經つても床に就かないらしいのである、彼女は何かひどく煩悶してゐると見えるのである。そこで私は思ひ切つて、「お前の俺に都合の惡いことで、つまり秘密で、俺の氣持の惡くなるやうなことで、それが話せることなら成るべく話しておいてくれる方がいゝ。だが、どうしても隱し切れないこと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

や、どうしても自分で始末の出來ないことがあるなら、遠慮なく言つてもいゝ、」と私は言つたのである、すると彼女はしく〳〵と泣き出したのである。

「夕方來た手紙に就いてか？どうしたんだ？」と私はそこで努めて優しく言つた。

「濟みません、濟みません、」と彼女が泣きながらつゞけて言ふところに依ると、今から三年程前に彼女はその男から五百圓の金を借りたが、半月程後にそれを返さうとすると、まあいゝよ、今は。いづれ一萬圓も君に金がたまつたら返してくれ給へ、それ迄はまあ預けておかう、と言つたのださうである。

「お前はその時分その男と關係があつたのか？どうせ話すのなら、話の分るように隱さずに言へ、」と私がそこで言ふと、

「ありました、」と彼女は俯向いたまゝ言つて、「が、直に、一ケ月しないうちに切れました。その人が外の人と又關係の出來たことを聞きましたので、私の方からお斷りしたのです、その時お金を返さうとしたのです。」

「差支へなければ、その手紙を見せて見な、」と私は言つた。そして見ると、それは男をこしらへて逃げて行く金を君に用立てはしない、どうしてくれる？返事を下さい、と言つたやうな簡單の意味のものであつた。彼女が言ふには、

「今から半月程前に葉書で始めてお金の請求狀のやうなものを突然よこしたのですが、それはそんな請求されるやうな筋のものぢやありませんから、さう書いて返事を出しておいたのです。」

「さうか。その金は兎に角俺がこしらへてやらう」と私は暫くしてから言つたのである。「それから、ついでだから、此後又そんなお前も煩悶し、俺も氣持が惡くなるやうな事で、底の割れて來さうな心配のある話があるなら、みんなしてしまはないか、それ等のお前の澤山の家財道具や、抱え藝者の着物や帶なんかのことで、又どこかから抗議を申込んで

來やしないか？」

「いゝえ、」と彼女ははつきり言つた、「それは私が夢硒家の年が明けて、二度目に自分で三春家に抱えられた時のお金とか、その他一切自分のお金で買つたのです。外にもう何もあなたの御迷惑になるやうなことはないつもりです。」

四

實際、今の彼女の意見としては、そんな町の思出や、幽靈や、みんな消えてなくなれ、私は今人の正當な妻である、忘られるものならあんな町のこと皆忘れたい、私の今迄の生活は今日の日の爲の用意だつたのだから、ねえ、あなた、あんな町のことなどあなたも忘れて下さいな。——さう彼女は心に祈つてゐるに違ひないのである。けれども、私には忘れられぬのである。だから私は彼女と住んでからの一年の間に二度も、そして今度と合はして三度も、彼女に隠れてその山の町に行つたのである。

彼女が私にこの町に行かしたくない理由は色々あらう。が、その最も大きな理由の一つは、嘗て彼女の同僚であつた、あの子持藝者のゆめ子と私との關係である。彼女にして見れば、ゆめ子と私とがそんなお伽話の關係であるとは中々信じられないのである、よし又それを信じたところが、そのお伽話がいつ迄お伽話の境に安定してゐよう？ と心にかゝるのである。彼女はそのゆめ子の姉さん藝者でありながら、不意に現れて、そして鳶のやうに私を攫つたことも思ひ出すであらう、その腹立まぎれに、ゆめ子が彼女に就いての知つてゐる秘密の、ある事ない事を私に告げ口しないものでもない、……それからそれと考へると、彼女の心配は三十何箇の荷物にも這入り切らない程に、次第々々に増えて來るのであらう。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「どうぞ後生ですから、」と彼女は屢々私に言ふのである、「外にどんな好きな人をおこしらへになつても、私は決して何とも申しませんから、どうぞあの町にだけは行つて下さいますな、後生ですから。」

「よし、よし、」と私は答へておくのである、私だつて彼女の量見を推察して同情しないものでもないのである。けれども私は、たまく〵私の商賣が著述業であるのを利用して、屢々それをしに、家では落着いて出來ないといふ理由で、旅に出るのである。そして旅先でそれを仕上げて、そこに一寸二日なり三日なり家の方の體裁をごまかせる餘裕を見出すと、そつとその町に廻つて來るのである、そして一年前のやうに、私の愛する子持藝者ゆめ子と、お雛樣のやうに向ひ合つて坐つて來るのである。唯それだけの事なのである。そツと彼女のだんく〵大きくなつて行く子供の爲に、玩具とか、襦袢とか、靴とか、そんなものを買つて行つてはその僅かばかりの逢瀨の一日をば、彼女と彼女の子供と、そして私との三人で、浮世の苦勞の風は何處の空を吹くか、人間の邪氣や罪や淺ましさの雨は何處の土に降るか、と言つたやうな顔をして、私たちは子供のやうな罪のない話をして、膝一つくずさずに行儀よく交際して、そして私たちは別れて歸るのが常であつた。

子持藝者のゆめ子も亦珍しく悧好な、しつかりした、頭のよい女であつた。考へて見ると、今となつては彼女にとつて私は可成り不愉快な、憎むべき男に違ひないのである。何故と言つて、彼女は以前、よし私が彼女に戀してゐたやうに彼女は私に戀してゐなかつたとしても、町の噂では、現に私の女房でさへもそれを信じてゐた程、私と彼女とは親しい仲だつたのである、それをおめく〵と、――私はこんなもう頭さへ禿げ掛つてゐるやうな男だが、客としてはこれでもそんなに惡い部類のものではないに違ひない、流石にあの人は子供まであるけれど、東京の、學問などする人間の目につくところがあると見える、結構なことである、とまあこれはお話だが、多少町の外の藝者たちに羨まれてゐたので

あらうが、――それがおめ〳〵と裏切られて、仲もずつと上の姉さん藝者に寢とられてしまつた、何といふ甲斐性なしだらう、と人々に後指さゝれたことであらう、藝者としてこれは死ぬ程の恥に違ひない。その事もその事だが、彼女は又彼女だけの考として、その事があつてから私の顔を見る毎に、この人は常々あんな奇麗な口をきいてゐながら、やつぱりさうだつたのか、と私流の言葉で言ふと、お伽話を無惨に打ちこわされた恨もあるであらう、そして未だにしやあ〳〵とした顔をしてやつて來るとは、呆れた人だ！とゆめ子は心の中で思つてゐるに違ひないのである。

果して、私が女房を迎へた後に、彼女に隱れておめ〳〵と一度行き、二度行きしてゆめ子に會つた時、私の心なしか彼女の言葉や行ひは殆どこれ迄と變らなかつたが、が何となしに私に對して冷たくなつたのを私は感じ出した。元々一寸薄情らしく見える女ではあつたが、その薄情らしい中に、その薄情らしい形式にさへも、私は魅力を感じたものであるが、今やさういふ事でなしに、彼女が眞から心の底の冷たさをちよい〳〵と私に對して、一度目の時よりも二度目の時と言つた風に、出して來るやうに思へてならぬのである。

そしてそれは決して無理とは思へぬことである、若し彼女がもう少し毒婦型の女であるならば、此際彼女はうんと私に絡みを見せて、私が近附いて行つたところでぴんとはね附けて、私に復讐すべき程のものである。だが、誠に甘い話だが、たとへ彼女がさうであつても、私は私として彼女に益々愛を覺えるのである。私も隨分をかしな人間である。

五

私が家で屢々その子持藝者を賞める時とか、たまに彼女と友達のやうな文通をする時とか、さういふ時に、どうかした拍子に私の女房は往々一藝者の因縁話をすることがある。私は子供の頃、ふとした機會で或市の藝者町に十年ばかり

わないで、今は私なぞ彼女等の門を訪ねもなく、色々な彼女等に就いての內幕は聞き知つてゐる。今や、それ等の藝者の一人であつたものを緣あつて女房に持つにつけて、私はそれ等の話を思ひ出すことは、私に決して心よい氣分を與へないのである。

私の女房の言ふことに、何某といふ藝者は、それは仕樣のない女で、或男と思ひ合つた末、やつと一緒になつたと思つたら、今度は別の男に惚れて、かと思ふと、又別の男に口說かれたので、その方になびいてしまつて……等、等と話すのである。そんな話はしないがよい、と私がたしなめると、馬鹿でない私の女房はふと氣が附いて、ふッと話を變へるのが常であつた、藝者仲間の腐つた話を聞くことは、私の女房はどれ程の程度のものか知らないが、やつぱり引いて彼女の過去の身の上が樣々と私に邪推される譯だからである。

或日は又彼女は私の愛する子持藝者の身の上に就いて話すのである。「あなたはどんな風に思つてらつしやるか存じませんが、あの人は中々一通りや二通りの人ちやありません、」と彼女は言ふのである。そして私が聞いたところに依ると、彼女は始め或男と堅く約束もし、深い關係もあつたのであるが、その男が兵隊に取られて東京に行かねばならぬことになつた。そこで、二人の男女は實際傍の見る目も氣の毒な程別れにくがつた、彼女はわざ〳〵男が入營する前の日まで、東京まで送つて行つて別れを惜んだものである。

ところが、その男が兵隊に行つて二年の間に、彼女は腹に子を持つたのださうである。二年の後、兵隊から歸つて來た男に呼ばれて、彼女は俯向いてその男の前に坐つた時、男は「お目度たう、よく留守をしてゐてくれたね。しかし、これでもう君と會ふこともあるまい、さよなら、」と言つて、幾らかの金をくれたさうである。彼女は子のこぼれ落ちさうな腹をかゝえながら、男の言葉を徹頭徹尾默つて聞いてゐた、そして默つて金を受取つた。「ゆめちやんだつて辛かつ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たでせうが、男の方の心はまあどんなだつだでせうね。だけど本當によく出來た人だとみんな賞めました、その男の方を、」と私の女房は言ふのである。

尚、彼女の言ふところに依ると、ゆめ子の養母の、彼女の叔母は、その町の藝者家中で一番金をためてゐると言はれてゐる位で、隨分人でなしの評判の惡い人だが、ゆめ子も一寸見たところは音無しいが、あの阿母さんの氣性を十分受けてゐるといふ人の評判である。その時の子が今の赤ン坊で、その子の父親から手切金として、及び子の養育料として、間に彼女の養母が色々と奔走した末、隨分のお金を取つたといふことである。その上、まだ子が大きくなつた時の何とか料として、十五年後に拂ふ約束で金一萬圓の證文まで取つたんださうだが、それは何でも間に新聞記者が這入つて、うまく騙し取られて破り捨てられてしまつたが……などと私の女房は色々と惡い取沙汰をするのである。

それ等の話は本當か、噓か、どの位の本當か、どの位の噓か、私は知る由もない。が、まあ、世の中といふものは何としたものであらう。けれども斯ういふ事は恐らく藝者仲間だけの話でなく、華族には華族の、金持には金持の、學者には學者の、それ〳〵各々の階級の人の間にもやつぱり色々と變つた形で轉がつてゐることであらうか

だが、それは私と彼女との間に起つた事ではないのである。——私たちはこんな事ばかりでなく、物事を常にこんな風に判斷して、世の中を渡つて行く必要があると私は思ふものである。だから、私は一寸も變らず、今も尚その子持藝者が懷しく、彼女の住むその山の町がやつぱり私のお伽話の町であることに變りはないのである。

六

ところが、今から一ケ月ほど前のことである。或日暫く音信の絶えてゐたその子持藝者のゆめ子から、突然私に手紙

が來たのである。私は何とはなしに震へる手附でその封を切つた、私は胸を打たれた。

その一二ケ月前に私は私の一人の友達と、私の女房に內所でその町に行つたことがあるのである。先に言つた、それが私が女房を迎へてから、隠れてそこへ行く第二度目の時なのであつた。その時のこと、或晩、私はその町から一里程はなれた隣の町に、ゆめ子と、もう一人外の藝者と、私の友達と私との四人で、自働車に乘つて活動寫眞を見に行つたのである。その事が後でその町の人の噂に上つて、私たちの事が何か隠れ事をしに行つたといふ風に見做されて、その町の新聞に載せられたのださうである、彼女からの手紙の中にその新聞の切拔が這入つてゐたのである。

そして彼女の手紙が言ふには、私がどんなに辯解しても人が承知しません、あなたと私とが決して汚い仲でないことを。私は口惜しくてなりません、どうぞ、私を可哀さうと思召すなら、あなたからも、あなたと私との交際が潔白なものであるといふ事をお手紙に書いて來て下さい、とさつと斯ういふ意味なのである。

つまり、到頭私たちの間に破裂が來た譯である。私は思ふのである、言ふ迄もなく、これは彼女が明らかに私をそでにした氣持で書いたものに違ひないのである。恐らく彼女に目下よい旦那が附いてゐるのであらうか、その旦那がこの新聞の記事を見たり、人の噂を聞いたりして、大きに怒つて、彼女を詰つたものであらうか。彼女はそれを色々辯解した末、旦那の發言でか、彼女の思ひ付でか、兎に角二人一緒にゐるところで、この手紙を認めたものに違ひないのである。何とも無理もない次第である。

私は直に彼女の要求通りの返事を書かうかと思つた。だが、もうさうしなくても、恐らくこの手紙を書いたといふことだけで、彼女の用は足りたのに違ひないと思つた。私は女房に見られぬうちに、そツとそれを灰にしたことである。だけど、私が彼女を愛することとは毛頭これ迄と變りはないのである。が、もう私は、如何に彼女がまだ藝者稼業をし

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

てゐるものであるからと言つて、最早やあの町に出かけて行つても、彼女を呼ぶことは遠慮しなければならぬことになつたのである。恐らく私はもう二度と彼女を見ないかも知れないのである。

七

けれども、この文章の始めに書いたやうに、今私は又三度目にその山の町に、女房に隠れて、此度は一人でやつて來たのである。そして此度は私はわざとこれ迄の行きつけの宿屋には行かなかつた。

汽車で私は屋根もない貧弱なプラットフオームの停車場に着いて、帽子を深く被つて、マントの襟を立てゝ、知らぬ宿屋に俥をつけた。私はそこの女中に頼んで、少しぐらゐ部屋は汚くても狹くてもいゝから、奥まつた隅つこの、人目に附かない、そして便所に行くにも湯殿に通ふにも、餘り長い廊下を通らないやうな部屋に通してくれと頼んだ。東京を出たのは一週間ほど前で、私はもう目的の著述の仕事は他所でしてしまつて、最早や家に歸るまで何にもしなくてもいゝ身體になつてゐたのであつた。その邊の土地では宿屋に藝者が這入るので、夜になると方々の部屋から陽氣な聲が一人の私をそゝるやうに聞えて來るのである。

私は晝間は持つて來た小說本を讀んだり、又はぼんやりと机に肘を突いたりして、茶を飲んで煙草をすつて、煙草をすつて茶をのんで、そして障子の間の硝子窓を通して山を見て暮した。山はこの世に於いて女と共に私が最も見ることを好むところのものである。だが、そんな風にして暮すと、一日は一年のやうに長い退屈な思ひがするのである。以前は私はこの町に來る毎に、夜でも晝でも、一寸でも閒があると藝者を呼んで、藝者とそして窓外の山とを樂んで暮した。藝者は大抵ゆめ子を呼んだことは言ふ迄もない。今も、退屈さから、外の知らない藝者でも呼ばうか、と幾度私は

机の前の、柱に取付けてあるベルを押さうとしたか知れない。だが、私は辛抱した。そして日が暮れると、帽子を深くかぶつて、私はその何を見ても最早や私の記憶の藏にあるところの、町の色々を見て歩いた。そんな時如何に私の心が二十歳のやうにセンチメンタルになつたか？。それは諸君の想像にまかさう。私は何となく主人のない犬のやうな氣がした、この町は物のにほひ迄私の腸に染みるのである。

そして私はそこに三日ゐたのである。そんな風にしてゐても、私はいつ迄もこの山の町を離れたくない氣がした。けれどもそれ以上ゐると、もう家の方にごまかしが付かなくなるので、三日目の夜の汽車でそツと來た町を、又そツと立つつもりでゐた。

その日の朝のことである。朝早く、まだ町の家々の戸が八分通りまで閉まつてゐる時分であつた。私は宿屋の裏門を出て、なるべく裏町を通つて、なるべく早く町外れに出で、そして町の後の山に上つたのである。何をしようといふ目的があつてゞはない、唯漠然と、日の光の下に横たはつてゐるその町を見ようと思つて、と言ふよりも更に少年らしいセンチメンタルな私に襲はれてゞある。

山道を五六町上つたところに、右に道入るとその町の小さな、春は櫻の咲く公園がある。私はその公園への道を行ずに、道が二つに分れる角のところで、少しばかり道のない草の中を分け上つて、草の上に蹲んで煙草を吹かした。私の足の下には掌ほどに小さくその町が見下ろされるのである。先づ目につくのは、その町の權威であるところの、製絲工場の煙突である。どういふ譯からかそれ等の煙突は悉く赤色に塗つてある。この前この上の公園に今の私の女房やゆめ子等と一緒に遊びに行つて、同じ町を見下ろした時には、それは僅か半年ほど前のことに過ぎないが、當時生絲の相場は天井知らずで、これ等の赤色の四本の煙突は萬本あつても足りないかと思はれる程、黒々とした軍艦のやうな威勢

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のいゝ煙を吐いてゐた。ところが、今ではその相場が四分の一に下つてしまつたといふ話で、それ等の煙突の工場はこの所當分休業しなければならぬ狀態なのださうである、心なしか私の目に今はそれ等が何と半年前の威勢に比べて、如何にも悄然として朝空に立つてゐるやうに見えるのである。

して見ると、それ等の煙突の何本かの持主の、私のゆめ子の子の父親も、此頃は見らるるやうに商賣も不景氣だからなぞと言つて、彼女への仕送りを減らしたり、或ひは斷つたりしてはゐないか知ら？ そして又思ひ出したことには、先日私の女房に五百圓の金を催促して來た男といふのも、多分やつぱりそれ等の煙突の持主で、世の中の景氣が惡いにつれて、むしやくしや腹からあんな手紙をよこしたものか知ら？ その男も今はあの煙突の下あたりで眠つてゐるか、子持藝者も眠つてゐるか、子は泣いてゐはせぬか、泣いてゐるなら乳をやれ、乳を飲んで子が又寢入つたら、ゆめ子よ、まだ朝は早い、君ももう一度お休みなさい。……

その時、私の足下の道を麓の方から歩いて來る人の氣配がしたのである。見てゐると、柴でも採りに行くのか、背中に四角な木の匣のやうなものを背負つた、二人連れの老婆の姿が現はれた、二人とも默りこくつて、肩を並べて歩いて來るのである、年の頃は双方似たもので、六十近くであらうか。彼女等は私のすぐ足下の道の邊まで上つて來た時、始めてどちらかゞ「一服しようか、」と言つて、路傍(みちばた)の石の上か何かに、多分その石が小さいので、小鳥のやうにくつ附いて並んで腰を下ろした、それに私のところから辛うじてその頭だけが見える位置である。

「大分暖かになつたね、」とどちらかゞ隨分暫くしてから斯う言つた。見ると、煙草でもすつてゐるらしく、紫色の煙が彼女等の頭のところから、ぷかり〳〵と私の方に上つて來るのである。

「もう山にもすつかり雪がなくなつたね、」と又暫アくしてから別の聲が言つた、そして後は紫の煙ばかりがぷかりぷ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

かりと上つて來て、そのまゝ話聲はしないのである。

私はその時咽喉元に咳か何かゞからまつて、オホンと一つ咳拂ひがしたくて堪らなくなつたのであるが、さうすると下の彼女等を驚かしはしないかと氣兼されて、幾度も唾を呑んで辛抱した。その代り今の先までの變挺な感慨の氣分などは彼女等の煙草の煙と共に、さらりと何處かに消えてしまつたと見えた。何の鳥だかゞ、ちろり〳〵と私の頭の上の枝で鳴くのも聞えるのである。ひどく天地が悠久な氣がされるのである。

「一つ踊つて行かうかね、」とその時ふと又下の老婆の聲が聞えたのである、私は私の耳を疑つた、が、確にそんな風に言つたと聞えたのである。

「あゝ、」と他の老婆がはつきりと皺枯れた聲で答へたのである。

私は驚いて、下の道に目を凝らすと、いつの間にか背中の匡を外して身輕になつてゐた二人の老婆が、追分道のまん中に現れて、

「俺、聲が出ないから、お前うたつてくれね、」とその一人が言つたかと思ふと、他の一人が返事の代りに、

へエーリエ、せくなせきやるな、浮世は車、めぐる日なみの、ソラ、めぐる日なみの約束に……

と忽ち唄が始まつて、私の目の下に二人の老婆がしやあ〳〵として、極めて簡單な、足を二歩ばかり交る交る前に出したり、手を一二度叩いたり、兩手をぶらりと脇に垂れたり、それで終ひ、——と言ふ程の簡單な踊ををどつたものである。めぐる日なみの、ソラ、と言ふところでは、うたはぬ方の老婆も合唱するのである。そして最後に「そら來い、あばよ、又來なよ」とそこでもうたはぬ方の老婆も合唱するのである。これは私が以前この町で藝者を呼んだ時分に屢々見たところの、この邊の土俗の唄と踊なのである。さて、一さし終ると、踊の手振りの終らぬうちに、

「も一つやろか、」とうたつてゐた聲があわてゝ言つて、

ヘエー引エ、はなれ〴〵のあの雲見れば、明日のわかれが、ソラ、明日のわかれが思はるゝ、ソラ來い、アバヨ、

又來なよ。……

とつゞけて、二人の老婆は先と同じ踊をくり返した。——

そして私が呆氣に取られて、實際心から感動して眺め入つてゐるうちに、踊は一息の間に濟んでしまふと、道の上の老婆は夕傍の私のところから見えないところに這入つてしまつて、暫くがさ〳〵とやつてゐたかと思ふと、即ち前の通りの、背中に何か匡のやうなものを背負つた恰好になつて、その間始終無言で、さつさと何事もなかつたやうに、山への道を歩き出して行つたのである。——これは嘘の話ではないのである。

彼女等の姿が左の道の山の蔭に隱れた時、私は始めてにツと口元を歪めた、私は頻に不思議なほゝ笑みを感じたのである。が、それと一緒に次の瞬間に私は目の中が急に生溫くなつて、ぽツと眼前の足の下の町の景色が濡れて見えるのを感じた、私は目に不思議な涙を感じたのである。その時何處の笛だか、多分朝が明けはなれたことを知らすのだらう、ボーと鳴り渡つたのである。で、私は急いで私の宿屋への裏道を急いだ。

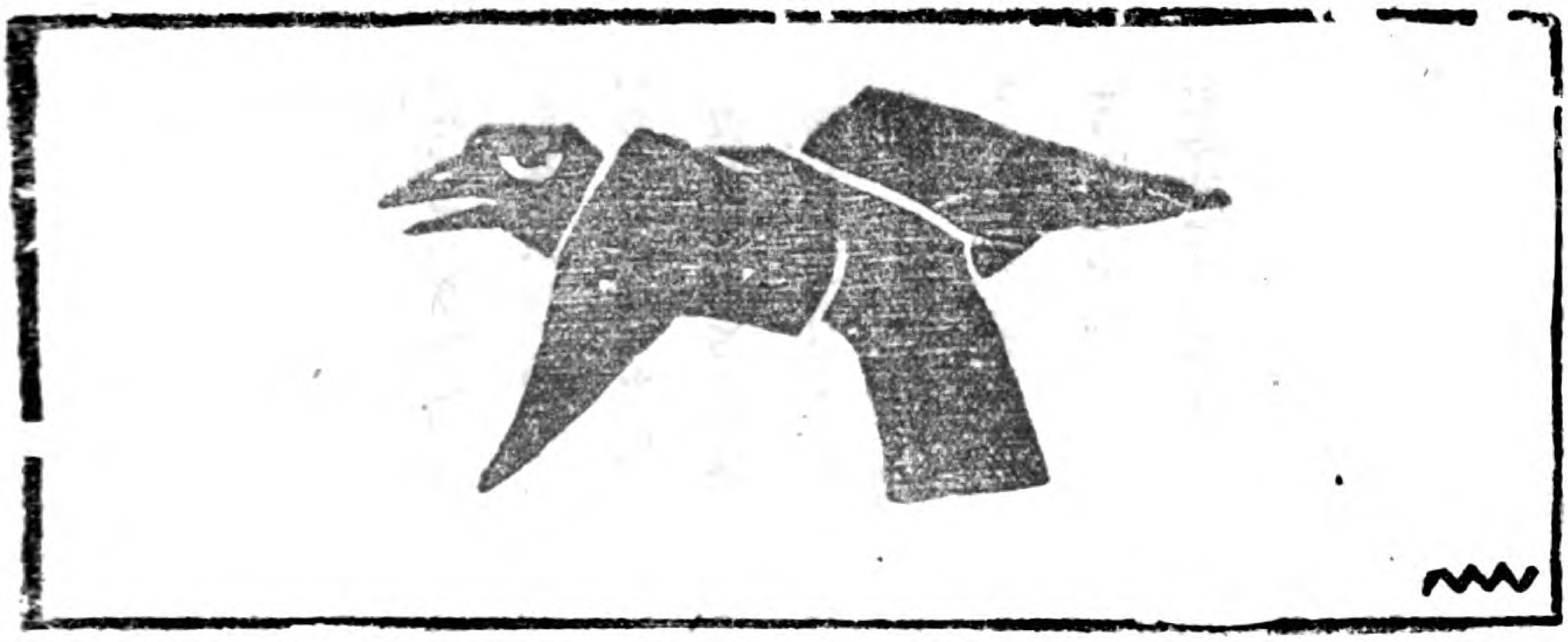
宿に歸つてからも、私は頻りにあの山道の二人の老婆のことを思ひ出した、思ひ出すと、にツと頰笑まれて、次の瞬間に反對に目に涙を感じた。飯を食つて、机にもたれて、障子の硝子越しに山を見た時、ふと私は今夜この町を歸るんだ、今度又いつ來られるだらうと思つてセンチメンタルになつた。今迄幾度來た時でも、私は彼女ゆえにこの山の町がこんなに忘れられなくなつたところのその彼女、——ゆめ子に會はなかつたことはなかつた。だが、此度を始として、これからは幾度來てもやぱりこんな風に、机にもたれて煙草をすつて、山を眺めて夜だけ町をそツと歩いて、それだけ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

でいつも彼女に會はずに歸らねばならぬのだと思つた。ふと又私の可哀さうな、この町で威張つて藝者をしてゐた時よりも決して心の賤しくなつてゐない、どうぞあの町の話をして下さいますな、唄や三味線を私は忘れたいと思つて居ります、私はもう大分忘れました、と言つて、料理の本などを一生懸命に見てゐる、私の女房のことを考へた。

だが、いつか、直に私たちもみんな爺さん婆さんになるだらう。そして若しゆめ子と私の女房と、又私とても、どんな縁あつて同じ土地に住むやうなことがあるまいものでもない、そしたら柴刈りに行け、柴刈りに行け、その時は今日の婆さんたちのやうに、仲よく踊りなさい、踊りなさい、と私は思つたのである。……

私はその晩その町を立つた。そして家に歸つて、「やつと原稿を書いたよ。少しゆつくり遊んで來ようと思つたが、すぐ歸つて來た。」と鹿爪らしい浮世の夫の顏をして、斯う女房に言つたである。



復讐

徳田秋聲

たえ子はその晩も女中のお春と二人きりの淋しい食卓に向つて、腹立しさと侮辱と悲哀とに充された弱い心を強ひて平氣らしく裝ひながら箸を執つてゐたが、續いて來る苛々しい長い一夜を考へると、堪えられない苦痛を感じた。

たえ子がこゝへ嫁いでから、彼是一年近くになつてゐた。勿論それは偶然の――と謂つても、今の世のなかで善良な普通の家庭に於ける結婚を取決める場合に、盡されるだけの順序は踏まれたので、東京にゐる叔母夫婦も出來るだけの注意を拂ふのに手ぬかりは無かつた。田舍の彼の家柄とか、出身の學校とか、現在の收入とか、性質とか品行とか、それらのものは型どほりに調べられもしたし、見合ひもしたのであつた。そして其の上でまあ其處いらが落著どころと決つたわけであつた。

彼女自身もそれに不足のある筈もなかつた。幸福な運命の一つを首尾よく自分に引當てたらしく思はれて、内心ほつとしたほどであつた。無論二三年前、學校出たての

時分にたゞ漠然と頭腦に描いてゐた夢のやうな空想などは、二三のそんな話を受取るたんびに影が薄くなつて、それに無上の寂しさを感じながらも、恵まれた現在の運命に不服はなかつた。けれど品行方正らしく見えた良人が、會社で一日働いて歸つて來ても、晩酌のときなぞに、そんな事にはまるで馴れない彼女に、何かしら飽足りなさを感じてゐることが、程なくたえ子にも判つて來た。最近たえ子は自分で拵へたものを、良人に食べてもらへるやうなことは滅多になかつた。そのうへ夜明頃になつて、絶望と疲勞のために漸とう〳〵と眠に陷ちることも珍らしくなかつた。

そんな事が長く續かうとは思はれなかつた。結婚前からの惰勢か、惡友の誘惑か、でなければ酒のうへの氣紛れに過ぎないのだと思はれたが、心配をする段になれば際限がなかつた。その上結婚當時の甘い言葉や優しい態度など思合せると、彼の愛も卑劣な欺瞞と賤しい情慾との塊にすぎないのだと思はれた。何も知らない清純な女を係締にかけておいて、苦しむのを見て興がつてゐるのだとしか思はれない、彼の享樂氣分にさへ觸れたやうな不快と屈辱を感じた。

「男はみんなかうした狡さをもつてゐるものだらうか。」

考へると際限はなかつた。たえ子は今まで可恥しくて、誰にも洩らさなかつた自分の苦痛を、思斷つて友達に話してみようと思つた。

「私今夜はちよつと用達しに出ますから、お留守をしてゐてちやうだいね。」

たえ子はお春に吩咐けて着替をすると、そのまゝふらりと家を出た。たとひ良人が今夜は歸るにしても、顏を合せるのも忌々しいやうな氣がしてゐた。

暫く外へ出ない間に、世間がめつきり春めいて來たやうに思へた。ひつそりした宵の町の靜かさや、潤ひをもつた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

晁の瞬きや、空に透けてみえる櫻の枝などを見ても、淡い春の悩ましさが感ぜられるのであつた。その邊は一體に外人の住宅が多かつたので、何處の家でも樂しげな和樂の聲がしてゐるやうに思へた。ピアノの音なども何となく彼女の胸を咬つた。

たえ子は音樂が好きであつた。容貌などに自信のないところから、一時は音樂家として世のなかに立たうかとさへ思つたこともあつたが、田舍の家の事情が、さう長く學校に通ふことを許さなかつた。自分が音樂の天才でないといふ僻目も、彼女の勇氣を挫いた。しかし今となつて見ると、寧ろ藝術にでも精進して、孤獨の怜に生きた方が、何んなに仕合だつたか知れないと思はれた。

靜かな町を三四町も行くと、そこがもう電車通りであつた。たえ子はその間も今電車から降りて來たらしい洋服姿の人達のなかに、良人を物色することを怠らなかつたが、かういふ時には、得て行違ひになりがちなものだと云ふ氣がしたので、二三臺待つても見た。しかし期待は外れて、何の電車も〱彼を卸しては行かなかつた。たえ子は爲方なし反對の側へ渡つて、急いで電車に乘つた。

電車は相變らず滿員であつた。たえ子は込合ふ乘客のあひだに、辛うじて足の踏み場を見つけて釣革に摑まつてゐたが、實は時間もさう早くはないので、こゝから四谷まで行くのは大變だと思つた。勿論折があつたら一度は相談してみようとは思つてゐたのであつたが、今夜遽かに思立つたことは何だか唐突のやうにも思はれた。それにこの縁談の橋渡しをしてくれた彼等夫婦のことだから、同情はしてくれても、結局何うにもならずに、好い加減に宥められて悄々歸るより外ないことだらうと思ふと、結果が見えすいてゐて、騷ぐだけ自分の弱味と辱を曝け出すに過ぎないのだと云ふ氣もしたが、現在の氣持では、そんなことを考へてゐる餘裕は勿論なかつた。で、何といふこととなし、思ひきりわるかして、小

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

遣ひも多分に帯の間へ入れて、ふいと家を出たのであつた。そして其の時の氣分では、事によつたら劇場か活動館のやうな、多くの人の集まる歡樂場へでも行つて、この悶えを紛らさうと云ふ意識もあつたに違ひなかつたが、それには時間がおそかつた。

電車はいつか白山をおりて、柳町から春日町を經て、水道橋の乘替場へ出て來てゐた。たえ子はそこで牛込行きに乘かへたが、その電車は前のよりも一層込合つてゐた。そして劇しく搖られたりぎう／＼壓されたりしてゐると、其の方に氣が搖られて、今まで煮返るやうに思ひ詰めてゐたことが、何うかすると寂しい影のやうに薄らぐのを感じた。それがまた不思議に彼女の心を寂しくしたりした。電車は荒い響きを立てゝ、暗い通りを走つてゐた。微かな電燈の光が目の前を掠めたり、自働車が螢のやうな白い光を地上に迸らせて通つたりした。

前からも微かに感じてゐたことではあつたが、たえ子は其の時ふと暗い陰になつてゐる右の方の手先に何やら這寄るやうな不思議な觸覺を感じて、無意識的に肱を竦めた。と同時に肉體の温みを感じ合ふくらゐに近接してゐた一人の青年の顔を振顧つた。青年は黑のソフトを目深に冠つてマントを着てゐたが、口髯を短かく刈込んで、黑いたつぷりした髪が頸や襟上げに盛りあがるやうな分厚さでつや／＼してゐた。で、鼻は拉げて、唇も厚かつたし、顔の輪廓も整つた方ではなかつたにしても、決して惡い感じの顔ではないことに氣がついた。その上彼はにつこり目元に惚けた愛嬌をたゝへて、じつとたえ子を見返したが、その目の底には暗い影が隱せなかつた。

たえ子は何となし輕い衝動を感じたが、同時に釣革を左の手に持替へた。節々のしなやかな、小いその手は、黑い絹の手袋に裹まれてゐたが、暫らくすると、下げた方の右の手に、同じやうな觸覺が感ぜられた。そして其の瞬間、强い握力を感じた。

たえ子はかつとしたやうな不思議な戰慄を身に感じた。そして不思議な好奇心が彼女を唆つた。勿論不可抗的な運命のやうに、彼女の手が働きかけた。

二つ目の停留場へ來たとき、ちよつとした目配せに、全く支配されたもの丶やうに、たえ子は人を搔別けて行く青年の後につゞいて、電車をおりてしまつた。

暗い川添ひの通りを二人は少し離れて歩いてゐた。

「こつちへ行つて見ませんか。」

今更極惡さうに彼が言つたやうであつた。たえ子は夢幻のやうな氣持で其の後からついて行つた。

水は音もしないで、靜止したやうに星の影を湛してゐた。對岸には濃霧が立罩めてどこを見ても起きてゐるやうな家はなかつた。電車の響きばかりが劇しく耳についた。

「貴女こ丶でおりても可かつたんですか。」青年は彼女を振顧つて、おど〳〵した口調で訊いた。

たえ子は先刻から胸をわく〳〵させてゐたが、自分の今置かれた位地ははつきり過ぎるほど意識してゐた。勿論恥辱を感じない譯にはいかなかつたが、それを耐へ忍ぶことは大した苦痛でもなかつた。その上それはそんなに思ひがけない事ではなかつたやうにすら感ぜられた。

「い丶え。」たえ子は微かに應へた。

「どこへ行くんですか。」

「四谷まで行かうと思つたんですけれど、もう遲いでせうね。」

「四谷ですか。」

「四谷の本村なんですの。」

「さう、もう十時半ですからね。」

「まあ……もうそんなですかね。」たえ子は心安さを示すやうな調子で言つた。

「四谷は貴女の家なんですね。」

「いゝえさうぢやございません。家は小石川なんですけれど……」

「小石川から四谷ぢや大變ですね。それに今夜は莫迦に遅いぢやありませんか。」

「えゝ。さうね」と、たえ子は笑つて、「失禮ですけれど、貴方學生さんでせうね。」

「え、××大學生ですが、安心しておらして下さい。」彼も聲に出して笑つた。

「それは可いんですけれど、何だか惡いですわね。」たえ子は躊躇氣味で自嘲的に言つた。

二人は河岸に立つて、ぽつり〳〵そんな話を交換したのち、そろ〳〵歩きはじめた。

「僕は下町の方で友人と少し飲んで來たんですが、もう醒めてしまつたやうです。お願ひですから御迷惑でも一時間ばかり附合つていたゞけませんかね。」青年は強請るやうに言ふのであつた。

「お酒ですか。」

「え、どこか其處いらのカフエでも何でもいゝんですよ。」

「でも、私何にも存じませんのよ。」

「それあ判つてゐますよ。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「それに私今夜は、お友達に少し相談したいことがあつて、わざ／＼來ましたの。」

「相談つて、何ですか。」

「だつて、初めてお目にかゝつた方に、そんなお話できませんわ。」

「いゝぢやないですか。どこの誰だかも知れないんですから。」

「え……」とたえ子は躊躇してゐたが、「ほんとうにお可恥しい身の上なんでございますの。何うすれば可いか、實質判斷がつきませんので、今夜も實は思ひ餘つてお友達に御相談に行かうと思つて家を出ましたの。」

「伺はないうちは、問題の性質もわからないですが……若し僕でよかつたら……僕が伺つたつて、爲方がないかも知れませんけれど、何なら話して見てくれませんですかね。」

結局二人は、飲食ひをするやうな家を見つけて、そこで話をすることになつた。

たえ子はその晩、漸と／＼電車に間に合つた。勿論どこを搜しても話をするやうな家はなかつた。何處でも戸をしめてゐたり、火を落してゐたりした。さうした會合に適した家もあるにはあつたが、青年はまだそれほどそんな世間に慣れてもゐなかつたし、たえ子にも餘りはつとしたところや、人に顏を見られるやうな家は忌避されねばならなかつた。

家へ歸つてみると女中はもう戸を鎖して寢てゐたが、良人はやつぱり歸つてゐなかつた。たえ子は寂しい家を見ると初めてほつとした氣持になつたが、同時に家を出るまで胸にもや／＼してゐた憤懣や、嫉妬や反抗心が、水をそゝいだやうに消えてゐた。そして其の代りに自嘲と悔恨とが泌出してゐた。

甘い私語と、秘密の享樂とに、何となし心から眠みきれない、厭な滓のやうなものの舌觸りを感じながらも、好奇心

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の充されたことだけでも、全く無意味ではなかつたやうな氣がした。勿論誘惑はおそろしかつた。づる〳〵軟弱して行くのではないかと氣遣はれた。たとひ其が復讐といふ意味で、惱ましい一夜の行爲が是認されても可いことだとは思はれても、それは後から附會けた辯疏に過ぎないのであつた。外來の誘惑が動機であつたとすれば、やつぱり自分の意志の薄弱から來てゐることは爭はれなかつた。

たえ子は次の火曜日の晝頃に、再び三越の休憩室で落會ふことを約束して、そこ〳〵に袂を分つたのであつたが、一度も三度も……そして終ひには拔差のならないハメに陷つて行くのが不安であつた。のみならず、秘密は何時か暴露される時がこないとも限らなかつた。その結果をも想像しない譯に行かなかつた。

翌日の夕方に、良人が歸つて來た。彼は工業學校出の男で、或る大きな會社の機械部にゐたが、收入はたゞ其處から受ける俸給ばかりではなかつた。その晩も彼は酒氣を帶びてゐた。勿論カフエか何かで飲んだのであらうと想像された。

たえ子は何だか顏を見られるやうな氣がして、氣が咎めた。夜が一層不安であつた。良人はいつもの通り、ポケットから夕刊を取出すと、それを茶の室の電燈の明りで讀んでゐたが、やがて風呂へ入つた。たえ子はその間に、晩飯のお膳立をしてゐたが、やつぱりおち〳〵落着けなかつた。

するうち良人は風呂から出て來て、鏡臺の前で、頭髮に香水を振りかけたり、櫛をかけたりしてから、飾臺へ來て坐つた。たえ子も伏目がちに箸を執つてゐた。

食事をしながら、花信や、活動の話をしてゐたが、食後間もなく眠氣が差して來て、彼はいつもの寢室で、疲れた體を蒲團のうへに横へた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たえ子も夕刊に目を通してから、今日の小使帳をつけなどして、九時を聞くと同時に寝支度に取りかゝつたが、寝所へ行つて、看ると良人はあんぐり口をあいたまゝ、鼾をかいて深い眠におちてゐた。皮膚の黄ろく濁んだ顏に疲勞の迹が深く刻まれて、毛孔から汚い分泌物が入染出てゐた。たえ子にはその態様が憎らしくも疎ましくも思へて、横になりながらも容易に眠れなかつた。爲方なし入つた蕎麥屋の二階が目に浮んだり、薄い口髭に愛嬌をもつた青年の顔が想出されたりして、心氣が一層冴えて來るのに苦しまされた。

一時間ばかりすると、ぱらぱらと廂や庭木の葉にかゝる雨の音が耳についた。いつか彼は腹這ひになつて莨を喫してゐたが、たえ子も寢そべつたまゝ、枕頭へ引寄せた飴を口にしながら白い手を延べて髪を直してゐた。

「それあ私だつて淋しいわ。」たえ子は良人の問ひに答へた。

「己ももう止した。賣色なんかいくら遊んだつて、あれ限のもんだ。」彼は言ふのであつた。

「あんな巧いことを言つて、また人を瞞さうと思つて。」たえ子は咽喉で笑つて、

「男なんて隨分勝手なものだと思ひますわ。外で何をしてゐるか知れやしないんですもの。たゞお酒を飲むだけなら、泊つてくる必要はないでせう。私ほんとに然う思つてよ、夫婦くらゐお互に信用のおけないものはないつてことを。自分の心だつて信じられないことがあるでせう、貴方だぞきつと。」

たえ子は天井を見詰めながら、そんなことを言ひ言ひしてゐるうちに、自身の表情がいつか暗くなつてゐるのを感じた。そしてそれが良人に何の反應もないことに氣がついて、そのまゝ口を噤んだ。

曜日が來ると、たえ子の心は自然に彼の青年の方へ動いて行つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

勿論興味を追求して止まないやな彼女の氣分が、或る飽足りなさを感じてゐたことも爭はれなかつたが、約束を裏切ることも不安であつた。何時何處で逢つても、差障りのないやうに、別れぎわを明白（きつぱり）させておく必要もあると思はれた。」

しかし後の企劃は全く失敗に終つた。彼女はまた別れぎわに、第三回目を約束しなければならなかつた。

逢つたところは、勿論指定どほりの彼の宏大な建物のなかであつたが、二人は長くはそこに彷徨いてゐなかつた。たえ子は彼のために萬年筆を一本買つたが、やがて其處を出ると、電車で築地へまはつて海岸へ出た。船で水を渡ると、向ふの土地にさうした會合に適當した家のあることを、青年は誰からか教はつてゐた。たえ子は幾度か躊躇したが、—そのまゝ別れることは出來なかつた。

青年は野球などの好きな男で、體には若い血が躍動してゐるやうに見えた。そして鹽湯へ入つてから、ビールを飲みながら、一つ二つ話してゐるうちに、彼の田舍も相當な資産家であることも知れた。

「あなたも勉強中の體なんですから、こんなことはもう止しませうね。私はそれを言はうと思つて、今日は來たのよ。」

青年はそれに感謝の意を述べた。

「僕にだつて良心はありますよ。」

「でも私もさうですけれど……それは何といはれても爲方がないけれど、貴方も、隨分大膽ね。」

彼はさすがに紅い顏をした。

「さう言はれちや形なしですね。」彼は笑ひながら

「しかし反應はきつとあるから不思議ですよ。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「そんな事を言つちや、私厭やよ」たえ子は愠つたやうな目をした。

「貴女の場合は別です。貴女の動機は、[illegible]の同情に値ひしますよ。そんな非人道的な人には、復讐してやるが可いんです。僕はそれを思ふと、愉快ですね。」

「貴女の場合なんて……ぢや、貴方は私きりぢやなかつたんだわ。」たえ子は暗い不快な口をして、彼を見た。

しかし默つてゐる彼を、その上窘しめることは出來なかつた。

時間が流れるやうに過ぎた。そして其處を辭して、ふら〱渡場の方へ出て來た時分には、水の上はもう微暗い夜の色に蔽はれてゐた。繋つてゐる船のうへにも、對岸の人家にも電氣がついて、何となし佗しい寂しさが、心に喰入つてくるのを感じた。たえ子は涙ぐましいやうな氣持になつてゐた。それは必ずしも感傷的な其の場の氣分から來てゐるのではなかつた。あの家を川ぎわに、耳にした、興味半分の青年の自白が、ひどく彼女の幻影を裏切つたからであつた。

實に彼は、そんな經驗を屢々してゐるらしかつた。そして興味の對象が、大抵の場合處女であつたことなどを想合せると、たとひ其が深い惡意ではないにしても、其だけに又赦しがたいことのやうに思はれて、たえ子の心は憎惡に燃えた。

たえ子は自然にそれが色に出たが、口へ出して言ふ資格はなかつた。

ひつそりした海岸の町らしい、宵の築地河岸を、二人は距離をおいて、默つて歩いてゐたが、やがて明い劇場の傍まで來ると、一緒に電車に乘つた。

「今度ね、貴女の都合を見て、どこかもつと面白いところへ行きませう。」青年はたえ子に囁いた。」

「え、貴方考へてちやうだい。」たえ子は應へた。

しかしやつぱりあの大きなデパートメントストアで落合ふことになつて、乘換場でたえ子は彼と別れた。早くこ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

安と惱みから脫れなければと、さう思つた。

次の日が直きに來た。

その頃には、淺猿しい弱點を弄ばれてゐたことが、次第に分明して來て、恥と悔とが此上の追求を許さなかつた。

たえ子はその日その店に買ひものゝあることを告げて、良人の同行を求めた。

豫定の時過に良人は二階の休憩室で彼女を待つてゐた。

群衆のなかに青年の姿を見たのは、それから二十分もたつてからであつた。何うしたのか彼は鼻梁から右の半面へかけて、一面に繃帶をしてゐたので、ちよつと見それたが、彼はたえ子を見はぐさなかつた。しかし共と同時に、彼女の良人が附いてゐることをも、見遁さなかつた。彼はそのまゝ見え隱れに二人の後を追つた。

ふと彼女の姿が見えなくなつたと思つて四下を見まはしてゐる青年の傍へ、やがて彼女の顏が現はれた。青年ははつとしたやうに立停つて、急いで竊と彼女に手を差延べながら、

「球で怪俄をして、つい後れて濟みませんでした。」

「いけませんですよ。」たえ子は手を引込めながら紅い顏をして言つた。

「これ限りお目にかゝりません。どうぞ惡しからず。」

たえ子は言棄て、急いで良人の傍へ行つた。彼は帽子の賣場の前に立つてゐた。

青年は詰問する間もなかつた。（完）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

中央公論大賣捌所

東京市神田區表神保町 東京堂
同 神田區表神保町 上田屋
同 京橋區銀座三丁目 東海堂
同 京橋區元數寄屋町 北隆館
同 日本橋區本石町 至誠堂
同 本郷區本富士町 盛春堂
大阪市北區梅田町 盛文館
同 北區東梅田町 立盛堂
京都市七條停車場前 共盛社
同 四條西洞院 前田大盛社
名古屋市富澤町 中京堂
朝鮮京城本町二丁目 日韓書房

〇定價 金六拾錢郵税金貳錢（海外郵税拾錢但支那を除く）

册數　國別	內國	外國
六册	金參圓六拾錢	金四圓貳拾錢
十二册	金七圓貳拾錢	金八圓四拾錢
以上郵税共		

▲但し新年號春秋二期附録號臨時號は各倍册に付普通號二册の代金を申請くべし、卽ち一ケ年通計十七册分の割合なれば一ケ年分御注文の方は內國は金拾圓貳拾錢外國は金拾壹圓九拾錢の割となれども頁數の都合にて臨時變更することあるべし。

廣告取次所

博報堂　萬年社　告天社　正路喜社
帝國通信社　弘盛社　三誠社
金蘭社　大興社

送金注意

一誌代郵税 は一切前金とす、前金切れの場合は發送を止むべし
一振替貯金 口座は東京三十四番なり
一郵券代用 は謝絶す但し郵便局に不便の地に限り一割增にて代用せらるるを拒まず
一代金引替 小包の取扱は一切謝絶す
一集金郵便 御希望の方は拂込金額以外に左記料金を加へたる其總額を前以て弊社へ通知せらるべし、弊社は直ちに其取扱手續をなすべし

一金一圓迄 金六錢
一金五圓迄 金七錢（集金委託料及返送料共）
一金拾圓迄 金八錢

但集金郵便の申込を受くるも現金受領濟にあらざれば雜誌を發送せず
一中央公論及婦人公論代金取り纏め御拂込みの場合には各誌割當て金額御指定を乞ふ
一受領證請求 は必ず返信料を要す

大正十年四月三十日印刷納本
大正十年五月一日發行
（禁轉載）

發行兼編輯人 瀧田哲太郎
印刷人 高木酉三

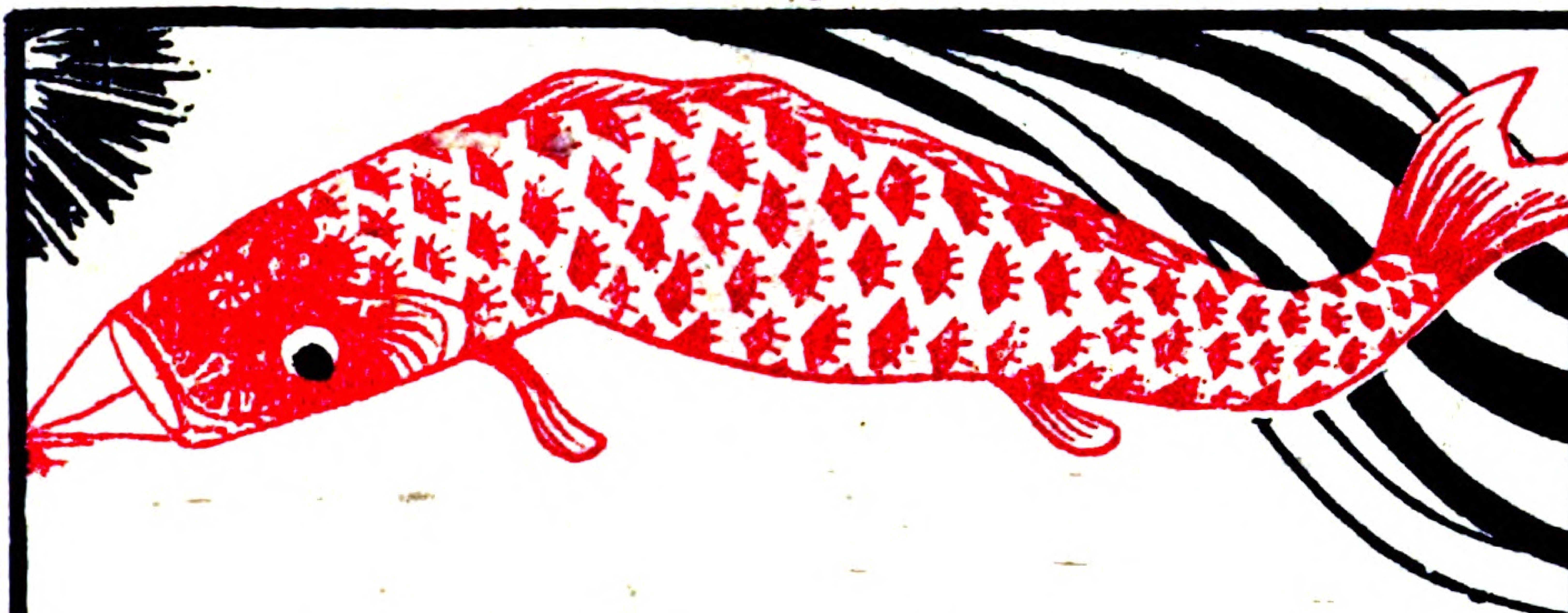
東京市本郷區駒込西片町十番地
發行所 中央公論社
電話（小石川一四四一）（小石川三四二[illegible]）
電信略號コウロン

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所 秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

CHUO KORON (*The Central Review.*)

By THE CHUO KORON SHA PUBLISHING CO., Published Monthly.
Terms of Subscription: Annual subscription *yen* 11.90; Single copy 70 *sen* including Postage. Entered at the Post Office at Los Angeles, Cal. U.S.A. as second-class mail matter.



三越の五月

五月人形陳列會（四日まで）
夏丸帯陳列（一日より）
古名畫複本展覧會（二日より）
下繪會繪畫展覧會（八日より）
御召と小紋陳列（十一日より）
挿花器陳列（同）
中形浴衣地陳列（十七日より）
團扇扇子陳列（二十日より）
定休日◆十日◆二十五日◆

三越呉服店

◆◆東京駿河町◆◆

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA